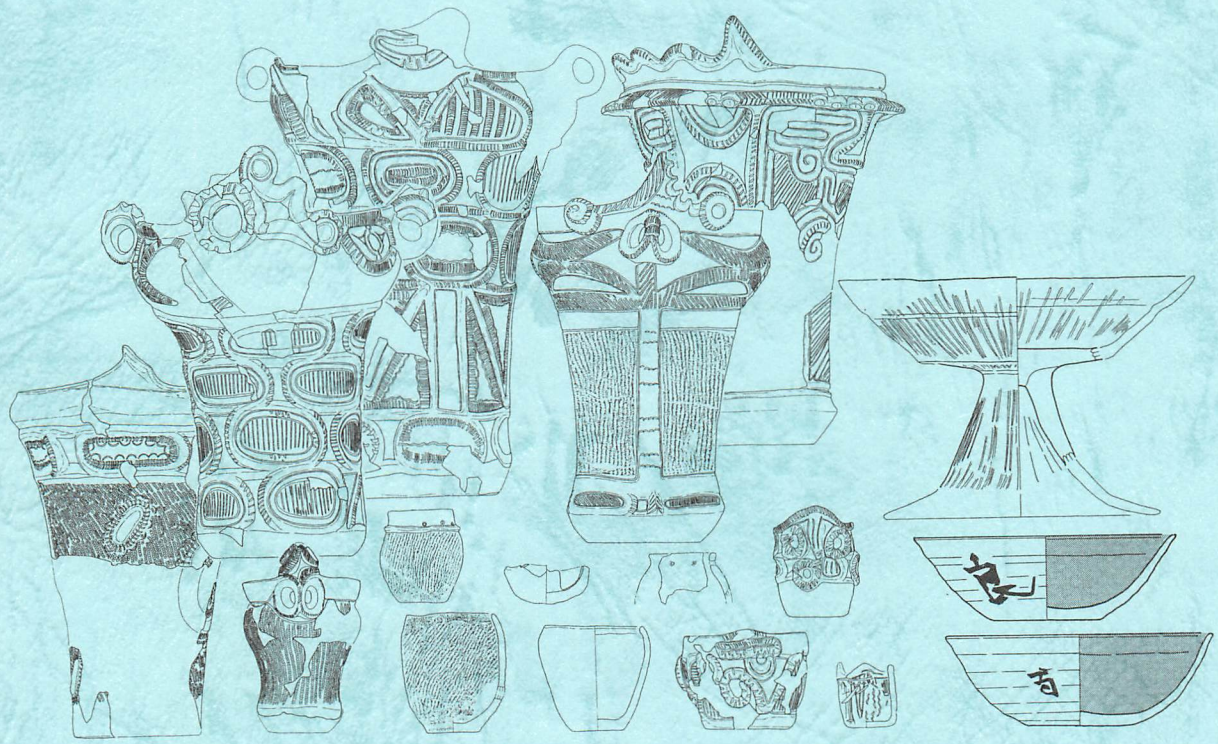
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第210集

山梨県北巨摩郡長坂町

原町農業高校前（下原）遺跡（第1次）

―峡北地区総合学科高校整備（北杜高校校舎建設）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―



2003.3

山梨県教育委員会

山梨県北巨摩郡長坂町

原町農業高校前（下原）遺跡（第１次）

― 峡北地区総合学科高校整備（北杜高校校舎建設）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

2003.3

山梨県教育委員会

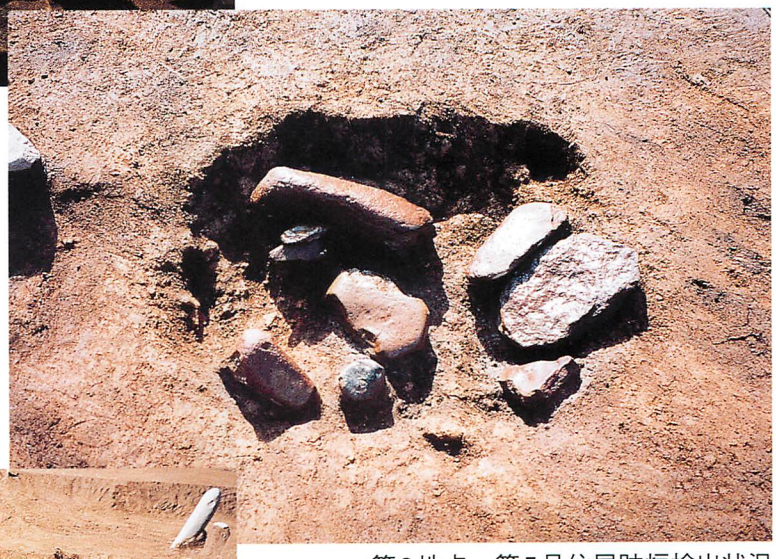
原町農業高校前（下原）遺跡遠景（南から八ヶ岳を望む）

原町農業高校前（下原）遺跡遠景（東から甲斐駒ヶ岳を望む）

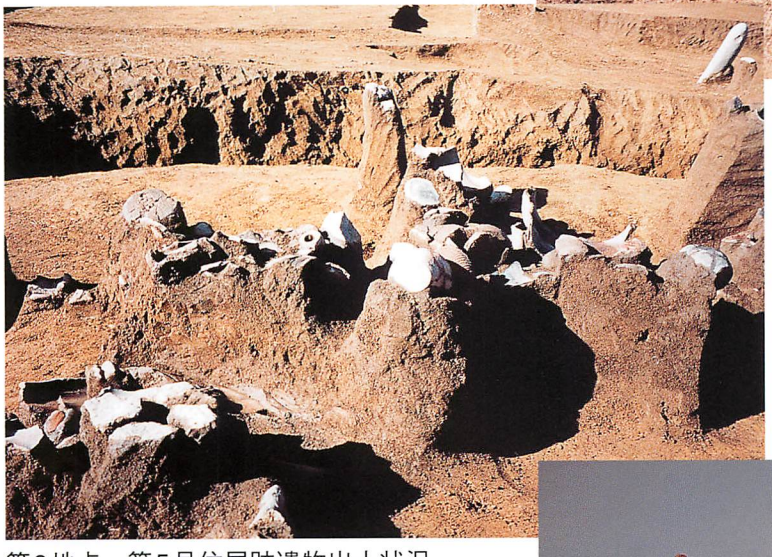
原町農業高校前（下原）遺跡　第1地点東側調査区

原町農業高校前（下原）遺跡　第3地点

第3地点　第5･6号住居跡完掘状況



第3地点　第5号住居跡炉検出状況



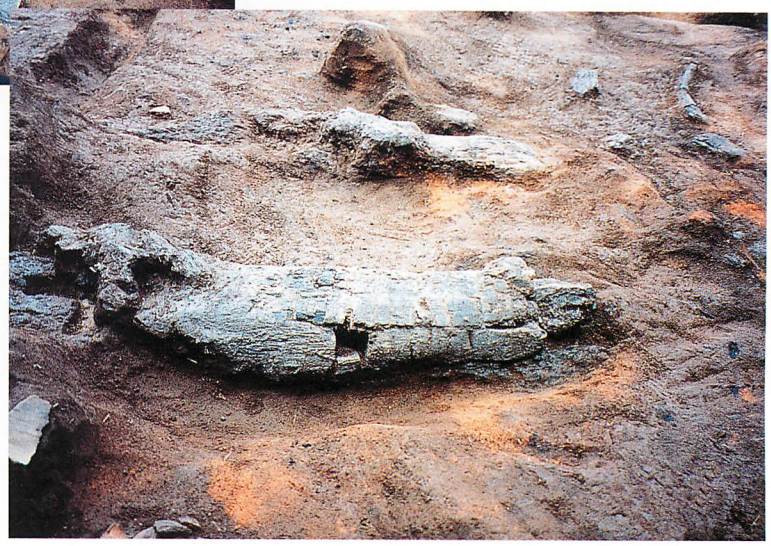
第3地点　第5号住居跡遺物出土状況

第3地点　第5号住居跡出土遺物

第1地点　第3号住居跡調査状況

第1地点　第3号住居跡遺物・炭化材出土状況

第1地点　第3号住居跡炭化材出土状況



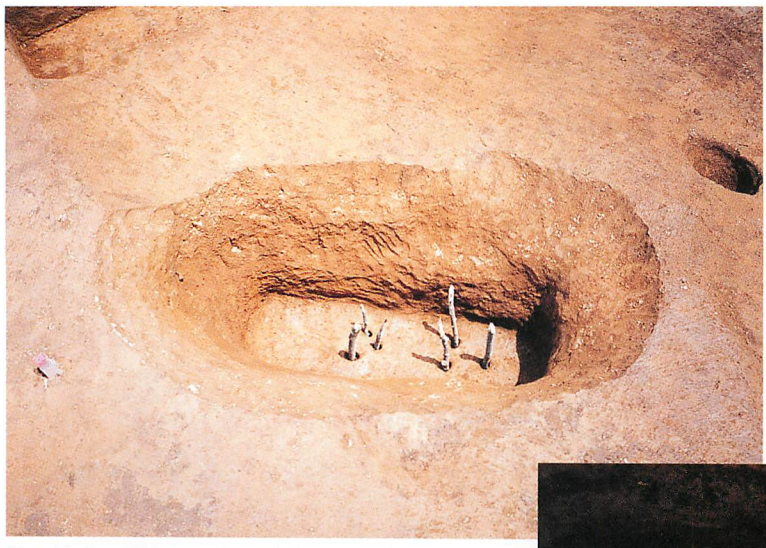
第1地点　第3号住居跡炭化材出土状況

第1地点　第1号住居跡完掘状況

第1地点　第1号住居跡カマド検出状況

第1地点　第1号住居跡遺物出土状況

第1地点　第4号住居跡完掘状況

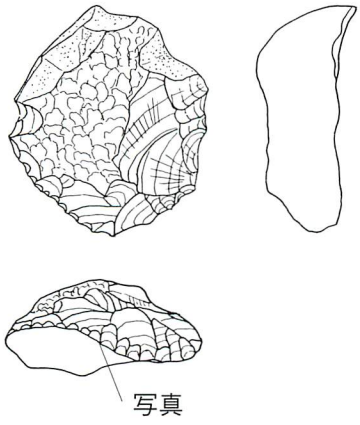


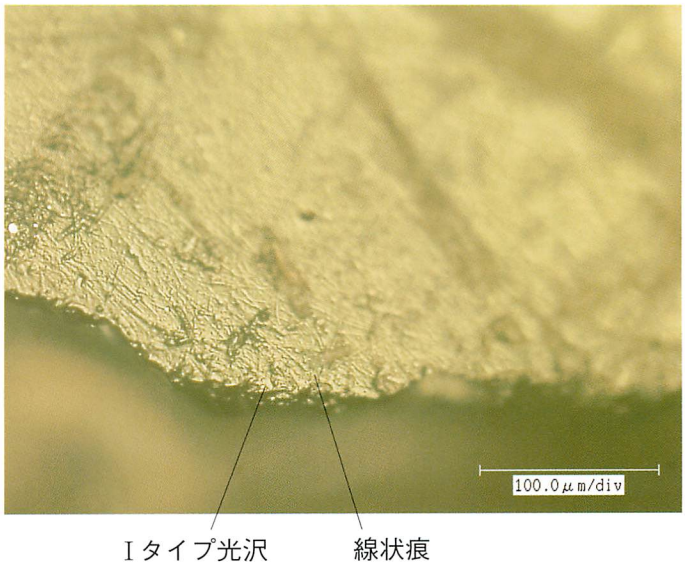
第1地点　第28号土坑（使用状況の復元）

第3地点　第229号土坑遺物出土状況

第3地点　第245号土坑遺物出土状況

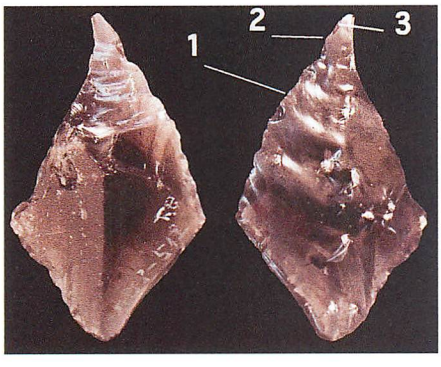
第3地点　第284号土坑遺物出土状況

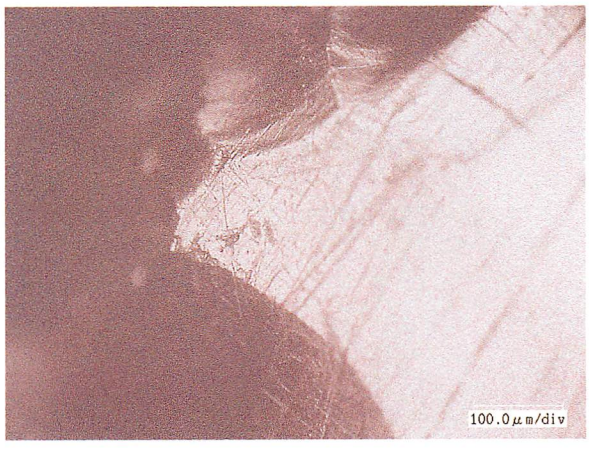


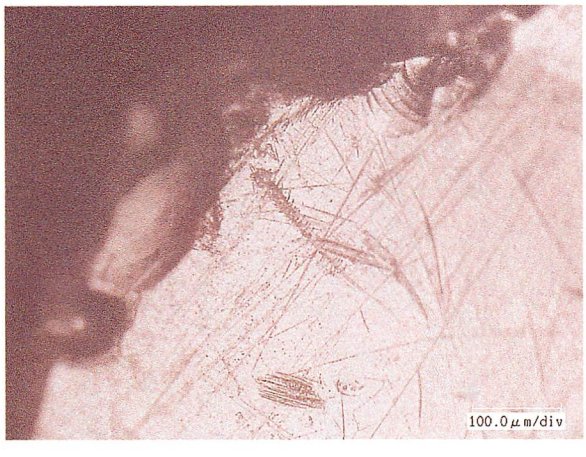


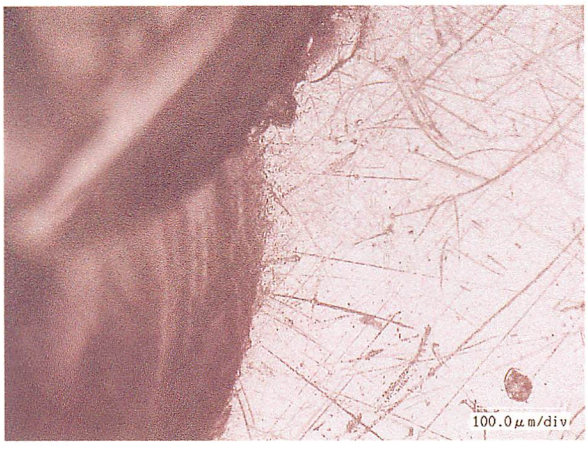
掻器(PL-35-20)にみられた使用痕である。Ⅰタイプと呼ばれる微弱な光沢が縁辺に沿って確認できた。この光沢は生皮や肉などに生じる光沢である。線状痕は縁辺に対して直交方向のものがみられた。光沢や線状痕から生皮などを掻き取る操作が推定できる。

掻器の使用痕



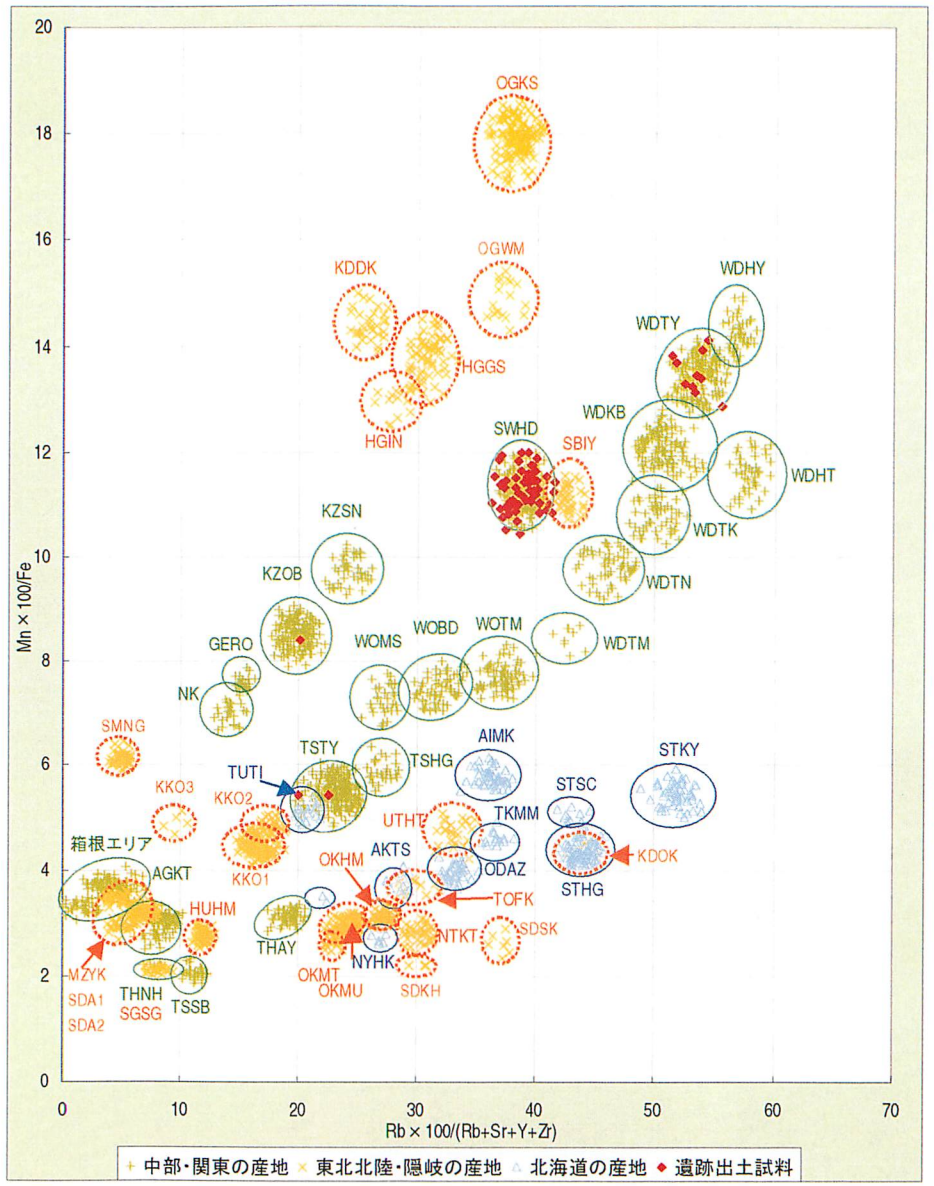


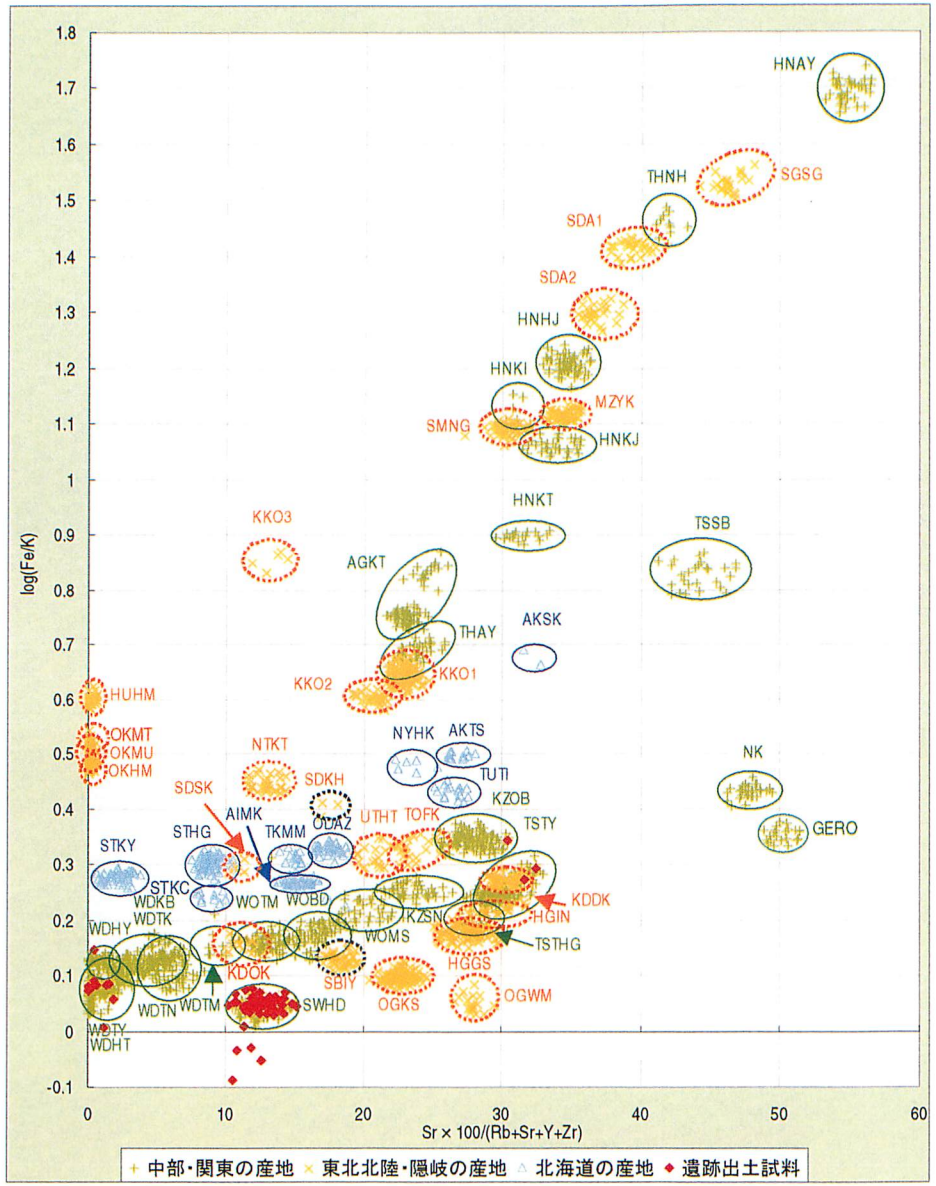




5号住居跡出土の使用痕剥片(PL-36-35)である。素材である黒曜石は、神津島恩馳島産である。右側辺に微細剥離が見られる。微細剥離を高倍率の顕微鏡で観察すると写真1-3のような線状痕が明瞭に観察される。線状痕は刃部と推定される辺にほぼ平行している。剥離の稜線部がやや摩滅しているのが観察されるが、使用痕光沢と認定できるほどには発達していない。以上のことから、微細剥離と線状痕の状況から鋸引きのような操作方法が推定される。

剥片の使用痕





黒曜石製石器の産地推定（判別図）

序

原町農業高校前(下原)遺跡の所在する長坂町は、八ヶ岳南麓地域に位置し、縄文時代の柳坪遺跡や酒呑場遺跡をはじめとして、県下でも注目すべき数多くの貴重な遺跡が所在し、私たちの遠い祖先の足跡を垣間見ることができます。

今回の原町農業高校前(下原)遺跡の発掘調査は、峡北地区総合学科高校整備(北杜高校校舎建設)に伴い、その事前調査として2000(平成12)年度に行われました。調査の結果、竪穴住居跡や陥し穴などをはじめとする縄文時代早期から平安時代にかけての遺構・遺物を検出することができました。縄文時代では、藤内式期から井戸尻式期にかけての土器や石器が住居の掘り込みに大量に廃棄され、土偶頭部や耳栓なども出土する状況を検出することができました。また、古墳時代では、中期の焼失住居跡からホゾ穴などの加工痕の残る建築部材や編み物状の炭化物などが確認されました。さらに平安時代では、9世紀代の住居跡から壁際に2枚重なった状態でそれぞれ「寺」、「良」と墨書された坏が検出されました。本書に掲載しておりますこれらの調査結果は、学術的価値が非常に高く、地域の歴史解明にも大いに役立つ資料になることと思います。

本報告書が多くの方々に研究資料としてご活用いただければ幸甚であります。

末筆ながら、種々ご協力賜りました関係機関各位、地元の方々並びに直接調査、整理に従事していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

2003年3月

山梨県埋蔵文化財センター
所長　大　塚　初　重

例　言

1. 本報告書は、2000年度に実施した山梨県北巨摩郡長坂町渋沢1007－19外に所在する原町農業高校前(下原)遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、峡北地区総合学科高校整備(北杜高校校舎建設)に伴う事前調査であり、山梨県教育委員会学校施設課より委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが調査を実施したものである。
3. 発掘調査および出土品の整理は、山梨県埋蔵文化財センターが行い、保坂和博、野代幸和、山下大輔が担当した。
4. 本報告書の編集および執筆は、保坂和博が担当した。関連科学については、第Ⅴ章第1節の石器分析を株式会社アルカの角張淳一氏に、第2節の黒曜石製石器の産地推定を沼津工業高等専門学校の望月明彦氏に、第3節の炭化物同定分析及び樹種同定分析をパリノ・サーヴェイ株式会社にそれぞれ依頼した。
5. 本報告書作成のための主な作業分担は下記のとおりである。

遺構写真撮影　野代幸和、山下大輔
遺物写真撮影　小川忠博、保坂和博
遺物洗浄　浅川たみ子、小野ふみ子、小澤よし江、小林加正、小林八千子、高橋純子、平美与枝、田中利美、田中玲子、千野あやめ、長沼欣一、仲山たけの、平嶋純一、平嶋弘子、藤原照世、八巻重子
遺物注記・接合・復元・実測・拓本・トレース・遺構トレース　大塚敦子、梶原初美、川住たまみ、佐野眞雪、杉本悠樹、菅沼芳治、平美与枝、中込二三子、平川涼子、望月祐子
図版作成　保坂和博、梶原初美、佐野眞雪、平川涼子
写真図版作成　保坂和博
表作成　保坂和博、梶原初美

6. 発掘調査および整理事業において下記の業務を委託した。

航空写真撮影　株式会社アイシー
石器分析　株式会社アルカ
黒曜石製石器の産地推定　沼津工業高等専門学校
炭化物・樹種同定　パリノ・サーヴェイ株式会社
縄文土器実測用写真撮影　小川忠博

7. 本報告書にかかる出土品および記録図面、写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
8. 本遺跡の発掘調査および報告書作成に関わる組織は下記のとおりである。

調査主体　山梨県教育委員会
調査機関　山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者　野代幸和(主任文化財主事)　山下大輔(非常勤嘱託)
整理担当者　保坂和博(主任文化財主事)
発掘作業員　浅川たみ子、小野ふみ子、小澤よし江、小林加正、小林八千子、高橋純子、平美与枝、田中利美、田中玲子、千野あやめ、千野松代、長沼欣一、仲山たけの、平嶋純一、平嶋弘子、藤原照世、八巻重子
整理作業員　基礎整理：大塚敦子、梶原初美、川住たまみ、杉本悠樹、菅沼芳治、平美与枝、中込二三子、望月祐子
報告書作成：梶原初美、佐野眞雪、平川涼子

9. 発掘調査から報告書作成にいたる過程で、下記の諸氏、諸機関から多大なるご教示、ご協力を賜った。記して謝意を表す次第である。(順不同・敬称略)

北杜高等学校(旧峡北農業高等学校)、長坂町教育委員会(小宮山隆、村松佳幸)、株式会社アイシー、株式会社アルカ(角張淳一、池谷勝典、馬場伸一郎)、沼津工業高等専門学校(望月明彦)、パリノ・サーヴェイ株式会社、小川忠博

凡　例

1. 掲載した図面の縮尺は、原則として次のとおりである。

〈遺構〉遺構全体図(付図)：1/300　住居跡・住居跡遺物分布・溝状遺構：1/80

遺物集中区・竪穴状遺構・土坑：1/40

〈遺物〉土器実測図：1/4　土器拓影図：1/3

石器実測図：小型石器(石鏃等)：2/3　大型石器(打製石斧等)：1/3　(石皿・台石)：1/6

2. 遺物図版中の表記は次のとおりである。

a. 拓影図で両側を載せてあるものは、断面左側が外面、右側が内面である。

b. 回転復元実測した土器については、中心線を破線で示した。

c. 遺物図版中以下のようにスクリーントーンを使用した。

黒色塗彩面　：　赤色塗彩面　：　須恵器断面　：　黒色処理面：

転用砥擦り面：　石器磨面範囲：　石器摩耗痕　：　石器敲打痕：

石器断面　：　石器被熱部分：　土製品欠損部：

3. 遺構図版中の表記は次のとおりである。

a. 遺構図・全体図などに示した方位は、国土座標による真北である。

b. 遺構図における床面の一点破線は、床面の堅固範囲、破線は、床面の推定線を示している。

c. 遺構図の断面図脇等にある数値は、標高を示す。

d. 遺構図版中の遺物番号は、遺物図版番号・遺物観察表番号と一致している。

e. 遺構図版中以下のようにスクリーントーンを使用した。

地山：　焼土範囲：　炭化物集中範囲：　断面図内の礫：

f. 遺物分布に使用したドットマークは各図版中に示したとおりである。

4. 遺構および遺物写真の縮尺は、統一されていない。

本文目次

第Ⅰ章　序説 …… 1
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　調査の概要 …… 1
　　第1項　調査の方法 …… 1
　　第2項　遺跡の概要 …… 2
　　第3項　基本層序 …… 7
　第3節　遺跡の立地と環境 …… 9
　　第1項　遺跡の立地 …… 9
　　第2項　周辺の遺跡 …… 13
第Ⅱ章　検出された遺構 …… 15
　第1節　概要 …… 15
　第2節　縄文時代の遺構 …… 15
　　第1項　遺物集中区 …… 15
　　第2項　竪穴状遺構 …… 15
　　第3項　住居跡 …… 15
　　第4項　土坑 …… 17
　第3節　古墳時代の遺構 …… 18
　　第1項　住居跡 …… 18
　第4節　平安時代の遺構 …… 19
　　第1項　住居跡 …… 19
　　第2項　溝状遺構 …… 20
第Ⅲ章　出土遺物 …… 21
　第1節　出土土器とその分類 …… 21
　第2節　縄文時代の遺物 …… 21
　第3節　古墳時代の遺物 …… 24
　第4節　平安時代の遺物 …… 26
　第5節　遺構外出土土器 …… 26
第Ⅳ章　峡北農業高等学校収蔵資料 …… 27
　第1節　概要 …… 27
　第2節　土器 …… 27
　第3節　石器 …… 27
　第4節　土偶 …… 27
第Ⅴ章　分析 …… 28
　第1節　原町農業高校前遺跡の石器分析 …… 28
　第2節　原町農業高校前遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定 …… 34
　第3節　原町農業高校前遺跡出土の炭化種実同定と樹種同定 …… 38
第Ⅵ章　まとめ …… 44
　第1節　縄文時代中期中葉の遺物様相について …… 44
　第2節　古墳時代中期の焼失住居について …… 47
　第3節　仏教関連遺物について …… 47
別表 …… 49
　Ⅰ　遺構一覧表
　Ⅱ　遺物一覧表
附図　原町農業高校前遺跡全体図

挿図・表目次

Ⅰ－1　調査進行表 …… 1
Ⅰ－2　調査区割設定図 …… 2
Ⅰ－3　調査の流れ …… 3
Ⅰ－4　立合調査結果一覧 …… 3
Ⅰ－5　本調査及び立合調査地点位置図 …… 4
Ⅰ－6　検出遺構第1地点全体図 …… 5
Ⅰ－7　検出遺構第3地点全体図 …… 6
Ⅰ－8　資料の活用 …… 7
Ⅰ－9　第1地点基本層序 …… 7
Ⅰ－10　第1地点基本層序 …… 8
Ⅰ－11　長坂町地質図 …… 9
Ⅰ－12　遺跡周辺の地形 …… 9
Ⅰ－13　長坂町の遺跡分布図 …… 10
Ⅰ－14　長坂町の遺跡分布一覧 …… 11
Ⅰ－15　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 12
Ⅱ－1　検出遺構一覧 …… 15
Ⅲ－1　第5号住居跡出土土器種別分類〔藤内式期～井戸尻式期〕 …… 22
Ⅲ－2　石器石材分類表 …… 25
Ⅴ－1　属性表1　石鏃・石錘・掻器 …… 29
Ⅴ－2　属性表2　石匙 …… 29
Ⅴ－3　属性表3　その他の剥片石器 …… 30
Ⅴ－4　属性表4　打製石斧類 …… 30
Ⅴ－5　属性表5　礫石器 …… 31
Ⅴ－6　遺構と原産地 …… 32
Ⅴ－7　黒曜石原産地と器種の関係 …… 33
Ⅴ－8　石鏃の加工と原産地 …… 33
Ⅴ－9　東日本の黒曜石産地 …… 34
Ⅴ－10　判別図に用いた産地原石判別群 …… 35
Ⅴ－11　原町農業高校前遺跡出土黒曜石製石器の産地推定結果 …… 36・37
Ⅴ－12　炭化物の同定結果 …… 39
Ⅴ－13　樹種同定結果 …… 42
Ⅵ－1　第5号住居跡出土石器の石材組成 …… 44
Ⅵ－2　第5・6号住居跡・第305号土坑出土土器分布 …… 45・46
Ⅵ－3　第5号住居跡出土の打製石斧主要属性 …… 47
Ⅵ－4　第5・6号住居跡出土石器分布 …… 48

別表目次

Ⅰ　遺構一覧表 …… 49
Ⅱ　遺物一覧表 …… 51

図版目次

遺構図

1　第1号遺物集中区
2　第1号竪穴状遺構・第2号住居跡
3　第5・6号住居跡
4　第5・6号住居跡遺物分布(1)
5　第5・6号住居跡遺物分布(2)
6　第5・6号住居跡遺物分布(3)
7　第5・6号住居跡遺物分布(4)
8　土坑(1)　第1・26・27・28・29号土坑
9　土坑(2)　第43～45・50・51・54・55・64・65・67・68・77号土坑
10　土坑(3)　第78・141・142・155～163・183号土坑
11　土坑(4)　第164・167・168・171・178・181・202・204～207・229～233・236号土坑
12　土坑(5)　第241・243・245～247・249号土坑
13　土坑(6)　第283・284・286～290・292～294・299・300・304号土坑
14　第3号住居跡(1)
15　第3号住居跡(2)・第1号住居跡(1)
16　第1号住居跡(2)・第4号住居跡(1)
17　第4号住居跡(2)・第1号溝状遺構

遺物実測図

18　第Ⅰ群土器(第1号遺物集中区他出土土器)
19　第5号住居跡出土土器(1)
20　第5号住居跡出土土器(2)
21　第5号住居跡出土土器(3)
22　第5号住居跡出土土器(4)
23　第5号住居跡出土土器(5)
24　第5号住居跡出土土器(6)
25　第5号住居跡出土土器(7)
26　第5号住居跡出土土器(8)
27　第5号住居跡出土土器(9)
28　第5号住居跡出土土器(10)
29　第5号住居跡出土土器(11)
30　第6号住居跡出土土器・土坑出土土器(1)
31　土坑出土土器(2)
32　土坑出土土器(3)
33　土坑出土土器(4)
34　縄文時代土製品
35　石鏃・石錘・掻器・石匙・両極石器
36　剥片石器類
37　打製石斧(1)
38　打製石斧(2)・打製石斧成形・素材剥片
39　大型石匙・削器・礫器(1)
40　礫器(2)
41　礫器(3)・ハンマー・磨製石斧・不明石器・土器混和剤
42　磨石類(1)
43　磨石類(2)
44　磨石類(3)
45　磨石類(4)・石皿(1)
46　石皿(2)
47　台石
48　立石・石棒
49　第1・3号住居跡出土土器
50　第4号住居跡・第1号溝状遺構・古墳・平安時代遺構外出土土器　第3・4号住居跡出土石器
51　峡北農業高等学校収蔵資料(1)　縄文土器①
52　峡北農業高等学校収蔵資料(2)　縄文土器②
53　峡北農業高等学校収蔵資料(3)　縄文土器③
54　峡北農業高等学校収蔵資料(4)　縄文土器④
55　峡北農業高等学校収蔵資料(5)　縄文土器⑤・弥生～平安時代土器
56　峡北農業高等学校収蔵資料(6)　縄文石器①
57　峡北農業高等学校収蔵資料(7)　縄文石器②
58　峡北農業高等学保収蔵資料(8)　縄文石器③
59　峡北農業高等学校収蔵資料(9)　縄文石器④
60　峡北農業高等学校収蔵資料(10)　縄文石器⑤・土偶

遺構写真

61　遺跡全景　第1地点
第1・3地点全景　第1地点西側調査区　第1地点東側調査区　第1地点作業風景　第1地点調査区北壁
62　第2地点　第3地点
第2地点全景　第2地点作業風景　第3地点全景　第3地点作業風景　遺跡見学(峡北農業高等学校の生徒)
63　縄文時代検出遺構(1)
第1号遺物集中区(東から)　第1号竪穴状遺構遺物出土状況(南から)　第2号住居跡(南から)　第5・6号住居跡作業風景(東から)　第5号住居跡(東から)
64　縄文時代検出遺構(2)
第5号住居跡遺物出土状況(東から)　第5号住居跡遺物出土状況　第6号住居跡遺物出土状況(東から)　第1号土坑(東から)　第26号土坑(東から)　第27号土坑(北から)　第28号土坑(西から)　第43～45号土坑(南から)
65　縄文時代検出遺構(3)
第50号土坑セクション(南から)　第51号土坑遺物出土

状況(南から)　第54号土坑遺物出土状況(東から)　第55号土坑遺物出土状況(北から)　第64・65号土坑遺物出土状況(西から)　第67・68号土坑遺物出土状況(南東から)　第78号土坑(北西から)　第141号土坑遺物出土状況(西から)
66　縄文時代検出遺構(4)
第142号土坑セクション(西から)　第155号土坑(南から)　第156号土坑遺物出土状況(北から)　第157号土坑遺物出土状況(東から)　第159号土坑遺物出土状況(北東から)　第160号土坑遺物出土状況(西から)　第164～171号土坑遺物出土状況(北から)　第181号土坑遺物出土状況(南西から)
67　縄文時代検出遺構(5)
第204・205号土坑(北から)　第229号土坑遺物出土状況(北から)　第233・256号土坑(東から)　第236号土坑(南から)　第241号土坑遺物出土状況(北から)　第243号土坑遺物出土状況(北西から)　第245・246号土坑(北から)　第245号土坑遺物出土状況(北から)
68　縄文時代検出遺構(6)
第249号土坑遺物出土状況(北から)　第284号土坑遺物出土状況(東から)　第286～291号土坑(北から)　第292号土坑セクション(南から)　E－7グリッド周辺土坑群(東から)　J－8・9グリッド周辺土坑群(南東から)　I－8・9グリッド周辺土坑群(東から)
69　古墳時代検出遺構
第3号住居跡遺物出土状況(西から)　第3号住居跡作業風景(南東から)　第3号住居跡東壁際遺物出土状況(西から)　第3号住居跡北東コーナー付近炭化物出土状況(西から)　第3号住居跡北西コーナー付近炭化物出土状況(西から)
70　平安時代検出遺構(1)
第1号住居跡作業風景(北から)　第1号住居跡セクション(西から)　第1号住居跡遺物出土状況(西から)　第1号住居跡カマド(東から)　第1号住居跡カマド復元状況(東から)
71　平安時代検出遺構(2)
第4号住居跡(西から)　第4号住居跡ピット5(西から)　第4号住居跡遺物出土状況(南西から)　第4号住居跡炉　第4号住居跡(西から)
72　平安時代検出遺構(3)
第1号溝状遺構セクション(南から)　第2号溝状遺構作業風景(南から)　第3号溝状遺構作業風景(南から)

遺物写真

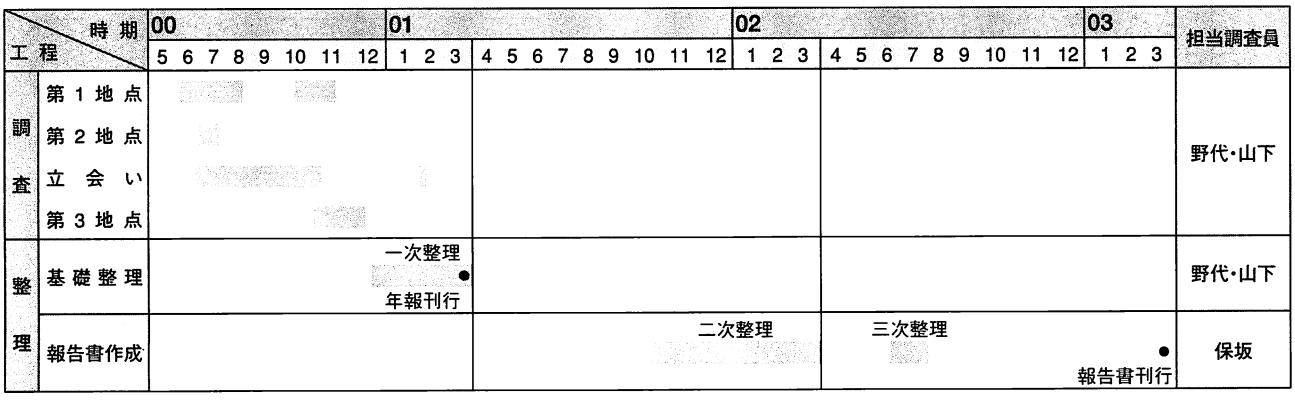
73　縄文土器(1)　第1号遺物集中区・第5号住居跡(1)
74　縄文土器(2)　第5号住居跡(2)
75　縄文土器(3)　第5号住居跡(3)
76　縄文土器(4)　第5号住居跡(4)・第6号住居跡
77　縄文土器(5)　各土坑
第186号土坑　第229号土坑　第241・284号土坑　第245号土坑(1)　第245号土坑(2)　第241号土坑　第249号土坑　第284号土坑　第305号土坑
78　縄文土製品・石器(1)
土偶　土製円盤　土製スプーン　土製耳飾　石鏃・石錐・掻器・両極石器・石匙
79　縄文石器(2)
剥片(両極)　剥片(直接)　剥片(間接)　使用痕石器・原石　打製石斧　打製石斧素材・成形剥片　ハンマー　石匙　削器
80　縄文石器(3)
礫器　磨製石斧　磨石類　石皿(1)(2)　立石・石棒　土器混和剤
81　古墳・平安時代土器・石器
第3号住居跡　第1号住居跡(1)～(4)　第4号住居跡　第1号溝状遺構　第3・4号住居跡
82　峡北農業高等学校収蔵資料
縄文土器(1)　古墳～平安時代土器　縄文土器(2)(3)　縄文石器
83　炭化材・種実遺体(1)
84　炭化材・種実遺体(2)
85　炭化材(1)
86　炭化材(2)

第Ⅰ章　序説

第1節　調査に至る経緯

峡北地区総合学科高校(北杜高校校舎)建設予定地となっている山梨県北巨摩郡長坂町渋沢1007－19外地内(県立峡北農業高等学校敷地内)における具体的な工事計画が県教育委員会学校施設課より提出された。工事予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地と重なるため、学校施設課及び同学術文化財課と同埋蔵文化財センターでは、予定地内における埋蔵文化財の保護についての協議に入り、平成11年8月18日～8月27日に埋蔵文化財センターによる工事予定地内における遺跡の分布範囲を確認するための試掘調査が実施された。試掘調査の対象面積は約183,000m²で、校舎建物やそれに伴う配管、作物の栽培地等を避けながら27本のトレンチ(調査面積659m²)を設定し、その後人力によって精査を行い、遺構、遺物の有無について確認を行った。その結果、多くの地点で深くローム層まで削平が及んでおり、遺構の遺存状態はあまり良好ではないが、縄文時代中期中葉とみられる住居跡と埋甕などの土器、石皿及び平安時代の住居跡や溝状遺構などが確認されたため、学校施設課及び学術文化財課と埋蔵文化財センターの三者により改めて協議を行い、平成12年度から工事予定地内において順次工事計画に応じて当該地点に対しての立合調査や本調査を実施することとなった。

平成12年5月9日には、学校施設課、学術文化財課、埋蔵文化財センター、峡北農業高等学校により現地で協議を行い、工事計画に基づく飼料園部分、校舎北側擁壁沿い部分、農業土木学科棟・生活科学科棟などの実習棟部分の発掘調査及び仮設校舎部分、駐輪場予定地の立合調査、校舎解体工事関連に伴う立合調査の計画が立案された。この調査計画に基づき、文化財保護法による手続き等を行い、同年5月22日より調査を開始した(表Ⅰ－1)。



Ⅰ－1　調査進行表

本報告の遺跡名について

当初、峡北地区総合学科高校(北杜高校)整備事業地内の遺跡全体をもって「原町農業高校前遺跡(長坂町遺跡No.147)」として進めてきたが、今回の第1次(平成12年度)調査において、第2次(平成13年度)以降の調査地点とは遺跡が異なることがわかり、長坂町における遺跡台帳と照らし合わせて再検討したところ第1次(平成12年度)調査地の多くが「下原遺跡(長坂町遺跡No.199)」にかっかていることが判明したことから、第2次調査地点の「原町農業高校前遺跡」との混乱を防ぐため、本報告では遺跡名を加執記載することとした。

第2節　調査の概要

第1項　調査の方法

調査は、試掘調査及び立合調査の結果に基づき第1～第3地点の3地区に分けて実施した(図Ⅰ－2)。調査区設定後、重機により耕作土など表土を除去し、引き続いて遺構確認面直上から人力による掘り下げを行い、遺構確認に努めた。その後、遺構内の精査を進めた(図Ⅰ－3)。

グリッドの設定は、調査対象地区全体を覆うようにして、南北方向をX軸、東西方向をY軸とする国土座標系

に合わせた5mメッシュを設定した。X軸(北から南)方向にA・B・C…のアルファベットを、Y軸(西から東)方向に1・2・3…の算用数字を付した。グリッドの名称は両ラインの交点を基準とし、各グリッドの南西隅の交点をもって呼称した(図Ⅰ－2)。

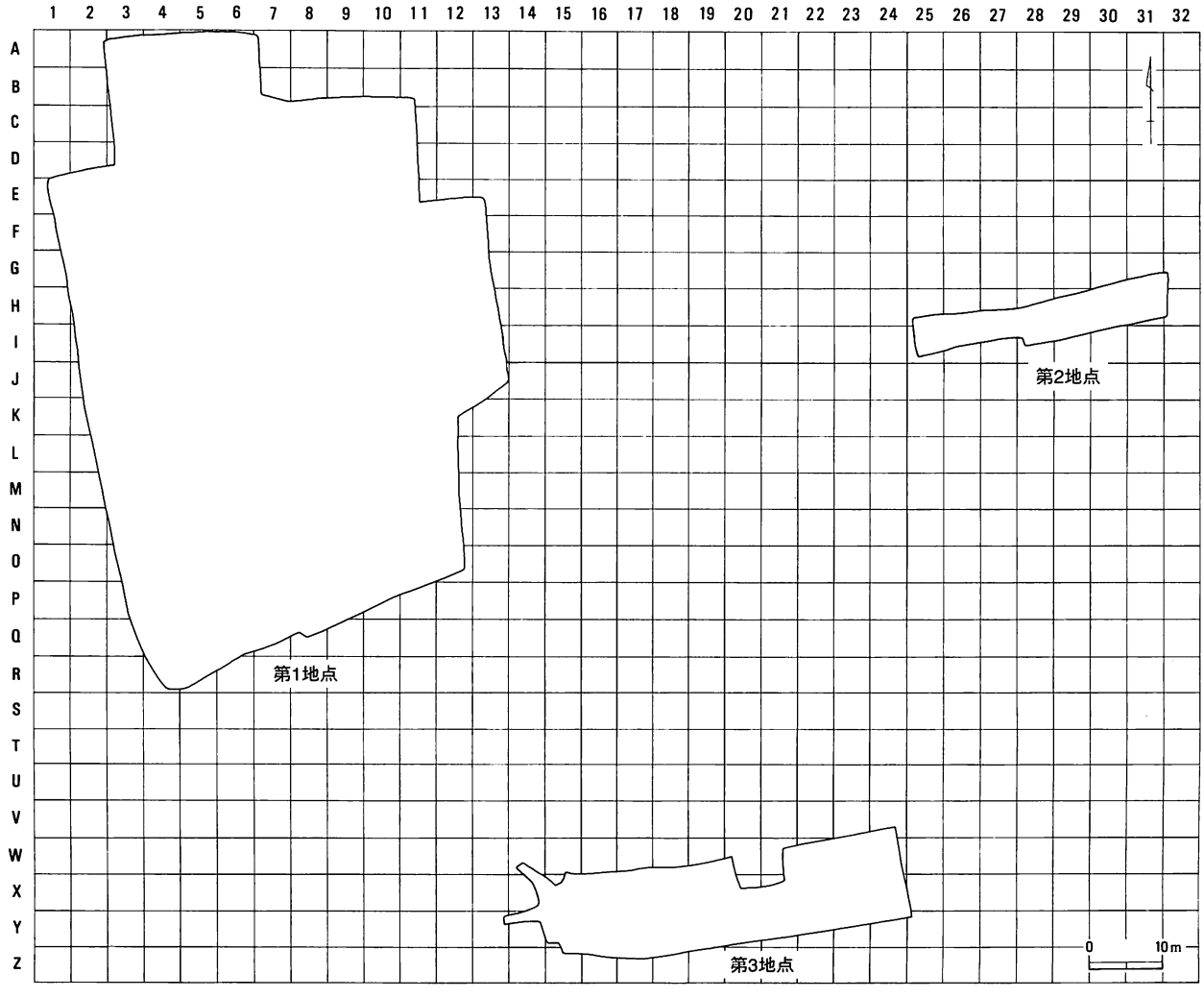
遺物の記録・取り上げは、遺構確認面に到達するまでは各グリッドごとに一括して取り上げ、遺構内出土の遺物に関しては平板測量及びレベル測量により取り上げた。

遺構図及び遺物微細図は平板及び簡易やり方を適宜選択して実測した。

第2項　遺跡の概要

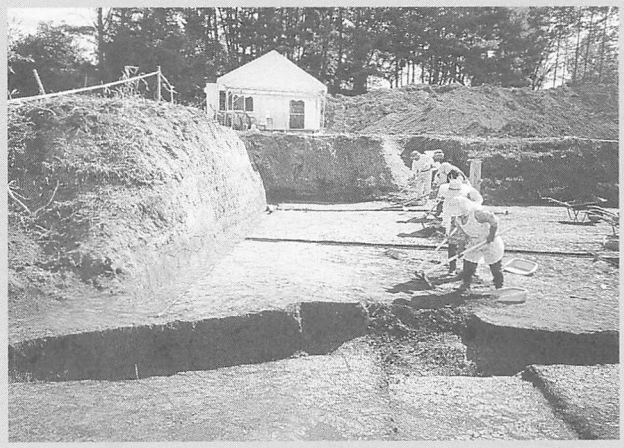
発掘調査の経過は、調査予定地に校舎が存在していたため、まず調査に影響のない駐車場予定地の飼料園部分(第1地点西側調査区)の調査を平成12年5月22日から8月1日まで実施した。併行して6月7～8日に仮設校舎部の立合調査及び6月22日から7月7日まで生徒実習更衣室北側部分(第2地点)の本調査を実施したが、両地点とも攪乱のため遺構・遺物は確認できず、後者の調査結果により校舎北側擁壁沿い部分の調査予定地の立合・本調査は行わないこととなった。

次に8月29日から既存の学校建物の解体工事と併行して基礎撤去ごとに遺構確認作業(立合調査：表Ⅰ－4)などを行いながら本調査予定地の設定を行っていき、遺構及び遺物包含層が確認された体育館部分(第1地点東側調査区)及び農業土木学科棟と生活科学科棟の間の空閑地部分(第3地点)の本調査を実施した。前者は9月20日から11月9日まで、後者は10月16日から12月5日まで実施された。各本調査地点(第1～3地点)及び立合調査地点は、図Ⅰ－5に示したとおりである。



Ⅰ－2　調査区割設定図(1/1000)

表土剥ぎ作業



遺構検出作業

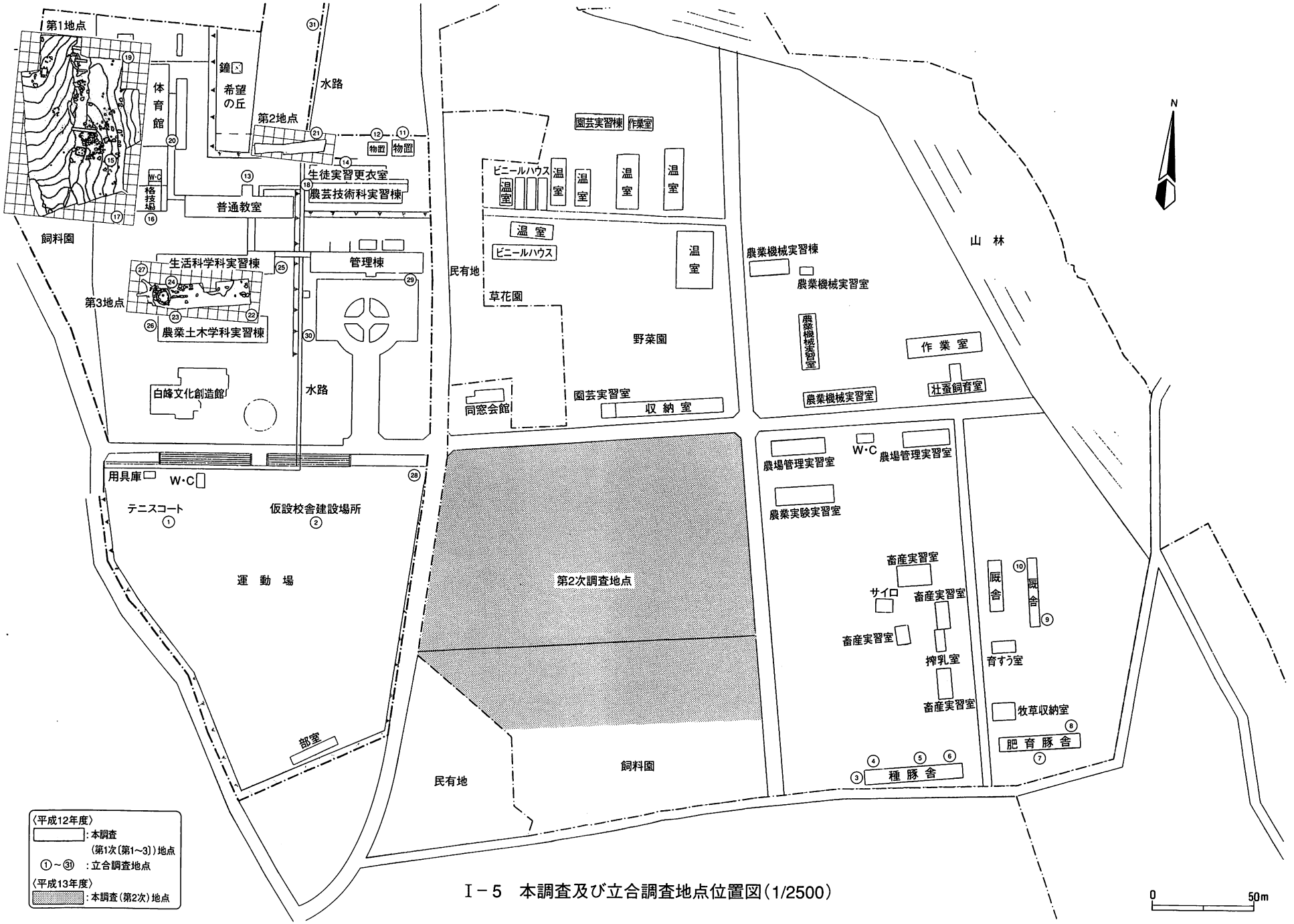
平板測量

現地説明会

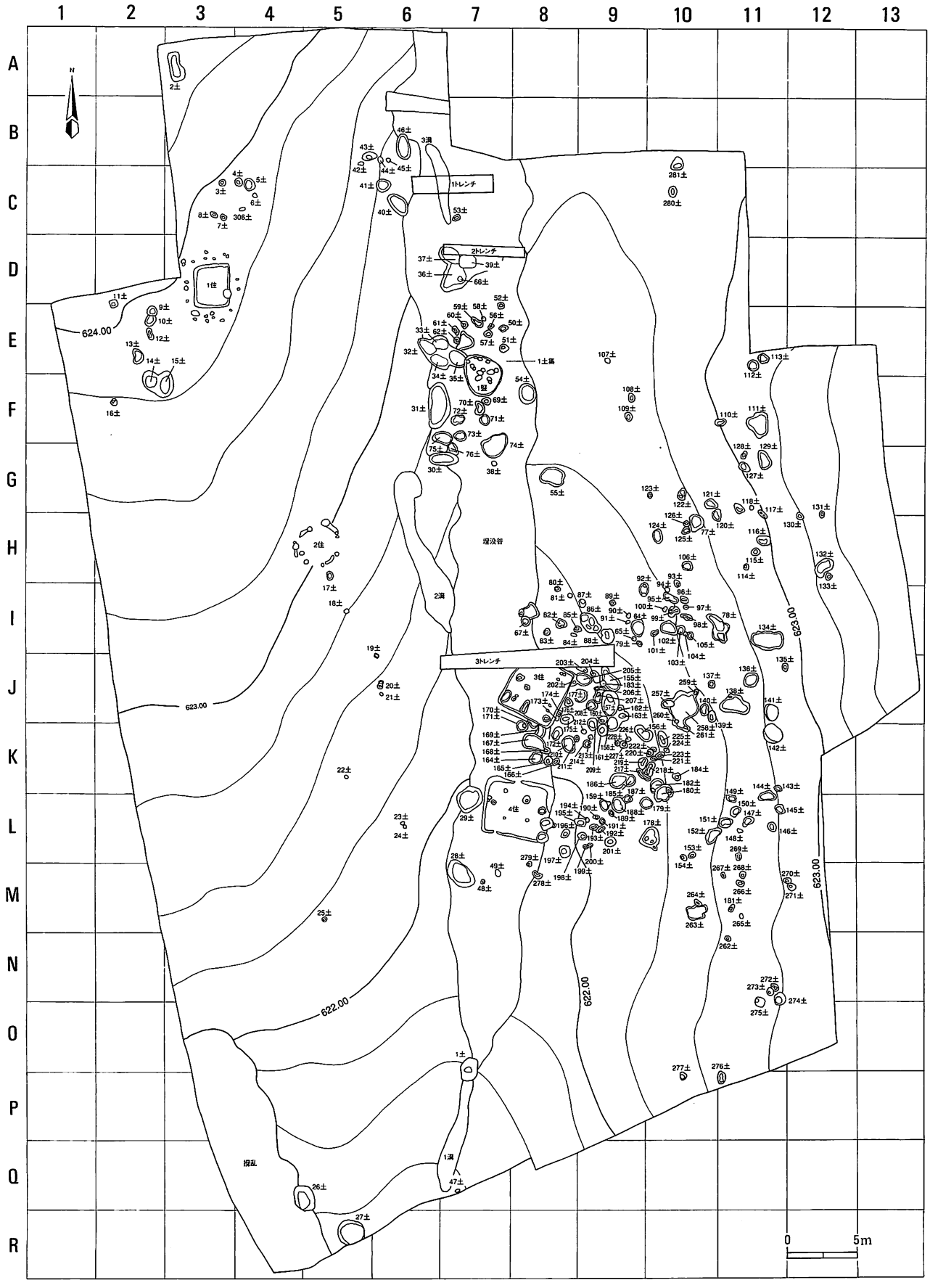
Ⅰ－3　調査の流れ

調査地（図Ⅰ-5対応）		調査日	調　査　結　果
1	テニスコート・ネット支柱撤去	6/7	攪乱のため土器2片のみ確認。
2	仮設校舎建設基礎工事	6/8・12	ロームより50cm掘るが攪乱及びハードローム層確認、遺構・遺物無し。
3	種豚舎解体工事	8/29	遺構は攪乱のため遺存状況悪い。土坑1基、土器片・凹石・打斧確認。
4		8/30	土坑・ピットなどの底部残存確認。
5			遺構・遺物無し。
6			遺構・遺物無し。
7	肥育豚舎解体工事	9/1	現地表下より70cm掘るが攪乱確認、遺構・遺物無し。
8			
9	厩舎東側解体工事	9/4	現地表下より20～70cmの盛土下ハードローム層確認、遺構・遺物無し。
10			
11	校舎北側プレハブ解体工事		攪乱確認、遺構・遺物無し。
12	物置解体工事（第2地点東側）（北壁）	9/5～6	攪乱確認、遺構・遺物無し。
13	普通教室解体工事		現地表下より120cm掘るが攪乱確認、遺構・遺物無し。
14	生徒実習更衣室解体工事		現地表下より80cm掘るが攪乱確認、遺構・遺物無し。
15	部室解体工事	9/7	現地表下より約250cm盛土確認、遺構・遺物無し。
16	格技場南東コーナー解体工事	9/8	現地表下140cm掘るが攪乱確認、遺構・遺物無し。
17	格技場解体工事		
18	農芸技術科実習棟解体工事		攪乱確認、遺構・遺物無し。
19	体育館北側解体工事	9/13～14	縄文・古墳～平安時代の遺物包含層確認。第1地点拡張調査範囲確認。
20	体育館東側解体工事		攪乱確認、遺構・遺物無し。
21	園芸実習棟北側擁壁解体工事		攪乱確認、遺構・遺物無し（第2地点基本層序）。
22	農業土木科実習棟解体工事		建物直下及び周辺は攪乱で遺物遺構無し。生活科実習棟と農業科実習棟の間は遺物包含層があり、第3地点の本調査の必要性確認。
23			
24	生活科実習棟解体工事		
25	生活科実習棟東側解体工事	9/18	遺構・遺物無し。
26	農業土木科実習棟西側抜根		遺構・遺物無し。
27	生活科実習棟西側抜根	9/19	遺構・遺物無し。
28	グランドバックネット裏水道管移設工事	10/6	現地表下より20cm程の盛土下ハードローム層確認、遺構・遺物無し。
29	管理棟部分東側解体工事	10/10	現地表下より90cm程の攪乱確認、遺構・遺物無し。
30	管理棟浄化槽解体工事	10/13	表土下100cmの盛土下ハードローム層確認、遺構、遺物無し。
31	水道管及び水道メーター敷設工事	1/25	攪乱確認、遺構・遺物無し。

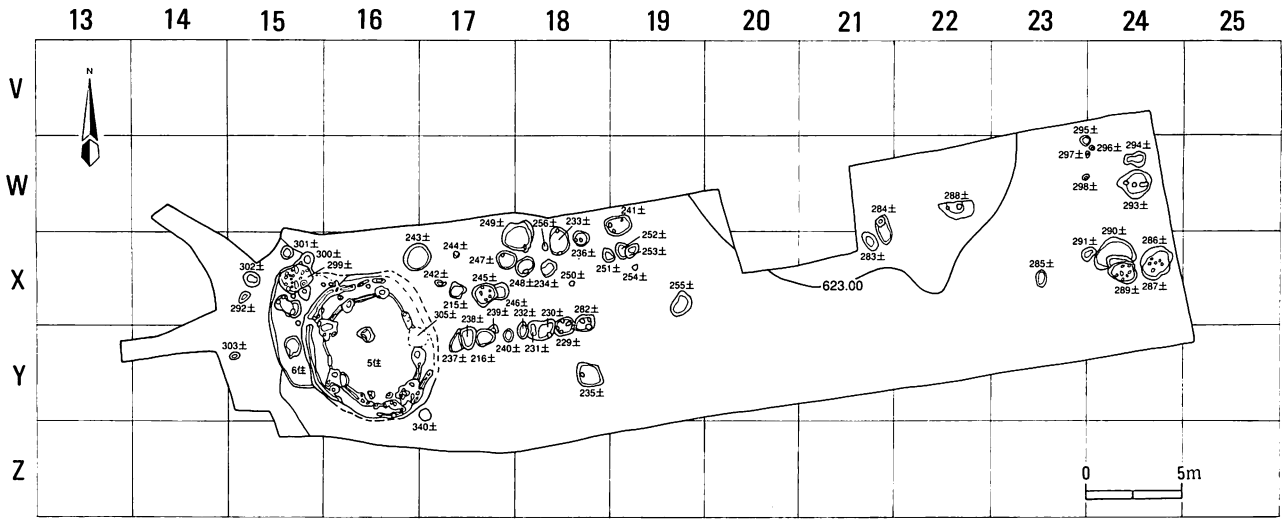
Ⅰ－4　立合調査結果一覧



Ⅰ－5　本調査及び立合調査地点位置図（1/2500）



Ⅰ－6　検出遺構第1地点全体図(1/400)



Ⅰ－7　検出遺構第3地点全体図(1/400)

調査に当たっては、県営繕課、学校施設課、埋蔵文化財センター、峡北農業高等学校、解体業者が二週間に一回工程会議を実施し、解体作業工程と発掘調査工程等の確認及び調整を行った。開催日時は8月21日、9月4日、9月18日、10月2日、10月16日で、計五回開催した。

今回の調査で確認された遺構・遺物は、縄文時代早期(Ⅰ群)、中期(Ⅱ群)、後期(Ⅲ群)、古墳時代中期(Ⅳ群)、平安時代前期(Ⅴ群)の5時期に大別することができる。以下、各調査区の概要をまとめてみたい。

第1地点は、尾根斜面部から底部にかけて位置しており、縄文時代以前に埋没した谷が確認された。その埋没谷周辺に縄文時代早期と考えられる陥し穴や竪穴状遺構が発見された。住居跡は縄文時代1軒、古墳時代1軒、平安時代2軒が確認された。中でも古墳時代中期の住居跡は焼失住居であり、ホゾ穴などの加工痕の残る建築部材や編み物状の炭化物などが確認されている。また、平安時代の9世紀代に比定される第1号住居跡からは、壁際に2枚重なった状態でそれぞれ「寺」、「良」と墨書された坏が出土した。縄文時代早期や中期を中心とした土坑約270基が確認された(図Ⅰ－6)。

第2地点は、トレンチにより表土下60cmまで攪乱が見られ、遺構、遺物の確認はできなかった。

第3地点は、第1地点と同じ尾根の頂部にあり、縄文時代中期の土坑が約40基と同時期の住居跡が2軒確認された。この2軒の住居跡は切り合っており、第5号住居跡が中期中葉の藤内期終末、第6号住居跡が中期後葉の曽利期後半にあたる。古い段階に当たる第5号住居跡は9本の柱穴を持つ大型のもので、最低一回の拡張を行っている。遺物は藤内期から井戸尻期にかけての土器片や石器が住居の掘り込みに大量に廃棄されており、中には土偶頭部や耳栓などの遺物も出土している(図Ⅰ－7)。

発掘調査・整理作業及び文化財保護法に基づく手続き等は以下のとおりである(表Ⅰ－1)。

【発掘調査・整理作業】

平成12(2000)年5月22日～12月8日：立合調査・第1次本調査

平成12(2000)年12月11日～平成13(2001)年3月31日：第1次(基礎)整理作業

平成13(2001)年10月1日～平成14(2002)年3月31日：第2次(報告書作成)整理作業

平成14(2002)年6月1日～7月10日：第3次(報告書作成)整理作業

【文化財保護法に基づく手続き】

平成12(2000)年5月26日：文化財保護法第58条の2第1項に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知」を山梨県教育委員会教育長に提出

平成12(2000)年12月14日：文化財保護法第58条の2第1項に基づく「埋蔵文化財の発見届」を長坂警察署長に提出

資料の活用について

今回の調査で検出した遺構及び遺物については、これまで「遺跡見学会」、「山梨の遺跡展 '2000」、「北杜高等学校展示」などに公開・展示され、歴史教育の資料として普及・活用されている(図Ⅰ－8)。

平成12(2000)年11月19日：遺跡見学会

平成13(2001)年3月17日～4月8日：「山梨の遺跡展 '2000」

平成14(2002)年3月12日～現在展示中：北杜高等学校展示

「山梨の遺跡展'00」展示風景

北杜高等学校展示風景

Ⅰ－8　資料の活用

第3項　基本層序(図Ⅰ－9・10)

今回実施した第1次調査の第1～3地点の調査区は、八ヶ岳南麓の七里岩台地上、標高620m前後の小尾根先端に位置する。

基本層序は、学校の建物等の攪乱や立地条件の違いにより調査区間での層位は必ずしも一定しておらず、層相を異にしている。

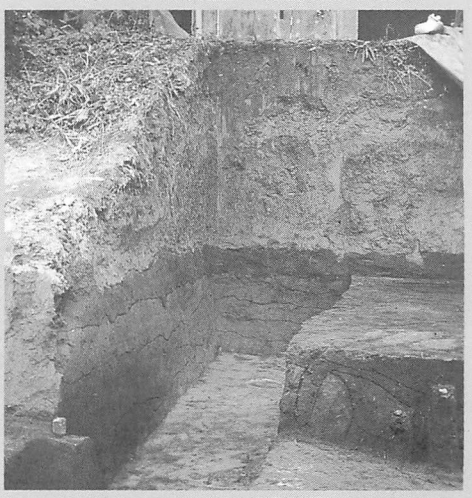
各調査区の基本層序は、以下のとおりである。

第1地点は、尾根斜面部から底部(東高西低)にかけて位置し、調査区中央の北壁及びトレンチ1～3の断面観察により、1層：褐色土(表土)2層：淡茶褐色土(古墳時代以降遺物包含層)3層：茶黒褐色土(縄文時代遺物包含層)が確認された(図Ⅰ－10)。また、南北方向に延びる縄文時代以前の埋没谷による4～14層の堆積も見られた。なお、調査区東側(体育館)部分では、1～3層の上位に2mもの整地層(Ⅰ層：黒褐色土(礫混入腐葉土)、Ⅱ層：Pm－1を基調、Ⅲ層：昭和30年代の盛土(Pm－1を基調)、Ⅳ層：昭和10年代の盛土(ロームを基調)が確認されている。遺構は古墳時代と平安時代ともに2層から、縄文時代は3層からそれぞれ切り込んで構築されている。

第2地点は、尾根頂部に位置し、現地表下60cmまで1層：攪乱(表土)が見られ、攪乱下は2層：ソフトローム、3層：ハードローム、4層：ローム、5層：淡明褐色土、6層：Pm－1となり、遺構・遺物は確認できなかった。

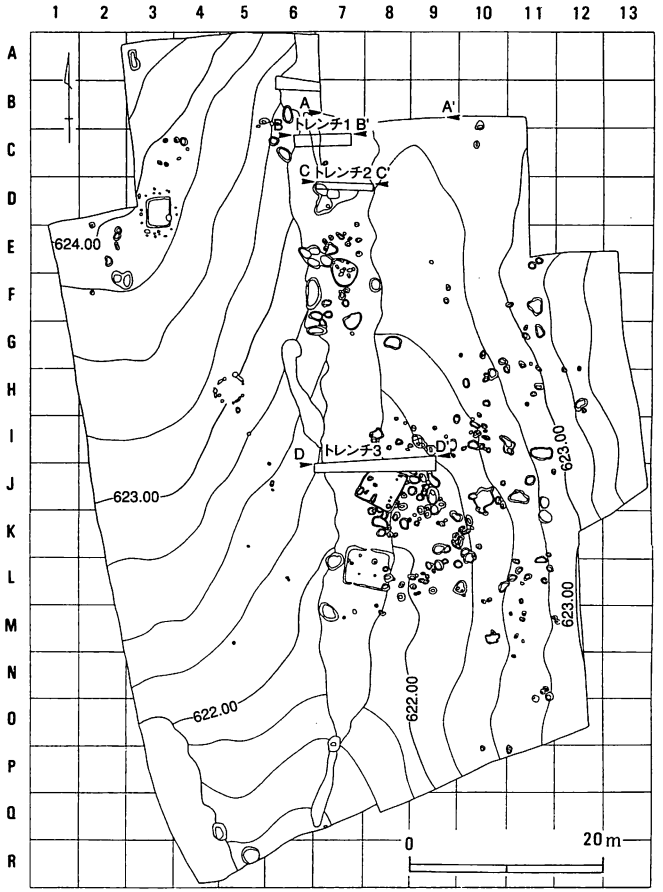
第3地点も尾根頂部に位置し、現地表下80～120cmまで1層：攪乱(表土)が見られ、攪乱下は2層：暗黒褐色土層(縄文時代遺物包含層)、3層：ソフトローム層、4層：ハードローム層となり、2層から縄文時代の遺構が切り込まれている。

第1地点調査区北壁断面図

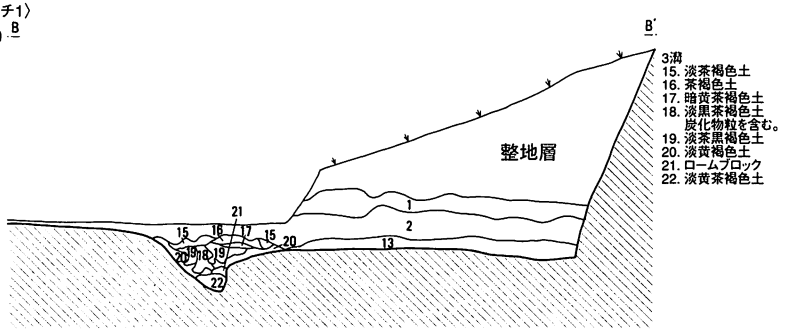


3トレンチ断面図

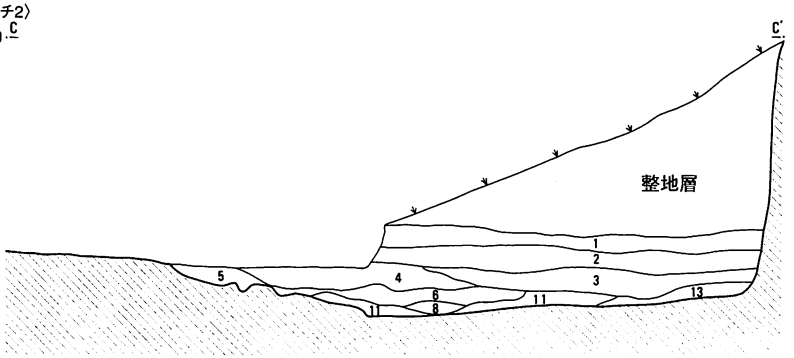
Ⅰ－9　第1地点基本層序



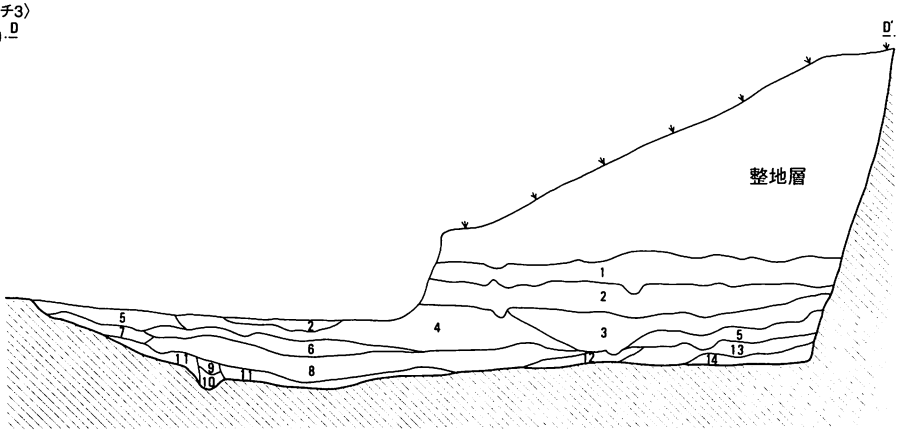
〈トレンチ1〉



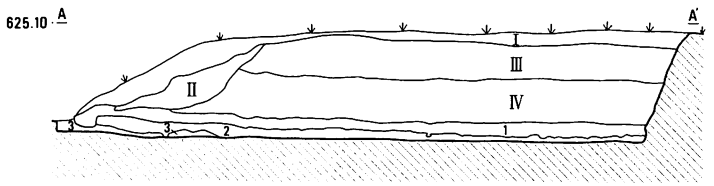
〈トレンチ2〉



〈トレンチ3〉



〈調査区北壁〉



第1地点　調査区北壁及びトレンチ1・2・3
整地層
Ⅰ. 黒褐色土（礫混入腐葉土）
Ⅱ. Pm1を基調とする。
Ⅲ. 昭和30年代の盛土（Pm1を基調とする）
Ⅳ. 昭和10年代の盛土（ロームを基調とする）

基本層序
1. 褐色土（表土）
2. 淡茶褐色土
古墳時代以降の遺物を包含する。
3. 茶黒褐色土
ブロック状に茶褐色土を含む。縄文時代の遺物を包含する。
4. 黒茶褐色土
ブロック状に茶褐色土を含む。
5. 淡茶褐色土
6. 淡黒褐色土
7. 淡暗褐色土
8. 黒褐色土（黒ぼく）
遺物を少量含む。
9. 淡暗褐色土
ローム粒子を含む。10層に類似する。
10. 淡褐色土　ロームブロックを含む。
11. 淡黄褐色土　ロームに淡暗褐色土が混入する。
12. 淡茶黒褐色土
13. 淡黄褐色土
14. 黄褐色土

0　2 m

Ⅰ－10　第1地点基本層序

第3節　遺跡の立地と環境

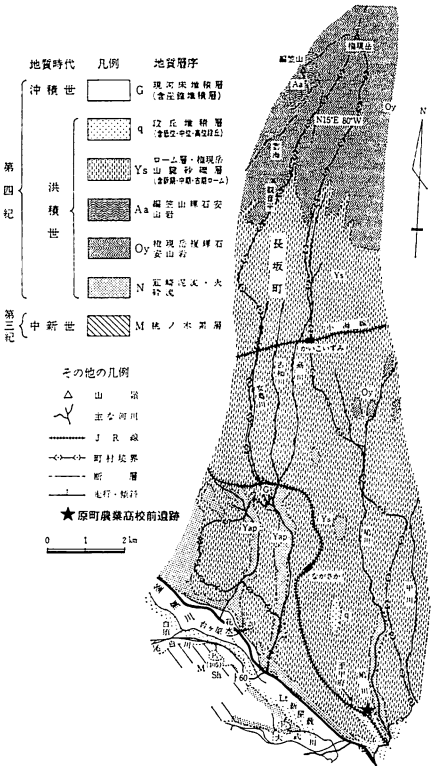
第1項　遺跡の立地

原町農業高校前(下原)遺跡は、山梨県北西部の八ヶ岳南麓、北緯(新)35°47′59″、東経(新)138°23′08″の北巨摩郡長坂町渋沢の県立北杜高等学校敷地内に位置する(図Ⅰ－13)。

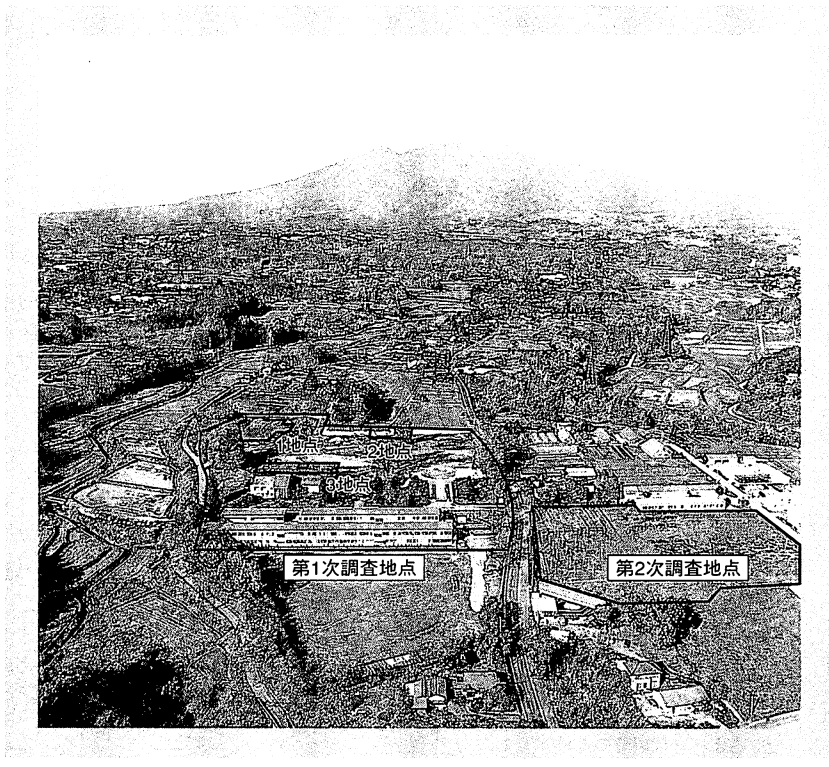
遺跡の所在する長坂町は、地質的には第四紀洪積世に権現岳など古八ヶ岳期の山体崩壊によって形成されたものであり(図Ⅰ－11)、地形的には八ヶ岳連峰の権現岳(2,718m)を頂点としてその南麓部に細長く(南北約18km、東西約6km)雄大なスロープを展開し、標高1,200m以上の急峻な八ヶ岳山岳地帯、標高1,100～800mの八ヶ岳南麓高原地帯、標高800～600mの長坂台地、標高700m前後の八ヶ岳南麓低地に大別される(図Ⅰ－12)。八ヶ岳南麓は、高原地帯に豊富な湧水が多く点在し、これらを水源とする鳩川、古杣川、大深沢川等の中小河川が南流し、長坂台地に至り浸食作用が進み、南北の幼年期の谷が発達し、複雑な地形をなして尾根と谷が交さくしている。原町農業高校前遺跡(下原遺跡)もその一つ、長坂台地上の西端を宮川、東端を鳩川にそれぞれ開析された谷に挟まれた南北に延びた低尾根の先端、標高621～624m前後に立地する。調査区ごとに見ると第1地点は尾根の西側緩斜面から谷底で、中央部に南北に走る埋没谷が存在し、第2・3地点は尾根の頂部にあたる。遺跡の立地する長坂台地は、山体崩壊による八ヶ岳火山砕屑物堆積層(韮崎泥流・火砕流)によって形成され、表層は八ヶ岳火山灰の堆積した厚いローム層にほぼ一様に覆われており、ときに権現岳山麓砂礫層が露出していることもある。台地の西縁は、釜無川の浸食をうけて急崖を形成しており、「七里岩」と呼ばれている。

韮崎泥流中の岩石種は、安山岩、泥岩、砂岩、チャート、石英斑岩、花崗岩、半花崗岩、ホルンフェルス・結晶片岩など、韮崎火砕流中の岩石種は、複輝石安山岩、輝石玢岩、角閃石安山岩、角閃石石英安山岩、花崗岩、粘板岩、及び頁岩などである。

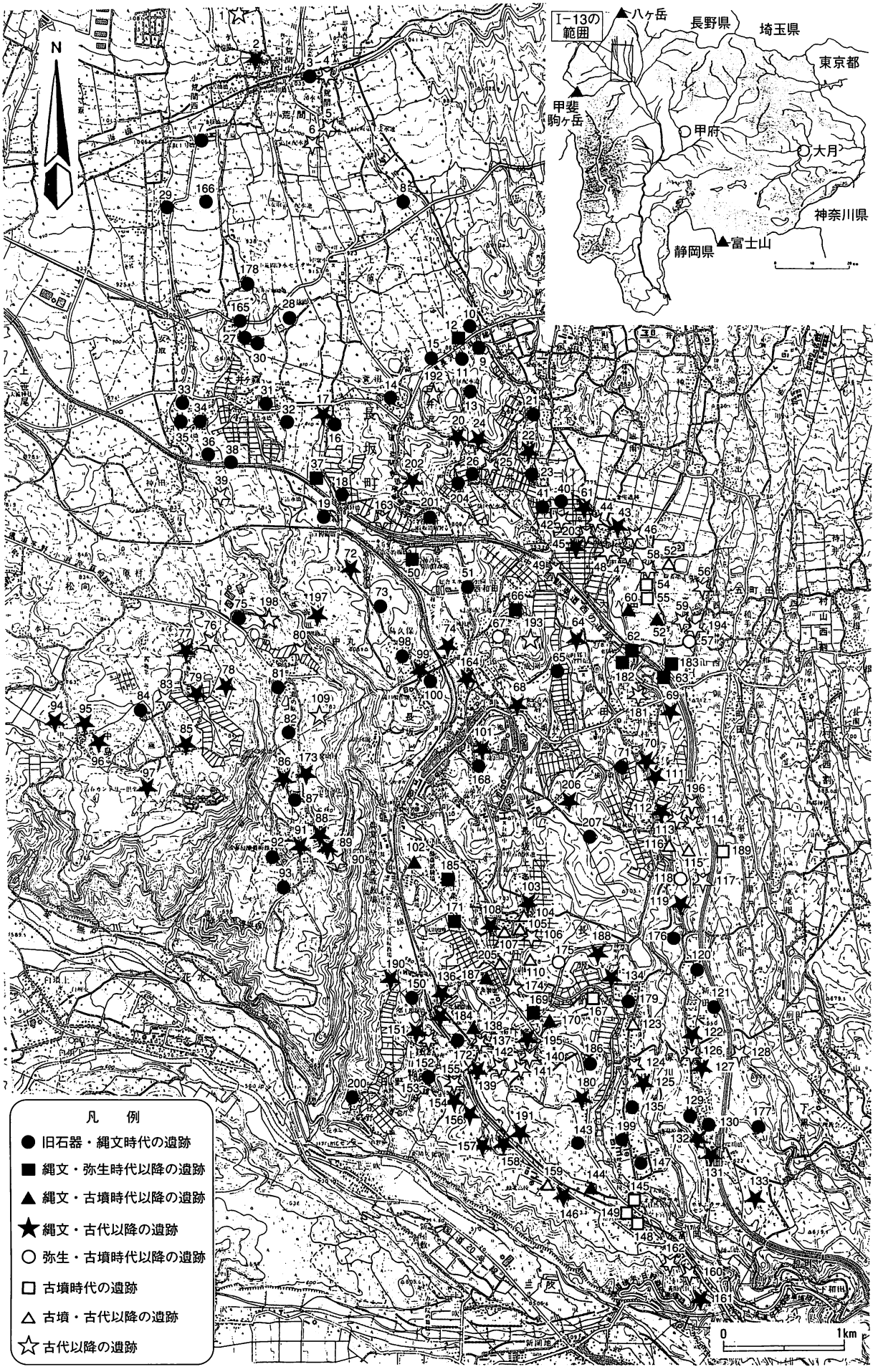
ローム層の層序は、下位から上位に向かって順次、礫混じローム層、中期軽石ローム層、新期ローム層などから構成され、最下位の礫混じローム層は、尾根から谷に変わる区域に露出していることが比較的多く、礫は安山岩で、直径10～30cm前後の角礫から亜角礫であり、層厚は1～5m前後である。中期の軽石ローム層は、木曽の御岳山から飛来した火山性堆積物御岳火山第一浮石層(通称pm－1)と呼ばれ、層厚は40～130cm前後である。新期の



Ⅰ－11　長坂町地質図



Ⅰ－12　遺跡周辺の地形

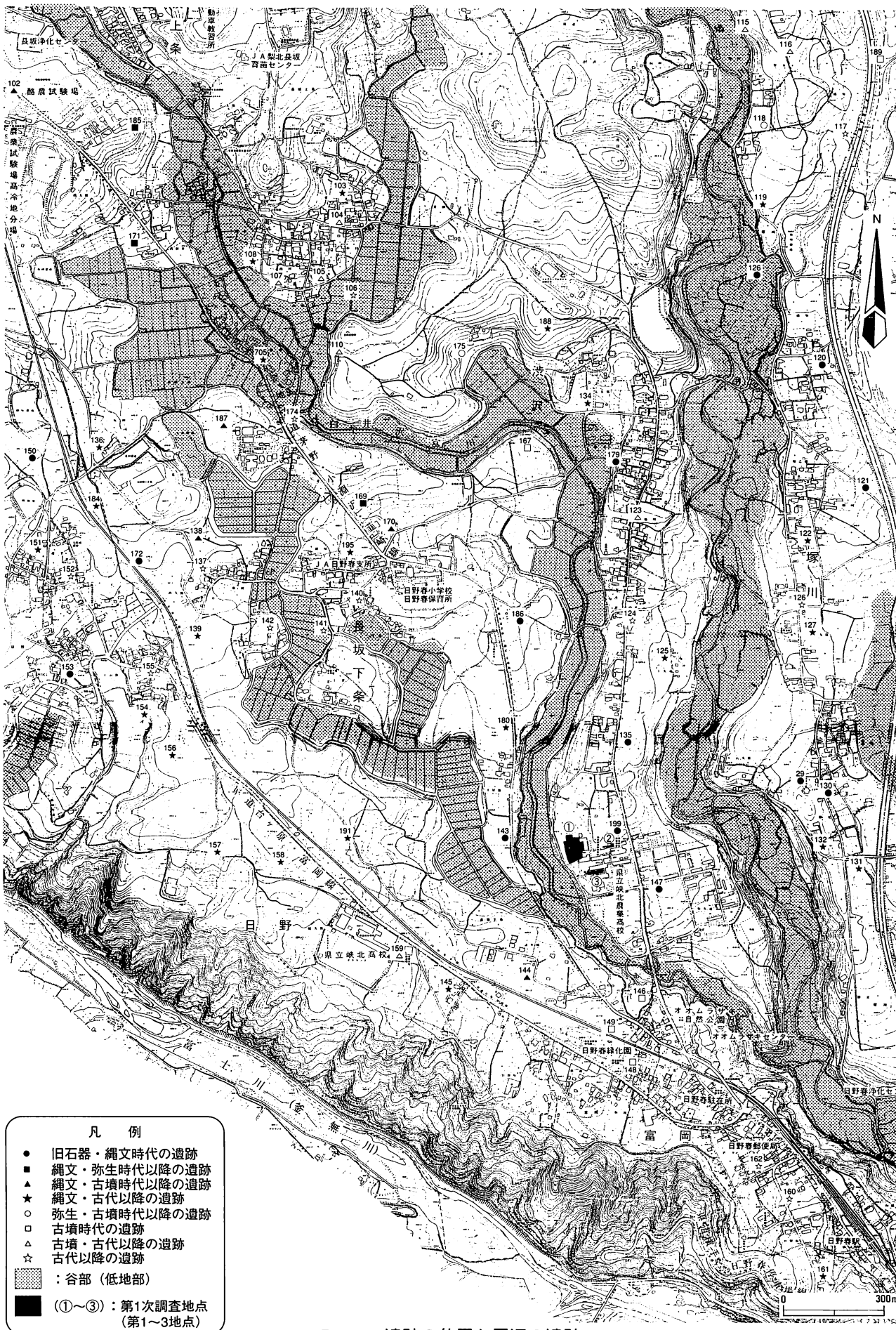


I－13　長坂町の遺跡分布図

遺跡番号	遺跡名	旧石器・縄文 ●	縄文・弥生以降 ■	縄文・古墳以降 ▲	縄文・古代以降 ★	弥生・古代以降 ○	古墳 □	古墳・古代以降 △	古代以降 ☆
1	耳塚								不明
2	法性寺前遺跡				縄・中				
3	信玄原遺跡	縄							
4	小荒間古戦場跡								戦
5	桜畑遺跡								平・江
6	小泉遺跡								江
7	菅間遺跡	縄							
8	桜畑南遺跡	縄							
9	糀屋敷東遺跡	縄							
10	糀屋敷北遺跡	縄							
11	糀屋敷遺跡	縄							
12	牛久保遺跡		縄・弥						
13	牛久保南遺跡	縄							
14	沢入遺跡 菅沼氏館址	縄							
15	苧干平遺跡	縄							
16	東下屋敷遺跡	縄							
17	西下屋敷遺跡				縄・中				
18	新田森遺跡	縄							
19	西下屋敷南遺跡	縄							
20	横手遺跡				縄・中				
21	神之原遺跡	縄							
22	屋敷附遺跡				縄・中				
23	内城遺跡	縄							
24	十郎林遺跡				縄・中				
25	阿原遺跡								平
26	中尾根遺跡	縄							
27	手白尾遺跡	縄							
28	夫婦岩遺跡	縄							
29	横山1遺跡	縄							
30	横山2遺跡	縄							
31	横山平南遺跡	縄							
32	葛原北遺跡	縄							
33	上フノリ平北遺跡	縄							
34	上フノリ平遺跡	縄							
35	上フノリ平西遺跡	縄							
36	下フノリ平北遺跡	縄							
37	葛原遺跡		縄・弥						
38	下フノリ平遺跡	縄							
39	下フノリ平南遺跡								平
40	別当遺跡	縄							
41	別当西遺跡	縄							
42	別当十三塚								中
43	南新居北遺跡				縄・平・中				
44	深草館址								戦
45	小和田遺跡				縄・平・中				
46	南新居屋敷址								平・中
47	南新居遺跡								平
48	南新居西遺跡								平
49	小和田館址								平・戦・江
50	米山遺跡		縄・弥						
51	米山東遺跡	縄							
52	塚田遺跡							古・平	
53	窪田遺跡			縄・古・平					
54	弥右衛門塚1						古?		
55	弥右衛門塚2						古?		
56	渋田北遺跡								平
57	渋田遺跡					弥・平・中			
58	東原の土塁								中
59	東原遺跡								中
60	柳新居遺跡			縄・古・平					
61	原田遺跡				縄・平				
62	柳坪A遺跡		縄・弥・古・平						
63	柳坪B遺跡		縄・弥・古・平						
64	小屋敷遺跡				縄・平・中				
65	久保地遺跡	縄							
66	成岡遺跡		縄・弥・古・平						
67	成岡新田遺跡					弥・平・中			
68	曲田遺跡				縄・平				
69	石原田北遺跡				縄・平・中				
70	石原田南遺跡				縄・平				
71	塚原遺跡	縄							
72	越中久保遺跡				縄・平・中・江				
73	久保遺跡	縄							
74	房屋敷遺跡				縄・江				
75	池ノ平遺跡	縄							
76	東蕪3遺跡								平
77	東蕪2遺跡				縄・平				
78	東蕪4遺跡				縄・平				
79	東蕪1遺跡				縄・平				
80	和手山遺跡								中
81	小尾平遺跡	旧石・縄・中							
82	間の原遺跡	縄							
83	西蕪東遺跡								平
84	西蕪遺跡	縄							
85	西蕪南遺跡				縄・平				
86	和手遺跡				縄・平				
87	腰巻遺跡	縄							
88	城山上北遺跡				縄・平・中・江				
89	城山上遺跡				縄・中				
90	中丸砦址								戦
91	居久保遺跡				縄・平				
92	清春白樺美術館南遺跡	縄							
93	細久保遺跡	縄							
94	後平遺跡				縄・平				
95	狐平北遺跡				縄・平				
96	狐平遺跡				縄・平				
97	大平遺跡				縄・平				
98	下島久保遺跡	縄							
99	島久保遺跡				縄・江				
100	高松遺跡	縄							
101	上町遺跡				縄・奈				
102	酒呑場遺跡			縄・古・平・江					
103	東村A遺跡				縄・奈・平・中・江				

遺跡番号	遺跡名	旧石器・縄文 ●	縄文・弥生以降 ■	縄文・古墳以降 ▲	縄文・古代以降 ★	弥生・古代以降 ○	古墳 □	古墳・古代以降 △	古代以降 ☆
104	東村B遺跡							古・平・中・江	
105	中村遺跡							古・平・中・江	
106	鐙田遺跡								平
107	西村遺跡							古・平・中・江	
108	中反遺跡				縄・平				
109	姉平・藤塚								不明
110	長坂氏屋敷址							古・平・中	
111	白山神社前遺跡				縄・平				
112	上ノ屋敷遺跡				縄・平・中・江				
113	大々神十三塚								中
114	大々神A遺跡								平
115	大々神B遺跡							古・平	
116	治郎田遺跡							古・平	
117	頭無A遺跡								平
118	樫木遺跡					弥・古			
119	塚川・柳坪遺跡				縄・江				
120	頭無遺跡	縄							
121	新田遺跡	縄							
122	塚之越遺跡				縄・平				
123	原町北遺跡							古・平	
124	原町遺跡								江
125	上久通北遺跡				縄・平				
126	塚川の土塁								中・戦
127	下村遺跡				縄・平・中				
128	塚川十三塚群								中
129	宮久保遺跡	縄							
130	下村南遺跡	縄							
131	泥里西遺跡				縄・平				
132	勝見遺跡				縄・平				
133	競馬場遺跡				縄・平				
134	寺前遺跡				縄・平・中				
135	上久通遺跡	縄							
136	反田遺跡				縄・平・中				
137	三井氏屋敷址								中・江
138	北村遺跡			縄・古・平					
139	新居遺跡				縄・平・中				
140	相吉氏屋敷址								中
141	相吉遺跡								奈・平
142	植松氏屋敷址								中
143	下屋敷遺跡	縄							
144	清水頭遺跡			縄・古・奈・平					
145	向原遺跡								平
146	三ツ墓古墳2						古		
147	**桑葉高校前遺跡**	**縄**							
148	三ツ墓古墳3						古		
149	三ツ墓古墳1						古		
150	池ノ平 昭和堤北遺跡	縄							
151	池ノ平A遺跡				縄・奈・平				
152	向井丹下屋敷址								中
153	池ノ平B遺跡	縄							
154	上日野遺跡				縄・江				
155	田中氏屋敷址								中
156	上日野A遺跡				縄・平				
157	上日野B遺跡				縄・平				
158	上日野C遺跡				縄・平				
159	雑久保遺跡							古・江	
160	日野原遺跡								中・江
161	上日野原遺跡				縄・平・中・江				
162	宮岡遺跡								江
163	横針・中山遺跡								中
164	大林遺跡				縄・平・江				
165	中込遺跡	縄							
166	手白尾東遺跡	縄							
167	西屋敷遺跡						古		
168	上町南遺跡	縄							
169	龍角西遺跡		縄・弥・古・平・中・近代						
170	龍角遺跡			縄・古・平・中					
171	長坂上条遺跡		縄・弥・平						
172	西久保遺跡	縄							
173	新宿区健康村遺跡				縄・平・中・江				
174	長坂下条・藤塚								不明
175	和田遺跡					弥・古			
176	古屋敷遺跡	縄							
177	泥里遺跡	縄							
178	中込北遺跡	縄							
179	渋沢・上町遺跡	縄							
180	下屋敷北遺跡				縄・平				
181	柳坪南遺跡								平
182	柳坪北遺跡		縄・弥・平・中						
183	境原遺跡		縄・弥・平						
184	北村北遺跡				縄・平				
185	酒呑場東遺跡		縄・弥・平						
186	山本遺跡	縄							
187	北村東遺跡			縄・古					
188	大久保遺跡				縄・中				
189	天王塚古墳						古		
190	池之平北遺跡				縄・平				
191	清水頭北遺跡				縄・平				
192	苧干平の土塁								不明
193	成岡・藤塚								不明
194	馬越場塚								中
195	紺屋遺跡				縄・平・中				
196	治郎田北遺跡								平
197	竹原遺跡				縄・中・江				
198	天白砦址								中・戦
199	**下原遺跡**	**縄**							
200	下日野遺跡	縄							
201	横針・前久保遺跡	旧石・縄							
202	横針・宮久保遺跡				縄・平				
203	深草遺跡								平
204	中田遺跡	縄						古・平	
205	長坂上条・藤塚遺跡								
206	池之窪遺跡				縄・平				
207	段道遺跡	縄							

Ⅰ－14　長坂町の遺跡分布一覧



Ⅰ－15　遺跡の位置と周辺の遺跡

ローム層は、層厚が1～5mあり、上・下2層に分けられ、上層はソフトローム層と「黒ボク」とからなり、層厚は50～150cmを有し、下部はハードローム層で層厚は1～3.5m前後と厚く、信州ローム層と呼ばれている。

権現岳山麓砂礫層は、河床砂礫層内の礫と同じ八ヶ岳火山体を構成する安山岩類、特に権現岳の複輝石安山岩と同質の安山岩が多く見られ、粒径は巨礫から砂程度までの雑多であり、一般的には角礫状であるが、ときには円礫状のものさえ存在する。

長坂台地を開析している大きな河谷底をもつ、大深沢川、高川、宮川および鳩川などには、河床砂礫層が比較的良く分布しており、さらにこれらの河川では中規模程度の段丘礫層が発達している。

遺跡からの眺望は、北に八ヶ岳を仰ぎ、西に釜無川を隔てて南アルプスの甲斐駒ヶ岳・北岳がそびえ、東に須玉川、塩川を隔てて関東山地や茅ヶ岳が展開し、南に富士山が遠望でき、遺跡の立地として絶好な場所である。

以上、地理的・地質的状況を概観したが、これらの様相は遺跡内における石器素材の選択傾向など、本遺跡の性格を特徴づける一端として反映している。

第2項　周辺の遺跡

八ヶ岳南麓には、丘の公園遺跡群をはじめ旧石器時代以降から数多くの遺跡が存在し、なかでも本遺跡の所在する長坂町は、現在、200箇所以上に及ぶ遺跡が確認されている(図Ⅰ－13、表Ⅰ－14)。ここでは、本遺跡で主たる遺構・遺物が検出された縄文時代、古墳時代、平安時代に絞って本遺跡周辺地域(八ヶ岳南麓や茅ヶ岳西麓)の遺跡の立地と分布状況を概観してみたい。

縄文時代　八ヶ岳南麓や茅ヶ岳西麓は、県内でも縄文時代遺跡の分布が濃い地域の一つである。早期の遺跡は本遺跡から10km内外の距離に長坂町酒呑場遺跡(102)・小和田館(49)、高根町丘の公園第5遺跡・清里バイパス第2遺跡・社口遺跡、明野村神取遺跡、須玉町津金御所前遺跡・原之前遺跡などがあり、本遺跡(押型文土器・撚糸文土器出土)をはじめ断片的な資料の出土が多く、狩猟時の基地としたベースキャンプと思われる。丘の公園第5遺跡、社口遺跡、神取遺跡など草創期から継続する遺跡も見られる。この地域では押型文系土器や条痕文系土器の出土例が多く、撚糸文系土器や沈線文系土器の少ないのが特徴と言われる。中期の遺跡は、県内各地に大きな集落が営まれるようになり、前期から中期後半に認められる集落規模の大型化に伴う台地や尾根上に立地する傾向があり、八ヶ岳南麓においても長坂町柳坪遺跡(62・63)・酒呑場遺跡(102)・石原田北遺跡(69)、原町農業高校前遺跡(147)、高根町海道前遺跡・社口遺跡、大泉村甲ッ原遺跡・古林第4遺跡などの拠点的な集落が台地上に選地する。これらの遺跡は、中期を通してほぼ連続する中期連続型集落(酒呑場遺跡(102)、甲ッ原遺跡など)、新道～曽利Ⅱ式期の間を中心に継続する中期前半型集落(本遺跡(199)、原町農業高校前遺跡(147)、海道前遺跡、古林第4遺跡など)、曽利Ⅱ～Ⅴ式期を中心に継続する中期後半型集落(長坂町頭無遺跡(120)・柳坪遺跡(62・63)、白州町根古屋遺跡、大泉村姥神遺跡など)があり、八ヶ岳南麓では中期後半型集落が多く確認されている。本遺跡からは武川村実原A遺跡と同様、中期初頭(五領ケ台Ⅱ式)の北陸産と思われる新保・新崎式土器が出土しており、注目される。中期末以降、後期にかけて遺跡数は大幅に減少し、中期後半から継続して規模を縮小した集落や中期末に出現し後期初頭まで継続する集落などがある。本遺跡からは小屋敷遺跡(64)や根古屋遺跡同様、出土例の少ない加曽利E式土器が出土している。遺跡の立地は、安定した台地上から台地縁辺部の小河川に面した傾斜面や低地、低位河岸段丘面に立地する傾向が中期後半から晩期に見られ、後期後半に顕著となり、居住域に密着して水利用が行われるようになる。後期の遺跡は、後期前半に小規模集落が拡散する中で、加曽利B式期に遺跡の減少傾向が始まり、後期後半では減少傾向が一段と強まり、同時に集落の集中化が進み、晩期に入るとその傾向はさらに顕著となると言われている。これらの遺跡には、中期後半から後期前半に継続する本遺跡をはじめ、大泉村姥神遺跡、社口遺跡、明野村屋敷添遺跡・清水端遺跡、中期末から後期前半に継続する須玉町上ノ原遺跡、後期前半から後半に継続する長坂町別当西遺跡(41)、高根町青木遺跡、さらに後期前半から晩期後半に継続する大泉村金生遺跡・石堂遺跡などがある。青木遺跡、金生遺跡、石堂遺跡などの拠点的な遺跡は、尾根状台地に挟まれた浅い谷に面した地形上に加曽利B式期に形成された石棺墓から発達を遂げた大規模な配石遺構が構築され、祭祀域・居住域・墓域を展開して

いる。また、金生遺跡には別当西遺跡(41)、大泉村豆生田第3遺跡・姥神遺跡のような後期段階で存続期間を終える周辺集落が存在しており、八ヶ岳南麓の後晩期社会の動態を追求する一つの材料とされよう。さらに、これらの拠点的な集落の分布は、中期後半と比べるとはるかに広い範囲に少数の拠点的な集落が点在する傾向にあり、このような拠点的な集落と周辺小集落の分布から予想される社会関係については後期から晩期に至る変化から集団領域のより大きな「広域圏」が形成されていく過程を示すものであることが指摘されている。遺跡の立地では、後期前半においては酒呑場遺跡(102)と長坂上条遺跡(171)のように台地の上下関係で位置し、後期前半(酒呑場遺跡)の台地上から後期後半(長坂上条遺跡)の台地下の低位面への移動が確認され、同様の傾向が社口遺跡や韮崎市藤井平地域の北後田遺跡、後田遺跡、宮ノ前遺跡など、塩川の低位河岸段丘面上の氾濫原への集落展開に見られる一方、須玉町上ノ原遺跡のように茅ヶ岳西麓の標高の高い場所に拠点的な集落が選地されることもある。晩期の遺跡は、集落が一段と減少するとともに後期前半から晩期にかけて継続する配石をもつ金生遺跡や石堂遺跡がある。晩期後半になると金生遺跡のような大集落でも規模の縮小があり、同時に分散化した小集落が多くなると言われている。また、晩期後半から末には韮崎市藤井平一帯の低位段丘面の集落の進出が目立ち、三宮地遺跡で配石墓及び甕棺墓が、宮ノ前遺跡では甕棺墓及び晩期最終末段階の土器集中区が検出されている。八ヶ岳南麓の台地上では再び中期的な立地も認められる。

古墳時代　古墳時代の遺跡の分布は、甲府盆地に集中する傾向にあるが、近年、八ヶ岳南麓や茅ヶ岳西麓などにおいても遺跡が増加してきている。前期では七里岩台地上に坂井南遺跡・伊藤窪第2遺跡、塩川右岸の氾濫原上の藤井平に後田遺跡、釜無川右岸の河岸段丘上に久保屋敷遺跡、八ヶ岳南麓の台地上に柳坪A遺跡(62)・頭無遺跡(120)・北村遺跡(138)・酒呑場遺跡(102)・龍角西遺跡(169)、茅ヶ岳西麓の塩川左岸の段丘面上に神取遺跡・大日川原遺跡など、中期では塩川右岸の氾濫原の藤井平一帯や八ヶ岳南麓の台地上の本遺跡や龍角遺跡(170)など、後期では茅ヶ岳西麓の塩川右岸の段丘面端に腰巻遺跡などが確認されている。なかでも北村遺跡や大日川原遺跡の古墳時代初頭の方形周溝墓の発見は、八ヶ岳南麓や茅ヶ岳西麓おける古墳時代遺跡の展開が示唆され、改めて本地域の歴史過程を整理する必要が求められている。

平安時代　平安時代になると集落遺跡数が増大し、その大きな要因の一つとして八ヶ岳南麓や茅ヶ岳西麓への集落展開が挙げられる。これらの地域は古代甲斐国「巨麻郡」北部に該当し、「和名類聚抄」にみえる郷名では、逸見郷、余戸郷、栗原郷が比定され、主な遺跡として八ヶ岳南麓では、本遺跡周辺の柳坪A・B遺跡(62・63)・石原田北遺跡(69)・龍角西遺跡(169)・紺屋遺跡(195)のほか、大泉村寺所遺跡・豆生田第3遺跡、高根町湯沢遺跡・東久保遺跡、須玉町大小久保遺跡・大豆生田遺跡、小淵沢町前田遺跡、武川村宮間田遺跡、白州町坂下遺跡など、茅ヶ岳西麓では、韮崎市宮ノ前遺跡・宮ノ前第2遺跡、明野村腰巻遺跡・深山田遺跡・上ノ原遺跡などがある。これらの遺跡の多くは9世紀中頃に形成され、10世紀中頃には廃絶し、集落構成では、竪穴住居、掘立柱建物、小鍛冶施設などの遺構群がコンパクトにまとまり、遺構間の重複も少ない。こうした継続性の傾向は、東日本の各地で認められる計画的な山麓開発の結果或いは御牧経営(『延喜式』によれば甲斐国内には三牧が置かれ、「穂坂牧」が韮崎市穂坂周辺、「真衣野牧」が武川村牧原周辺、「柏前牧」高根町樫山と、すべてが巨麻郡北部に比定されている)との関連した動向と理解されている。本地域の特徴の一つとして集落遺跡における仏教関連遺物・遺構の増加も挙げられよう。瓦塔、鉄鉢形須恵器、集落内寺院跡、「仏堂」的な建物などが塩川右岸の藤井平の宮ノ前遺跡、宮ノ前第2遺跡、半縄田遺跡から発見され、また本遺跡出土の「寺」の墨書土器(宮ノ前遺跡、前田遺跡同様)をはじめ仏教に関わる字句を記した墨書・刻書土器が宮ノ前遺跡、宮ノ前第2遺跡、宮間田遺跡、前田遺跡、柳坪遺跡、豆生田第3遺跡、坂下遺跡、屋敷添遺跡から出土しており、仏教が広く本地域に浸透していたことを示唆する資料として注目される。

第Ⅱ章　検出された遺構

第1節　概要

今回の発掘調査で検出された遺構・遺物は、概ね縄文時代、古墳時代、平安時代の3時代に区分することができる。各時代の主要遺構は、表Ⅱ－1の通りである。

遺構		時代													総計
		縄文											古墳	平安	
		早期(Ⅰ群)	中期(Ⅱ群)						後期(Ⅲ群)			不明	中期(Ⅳ群)	前期(Ⅴ群)	
			中葉			後葉			初頭	前葉	中葉				
		押型文(A類)	新道(A類)	藤内(B類)	井戸尻(C類)	曽利(D類)Ⅳ	曽利(D類)Ⅴ	加曽利E4	称名寺(A類)	堀之内(B類)	加曽利B(C類)				
遺構数	遺物集中区	1													1
	竪穴状遺構	1													1
	住居跡			1(建て替え)			1					1	1	2	6
	土坑	17	2	19	4	9	4	5	8	1	3	234			306
	溝状遺構													3	3

Ⅱ－1　検出遺構一覧

第2節　縄文時代の遺構

第1項　遺物集中区

第1号遺物集中区(PL－1　別表Ⅰ)

【位置・重複】第1地点D・E・F-7・8グリッドに位置し、ほぼ同時期の第1号竪穴状遺構及び土坑群(第35・50～52・56～63・69～71号)と重複する。周辺に土坑群(第30～34・36～39・54・72～76号)が近在する。

【形状・規模】長楕円形状を呈し、長軸約10m、短軸約5mの範囲に集中して出土する。

【埋没状況】埋没谷の窪地に第1地点基本層序の6～8層が凹レンズ状を呈する自然堆積の状況を示している。

【遺物出土状況】基本層序6～8層の各層から出土し、中でも8層からの出土がやや多い。第Ⅰ群土器(縄文時代早期)A類の深鉢形土器の小破片が出土している。

【時期】縄文時代早期。

第2項　竪穴状遺構

第1号竪穴状遺構(PL－1・2　別表Ⅰ)

【位置・重複】第1地点E・F－7グリッドに位置し、埋没谷を切り、第1号遺物集中区と第35号土坑に重複し、両遺構を切る。周辺に土坑群(第31～37・39・50～52・56～63・66・69～72号)が近在する。

【形状・規模】不整円形を呈し、長軸3.08m、短軸2.28mを測る。

【埋没状況】覆土は9層に分層され、凹レンズ状を呈する自然堆積の状況を示し、各層に炭化物粒が少量混じる。

【内部構造】壁は緩やかに立ち上がり、断面は内湾を呈する。壁高は最深部0.66mを測る。底面は擂鉢状を呈し、埋没谷上のため、やや軟弱であり、大小のピット13基が不規則にみられる。

【遺物出土状況】底面から20～30cmのレベルに第Ⅰ群土器(縄文時代早期)A類の深鉢形土器の小破片及び石鏃未製品(No. 1)、石皿(No. 149)が各1点出土している。

【時期】縄文時代早期。

第3項　住居跡

第2号住居跡(PL－2　別表Ⅰ)

【位置・重複】第1地点H－4・5グリッドに位置し、他の遺構との重複関係はなく、単独で存在する。東側4.5mに第2号溝状遺構が存在する。

【形状・規模】削平を受け、掘り込みは全く残っていなかったが、ピットの配列からほぼ円形を呈すると思われる。推定長軸3.5m、推定短軸3.2m、推定床面積11.2m²、長軸方位N－51°－Eを測る。

【埋没状況】覆土は削平のため、遺存していない。
【内部構造】壁は削平のため、遺存していない。主柱穴は9本確認でき、P1：径23cm × 21cm、深さ5cm、P2：径45cm × 45cm、深さ26cm、P3：径28cm × 24cm、深さ6cm、P4：径40cm × 34cm、深さ18cm、P5：径35cm × 18cm、深さ14cm、P6：径41cm × 34cm、深さ10cm、P7：径48cm × 31cm、深さ11cm、P8：径37cm × 35cm、深さ11cm、P9：径20cm × 20cm、深さ17cmを測る。周溝は断続的ではあるが柱穴を巡るように認められる。
【炉・その他の施設】特になし。
【遺物出土状況】遺物の出土は確認されていない。
【時期】縄文時代。
第5号住居跡(PL－3～7　別表Ⅰ)
【位置・重複】第3地点X－15～17、Y－15～17グリッドに位置し、第6号住居跡・第305号土坑と重複し、両遺構に切られる。周辺に242・243・237・238・304号土坑が近在する。本住居跡は建て替え(拡張)有り。
【形状・規模】中央から東側及び南北に大規模な攪乱を受けているため、明確な形状・規模は不明であるが、楕円形を呈すると思われる。推定長軸8.26m、推定短軸6.8m、推定床面積56.2m²、長軸方位N－25°－Wを測る。
【埋没状況】覆土は10層に分層され、凹レンズ状を呈する自然堆積の状況を示している。各層には多量の遺物が含まれる。
【内部構造】壁は垂直に立ち上がり、断面は直状を呈する。壁高は16cm～73cmを測る。床面の遺存部は平坦で堅緻である。柱穴の重複関係及び周溝等から、最低2段階(新・古)の建て替え(拡張)が想定される。周溝は新・古段階それぞれ1周づつ断続的ではあるが存在し、幅が10～30cm、深さ11～26cmを測る。ピットは12基存在し、ピット1～9が主柱穴と思われる。P1：径80cm × 66cm、深さ89cm、P2：径101cm × 44cm、深さ92cm、P3：径120cm × 73cm、深さ89cm、P4：径80cm × 68cm、深さ83cm、P5：径66cm × 54cm、深さ78cm、P6：径81cm × 35cm、深さ30cm、P7：径86cm × 60cm、深さ118cm、P8：径104cm × 66cm、深さ87cm、P9：径81cm × 57cm、深さ68cm、P10：径25cm × 22cm、深さ24cm、P11：径28cm × 22cm、深さ32cm、P12：径30cm × 27cm、深さ37cmを測る。
【炉】中央北寄りに長軸80cm、短軸68cm、深さ17cmの不整円形を呈する石囲炉が認められる。礫は抜き取られ、散在し、抜き取り痕が4箇所確認された。中央に焼土層が径30cm × 28cm、厚さ3.2cmで確認され、炭化材(クリ)や種実遺体(オニクルミ)などが出土している。炉と思われる施設はこれ以外には認められず、新・古段階ともにこの炉が使用されたと思われる。
【その他の施設】出入口は南側ピット4・5の間と思われる。
【遺物出土状況】かなり攪乱を受けていたが、床面までには至らず、土器・石器ともに膨大な量が出土した。特に第7層以下からの出土が多く、何らかの意図を持って多量の土器等を廃棄したものと思われる。土器では、第Ⅱ群土器A類～H類及び第Ⅲ群土器A類・C類が見られ、深鉢形土器を主体として、浅鉢形土器、有孔鍔付土器、小型土器、ミニチュア土器(1～110、163～172)などが出土している。石器では、黒曜石製の小型石器をはじめ、打製の大型石器がまとまって見られ、特に石器製作関連資料の出土が注目される。土製品では、土偶頭部が顔面を下にした状態で出土し、他に土偶右脚部2点、土製円盤2点、土製匙1点、耳飾り1点が出土している。
【時期】縄文時代中期前葉(藤内式期から井戸尻式期)。
第6号住居跡(PL－3・6・7　別表Ⅰ)
【位置・重複】第3地点X－15・16、Y－15グリッドに位置し、第5号住居跡・第229・300号土坑と重複し第5号住居跡・第300号土坑を切る。第229号土坑との新旧関係は同時期のため不明。周辺に第292・301～303号土坑が近在する。
【形状・規模】第5号住居跡と同様攪乱を受けているため、明確な形状・規模は不明であるが、楕円形を呈すると思われる。推定長軸6.8m、推定短軸4.96m、推定床面積33.7m²、長軸方位N－9°－Wを測る。
【埋没状況】覆土は4層(1・3・5・8層)に分層され、凹レンズ状を呈する自然堆積の状況を示している。

【内部構造】壁は緩やかに立ち上がり、断面は外反する。壁高は20cm～30cmを測る。床面の遺存部は平坦で堅緻である。周溝は検出されていない。

【炉】中心部から北寄りに径71cm×67cm、深さ24cmの不整円形を呈する石囲炉が認められるが、覆土は不明で、扁平な礫が2個(39cm×33cm×5cm、50cm×20cm×9cm)散在していた。 炉内からの出土遺物はない。

【その他の施設】中心部より南西の位置に立石を伴った径21cm×19cmの円形を呈するピットが存在し、立石は北側から南側斜に6cm程、埋没陥入した状態で出土した。

【遺物出土状況】遺物全体の出土量は多くはないが、立石付近からまとまった状態で第Ⅱ群土器E類(曽利Ⅴ式期)が床面上13～14cm程のレベルから出土している。石器も床面上6～16cm程のレベルから磨石類(No. 128～132)が出土している。立石(No. 164)は、特殊なものと思われる。

【時期】縄文時代中期後半(曽利Ⅴ式期)。

第4項　土坑

概要(PL－8～13　別表Ⅰ)

今回の調査の結果、土坑として認識できるものが306基発見された。土坑として命名したものの中には、所謂性格不明の穴のほか、墓や貯蔵用の穴と考えられるものがある。この他、本来分類上分割して認識すべきなのであろうが、調査の便宜上、陥し穴や風倒木跡といったものもここに一括したことを記しておく。

ここでは紙面の都合上、各土坑ごとの詳細な情報については記述できないため、個別の時期及び規模、出土遺物などに関しては、別表Ⅰ遺構一覧表に示したので参考にしていただきたい。

時期別分類　時期別に見たときの内訳では306基中約76%にあたる234基は縄文時代と考えられるが詳細な時期は不明で、残りの72基については縄文時代早期(押型文系土器)17基(第35・50～52・54・56～63・69～71・141号)、中期前葉新道式期2基(第88・93号)、中期中葉藤内式期19基(第98・116・128・135・157・197・217・229・241・249・281・282・284～286・289・293・294・304号)、井戸尻式期4基(第105・127・149・172号)、中期後葉曽利式期13基(Ⅳ期：第97・115・120・138・159・166・180・236・245号、Ⅴ期：第233・235・237・299号)、縄文中期後葉加曽利EⅣ式期5基(第87・134・187・243・305号)、後期初頭称名寺式期8基(101・164・167・204・206・210・273・292号)、後期前葉堀之内式期1基(第156号)、後期中葉加曽利B式期3基(第186・188・209号)である。

【性格別分類】形態的特徴及び出土遺物などにより性格が考察できるものは、以下のとおりである。

①坑底部に小ピットが認められるもの　ピット数にバラエティーがあり、1箇所(第1・28・17・40・41・44・50～52・65・72・82・92・98・105・136・138・157・159・171・176・180・182・196・202・203・205～208・212・213・230・232・235・244・248・260・266・269・274～276・284・287・297号)、2箇所(第20・155・178・204・233・236・249・288号)、3箇所(第282号)、5箇所以上(第77・229・241・245・247・286・289・293・294・299号)がある。これらの性格は、一様ではなく、さらに諸属性の検討を行う必要があるが、第28・247・286・287号は構造上から陥し穴と考えられる。また、5箇所以上の第286・289・293・294号は中期中葉藤内式期で、第3地点X・W－24グリッドに集中する傾向がある。

②袋状もしくはフラスコ状を呈するもの　第141・142・236号があり、貯蔵に用いられたと考えられる。

③礫を伴うもの　1)礫1点のみ認められるもの(第102・125・131号)、2)礫1点と共伴遺物が認められるもの(第55・110・116・167・168・204・207・292・304号)、3)礫2点以上と共伴遺物が認められるもの(第67・68・157・159・164・171・206・241・243・245・249・284・290・305号)などがある。これらは形態的特徴及び礫や伴出遺物の状況から配石を持つ墓壙としての性格が強いと考えられる。主な土坑の検出状況は以下のようである。

第67・68号土坑は覆土上層から25cm大の礫2点、10cm大の礫3点と共に磨石類1点(No. 133)、石皿1点(No. 154)、台石1点(No. 159)が出土している。第167・168号土坑は覆土上層から10cm大の礫1点と共に縄文時代後期初頭称名寺式期の土器片(PL－31－23など)、打製石斧片2点(No. 77・78)、黒曜石剥片4点が出土し、79m程離れ

た第243号土坑の遺物と接合関係がある。第230号土坑は縄文中期中葉井戸尻式期の土器小破片と磨製石斧1点(No. 117)：5住X－16下層接合、礫剥片1点が出土している。第241号土坑は覆土下層から10cm大の礫2点、20cm大の礫1点と共に縄文中期中葉藤内式期土器群(底部を打ち欠いた浅鉢形土器(PL－30－3)など)、礫器1点、礫剥片2点、チャート剥片1点が出土し、浅鉢形土器は、13m程離れた第284土坑と接合関係がある。第243号土坑は覆土下層から25cm大の礫1点、覆土中層以上から6cm大の礫2点、10cm大の礫1点と共に縄文中期後葉加曽利E4式期土器片(PL－31－47～49など)、礫剥片1点、黒曜石剥片3点が出土している。坑底部より約50cm上に焼土が2カ所確認されている。第245号土坑は覆土下層から縄文中期後葉曽利Ⅳ式土器片(PL－30－5～7など)が出土し、その上部より10cm大の礫3点、礫剥片2点、台石1点、黒曜石剥片2点が出土している。第249号土坑は覆土中層から上層に礫剥片3点と共に縄文中期中葉藤内式期土器片(PL－31－53、PL－32－54～63など)、石匙1点(No. 26)が出土している。第284号土坑は覆土下層から5～7cm大の礫2点、10cm大の礫3点と共に縄文中期中葉藤内式期土器群(PL－30－8、PL－32－67～70など)、打製石斧1点(No. 81)、礫器3点(No. 103～105)、黒曜石剥片2点が出土している。このほか、礫を伴わないが墓壙の可能性があるものとして第229・233号土坑がある。第229号土坑は覆土上層から底部が破壊された縄文中期中葉藤内式期の深鉢形土器(PL－30－2)が横位で出土し、黒曜石剥片2点が伴出している。第233号土坑は覆土全体に焼土が多く検出され、縄文中期後葉曽利Ⅴ式期土器片(PL－31－33・34など)や黒曜石剥片2点が出土している。

④祭祀的要素が強く認められるもの　第299号土坑は坑底部に小ピット22箇所が検出され、覆土中層より縄文中期後葉曽利Ⅴ式期土器片(PL－32－79など)と共に石棒1点(No. 165)、黒曜石片2点が出土している。同時期の第6号住居跡と重複しており、こちらに伴う可能性もある。

⑤焼土跡が認められるもの　第38・49号土坑は覆土全体に多くの焼土があり、野外炉的なものの可能性がある。

第3節　古墳時代の遺構

第1項　住居跡

第3号住居跡(PL－14・15　別表Ⅰ)

【位置・重複】第1地点J－7・8、K－8グリッドに位置し、第169・170・173・174・202号土坑と重複し、各土坑を切る。周辺に土坑群(第167・168・171・172・175～177・203～205号等)が近在する。

【形状・規模】北側はトレンチ3に切られて不明だが、ほぼ正方形を呈する。長軸4.25m、短軸4.09m、推定床面積17.4m^2、長軸方位N－30°－Eを測る。

【埋没状況】覆土は12層に分層される。床面には、住居中央部を中心に焼土面が形成され、また床面直上からは、柱材、垂木材、桟などと思われる炭化材が多量に検出されており、焼失住居と思われる。また、第1次堆積層(12層)が流れ込んだ後に火災が起きていることが確認される。焼土層(7層)より上位は、黒色系の土による凹レンズ状を呈する自然堆積の状況を示している。

【内部構造】壁は垂直に立ち上がり、断面は箱形を呈する。壁高は最深部50cmを測る。床面は埋没谷上のため、平坦ではあるが軟弱である。ピットは8基存在し、ピット2・4・5は主柱穴と思われる。周溝は北壁側及び南東コーナー部は不明だが、全周すると思われる。南壁際中央やや西よりに「ほぞ穴」の残っている炭化材が2本出土しており、これらの炭化材を取り除くと床面を少し掘り込んでいた(長軸112cm、短軸30cm、深さ10cm及び長軸70cm、短軸32cm、深さ4cm)ので住居内施設を構成していた材と考えられる。南西コーナー部には、長軸76cm、短軸34cm、深さ19cmのピットが検出され、多量の焼土(焼土下に炭化材片と竹がまとまって出土)が確認されている。

【炉】中央部から西壁よりほぼ中央に径32cm、厚さ2～3cmの円形の範囲に焼土層が形成されているが、この下部は熱を受けている様子がないので炉かどうか不明である。

【その他の施設】ピット1(焼土混じりで炭化材が多量に出土)は貯蔵穴と思われる。

【遺物出土状況】遺物全体の出土量は少なく、床面より20～30cm前後のレベルを中心に第Ⅳ群土器の壺、小型壺、高坏及び石器1点が出土している状況である。これらの状況から焼失後に投げ込んだと思われ、家を廃棄する際に

意図的に燃やした可能性が考えられる。炭化材は床面上から若干(2～3cm)浮いた状態で多量に出土している。中には壁に入り込んだ状態のものも見られる。また、壁面を支えたと思われる竹や細い葦のような植物による編み物などが見られる。樹種同定分析ではクヌギ節が多い結果となり、住居構築材の多くの部材に利用されたものと思われる(第Ⅴ章第3節参照)。

【時期】古墳時代中期。

第4節　平安時代の遺構

第1項　住居跡

第1号住居跡(PL－15・16　別表Ⅰ)

【位置・重複】第1地点D・E－3グリッドに位置し、他の遺構との重複関係はなく、単独で存在する。南東40.5mに同時期の第4号住居跡が存在する。

【形状・規模】ほぼ長方形を呈する。長軸4.95m、短軸3.90m、床面積19.3m²、長軸方位N－3°－Eを測る。

【埋没状況】覆土は21層に分層され、凹レンズ状を呈する自然堆積の状況を示している。

【内部構造】壁は垂直に立ち上がり、断面は箱形を呈する。壁高は最深部33cmを測る。床面は暗黄ロームブロックを全体的に貼床しており、平坦である。竪穴壁下に径約8cmの小ピット7基を伴う周溝が全周する。全周囲の壁に水平又は斜めに陥入する小ピットが28基存在する。何らかの意図を持つものと思われる。

【竈】東壁中央から南よりに位置する。規模は長軸80cm、短軸90cmを測る。天井部は破壊されているが、両袖部は扁平な礫を立て並べてた状況で遺存している。天井石は外され、左右逆に又、裏返しされ手前側に落とされ、支脚も外されていた。煙道部は削平のため確認できない。覆土は白色粘土混入層(2層)が竈焚口部に流れ出し、また、焼土粒子が混入した層はあるが、純粋な焼土層は見られない。竈内の出土遺物は中間層及び下層に近いところから敷き詰めた様な状態で甕形土器片が出土している。左袖側に灰釉陶器(転用硯)2点が埋め込まれ、右袖側にもう1点出土する。竈内からは、モミ属の炭化材が出土している(第Ⅴ章第3節参照)。

【その他の施設】径約17～48cm、深さ約8～46cmを測る。ピット間は、45～100cmの間隔を持ち、竪穴壁面外側から約30cm～90cmを測る位置で検出されている。P1：径27cm×〔24cm〕、深さ38cm、P2：径36cm×28cm、深さ46cm、P3：径26cm×25cm、深さ12cm、P4：径28cm×24cm、深さ19cm、P5：径27cm×27cm、深さ20cm、P6：径31cm×24cm、深さ17cm、P7：径28cm×25cm、深さ37cm、P8：径21cm×17cm、深さ12cm、P9：径17cm×16cm、深さ14cm、P10：径20cm×16cm、深さ14cm、P11：径17cm×14cm、深さ10cm、P12：径25cm×23cm、深さ23cm、P13：22径cm×20cm、深さ15cm、P14：径24cm×24cm、深さ14cm、P15：径20cm×17cm、深さ19cm、P16：径18cm×〔16cm〕、深さ14cm、P17：径26cm×23cm、深さ41cm、P18：径48cm×41cm、深さ43cm、P19：径25cm×22cm、深さ41cm、P20：径30cm×25cm、深さ45cm、P21：径30cm×22cm、深さ27cm、P22：径30cm×24cm、深さ8cmを測る。

【遺物出土状況】遺物全体の出土量は多くはないが、竈を中心にまとまって出土している。また、西壁周溝の上から「良」・「寺」の墨書がある坏(信州系黒色土器)の完形品が2点重なった状態で出土している(上位に「寺」の墨書土器がある)。北壁及び西壁際には、葦状の炭化物が出土しており、樹種同定分析ではタケ亜科の結果が得られ、壁材ではないかと思われる(第Ⅴ章第3節参照)。ピット22からは炭化物が多量に出土している。

【時期】平安時代(9世紀後半)。

第4号住居跡(PL－16・17　別表Ⅰ)

【位置・重複】第1地点K－7・8、L－7・8グリッドに位置し、他の遺構との重複関係はなく、単独で存在する。北西40.5mに同時期の第1号住居跡が存在する。

【形状・規模】ほぼ長方形の平面形を呈する。長軸5.44m、短軸4.10m、床面積22.3m²、長軸方位N－101°－Eを測る。

【埋没状況】覆土は21層に分層され、凹レンズ状を呈する自然堆積の状況を示している。

【内部構造】壁は垂直に立ち上がり、断面は箱形を呈する。壁高は最深部52cmを測る。床面は貼床が検出され、全体的に平坦であり、中央部にある炉の周辺(ピット1～4の内側)に硬化面が認められるが、他は埋没谷上のためやや軟弱である。周溝は北壁中央及び南壁南西コーナー寄りの一部を除き確認される。竈北側の東壁は壁より内側に周溝が巡り、拡張していると思われる。ピットは8基存在し、ピット1～4は主柱穴と思われる。

【炉(竈)】本住居跡では竈及び炉が確認されている。竈は東壁中央から南よりに位置する。規模は長軸120cm、短軸84cmを測る。全体的な構造は全く不明であり、支脚(PL－50－1)も外されていた。煙道部は確認できた。覆土は11層に分層され、焚口部から煙道部に向けて全体に厚さ約10cm程度の焼土層(11層)が確認されている。炉は中央部に確認され、規模は長径67cm、短径52cm、深さ1cmを測る。

【その他の施設】ピット5は貯蔵穴、ピット6～8は梯子受け穴と思われる。

【遺物出土状況】遺物全体の出土量は多くはないが、竈覆土の焼土層(11層)上面に甕形土器片等及び炭化材が出土している。炭化材の樹種同定分析では、クヌギ節の結果が得られた(第Ⅴ章第3節参照)。また、ピット5の北側に礫の集中出土が確認されている。

【時期】平安時代(9世紀後半)。

第2項　溝状遺構

第1号溝状遺構(PL－17　別表Ⅰ)

第1地点P・Q－9グリッドに位置する。埋没谷上の傾斜変換点に立地し、北北東－南南西方向に走り、やや湾曲している。北側は第1号土坑に切られている。現存長8.08m、最大幅1.44m、最深部0.48mを測る。覆土は7層に分層され、1～5層に炭化物が微量検出する。遺物は須恵器坏・甕などが少量出土し、9世紀後半に位置づけられる。

第2号溝状遺構(図Ⅰ－6　別表Ⅰ)

第1地点G－6、H・I－6・7グリッドに位置する。埋没谷上の傾斜変換点に立地し、北北西－南南東方向に弧状に走る。長さ11.92m、最大幅2.48m、最深部0.52mを測る。覆土は8層に分層される。図示し得る遺物はない。遺構の時期は、平安時代と思われる。

第3号溝状遺構(図Ⅰ－6　別表Ⅰ)

第1地点B－6・7、C－6・7グリッドに位置する。埋没谷上の傾斜変換点に立地し、北北西－南南東方向に走り、やや湾曲している。長さ6.40m、最大幅1.32m、最深部0.6mを測る。覆土は8層に分層される。図示し得る遺物はない。遺構の時期は、平安時代と思われる。

第Ⅲ章　出土遺物

第1節　出土土器とその分類

ここでは土器の分類の大要を示しておく。本報告では、土器を群、類、種に分類し、それぞれローマ数字、アルファベットの大文字、算用数字を用いて表記した。群は各時代の時期区分にしたがったものである。類は既存の土器型式に対応し、種は類別された土器群をさらに器形や文様の特徴によって細かく分類したものである(縄文時代に関わる類、種の分類は、『山梨県史　資料編2』の編年に基づいている)。

以下にその概要を列記する。

第Ⅰ群土器　縄文時代早期に比定されるものを本群とする。

A類：押型文が施されるもの〔1種：山形文　2種：楕円文　3種：山形文＋楕円文〕。

B類：撚糸文が施されるもの。

第Ⅱ群土器　縄文時代中期に比定されるものを本群とする。

A類：狢沢式期3段階〔角押文〕

B類：新道式期(1・2段階)〔キャタピラ文＋(三角押文1種：連続　2種：押圧　3種：なし)〕

C類：藤内式期(2～4段階)～D類：井戸尻式期(1・3段階)

1種：重三角区画文土器　2種：楕円区画文土器　3種：パネル文土器　4種：抽象文土器

5種：小波状文土器　6種：縄文地文土器　7種：バケツ形土器　8種：塔状把手

9種：大形眼鏡状把手　10種：曽利式並行

E類：曽利式期(Ⅰ・Ⅲ～Ⅴ式)

F類：加曽利E4式期

G類：平出ⅢA系式期

H類：新保・新崎式期

第Ⅲ群土器　縄文時代後期に比定されるものを本群とする。

A類：称名寺式期〔Ⅰ・Ⅱ式〕　B類：堀之内式期〔1式〕　C類：加曽利B式期〔1・2式〕

第Ⅳ群土器　古墳時代中期に比定されるものを本群とする。

第Ⅴ群土器　平安時代前期に比定されるものを本群とする。

第2節　縄文時代の遺物

第1項　土器

(1)第Ⅰ群土器(縄文時代早期)

A類(PL－18　別表Ⅱ)

第1号遺物集中区(3～5・8・11・12・14・15・17～19・21～23・25～28・34～45・50～54・56～65・67・68)、第1号竪穴状遺構(1・2・13・16・24)、第54・56・59・62・141号土坑(7・10・29～31)から出土している。

本類の器形は、すべて破片資料のため明確ではないが、口縁は平縁でやや外反し、胴部が少し張り、底部は尖底を呈す深鉢形土器と思われる。文様には、1種(山形文)、2種(楕円文)、3種(山形文・楕円文)が見られる。

1種(山形文)が施文されるもの

口縁部(1～7)は、横位山形文帯(原体幅2cm前後)があり、口唇端部にも施文される。頸部は、横位山形文(原体

幅2cm前後)の帯状施文(8～16)と横位山形文帯密接構成(17～19)と思われるものが見られる。胴部(20～55)は、縦位山形文(原体幅不明)の帯状施文(20～22)、横位山形文の帯状施文の無文部に竹管状工具と思われる刺突文(23)、横位山形文帯と縦位山形文帯(原体幅2cm前後)の密接構成(24～28)、縦位山形文帯密接構成(原体幅2cm前後)(29～40)などが見られる。

2種(楕円文)が施されるもの

口縁部から頸部の文様は不明であり、胴部は横位楕円文帯密接構成(56～61)と不規則に感じられる縦位楕円文密接構成(62～66)が見られる。

3種(山形文・楕円文)が施されるもの

頸部～胴部の破片があり、横位山形文帯の下部に横位楕円文帯を施文する異種並存例(67・68)が見られる。

以上、本類の資料は原体幅が2cm前後の山形文により、口縁は横位、その下部は縦位という異方向に帯状施文する樋沢式段階のものと帯状施文の伝統を残しながら、密接施文の多い点や不規則な走行をもつ例や異種並存例など細久保式段階に比定されると考えられる。

B類(PL－18　別表Ⅱ)

他時期の遺構覆土や遺構外から3点(69～71)出土しているが、すべて小破片のため器形は不明で、僅かに表面に撚糸文が遺存する程度である。

(2)第Ⅱ群土器(縄文時代中期)

本群の土器は、第5号住居跡、第6号住居跡及び43基の土坑(第87・88・93・97・98・105・115・116・120・127・128・134・135・138・149・157・159・166・172・180・187・197・217・229・233・235～237・241・243・245・249・281・282・284～286・289・293・294・299・304・305号)から出土している。

第5号住居跡(PL－19～29　別表Ⅱ)

A類(狢沢式期)：112は、口縁部に2列の角押文が縦にコの字状に施文される。

B類(新道式期)：113は、楕円区画文に2種、114は三角区画文に1種が施文される。

C類(藤内式期)～D類(井戸尻式期)：本類は、深鉢形土器を主体として、浅鉢形土器、有孔鍔付土器、小型土器、ミニチュア土器(1～110、163～172)など、多量に出土しており、本住居の廃絶及び一括廃棄の時期を示している。多くが小破片のため時期決定には不確定な部分もあるが、該期土器群の様相は、古相としてC類3～4段階の3種(パネル文)及び4種(抽象文)、新相としてD類1段階の1種(重三角区画文)及び6種(縄文地文)が、それぞれ主体的に出土する状況である(表Ⅲ－1)。

類	段階	種(器形・文様)									
		1重三角区画文	2楕円区画文	3パネル文	4抽象文	5小波状文	6縄文地文	7バケツ形	8塔状把手	9大形眼鏡状把手	10曽利
C類	3	15.31.44.45	2.47～49	8.11.25～28. 32.50～67. 71～78	10.12.13. 82～85	14.86					
	4	1.79～81		9.29.68～70			20				
D類	1	3.33～37.40. 89～93.103	106.163.165	4.16.94～100			5～7.18.19. 21.41.108. 109.168	42,105	38	39	
	3										104,107

Ⅲ－1　第5号住居跡出土土器種別分類〔藤内式期～井戸尻式期〕(No.：遺物番号)

個々の土器については、別表Ⅱ遺物一覧表を参照されたい。なお、塗彩土器として17の有孔鍔付土器があり、外面に赤色塗彩の後、黒色塗彩が施されている。また、166は、鉢形の小型土器であるが、内面底部に煤の付着が認められる。

E類(曽利式期)：116～118はⅠ式、119はⅢ式、120～124はⅣ式、125～132はⅤ式である。

F類(加曽利E4式期)：133～143は、小破片のため不明確であるが、微隆起線による対向U字文、玉抱モチーフ、J字状モチーフなどの文様構成になると思われる。

G類(平出ⅢA式期)：111は、深鉢形土器の口縁部小破片で、D類に並行すると思われる。

H類(新保・新崎式期)：115は、円筒器形の深鉢形土器の口縁部に蓮華状文が施文されており、C類に並行すると思われる。

第6号住居跡(PL－30　別表Ⅱ)

E類(曽利式期)：1～4はⅣ式であり、4以外は同一個体と思われる。

土坑(PL－30～33　別表Ⅱ)

B類(新道式期)：10(88土)は、楕円区画文に3種、11(93土)は、楕円区画文に1種が施文されている。

C類(藤内式期)：13(116土)、15(128土)、17(135土)・19(157土)、26(197土)、2・30～32(229土)・3・39～46(241土)、53・55～60(249土)、65(281土)、66(282土)、8・67～70(284土)、71(285土)、72(286土)、9・73(289土)、78(293土)が、本類に位置づけられる。この他、第98・217・294・304号土坑から出土している。本類において時期が明確なものは3～4段階に比定される。3段階には、2(229土)：3種(パネル文)、3(241土)：浅鉢(284土との接合関係がある)、8(284土)：6種(縄文地文)、67(284土)：1種(重三角区画文)、68・69(284土)：2種(楕円区画文)、70：5種(小波状文)、4段階には、53・55～60(249土)：2種(楕円区画文)、73：6種(縄文地文)などが見られる。なお、13、15、17、26、65、71、72、78及び第98・217・294・304号土坑出土土器は小破片のため詳細な時期は不明である。

D類(井戸尻式期)：14(127土)は、1段階3種(パネル文)の小破片と思われる。この他、第105・149・172号土坑から出土しているが、小破片のため詳細な時期は不明である。

E類(曽利式期)：5・6(245土)、20(159土)、22(166土)、37(236土)はⅣ式で、5・6は加曽利E式の影響を受けている資料である。この他に第97・115・120・138・180土坑からも小破片が出土している。34(233土)、36(235土)、38(237土)、79(299土)は、Ⅴ式である。

F類(加曽利E4式期)：16(134土)、25(187土)、4・47～49(243土)、81～96(305土)が見られる。第305土坑の資料は微隆起線によって対向U字文になるものなどまとまって出土している。第87号土坑からも小破片が出土している。

(3)第Ⅲ群土器(縄文時代後期)

本群の土器は、第5号住居跡及び12基の土坑(第101・156・164・167・186・188・204・206・209・210・273・292号)から出土している。

第5号住居跡(PL－28・29　別表Ⅱ－1)

A類(称名寺式期)：145～152はⅠ式、144・153～157はⅡ式と思われる。

C類(加曽利B式期)：158は、口縁部の小破片で、口唇端部の内面に沈線が巡り、2式と思われる。

土坑(PL－30～33　別表Ⅱ)

A類(称名寺式期)：12(101土)、21(164土)・23(167土)、27(206土)、28・29(210土)、64(273土)、76(292土)があり、いずれもⅠ式に比定される。第204号からも小破片が出土している。

B式(堀之内式期)：18(156土)は、1式と思われる。

C類(加曽利B式期)：1(186・209土接合資料)は、浅鉢形を呈し、横走する並行沈線内に縄文が施文され、縄文帯を表出し、区切り文が施され、1式に比定されよう。この他、第188号土坑からは精製深鉢の口縁部小破片が出土し、口唇端部が内傾し、内面に沈線が見られる。

第２項　土製品(PL － 34　別表Ⅱ)

今回の調査では土偶、土製円盤、匙形土製品、耳飾などが発見され、すべて５号住居跡からの出土である。

土偶は、3点出土している。1は頭部で、三角形状を呈し、中空で作られている。顔面は鼻が隆帯で表現され、髪部に三叉文、後頭頂部に双環文、後頭部に三叉文と並行沈線文、側頭部に耳状の隆帯があり、刻みが施されている。2・3は右脚部である。2はヘラ状痕が見られ、中心部に炭化した心棒と思われる痕跡が見られる。3は円錐形を呈する。

土製円盤は、2点出土している。いずれも円形で周辺が研磨されている。4は土器片を再加工したもので、表面に沈線による文様が見られる。5は孔を中心に表面渦巻文、裏面十字文が施されている。

匙形土製品は、1点出土している。6は欠損品で、短い柄の付く推定長4cm程の小型品である。

耳飾は、1点出土している。7は栓状を呈し、無文である。

第３項　石器(PL － 35～48　別表Ⅱ)

概観　石器は総数331点出土し、その内訳は、剥片11点(3.3%)、石核6点(1.8%)、残核3点(0.9%)、原石2点(0.6%)、礫11点(3.3%)、石鏃17点(5.1%)、石錐1点(0.3%)、掻器2点(0.6%)、石匙4点(1.2%)、両極石器11点(3.3%)、使用痕石器2点(0.6%)、打製石斧89点(26.9%)、打製石斧素材剥片1点(0.3%)、打製石斧成形剥片41点(12.4%)、粗製石匙7点(2.1%)、削器22点(6.6%)、礫器33点(10.0%)、ハンマー3点(0.9%)、磨製石斧3点(0.9%)、磨石類39点(11.8%)、石皿11点(3.3%)、台石9点(2.7%)、立石1点(0.3%)、石棒1点(0.3%)、不明石器1点(0.3%)である。これらの所属時期は、全体の65%にあたる216点を出土した第5号住居跡の第Ⅱ群Ｃ類～Ｄ類が主体となると思われるが、石鏃1点(4)は局部磨製であり、第Ⅰ群Ａ類(早期押型文土器)に伴う資料と考えられる。周辺地域における局部磨製石鏃の類例としては、明野村清水端遺跡が知られる。

本遺跡の石器については、製作に関する属性を第5号住居跡出土資料を中心として分析を行い、また、黒曜石製石器の産地同定の分析も実施した。第Ⅴ章第1節・第2節を参照していただきたい。また、個々の計測データは別表Ⅱ遺物一覧表に示した。

出土状況　石器の出土地点別の状況は、表Ⅲ－2に示した。注目されるのは、先に既述した第5号住居跡の出土量で、中でも打製石斧68点をはじめ打製石斧素材剥片・成形剥片やハンマーなどの石器製作関連資料の出土が認められ特筆されよう。本住居跡の石器の出土状況は、第Ⅵ章第1節を参照していただきたい。

石材　石器の石材組成は、同じく表Ⅲ－2に示した。安山岩(黒色安山岩4点含む)105点(31.7%)、砂岩83点(25.1%)、ホルンフェルス74点(22.4%)、黒曜石(チップ類を除く)48点(14.5%)、粘板岩9点(2.7%)、緑色凝灰岩3点(0.9%)、頁岩3点(0.9%)、花崗岩3点(0.9%)、斑岩2点(0.6%)、ハンレイ岩1点(0.3%)などになる。また、選択率の高い石材における器種組成は、安山岩では残核1点、礫8点、石匙3点、打製石斧11点、打製石斧成形剥片7点、粗製石匙1点、削器1点、礫器20点、磨石類33点、石皿9点、台石8点、立石1点、石棒1点、砂岩では石核1点、残核2点、礫2点、打製石斧36点、打製石斧素材剥片1点、打製石斧成形素材11点、粗製石匙1点、削器11点、礫器9点、ハンマー3点、磨石類5点、立石1点、ホルンフェルスでは石核2点、残核1点、打製石斧33点、打製石斧成形素材21点、粗製石匙3点、削器10点、礫器4点、黒曜石では剥片11点、石核2点、原石2点、石鏃16点、石錐1点、掻器2点、石匙1点、両極石器11点、使用痕石器2点、粘板岩では打製石斧8点、打製石斧成形剥片1点、などである。これらの選択傾向については、八ヶ岳南麓に立地する本遺跡の地質的環境を反映し、特に安山岩は宮川および鳩川に比較的良く分布する河床砂礫(安山岩)層に由来するものと思われる。小型石器における黒曜石及び安山岩の磨石類、石皿、台石や砂岩とホルンフェルスの打製石斧の選択率の高さが認められる。

第３節　古墳時代の遺物

第３号住居跡

本住居跡は、焼失住居であり、遺物は土師器が3個体程、石器が1点と僅かな出土である。

器　種	出土地点	安山岩	黒色安山岩	砂岩	ホルンフェルス	黒曜石	粘板岩	緑色凝灰岩	頁岩	花崗岩	斑　岩	ハンレイ岩	小　計	総　計
剥片	5住					9							9	11
	グリッド					N-11：1 Y-15：1							2	
石核	5住			1	1	2							4	6
	グリッド	G-8：1			D-7：1								2	3
残核	5住			2	1								3	
原石	5住					1							1	2
	グリッド					J-7：1							1	11
礫	5住	8		2						1			11	
石鏃	5住					8							8	17
	5住以外の遺構					1竪：1							1	
	グリッド					G-8：1 I-10：1 L-10：1 N-10：1 Y-15：3			I-10：1				8	
石錐	5住					1							1	1
掻器	5住					2							2	2
石匙	5住		3										3	4
	5住以外の遺構					249土：1							1	
両極石器	5住					5							5	11
	5住以外の遺構					3住：2 4住：2							4	
	グリッド					B-6：2							2	
使用痕石器	5住					1							1	2
	5住以外の遺構					2溝：1							1	
打製石斧	5住	8		27	28		4					1	68	89
	5住以外の遺構	164土：1		207土：1 167土：1 284土：1	64土：1		167：1 204：1						7	
	グリッド	H-11：1 表採：1		B-9：1 H-10：1 H-12：1 H-26：1 M-9：1 攪乱：1	B-9：1 H-12：1 I-11：1 N-11：1		D-7：1 F-9：1						14	
打斧素材剥片	5住			1									1	1
打斧成形剥片	5住	7		11	19		1						38	41
	5住以外の遺構				6住：2								2	
	グリッド								I-9：1				1	
粗製石匙	5住			1	2				1				4	7
	グリッド	表採：1	表採：1		表採：1								3	
削器	5住			10	7								17	22
	グリッド	L-9：1		F-10：1	L-10：1 O-10：1 X-19：1								5	
礫器	5住	14		3	1								18	33
	5住以外の遺構	284土：3 1住：1 3住：1 36土：1		55土：1 3住：1	54土：1 3住：1								10	
	グリッド			D-9：1 I-9：1 I-11：1 表採：1	I-10：1								5	
ハンマー	5住			2									2	3
	グリッド			F-9：1									1	
磨製石斧	5住							1					1	3
	グリッド							F-11：1 H-12：1					2	
磨石類	5住	13											13	39
	5住以外の遺構	1住：1 6住：3 67土：1 120土：1 160土：2 2溝：1		6住：2 4住：1									12	
	グリッド	B-8：1 G-10：1 I-7：1 L-9：1 J-7：1 O-10：1 O-11：1 Y-14：1 表採：1 1地点：2		H-12：1 N-10：1						H-11：1			14	
石皿	5住	4									1		5	11
	5住以外の遺構	1住：1 1竪：1 67土：1											3	
	グリッド	G-9：1 表採：1									表採：1		3	
台石	5住	1											1	9
	5住以外の遺構	67土：1 171土：1								245土：1			3	
	グリッド	D-7：1 Y-16：1 E-7：1 I-9：1 0-10：1											5	
立石	5住以外の遺構			6住：1									1	1
石棒	5住以外の遺構	299土：1											1	1
不明石器	グリッド	L-8：1											1	1
合　計		101	4	83	74	48	9	3	3	3	2	1	331	

Ⅲ－2　石器石材分類表

土器(PL－49　別表Ⅱ)1は壺で、外面胴部上半にはハケメ、下半にはヘラ削り痕が見られる。内面はハケメ後ナデが施され、胴下部及び上部に明瞭な輪積痕が残っている。2は小型壺で、口縁部及び頸部に親指と人差し指の挟み込みによる強いヨコナデ調整が見られる。3～7は高坏である。3は坏部が大きく外方に開き、下半及び中央部に稜を有し、脚部は朝顔状に外反するものであり、内外面ともにナデ後ミガキ調整が見られる。4・5は同一個体の坏部で、3同様の形状及び調整である。6は脚部で、柱状に外反し外面にミガキ調整が見られる。、7は3と同一個体と思われる。これらは、古墳時代中期に位置づけられる資料である。
石器(PL－50　別表Ⅱ)1は二等辺三角形状を呈し、底辺に近い両側辺に加工痕あるいは使用痕が認められる。用途については不明である。

第4節　平安時代の遺物

第1号住居跡

土器(PL－49　別表Ⅱ)1・2は西壁周溝の上から重なって完形状況で出土した(2が上位)。これらは信州系黒色土器の坏で内面に黒色処理が施され、ロクロ調整痕を残し、底部は回転糸切り未調整である。外面に正位で、1には「良」、2には「寺」の墨書が見られる。3～7は甲斐型甕である。3～5は櫛目の広い外面タテハケメ、内面ヨコハケメ調整が見られる。6は外面タテハケメ後ナデ、内面密なヨコハケメの調整がみられる。

8は灰釉陶器甕の胴部破片の転用硯である。この他に須恵器甕の破片資料も1点出土している。これらは9世紀後半に位置づけられる資料である。

第4号住居跡

土器(PL－50　別表Ⅱ)1は信州系黒色土器と同様な胎土や整形技術が見られる坏である。底部には刻書「×」がある。2･3は信州系黒色土器坏で内面に黒色処理が施されている。4は内面放射状暗文、外面底部ヘラ削りが見られるが、胎土は甲斐型土器とは異質である。5は須恵器高台付坏で、高台部は貼り付けである。6は全形が不明で、内面にヨコハケメが見られる。7～11は甲斐型甕であり、外面タテハケメ、内面ヨコハケメが施されている。これらは、9世紀後半に位置づけられる資料である。
石製品(PL－50　別表Ⅱ)1はカマドの支脚で、表面全体ににタール状の付着が観察される。

第1号溝状遺構

土器(PL－50　別表Ⅱ)出土量は極僅かであり、図示し得るものは2点のみである。1は須恵器坏、2は須恵器甕の破片資料である。これらは9世紀後半に位置づけられると思われる。

第5節　遺構外出土土器

土器(PL－50　別表Ⅱ)1は壺の底部で、内外面にミガキ調整、2は甕の口縁～頸部の小破片で内外面ヨコナデ調整が見られ、古墳時代中期に位置づけられる。1はP－8グリッド出土、2はK－8グリッド出土。3・4は須恵器坏の小破片で、平安時代に位置づけられよう。3はI－10グリッド、4はL－8グリッド出土。

第Ⅳ章　峡北農業高等学校収蔵資料

第1節　概要

峡北農業高等学校では、周知の遺跡内に所在するため、これまでに多くの遺物が偶然発見され、収蔵されてきている。これらの資料は、本遺跡を検討する上で大変貴重なため今回の調査報告と合わせ、平成12年6月1日から借り受けて資料化を行い、本書に掲載することとした。収蔵資料をすべて掲載することは不可能なため、遺物ごとに代表的なものを選別した。

また、本遺跡内で表採された土偶も藤巻一心氏から借用し、掲載させていただいた。

第2節　土器(PL－51～55)

1・4～54は、縄文時代中期に比定される一群である。1は有孔鍔付土器のミニチュアである。4は、五領ヶ台Ⅱ式期、5～17は藤内式期で、5・6は1～2段階の抽象文土器、7は3段階の小波状文土器、8～17は第3段階のパネル文土器、18・19は井戸尻式期の3段階のバケツ形土器、20～54は曽利式期で、20はⅠ式古段階、21～31はⅡ式(29～31：曽利縄文系)、32～43はⅣ式、44～54Ⅴ式、49～54はⅤ期終末(53・54：在地の加曽利E式)である。

2・55～58は縄文時代後期に比定される一群である。2は無文の手づくねによるミニチュア土器である。2は称名寺Ⅱ式最終末期、55・56は称名寺Ⅰ式期、57は堀之内式期2式である。

63は弥生時代後期の甕の破片であり、頸部に不規則な櫛描文波状文が施文されている。

64は古墳時代中期の有段口縁壺で、胴部と底部に焼成後の穿孔があり、何らかの祭祀に使用されたものと考えられる。本遺跡内では該期の墓域は発見されていないが、北西へ約1.6kmほどに位置する北村遺跡での八ヶ岳南麓で初見例の古墳時代前期の方形周溝墓6基や北北西へ約1.2kmほどに位置する龍角西遺跡の古墳時代前期末～中期の住居跡10軒の検出例など、周辺地域における調査例が近年増加してきており、本遺跡における集落の広がりが示唆される。

65～67は平安時代の一群である。65は甲斐型坏(9世紀後半)、66は内外面を黒色処理した甲斐型坏(10世紀前半)、67は信州系黒色土器の坏(9世後半)である。

第3節　石器(PL－56～60)

1～5は打製石斧、6は石匙、7・8は磨製石斧、9～16は磨石類、17～20は多孔石、21～23は石皿、24は石棒である。実測したもの以外には、打製石斧90点、磨製石斧3点、磨石類6点、多孔石1点、石皿4点などがある。

第4節　土偶(PL－60)

25・26は出っ尻土偶である。25は腰～脚部、26は胸部～脚部にかけての部分で、正面腹部に正中線や対称弧刻文、側腹部及び脚部に渦巻文や三叉文など沈線による文様が施されており、井戸尻式期に比定されよう。25は頸部と脚付根部に分割塊面と木芯痕、26は頸部に木芯痕がそれぞれ見られる。26は、藤巻一心氏から借用した資料である。

第Ⅴ章　分析

第１節　原町農業高校遺跡出土の石器整理報告

株式会社アルカ　角張　淳一

第１項　資料の選択と資料体の作成

石器はあらかじめ観察し、必要な石器の種類と数量を選択しておいた。その資料について製作に関する属性を抽出し、属性表を作成し、資料体を形成した。

なお、剥離技術の力学的理解と記述方法は「石器研究の展望」(角張淳一　2002.5『利根川』23号　利根川同人)を参考にした。その他の記述の方法や計測値は『石器研究法』(竹岡俊樹著　言叢社　1989)に準じた。

第２項　資料体の概要

(1)石鏃・石錐・掻器(表Ⅴ－1)

小形剥片石器の定型石器として、石鏃・石錐・掻器がある。これらの資料体は21点で、石鏃19点、石錐１点、掻器２点である。

この資料体の加工は押圧剥離で形成され、ハードハンマーの押圧剥離(HP)、ソフトハンマーの押圧剥離(SP)がある。特にハンマーの径が小さく、圧縮の力が打点付近に大きな負荷となるハンマーには「n」をハンマーの前に付けた。「ｎ HP」は径の細いハードハンマーの押圧剥離、「ｎ SP」は径の細いソフトハンマーである。

ハンマーの種類を決める属性として、「剥離の開始部」、「剥離の形状」、「剥離幅」の３つの属性を記述し、それを判断の基準とした。

剥離の開始部は、「コーンタイプ」、「曲げタイプ」、「クサビタイプ」の３種類があり、それぞれ剥離を生ずる応力の種類に対応している。詳細は参考文献をご覧いただきたい。

また打点の付近にのみハードハンマーの特徴が現れる剥離面をS'とした。通常のソフトハンマーはハンマーの変形が大きく、コーンが発達しないのと同時に剥離面が器体の奥に伸び、稜線が滑らかになる。S'としたものは、コーンが発達して、剥離面が伸び、なおかつ稜線の未発達(滑らか)な剥離面である。

次にスラッシュ記号は、剥離面の角度を示している。押圧剥離は通常薄く剥がれるため、その剥離角はほとんど問題にされないが、急角度の面に押圧剥離を施す場合や、押圧剥離で刃潰しを行う場合などは急角度の剥離面になる。その場合を「/急角度」とした。

(2)石匙(表Ⅴ－2)

石匙は4点出土した。この石匙は小形の剥片石器に限定しており、打製石斧と同じ石材で作られる大形の摘み付きの削器は、「粗製石匙」として打製石斧類の属性表に記載した。

石匙は摘みの加工、刃部加工、成形加工の3種類の加工から成る。それぞれの剥離面の特徴を石鏃と同じように記し、その上でハンマーの種類を決定した。

(3)その他の剥片石器(表Ⅴ－3)

26点の属性をとった。間接打撃の剥片、直接打撃の剥片、両極剥離の剥片と石核が主である。これらは主要剥離面の剥離の開始部とともに「打面」属性に特徴が現れる。そこで、「打面形態」、「打面厚」を属性に加えた。これらの石器には二次加工はほとんどない。

また石核の作業面を記述するのに、剥片の背面の構成を４種類の記号にした。それらは以下である。

1；剥離軸と同方向、2；剥離軸と対向方向、3；剥離軸に対して斜め方向、N；自然面

剥片の背面方向は、上記の組み合わせで記述できる。

Ⅴ－1　属性表1　石鏃・石錘・掻器

器種	遺構	図版番号	遺物番号	原産地分析番号	推定産地	残存率	石材	加工	剥離形状	剥離の開始部	剥離幅	長さ	幅	厚み	末端	素材形態	所見
石鏃	1竪穴	PL-35-1	2	HNK-1	諏訪星ヶ台群	完形未製品	黒曜石	HP	貝殻状	コーン	5.0	27.2	17.6	5.3	フェザー	間接打撃剥片	加工は基部と先端。打面厚2.62ミリ。
石鏃	5住	PL-35-2	25	HNK-11	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	nHP	貝殻状	コーン・砕け	2.5	18.5	14.2	3.4	フェザー	（両極剥片）	
石鏃	5住	PL-35-3	32	HNK-12	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	nS'P	並列	コーン	1.1	21.6	15.4	2.0	フェザー	不明	滑らかで微細な押圧剥離。工具は先端の尖るソフトハンマーの可能性がある。
石鏃	5住	PL-35-4	78	HNK-13	和田鷹山群	完形	黒曜石	nS'P	並列	コーン・砕け	2.2	17.8	12.3	2.2	フェザー	不明	
石鏃	5住	PL-35-5	128	HNK-14	諏訪星ヶ台群	片脚欠	黒曜石	nS'P	やや並列	コーン・曲げ	2.6	15.3	11.9	3.6	フェザー	不明	
石鏃	5住	PL-35-6	127	HNK-15	諏訪星ヶ台群	完形未製品	黒曜石	HP	貝殻状・急角度	コーン・砕け	4.0	22.7	17.4	4.6	フェザー	両極剥片	素材はやや厚い捻れた剥片。おそらく両極剥片素材。加工は刃潰し加工に近い。
石鏃	5住	PL-35-7	202	HNK-17	諏訪星ヶ台群	完形未製品	黒曜石	HP	貝殻状・急角度	コーン・砕け	4.3	23.4	14.8	4.1	フェザー	両極石器	裏面は素材の大きなネガ面で覆われている。
石鏃	5住	PL-35-8	201	HNK-16	和田鷹山群	完形未製品	黒曜石	HP	貝殻状・急角度	コーン・砕け	2.9	18.8	14.7	4.1	フェザー	不明	
石鏃	5住	PL-35-9	198	HNK-18	諏訪星ヶ台群	完形未製品	黒曜石	HP	並列	コーン・砕け	2.4	20.3	17.0	4.8	フェザー	剥片	
石鏃	G-8	PL-35-10	15	HNK-2	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	nHP	貝殻状	コーン	2.7	24.2	16.2	4.0	フェザー		
石鏃	I-10	PL-35-11	32	なし	なし	先端と片脚微欠	珪岩	nSP	並列	曲げ	1.8	23.7	14.8	2.8	フェザー		裏面に素材の主要剥離面を残す。
石鏃	I-10	PL-35-12	33	HNK-38	諏訪星ヶ台群	片脚欠	黒曜石	nS'P	やや並列	コーン	1.7	22.3	12.0	2.5	フェザー	不明	滑らかな押圧剥離
石鏃	L-10	PL-35-13	40	HNK-3	諏訪星ヶ台群	基部欠	黒曜石	nHP	貝殻状・鋸歯縁	コーン・砕け	2.6	20.7	8.9	3.8	フェザー		
石鏃	N-10	PL-35-14	43	HNK-10	諏訪星ヶ台群	脚部のみ	黒曜石	nSPと研磨	やや並列	曲げ	2.0	15.3	24.8	1.9	フェザー	不明	押型文土器に伴う局部磨製石鏃。両面研磨。
石鏃	Y-15	PL-35-15	55	HNK-40	和田鷹山群	完形未製品	黒曜石	nHP	貝殻状	コーン・砕け	3.3	18.4	15.0	4.4	フェザー	両極剥片	表裏に圧縮の力で形成されたクサビ型石器の剥離痕がみらえる。脚を抉る直前形態。
石鏃	Y-15	PL-35-16	53	HNK-39	諏訪星ヶ台群	完形未製品	黒曜石	nS'P	貝殻状	コーン・砕け	2.9	16.1	10.3	3.1	フェザー	両極石器	極小形の両極を素材に、石鏃の押圧剥離がなされている。
石鏃	Y-15	PL-35-17	56	HNK-41	諏訪星ヶ台群	完形未製品	黒曜石	HP	貝殻状	コーン・砕け	4.7	26.0	14.3	5.7	フェザー	小礫	素材は自然剥離の剥片。押圧剥離は幅広で粗雑。
石鏃	表採	PL-35-18	5	HNK-45	諏訪星ヶ台群	片脚欠	黒曜石	nHP	貝殻状	コーン・砕け	2.0	14.1	13.5	2.1	フェザー		
石錐	5住	PL-35-19	196	HNK-9	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	HP/急角度	貝殻状・急角度	コーン・砕け	4.1	27.9	12.8	6.8	フェザー	両極石器	素材の周縁に急角度のHPの加工
掻器	5住	PL-35-20	200	HNK-20	和田鷹山群	完形	黒曜石	不明	貝殻状・急角度	コーン・砕け	3.6	24.8	22.0	8.9	フェザー	剥片	掻器の刃部に不明瞭な光沢。刃部は加工ではなく刃こぼれの可能性あり。
掻器断片	5住	PL-35-21	199	HNK-19	和田鷹山群	断片	黒曜石	HP/急角度	貝殻状・急角度	コーン・砕け	2.0	17.5	13.4	6.3	フェザー	剥片	掻器断片。顕微鏡観察では刃部に使用痕なし。

Ⅴ－2　属性表2　石匙

器種	遺構	図版番号	遺物番号	原産地番号	推定原産地	残存率	石材	摘み加工	剥離形状	剥離の開始部	剥離幅	刃部加工	剥離形状	剥離の開始部	剥離幅	成形加工	剥離形状	剥離の開始部	剥離幅	末端	長さ	幅	厚み	素材形態	所見
石匙	5住	PL-35-22	204	なし	なし	完形	黒色安山岩	SP	貝殻状	曲げ・コーン	4.6	SP/急角度	貝殻状	曲げ	7.23	SP	貝殻状	曲げ	4.24	フェザー	36.7	54.6	10.9	横長剥片	幅広の間接打撃剥片が素材か。
石匙	5住	PL-35-23	111	なし	なし	完形	黒色安山岩	nHP	貝殻状	コーン	4.68	HP/鋸歯	貝殻状	コーン	3.3	HI	貝殻状	コーン	18.34	ステップ	48.0	56.8	9.1	横長剥片	成形加工はバルブの除去だけの加工
石匙	5住	PL-35-24	203	なし	なし	完形	黒色安山岩	HP	刃潰し状	砕け	不整	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	53.5	64.7	8.6	裂片	加工は摘みだけ。素材は打製石斧加工の裂片。
石匙	5住	PL-35-25	7	HNK-7	推定不可	完形	黒曜石	HP/刃潰し	貝殻状	砕け	3.28	HP	貝殻状	砕け	3.34	HI	貝殻状	コーン・砕け	7.94	ステップ	46.5	20.0	5.9	自然礫	素材は自然剥離の小礫
石匙	249土坑	PL-35-26	17	なし	なし	完形	珪岩	折れ面	適用外	適用外	適用外	SP	貝殻状	曲げ	2.81	叩折	適用外	適用外	適用外	適用外	58.0	38.7	14.3	HD剥片	刃部に使用痕光沢有り。

Ⅴ－3　属性表3　その他の剥片石器

器種	遺構	図版番号	遺物番号	原産地番号	推定産地	残存率	石材	打面厚	打面形態	素材剥離技術	剥離の開始部	背面構成	刃部加工	剥離形状	剥離の開始部	剥離幅	成形加工	剥離形状	剥離の開始部	剥離幅	末端	長さ	幅	厚み	素材形態	所　見
両極石器	5住	PL-35-27	PIT5	HNK-35	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	なし	小打面	HvD/両	クサビ	123	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	21.1	19.7	7.7		
両極石器	5住	PL-35-28	a	HNK-27	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	なし	小打面	HvD/両	クサビ	123	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	22.6	13.1	7.3		
両極石器	5住	PL-35-29	b	HNK-28	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	なし	小打面	HvD/両	クサビ	123	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	15.3	24.3	6.4		
両極石器	5住	PL-35-30	c	HNK-29	蓼科冷山群	完形	黒曜石	なし	小打面	HvD/両	クサビ	123	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	20.3	21.2	10.8		
両極石器	5住	PL-35-31	d	HNK-30	和田鷹山群	完形	黒曜石	なし	小打面	HvD/両	クサビ	123	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	30.6	22.0	7.0		
両極石器	B-6	PL-35-32	緑1	HNK-42	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	なし	小打面	HvD/両	クサビ	123	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	19.7	21.1	7.4		
両極石器	3住	PL-35-33	青5	HNK-5	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	なし	小打面	HvD/両	クサビ	123	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	25.3	25.0	11.1		
両極石器	4住	PL-35-34	青2	HNK-6	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	なし	小打面	HvD/両	クサビ	123	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	33.9	24.9	8.5		
使用痕石器	5住	PL-36-35	なし	HNK-58	神津島恩馳島群	完形	黒曜石	なし	加工欠	不明	不明	1N	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	29.5	21.5	11.0		打面は折取か?
使用痕石器	2溝	PL-36-36	2	HNK-4	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	なし	小打面	HvD/両	クサビ	123	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	19.5	14.3	6.9	適用外	両極石器
剥片		PL-36-37	e	HNK-31	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	なし	小打面	HD	コーン	1N	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	42.4	22.2	8.5		
剥片		PL-36-38	f	HNK-32	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	なし	小打面	HD	コーン	1N	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	30.6	23.8	4.6		
剥片		PL-36-39	g	HNK-33	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	なし	小打面	HD	コーン	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	36.0	25.0	8.8		
剥片	5住	PL-36-40	間接4	HNK-24	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	6.3	切子	HI	コーン	1N	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	41.6	22.8	8.0		
剥片	5住	PL-36-41	間接5	HNK-25	和田鷹山群	完形	黒曜石	4.32	自然	HI	コーン	1N	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	30.9	16.2	5.9		
剥片	5住	PL-36-42	間接6	HNK-26	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	5.73	平坦	HI	コーン	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	22.7	14.1	5.0		
剥片	5住	PL-36-43	間接3	HNK-23	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	3.28	平坦	HI	コーン	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	20.7	19.4	3.6		
剥片	5住	PL-36-44	間接2	HNK-22	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	3.22	平坦	HI	コーン	1N	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	17.8	23.4	3.5		
両極剥片	5住	PL-36-45	197	HNK-36	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	なし	小打面	HvD/両	クサビ	123	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	18.4	15.7	4.5		
両極剥片	N-11	PL-36-46	緑46	HNK-43	推定不可	半分	黒曜石	加工欠	加工欠	不明	不明	不明	HP	貝殻状	コーン	2.6	なし	なし	なし	なし	なし	20.7	5.5	2.7	不明	棒状の押圧剥離石器
両極剥片	Y-15	PL-36-47	54	HNK-44	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	なし	小打面	HvD/両	クサビ	123	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	21.8	12.8	5.8		
石核	5住	PL-36-48	h	HNK-34	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	16.24	平坦	HD	コーン	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	30.7	38.8	20.4		
石核	5住	PL-36-49	間接1	HNK-21	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	1.86	平坦	HI	コーン	不明	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	32.5	20.7	20.1		
原石	5住	PL-36-50	124	HNK-8	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	46.7	42.3	27.5		
原石	J-7	PL-36-51	緑37	HNK-37	諏訪星ヶ台群	完形	黒曜石			なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	49.8	35.5	16.6		

Ⅴ－4　属性表4　打製石斧類

器種	遺構	図版番号	遺物番号	残存率	石材	刃部加工	剥離形状	剥離の開始部	剥離幅	成形加工	剥離形状	剥離の開始部	剥離幅	末端	長さ	幅	厚み	素材形態	所　見
打製石斧	5住	PL-37-52	9	完形	砂岩	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	128.6	55.3	19.8	横長剥片	
打製石斧	5住	PL-37-53	77	完形	ホルンフェルス	なし	なし	なし	なし	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	106.7	50.3	21.2	横長剥片	
打製石斧	5住	PL-37-54	61	完形	砂岩	なし	なし	なし	なし	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	105.4	48.0	15.8	横長剥片	
打製石斧	5住	PL-37-55	29	完形	砂岩	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	115.1	62.8	16.6	横長剥片	
打製石斧	5住	PL-37-56	53	完形	安山岩	なし	なし	なし	なし	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	135.5	55.2	20.5	横長剥片	
打製石斧	5住	PL-37-57	135	完形	ホルンフェルス	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	128.7	46.6	20.7	不明	
打製石斧	5住	PL-37-58	165	完形	ホルンフェルス	なし	なし	なし	なし	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	158.4	55.4	22.7	横長剥片	未使用の可能性あり。
打製石斧	5住	PL-37-59	133	完形	安山岩	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	15	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	134.9	56.2	24.3	横長剥片	刃部の一部はHDの加工。刃部は土ずれ痕と推定される摩耗がある。
打製石斧	5住	PL-37-60	107	完形	砂岩	なし	なし	なし	なし	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	122.6	49.7	15.9	横長剥片	素材の裏面は一部節理面。
打製石斧	5住	PL-37-61	125	完形	安山岩	なし	なし	なし	なし	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	118.4	50.7	15.8	横長剥片	

器種	遺構	図版番号	遺物番号	残存率	石材	刃部加工	剥離形状	剥離の開始部	剥離幅	成形加工	剥離形状	剥離の開始部	剥離幅	末端	長さ	幅	厚み	素材形態	所　見
打製石斧	5住	PL-37-62	166	完形	ホルンフェルス	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	129.4	62.0	17.7	横長剥片	
打製石斧	5住	PL-37-63	15	完形	砂岩	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	127.9	60.9	23.6	横長剥片	
打製石斧	5住	PL-37-64	116	完形	安山岩	なし	なし	なし	なし	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	135.4	65.6	18.0	横長剥片	
打製石斧	5住	PL-37-65	41	完形	ハンレイ岩	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	115.9	53.7	10.4	横長剥片	
打製石斧	5住	PL-37-66	4	完形	ホルンフェルス	なし	なし	なし	なし	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	136.3	60.2	25.9	横長剥片	
打製石斧	5住	PL-37-67	161	完形	ホルンフェルス	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	111.0	47.6	18.6	横長剥片	
打製石斧	5住	PL-38-68	162	完形	砂岩	なし	なし	なし	なし	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	118.9	52.7	17.9	横長剥片	側辺の加工は、素材打面部を叩折ってからHD/垂直で加工。
打製石斧	5住	PL-38-69	163	完形	砂岩	HD	不整	砕け・コーン	不整	HD	貝殻状	砕け・コーン	不整	フェザー・ステップ	10.2	56.5	14.7	横長剥片	
打製石斧	5住	PL-38-70	24	完形	砂岩	なし	なし	なし	なし	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	119.4	61.6	20.1	横長剥片	
打製石斧	5住	PL-38-71	8	完形	砂岩	なし	なし	なし	なし	HD/垂直	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	119.6	74.4	26.2	横長剥片	側辺の加工は、素材打面部を叩折ってからHD/垂直で加工。
打製石斧	5住	PL-38-73	74	完形	砂岩	欠損	欠損	欠損	欠損	HD/垂直と敲打	不整	砕け・コーン	不整	フェザー・ステップ	114.8	52.8	25.1	横長剥片	
打製石斧	5住	PL-38-74	136	半分	ホルンフェルス	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	89.9	46.9	20.5	不明	両側辺が折れた打製石斧
打製石斧素材剥片	5住	PL-38-82	12	完形	砂岩	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	125.8	56.0	41.7	横長剥片	楕円礫を3つに分割した真ん中の剥片。やや厚めだが、加工される直前の打製石斧素材。
打製石斧成形剥片	5住	PL-38-83	39	完形	安山岩	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	57.1	30.3	6.4	適用外	打製石斧の成形剥片。
粗製石匙	5住	PL-38-84	106	完形	頁岩	HP/鋸歯	貝殻状	コーン・砕け	5.19	HD/垂直と敲打	不整	砕け・コーン	不整	ステップ	112.8	51.3	17.2	裂片	大形コアを両極剥離で割ったときに生じた裂片を素材にする。
削器	5住	PL-38-88	140	完形	砂岩	HP/鋸歯	貝殻状	砕け・コーン	4	HD	貝殻状	コーン・曲げ	20.52	ステップ	39.8	120.1	12.5	横長剥片	鋸歯縁の刃部をもつ削器
削器	5住	PL-38-91	16	刃部の一部	砂岩	HP/鋸歯	貝殻状	砕け・コーン	4.5	HD/平坦とHD/刃潰し	幅広	曲げ	40	フェザー・ステップ	62.9	40.6	8.1	横長剥片	横長剥片の主要剥離面側にHP/鋸歯で刃部を形成。素材の打面側はHD/平坦とHD/刃潰しで加工。
削器	5住	PL-38-92	174	完形	砂岩	HDとHI/鋸歯	貝殻状	砕け・コーン	14.24	HD	貝殻状	砕け・コーン	不整	ステップ	93.6	58.4	8.6	横長剥片	HDで側辺を三角に成形。三角の底辺をHDで薄くし、HI/鋸歯で刃部形成。
削器	5住	PL-38-93	131	完形	砂岩	HP/鋸歯	貝殻状	砕け・コーン	4.87	HDと叩折	不整	砕け・コーン	不整	フェザー・ステップ	80.6	107.0	18.0	横長剥片	横長剥片の打面を叩折り成形。素材の末端辺にHP/鋸歯で刃部を形成。
削器	5住	PL-38-94	14	完形	砂岩	素刃	なし	なし	なし	叩折	適用外	適用外	適用外	適用外	125.6	88.9	18.8	礫端片	礫端片の末端を折取り成形。側辺の鋭い辺を刃部にする。素材の打面は無打面。
削器	5住	PL-38-95	42	完形	ホルンフェルス	HI/鋸歯	貝殻状	コーン	9.17	なし	なし	なし	なし	なし	65.3	74.3	9.2	礫端片	
礫器	5住	PL-38-98	48	完形	砂岩	HDとHI/鋸歯	貝殻状	コーン・曲げ	32	叩折	適用外	曲げ	適用外	フェザー	91.0	94.0	26.2	HD剥片	裏面は主要剥離面
礫器	5住	PL-38-99	23	完形	砂岩	HD	不整	コーン・砕け	不整	HD	不整	砕け・コーン	不整	フェザー・ステップ	74.6	91.2	53.1	礫	礫片をHDで加工して刃部を形成
ハンマー	5住	PL-41-116	57	完形	砂岩	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	154.1	48.2	32.3	棒状礫	垂直打撃用のハンマーストーン
磨製石斧	5住	PL-41-117	190	基部破損	緑色凝灰岩	研磨	適用外	適用外	適用外	敲打・研磨	適用外	適用外	適用外	適用外	157.0	49.5	35.0	不明	被熱資料
花崗岩剥片	5住	PL-41-121	85	完形	花崗岩	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	91.01	92.8	22.3	横長剥片	土器の混和剤。裏面に摺り面あり。

Ⅴ－5　属性表5　礫石器

器種	遺構	図版番号	遺物番号	残存率	石材	加工	素材形態	所　見
特殊磨石	5住	PL-42-122	189	完形	安山岩	なし	扁平楕円礫	幅の狭い細長い側辺を機能部としている
磨石+敲石	5住	PL-42-123	118	完形	安山岩	なし	楕円礫	表裏と端部に敲打痕、風化が激しく磨面不明瞭
磨石+敲石	5住	PL-42-124	56	完形	安山岩	なし	楕円礫	小形、表裏に敲打痕、被熱
磨石+敲石	5住	PL-42-125	73	完形	安山岩	なし	楕円礫	表裏に敲打痕、風化が激しく磨面不明瞭
磨石+敲石	5住	PL-42-126	31	完形	安山岩	なし	楕円礫	表裏側面に敲打痕、風化が激しく磨面不明瞭
磨石+敲石	5住	PL-42-127	58	完形	安山岩	なし	楕円礫	表面に磨面と敲打痕、左側と端部に敲打痕、風化が激しく磨面不明瞭
無縁石皿	5住	PL-45-150	59	完形	安山岩	なし	扁平楕円礫	被熱顕著、磨面部は灰色に変色、わずかに敲打痕がある。
石皿	5住	PL-45-151	66	断片	斑岩?	なし	礫	被熱、表裏に摩耗、表面にわずかに敲打痕
無縁石皿	5住	PL-45-152	64	断片	安山岩	なし	扁平礫	表面に磨面がある。
石皿	5住	PL-45-153	65	断片	安山岩	不明	礫	表面に磨面と敲打痕、縁付きの石皿の可能性がある。

(4)打製石斧類(表Ⅴ－4)

ここに記述したのは、安山岩・砂岩・ホルンフェルスなどの粗質の石材で製作された、やや大形の刃器である。長い両側辺に成形加工をなし、短辺の一端を刃部とする打製石斧、薄い剥片の側辺に鋸歯状の押圧剥離(HP/鋸歯)で刃部を形成する削器類、打製石斧と同じような厚みの素材に、削器の刃部を付け、さらに粗い摘みをつけた粗製石匙などがある。これらは刃部加工、成形加工を中心に記述した。また素材形態が比較的残るので、それも記述した。なお、磨製石斧もこのなかに記述した。

(5)磨石・石皿(表Ⅴ－5)

これらは礫をそのまま利用するか、敲打で成形して機能部をつくる大形石器である。加工に変異があるわけではないので、形態・大きさと使用痕の組み合わせで「器種」の中にその特徴を含めて記述した。磨石は、素材礫の表面を機能部とした石器。敲石は素材礫の表面、もしくは端部を機能部とした石器。特殊磨石は素材礫の狭く長い辺を機能部にした石器。などである。

(6)使用痕

使用痕は掻器1点と石匙1点に観察できた。顕微鏡はキーエンス社のデジタル顕微鏡を用い、200倍～の高倍率の観察で使用痕光沢を観察した。口絵7を参照。

第3項　黒曜石の原産地分析

第Ⅴ章第2節の望月明彦氏の「原町農業高校前遺跡出土の黒曜石産地推定結果」を参照。

第4項　黒曜石原産地と石器の総合所見

(1)資料体の選別と分析

今回記述したすべての黒曜石について原産地分析を試みた。また属性表を作成しなかった黒曜石で5住を中心に住居址の資料を加えた資料を追加し、合計75点の資料体を作成して原産地の分析を行った。

(2)所見

ここでは、石器群様相を述べよう。表Ⅴ－6は遺構と原産地の集計表である。これをみると、各遺構・グリッドに必ず出土しているのが星ヶ台群の黒曜石で、74点中60点である。次に多いのは和田鷹山群で10点、次は蓼科冷山群2点、神津島恩馳島群1点である。

データの個数：推定産地	遺構										
推定産地	1号竪穴	1地点	2溝	3住	4住	5住	6住	グリッド	注記なし	表採	総　計
神津島恩馳島群						1					1
諏訪星ヶ台群	1	2	1	1	1	43	1	7	2	1	60
推定不可								1			1
和田鷹山群						8		1	1		10
蓼科冷山群						2					2
総　計	1	2	1	1	1	54	1	9	3	1	74

Ⅴ－6　遺構と原産地

こうして見ると、黒曜石には主要産地があることがわかる。また5号住居址が54点出土であり、稀少原産地の遺物を全て含んでいる。よって本資料では、この住居址の石器を分析することが必要であることがわかる。

表Ｖ－7は原産地と器種の関係である。ここでわかることは、主要原産地の和田星ヶ台群に原石・石核・剥片・石鏃が集中していることがわかる。このことは、主要原産地の黒曜石が遺跡内に持ち込まれ、石器の製作が一貫して行われたことを示している。興味深いのは、和田鷹山群には原石と石核が欠落しており、掻器が2点ともにこの原産地の石材である。

データの個数：推定産地	器種												
推定産地	原石	使用痕石器	石核	石錐	石鏃	掻器	掻器断片	二次加工剥片	剥片	両極石器	両極剥片	裂片	総計
神津島恩馳島群		1											1
諏訪星ヶ台群	3	1	8	1	14			2	18	7	2	4	60
推定不可										1			1
和田鷹山群					3	1	1		4	1			10
蓼科冷山群										2			2
(空白)													
総　計	3	2	8	1	17	1	1	2	22	11	2	4	74

Ｖ－7　黒曜石原産地と器種の関係

果たして星ヶ台と鷹山の黒曜石に差異があるのか、それを石鏃の二次加工で検定しようと試み集計したのが表Ｖ－8である。この表にχ二乗検定をかけると、危険率5%のとき検定値11.07で有為ではない。従って石鏃の加工と原産地に区別はないことが言える。よって、黒曜石原産地の違いは、二次加工という次元ではなく、もっと別の要因を考える必要がある。おそらく、蓼科冷山群(2点)と神津島恩馳島(1点)も同じように、加工という要因ではなく、別の要因であろう。

データの個数：推定産地	加工						
推定産地	HP	HP/急角	nHP	nS'P	nSPと研度	不明	総　計
諏訪星ヶ台群	5	1	4	4	1		15
和田鷹山群	1	1	1	1		1	5
総　計	6	2	5	5	1	1	20

Ｖ－8　石鏃の加工と原産地

石器の加工という次元とは別の要因として、黒曜石の流通を考えなければならないだろう。丁度勝坂式期～曽利式期にかけて、武蔵野台地の恋ヶ窪東遺跡が参考になるだろう。石材組成・石器組成は本遺跡と同じで、剥片石器は圧倒的に黒曜石である。ここでは和田峠星ヶ台と神津島恩馳島の黒曜石が、数量的に半数となり、石核は神津島の黒曜石である。本遺跡と恋ヶ窪東遺跡を結ぶと、1：「黒曜石」という石材指向性、2：流通ルートの多元性、3：地域ごとの主要産地の存在が浮かび上がる。今後は類例分析を積み重ね、どの立地にどのような黒曜石が、どれくらい持ち込まれているかを明らかにする必要があるだろう。先史時代の交易を語るならば、このような分析が必要である。

第２節　原町農業高校前遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定

沼津工業高等専門学校　望月明彦

分析法

試料にＸ線を照射すると、試料に含まれる元素ごとに違った波長(エネルギー)をもつ蛍光Ｘ線が発生する。発生した蛍光Ｘ線の波長(エネルギー)から含まれている元素の種類がわかり、それぞれの元素の蛍光Ｘ線強度から元素組成を知ることができる。これが蛍光X線分析の簡単な原理である。試料をまったく損傷せずに分析でき、迅速に分析ができることが最大の特長である。分析装置にはセイコーインスツルメンツ社のSEA-2110L蛍光Ｘ線分析装置を用いた。

測定条件は以下のとおりである。

印加電圧：50kV　印加電流：産地原石 17 μ A　遺跡出土試料　自動設定

雰囲気：真空　測定時間：産地原石 500sec　遺跡出土試料　240sec　照射径：10mm

分析試料

産地原石：北海道から九州まで主な産地の原石はほとんど分析されている。ここでは、東日本の産地について示す。図Ｖ－９は黒曜石産地の位置、表Ｖ－10はそれらの産地名、判別群、分析数などを示す。

遺跡出土試料：山梨県埋蔵文化財センターによって行われた原町農業高校前遺跡発掘調査で出土した黒曜石製石器である。

産地推定法

蛍光Ｘ線分析による産地推定法では、あらかじめ産地から採取した原石を分析しておき、産地原石によるデータベースを作成しておく。同様に遺跡出土試料を分析し、原石の地データベースと比較して産地を推定する。

Ｖ－９　東日本の黒曜石産地

推定法としては図を用いて推定を行う判別図法と多変量解析法である判別分析の二つの方法を用いた。これらの方法で用いた指標は以下のとおりである。

各元素の蛍光Ｘ線強度から次のような産地推定のための指標を計算する。

A=(Rb 強度 +Sr 強度 +Y 強度 +Zr 強度)とした時、

Rb 分率 =Rb 強度× 100/A　Sr 分率 =Sr 強度× 100/A　Zr 分率 =Zr 強度× 100/A

Mn 強度× 100/Fe 強度　log(Fe 強度 /K 強度)

都道府県	地図No.	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地(分析数)
北海道	1	白滝	八号沢群		STHG		赤石山山頂(19)、八号沢露頭(31)、八号沢(79)、黒曜の沢(6)、幌加林道(4)
			黒曜の沢群		STKY		
	2	上士幌	三股群		KSMM		十三ノ沢(16)
	3	置戸	安住群		ODAZ		安住(25)、清水ノ沢(9)
	4	旭川	高砂台群		AKTS		高砂台(6)、雨紛台(5)、春光台(5)
			春光台群		AKSK		
	5	名寄	布川群		NYHK		布川(10)
	6	新十津川	須田群		STSD		須田(6)
	7	赤井川	曲川群		AIMK		曲川(25)、土木川(15)
	8	豊浦	豊泉群		TUTI		豊泉(16)
青森	9	木造	出来島群		KDDK		出来島海岸(34)
	10	深浦	八森山群		HUHM		八森山公園(8)、六角沢(8)、岡崎浜(40)
秋田	11	男鹿	金ヶ崎群		OGKS		金ヶ崎温泉(37)、脇本海岸(98)
			脇本群		OGWM		脇本海岸(16)
山形	12	羽黒	月山群		HGGS		月山荘前(30)、朝日町田代沢(18)、櫛引町中沢(18)
			今野川群		HGIN		今野川(9)、大網川(5)
新潟	13	新津	金津群		NTKT		金津(29)
	14	新発田	板山群		SBIY		板山牧場(40)
栃木	15	高原山	甘湯沢群	高原山1群	THAY	TKH1	甘湯沢(50)、桜沢(20)
			七尋沢群	高原山2群	THNH	TKH2	七尋沢(9)、自然の家(9)
長野	16	和田(WD)	鷹山群	和田峠1群	WDTY	WDT1	鷹山(53)、小深沢(54)、東餅屋(36)、芙蓉ライト(87)、古峠(50)、土屋橋北(83)、土屋橋西(29)、土屋橋南(68)、丁字御領(18)
			小深沢群	和田峠2群	WDKB	WDT2	
			土屋橋北群	和田峠3群	WDTK	WDT3	
			土屋橋西群	和田峠4群	WDTN	WDT4	
			土屋橋南群	和田峠5群	WDTM	WDT5	
			芙蓉ライト群		WDHY		
			古峠群		WDHT		
		和田(WO)	ブドウ沢群	男女倉1群	WOBD	OMG1	ブドウ沢(36)、ブドウ沢右岸(18)、牧ヶ沢上(33)、牧ヶ沢下(36)、高松沢(40)
			牧ヶ沢群	男女倉2群	WOMS	OMG2	
			高松沢群	男女倉3群	WOTM	OMG3	
	17	諏訪	星ヶ台群	霧ヶ峰系	SWHD	KRM	星ヶ塔第1鉱区(36)、星ヶ塔第2鉱区(36)、星ヶ台A(36)、星ヶ台B(11)、水月霊園(36)、水月公園(13)、星ヶ塔のりこし(36)
	18	蓼科	冷山群	蓼科系	TSTY	TTS	冷山(33)、麦草峠(36)、麦草峠東(33)、渋ノ湯(29)、美し森(4)、八ヶ岳7(17)、八ヶ岳9(18)、双子池(34)
			双子山群		TSHG		双子池(26)
			擂鉢山群		TSSB		擂鉢山(31)、亀甲池(8)
神奈川	19	箱根	芦ノ湯群	芦ノ湯	HNAY		芦ノ湯(34)
	20		畑宿群	畑宿	HNHJ	ASY	畑宿(71)
			黒岩橋群	箱根系A群	HNKI	HTJ	黒岩橋(9)
	21		鍛冶屋群	鍛冶屋	HNKJ	HKNA	鍛冶屋(30)
静岡			上多賀群	上多賀	HNKT	KJY	上多賀(18)
	22	天城	柏峠群	柏峠	AGKT	KMT	柏峠(80)
東京	23	神津島	恩馳島群	神津島1群	KZOB	KSW	恩馳島(100)、長浜(43)、沢尻湾(8)
			砂糠崎群	神津島2群	KZSN	KOZ1	砂糠崎(40)、長浜(5)
島根	24	隠岐	久見群		OKHM	KOZ2	久見パーライト中(30)、久見採掘現場(18)
			箕浦群		OKMU		箕浦海岸(30)、加茂(19)、岸浜(35)
			岬群		OKMT		岬地区(16)
その他			NK群		NK		中ッ原1G、5G(遺跡試料)、原石産地は未発見

V－10　判別図に用いた産地原石判別群（SEA-2110L蛍光X線分析装置による）

判別図法ではZr分率を除く指標をプロットしてグラフ化する。口絵の図で淡色の記号は産地原石を示し、赤色の◆は原町農業高校前遺跡出土の黒曜石を示す。口絵8下表は横軸にRb分率、縦軸にMn強度×100/Fe強度をプロットした図である。口絵8上表は横軸にSr分率、縦軸にlog(Fe強度/K強度)をプロットした図からなる。◆がプロットされたところの原石群がその試料の推定産地となる。

判別分析では、前述のすべての指標を用いる。判別図法で産地を推定する時は、遺跡出土試料のプロットと最も近い所にプロットされる産地をその試料の産地と判別する。言い換えれば、試料と各産地群の中心との距離を比較して、その距離がもっとも短い産地をその試料の産地としている。判別図法の場合には、縦軸と横軸だけの2次元であるが、数学的には3次元以上でも距離を計算することが可能である。判別分析では遺跡出土の各試料毎に各産地との距離(マハラノビス距離と呼ばれる)を計算する。試料との距離がもっとも小さい産地がその試料の産地である、と推定される。また、それぞれの産地とのマハラノビス距離から、試料が各産地に属する確率も計算される。確率が1に近いほど信頼性が高い推定である、といえる。

判別図法と判別分析との結果は非常に一致度が高いが、和田鷹山群と和田小深沢群など元々類似した群の場合には異なる結果となる場合もある。このような場合は判別分析の結果を採用している。

産地推定結果

口絵8上表、8下表中の◆は原町農業高校前遺跡から出土した各試料のプロットである。これらのプロットを淡色で示した記号と比較することにより、分析した75点のうち73点の産地が推定可能であった。

分析試料は前述のとおり長野県以外の黒曜石産地の可能性が高いとされた試料であるが、19点が長野産の黒曜石であった。内訳は和田エリア10点(すべて鷹山群)、諏訪エリア60点で、蓼科エリアの黒曜石はわずかに2点であった。長野県以外の産地では、神津島の黒曜石が1点(HNK-58)含まれていた。

個々の試料の産地推定結果は以下のとおりである。

研究室通し番号	分析番号	遺構	図版番号	遺物番号	推定産地	器種属性	判別図判別群	判別分析					
								第1候補産地			第2候補産地		
								判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MK02-4646	HNK-1	1竪穴	PL-35-1	2	諏訪星ヶ台群	石鏃	SWHD	SWHD	1.9	1	SBIY	90.59	0
MK02-4647	HNK-2	G-8	PL-35-10	15	諏訪星ヶ台群	石鏃	SWHD	SWHD	2.2	1	SBIY	86.25	0
MK02-4648	HNK-3	L-10	PL-35-13	40	諏訪星ヶ台群	石鏃	SWHD	SWHD	2.46	1	SBIY	112.98	0
MK02-4649	HNK-4	2溝	PL-36-36	2	諏訪星ヶ台群	使用痕石器	SWHD	SWHD	0.54	1	SBIY	81.91	0
MK02-4650	HNK-5	3住	PL-35-33	青5	諏訪星ヶ台群	両極石器	SWHD	SWHD	11.11	1	SBIY	68.13	0
MK02-4651	HNK-6	4住	PL-35-34	青2	諏訪星ヶ台群	両極石器	SWHD	SWHD	14.02	1	SBIY	105.61	0
MK02-4652	HNK-7	5住	PL-35-25	7	推定不可	石匙	推定不可	推定不可			推定不可		
MK02-4653	HNK-8	5住	PL-36-50	124	諏訪星ヶ台群	原石	SWHD	SWHD	4.03	1	WDTN	98.34	0
MK02-4654	HNK-9	5住	PL-35-19	196	諏訪星ヶ台群	石錐	SWHD	SWHD	7.08	1	SBIY	90.83	0
MK02-4655	HNK-10	N-10	PL-35-14	43	諏訪星ヶ台群	石鏃	SWHD	SWHD	21.09	1	SBIY	78.65	0
MK02-4656	HNK-11	5住	PL-35-2	25	諏訪星ヶ台群	石鏃	SWHD	SWHD	1.04	1	SBIY	84.22	0
MK02-4657	HNK-12	5住	PL-35-3	32	諏訪星ヶ台群	石錐	SWHD	SWHD	1.46	1	SBIY	103.32	0
MK02-4658	HNK-13	5住	PL-35-4	78	和田鷹山群	石鏃	WDTY	WDTY	14.67	1	WDHY	33.54	0
MK02-4659	HNK-14	5住	PL-35-5	128	諏訪星ヶ台群	石鏃	SWHD	SWHD	3.39	1	SBIY	90.18	0
MK02-4660	HNK-15	5住	PL-35-6	127	諏訪星ヶ台群	石鏃	SWHD	SWHD	2.74	1	SBIY	77.69	0
MK02-4661	HNK-16	5住	PL-35-8	201	和田鷹山群	石鏃	WDTY	WDTY	8.02	1	WDHY	38.26	0
MK02-4662	HNK-17	5住	PL-35-7	202	諏訪星ヶ台群	石鏃	SWHD	SWHD	10.97	1	WDTN	115.31	0
MK02-4663	HNK-18	5住	PL-35-9	198	諏訪星ヶ台群	石鏃	SWHD	SWHD	6.37	1	WDTN	126.23	0
MK02-4664	HNK-19	5住	PL-35-21	199	和田鷹山群	掻器断片	WDTY	WDTY	2.27	1	WDHY	25.27	0
MK02-4665	HNK-20	5住	PL-35-20	200	和田鷹山群	掻器	WDTY	WDTY	3.02	1	WDKB	26.71	0
MK02-4666	HNK-21	5住	PL-36-49	間接1	諏訪星ヶ台群	石核	SWHD	SWHD	10.12	1	WDTN	72.75	0
MK02-4667	HNK-22	5住	PL-36-44	間接2	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	4.45	1	SBIY	95.54	0
MK02-4668	HNK-23	5住	PL-36-43	間接3	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	14.31	1	SBIY	143.79	0
MK02-4669	HNK-24	5住	PL-36-40	間接4	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	8.76	1	SBIY	110.29	0
MK02-4670	HNK-25	5住	PL-36-41	間接5	和田鷹山群	剥片	WDTY	WDTY	3.74	1	WDHY	26.18	0
MK02-4671	HNK-26	5住	PL-36-42	間接6	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	1.08	1	SBIY	99.91	0
MK02-4672	HNK-27	5住	PL-35-28	a	諏訪星ヶ台群	両極石器	SWHD	SWHD	15.35	1	SBIY	148.9	0
MK02-4673	HNK-28	5住	PL-35-29	b	諏訪星ヶ台群	両極石器	SWHD	SWHD	9.7	1	SBIY	86.03	0
MK02-4674	HNK-29	5住	PL-35-30	c	蓼科冷山群	両極石器	TSTY	TSTY	14.19	1	TSHG	68.23	0
MK02-4675	HNK-30	5住	PL-35-31	d	和田鷹山群	両極石器	WDTY	WDTY	4.62	0.9995	WDHY	17.59	5E-04
MK02-4676	HNK-31	5住	PL-36-37	e	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	4.53	1	SBIY	84.17	0
MK02-4677	HNK-32	5住	PL-36-38	f	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	3.16	1	SBIY	85.79	0
MK02-4678	HNK-33	5住	PL-36-39	g	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	13.47	1	SBIY	93.52	0
MK02-4679	HNK-34	5住	PL-36-48	h	諏訪星ヶ台群	石核	SWHD	SWHD	7.41	1	SBIY	85.3	0
MK02-4680	HNK-35	5住	PL-35-27	PIT5	諏訪星ヶ台群	両極石器	SWHD	SWHD	6.39	1	SBIY	86.88	0
MK02-4681	HNK-36	5住	PL-36-45	197	諏訪星ヶ台群	両極剥片	SWHD	SWHD	7.75	1	SBIY	118.28	0
MK02-4682	HNK-37	J-7	PL-36-51	緑37	諏訪星ヶ台群	原石	SWHD	SWHD	6.65	1	SBIY	89.43	0
MK02-4683	HNK-38	I-10	PL-35-12	33	諏訪星ヶ台群	石鏃	SWHD	SWHD	9.68	1	WDTN	91.98	0
MK02-4684	HNK-39	Y-15	PL-35-16	53	諏訪星ヶ台群	石鏃	SWHD	SWHD	5.02	1	SBIY	73.8	0

V－11－1　原町農業高校前遺跡出土黒曜石製石器の産地推定結果
判別図法・判別分析からの最終推定結果

研究室通し番号	分析番号	遺構	図版番号	遺物番号	推定産地	器種属性	判別図判別群	判別分析					
								第1候補産地			第2候補産地		
								判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MK02-4685	HNK-40	Y-15	PL-35-15	55	和田鷹山群	石鏃	WDTY	WDTY	4.91	1	WDHY	35.46	0
MK02-4686	HNK-41	Y-15	PL-35-17	56	諏訪星ヶ台群	石鏃	SWHD	SWHD	14.82	1	SBIY	131.2	0
MK02-4687	HNK-42	B-6	PL-35-32	緑 1	諏訪星ヶ台群	両極石器	SWHD	SWHD	8.06	1	SBIY	110.49	0
MK02-4688	HNK-43	N-11	PL-36-46	緑46	推定不可	両極石器	推定不可	推定不可			推定不可		
MK02-4689	HNK-44	Y-15	PL-36-47	54	諏訪星ヶ台群	両極剥片	SWHD	SWHD	12.64	1	WDTN	111.61	0
MK02-4690	HNK-45	表採	PL-35-18	5	諏訪星ヶ台群	石鏃	SWHD	SWHD	3.64	1	SBIY	64.18	0
MK02-4691	HNK-46			0	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	4.69	1	SBIY	79.64	0
MK02-4692	HNK-47			0	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	4.18	1	SBIY	114.55	0
MK02-4693	HNK-48			0	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	9.39	1	SBIY	76.31	0
MK02-4694	HNK-49			0	諏訪星ヶ台群	石核	SWHD	SWHD	8.55	1	SBIY	63.55	0
MK02-4695	HNK-50			0	諏訪星ヶ台群	石核	SWHD	SWHD	2.13	1	SBIY	80.62	0
MK02-4696	HNK-51			0	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	2.31	1	SBIY	100.33	0
MK02-4697	HNK-52			0	和田鷹山群	剥片	WDTY	WDTY	7.73	0.9365	WDHY	10.68	0.064
MK02-4698	HNK-53			0	諏訪星ヶ台群	石核	SWHD	SWHD	2.18	1	SBIY	95.58	0
MK02-4699	HNK-54			0	蓼科冷山群	両極石器	TSTY	TSTY	4.58	1	TSHG	38.77	0
MK02-4700	HNK-55			0	和田鷹山群	剥片	WDTY	WDTY	6.06	1	WDKB	34.57	0
MK02-4701	HNK-56			0	諏訪星ヶ台群	裂片	SWHD	SWHD	18.48	1	SBIY	72.7	0
MK02-4702	HNK-57			0	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	2.97	1	WDTN	98.4	0
MK02-4703	HNK-58			0	神津島恩馳島群	裂片	KZOB	KZOB	10.4	1	KZSN	91.85	0
MK02-4704	HNK-59			0	諏訪星ヶ台群	石核	SWHD	SWHD	5.46	1	WDTN	92.72	0
MK02-4705	HNK-60			0	諏訪星ヶ台群	二次加工剥片	SWHD	SWHD	2.73	1	SBIY	86.18	0
MK02-4706	HNK-61			0	諏訪星ヶ台群	裂片	SWHD	SWHD	1.2	1	SBIY	93.33	0
MK02-4707	HNK-62			0	諏訪星ヶ台群	石核	SWHD	SWHD	6.57	1	WDTN	77.29	0
MK02-4708	HNK-63			0	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	3.07	1	SBIY	100.22	0
MK02-4709	HNK-64			0	諏訪星ヶ台群	石核	SWHD	SWHD	2	1	SBIY	86.32	0
MK02-4710	HNK-65			0	諏訪星ヶ台群	裂片	SWHD	SWHD	6.27	1	WDTN	77.58	0
MK02-4711	HNK-66			0	諏訪星ヶ台群	裂片	SWHD	SWHD	7.56	1	WDTN	92.09	0
MK02-4712	HNK-67			0	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	3.23	1	SBIY	84.07	0
MK02-4713	HNK-68			0	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	11.22	1	WDTN	130.62	0
MK02-4714	HNK-69			0	諏訪星ヶ台群	両極石器	SWHD	SWHD	7.1	1	SBIY	109.5	0
MK02-4715	HNK-70			0	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	17.77	1	SBIY	105.98	0
MK02-4716	HNK-71			0	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	3.38	1	SBIY	97.99	0
MK02-4717	HNK-72			0	和田鷹山群	剥片	WDTY	WDTY	2.12	1	WDKB	35.15	0
MK02-4718	HNK-73			0	諏訪星ヶ台群	原石	SWHD	SWHD	7.43	1	SBIY	82.76	0
MK02-4719	HNK-74			0	諏訪星ヶ台群	二次加工剥片	SWHD	SWHD	3.95	1	SBIY	105.69	0
MK02-4720	HNK-75			0	諏訪星ヶ台群	剥片	SWHD	SWHD	11.13	1	WDTN	116.57	0

V－11－2　原町農業高校前遺跡出土黒曜石製石器の産地推定結果
判別図法・判別分析からの最終推定結果

上記表において、判別図判別群の列は判別図法による結果を示す。判別分析の候補1、候補2の列は判別分析による推定産地の第1候補、第2候補を示す。また、距離1、距離2は個々の試料と候補1、候補2の産地間のマハラノビス距離を、確率1、確率2は個々の試料が候補1、候補2の産地に属する確率を示す。本遺跡では判別図法と判別分析の結果は一致している。

第3節　原町農業高校前遺跡出土の炭化種実同定と樹種同定

第1項　炭化物の同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

原町農業高校前遺跡は、八ヶ岳南麓の七里岩台地上に位置する。今回の発掘調査により、縄文時代、古墳時代、平安時代の竪穴住居跡、土坑、溝などが検出されている。このうち、古墳時代の3号住居跡は火災住居跡であり、住居構築材が良好な状態で出土している。

今回の分析調査では、3号住居跡を中心とした各時代の住居跡から検出された炭化物の同定を行う。当初は、種実遺体の同定を中心に行い、植物質食糧などについて情報を得ることを目的とした。しかし、試料の観察で、ほとんどが炭化材と考えられたことから、炭化材の樹種同定を行い、種実が認められた場合にはその同定を行うことにした。

1. 試料

試料は、1号、3号、4号、5号住居跡から検出された炭化物で合計28点ある。いずれも炭化材を中心とした炭化物が多数入っている。そのため、各試料から無作為に5点、合計140点の炭化材を抽出した。

2. 方法

炭化材は、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。また、各試料を実体顕微鏡下で精査して種実遺体の有無を確認し、種実が認められた場合は、その形態的特徴を観察して種類を同定する。

3. 結果

炭化物の同定結果を、表Ⅴ－12に示す。5号住炉焼土からは種実遺体が検出され、オニグルミに同定された。しかし、その他の試料からは種実遺体は検出されなかった。一方、炭化材は、種類不明の樹皮を除く117点が、針葉樹2種類(モミ属・ヒノキ属)、広葉樹3種類(コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ)とイネ科タケ亜科に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を、以下に記す。

＜種実遺体＞

・オニグルミ(*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim) Kitamura)　　クルミ科クルミ属

核の細片が検出された。大きさはいずれも数ミリと小さいが、木質で非常に堅い点、表面にしわ模様が存在する点などから、オニグルミとした。

＜炭化材＞

・モミ属(*Abies*)　　マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1～20細胞高。

・ヒノキ属(*Chamaecyparis*)　ヒノキ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1～15細胞高。

地点	遺構	時代	出土位置	試料の質	点数	樹　　種
1地点	1号住	平安時代	カマド　上	炭化材	5	モミ属(5)
1地点	3号住	古墳時代	焼土No.1　上	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(5)
			焼土No.1	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(5)
			焼土No.2　上	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
						イネ科タケ亜科(1)
			焼土No.2　下	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(2)
						イネ科タケ亜科(1)
						樹皮(2)
			焼土No.3　上	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(3)
						イネ科タケ亜科(2)
			焼土No.3　下	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(3)
						樹皮(2)
			焼土No.4　上	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(2)
						イネ科タケ亜科(1)
						樹皮(2)
			焼土No.4　下	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(1)
						イネ科タケ亜科(1)
						樹皮(3)
			焼土No.5　上	炭化材	5	イネ科タケ亜科(5)
			焼土No.6	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(3)
						樹皮(2)
			焼土No.7	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(5)
			焼土No.8　上	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(5)
			焼土No.9　上	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(5)
			焼土No.9　下	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(1)
						樹皮(4)
			焼土No.10　上	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(5)
			焼土No.11	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(5)
			貯蔵穴(上層部)　上	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(5)
			貯蔵穴(上層部)　下	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(1)
						樹皮(4)
			貯蔵穴(中層部)	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(5)
			貯蔵穴(下層部)	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
						イネ科タケ亜科(1)
			床面直上	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(1)
						樹皮(4)
				炭化材	5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(5)
1地点	4号住	平安時代	カマド	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属コナラ節(1)
			第1グループ　上	炭化材	5	ヒノキ属(3)
						クリ(2)
			第1グループ　下	炭化材	5	ヒノキ属(2)
						クリ(3)
			第2グループ　上	炭化材	5	ヒノキ属(3)
						コナラ属コナラ亜属クヌギ節(1)
						クリ(1)
1地点	5号住	縄文時代	炉焼土	炭化材	5	クリ(5)
				種実遺体	3	オニグルミ(3)

V－12　炭化物の同定結果

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節(*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*)　　ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～3列、孔圏外で急激～緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節(*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*)　　ブナ科

環孔材で、孔圏部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)　　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は1～4列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・イネ科タケ亜科(Gramineae subfam. Bambusoideae)

維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱が認められ、放射組織は認められない。タケ亜科は、タケ・ササ類であるが解剖学的特徴では区別できない。

4. 考察

(1)植物質食糧について

5号住炉焼土から出土した種実遺体は、オニグルミであった。オニグルミは、生食可能であり、縄文時代の重要な植物質食糧の一つであったと考えられている(粉川、1983)。また、種実遺体は検出されなかったが、5号住の炭化材に認められたクリも重要な植物食糧の一つであり、縄文時代には栽培されていた可能性も指摘されている(千野、1983)。オニグルミは、高根町社口遺跡でも確認されており(新山、1997)、今回の結果とも一致する。これらの結果から、本遺跡周辺では、オニグルミやクリなどが植物質食糧として利用されていたことが推定される。

古墳時代と平安時代については、種実遺体が検出できなかったため、植物質食糧に関する詳細は不明である。本地域でこれまで行われた調査では、平安時代にムギ類が多く認められている(櫛原、1999)。そのため、本遺跡周辺でも栽培されていた可能性があるが、現時点では不明である。また、平安時代の炭化材にはクリが認められていることから、縄文時代と同様に植物食糧として利用されていた可能性がある。

(2)炭化材について

住居から出土した炭化材のうち、カマドや炉から出土した炭化材は燃料材などの一部が炭化・残存した可能性がある。また、古墳時代の3号住は火災住居跡であることから、住居構築材の一部と考えられる。

これらの炭化材には、合計5種類の木材とタケ亜科が認められた。時代別に見ると、縄文時代にはクリが利用されているが、古墳時代にはクヌギ節・コナラ節が多く利用され、クリは全く認められない。平安時代では、クヌギ節とクリが混在し、他の時期には見られない針葉樹材が多数認められる。この結果から、時代によって炭化材の種類構成が異なることがうかがえる。同様の変化は、これまで県内で行われた樹種同定結果や関東地方での調査例でも認められている(高橋、1987；パリノ・サーヴェイ株式会社、1993、1994；高橋・植木、1994；植田、1997等)。このような変化は、周辺植生の変化などを反映した結果と考えられている(千野、1991；高橋・植木、1994)。

引用文献

千野裕道(1983)縄文時代のクリと集落周辺植生　－南関東地方を中心に－。東京都埋蔵文化財センター研究論集、Ⅱ、p. 25-42。

千野裕道(1991)縄文時代に二次林はあったか　－遺跡出土の植物性遺物からの検討－。東京都埋蔵文化財センター研究論集、X、p. 215-249。

粉川昭平(1983)縄文人の主な植物食糧。加藤晋平・小林達雄・藤本　強編「縄文文化の研究2　生業」、p. 42-49、雄山閣。

櫛原功一(1999)炭化種実から探る食生活　－古代～中世を中心に－。櫛原功一編「帝京大学山梨文化財研究所　研究集会報告集2　食の復元　－遺跡・遺物からなにを読みとるか－」、p. 81-98、岩田書院。

新山雅広(1997)社口遺跡から産出した大型植物化石。「社口遺跡第3次調査報告書」、p. 191-194、山梨県北巨摩郡高根町教育委員会・社口遺跡発掘調査団。

パリノ・サーヴェイ株式会社(1993)上北田遺跡から出土した炭化材および炭化種子の同定。「山梨県北巨摩郡白州町　上北田遺跡県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」、p. 1-5、白州町教育委員会・狭北土地改良事務所。

パリノ・サーヴェイ株式会社(1994)健康村遺跡自然科学分析調査報告。「山梨県北巨摩郡長坂町　健康村遺跡　－(仮称)東京都新宿区立区民健康村建設事業に伴う発掘調査報告書－」、p. 116-128、新宿区区民健康村遺跡調査団。

高橋利彦(1987)炭化材について。「山梨県韮崎市　中本田遺跡・堂の前遺跡　県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」、p. 56-60、韮崎市教育委員会・狭北土地改良事務所。

高橋　敦・植木真吾(1994)樹種同定からみた住居構築材の用材選択。PALYNO、2、p. 5-18、パリノ・サーヴェイ株式会社。

植田弥生(1997)社口遺跡から出土した炭化材の樹種。「社口遺跡第3次調査報告書」、p. 194-198、山梨県北巨摩郡高根町教育委員会・社口遺跡発掘調査団。

第2項　住居構築材の樹種同定

はじめに

原町農業高校前遺跡は、発掘調査により、縄文時代、古墳時代、平安時代の竪穴住居跡、土坑、溝などが検出されている。このうち、古墳時代の3号住居跡はいわゆる火災住居跡であり、床面上に垂木などの住居構築材が良好な状態で出土している。また、平安時代の1号住居跡では、北壁に沿って編んだ痕跡のある炭化物が出土しており、壁材が想定されている。

今回の分析調査では、3号住居跡から出土した炭化材と1号住居跡から出土した炭化物の樹種同定を行い、用材に関する資料を得る。

1. 試料

試料は、1号住居跡から出土した編み物状の炭化物1点(Bブロック)と、3号住居跡から出土した住居構築材と考えられる炭化材85点(炭化材種子、集中－2、C－1～47、48①、48②、49～60、61－1～61－3、62～75、77～81)である。各試料の詳細は、樹種同定結果とともに表V－13に記した。

2. 方法

木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3. 結果

樹種同定結果を表V－13に示す。3号住C－27は、道管が認められることから広葉樹材であるが、保存状態が悪く種類の同定には至らなかった。その他の試料は、針葉樹1種類(ヒノキ科)と広葉樹3種類(ハンノキ属ハンノキ亜属・クマシデ属クマシデ節・コナラ属コナラ亜属クヌギ節)に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を、以下に記す。

・ヒノキ科(Cupressaceae)

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、1分野に1～4個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・ハンノキ属ハンノキ亜属(*Alnus* subgen. *Alnus*)　　カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2～4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1～30細胞高のものと集合放射組織とがある。

・クマシデ属クマシデ節(*Carpinus* sect. *Distegocarpus*)　　カバノキ科

散孔材で、管孔は放射方向に2～4個が複合して散在する。道管は階段孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は異性Ⅲ～Ⅱ型、1～3細胞幅、1～40細胞高のものと集合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節(*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*)　　ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・イネ科タケ亜科(Gramineae subfam. Bambusoideae)

維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱が認められ、放射組織は認められない。タケ亜科は、タケ・ササ類であるが解剖学的特徴では区別できない。

遺構	時代	試料番号	樹　　種
1号住	平安時代	1ブロック	イネ科タケ亜科
3号住	古墳時代	炭化材種子	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		集中-2	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-1	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-2	樹皮
		C-3	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-6	ハンノキ属ハンノキ亜属
		C-7	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-8	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-9	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-10	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-11	ヒノキ属
		C-12	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-13	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-14	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-15	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-16	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-17	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-18	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-19	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-20	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-21	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-22	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-23	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-24	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-25	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-26	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-27	広葉樹
		C-28	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-29	ハンノキ属ハンノキ亜属
		C-30	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-31	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-32	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-33	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-34	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-35	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-36	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-37	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-38	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-39	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-40	コナラ属コナラ亜属クヌギ節

遺構	時代	試料番号	樹　　種
3号住	古墳時代	C-41	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-42	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-43	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-44	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-45	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-46	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-47	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-48①	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-48②	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-49	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-50	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-51	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-52	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-53	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-54	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-55	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-56	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-57	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-58	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-59	クマシデ属クマシデ節
		C-60	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-61-1	イネ科タケ亜科
		C-61-2	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-61-3	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-62	ハンノキ属ハンノキ亜属
		C-63	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-64	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-65	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-66	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-67	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-68	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-69	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-70	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-71	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-72	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-73	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-74	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-75	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-77	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-78	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-79	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-80	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		C-81	コナラ属コナラ亜属クヌギ節

V－13　樹種同定結果

4. 考察

古墳時代の3号住居跡から出土した炭化材は、壁側から住居中央に向かって倒れたような状況を示すものが多く見られ、垂木などが炭化・残存した可能性がある。炭化材は、多くがクヌギ節であり、他にヒノキ科、ハンノキ亜属、クマシデ節、タケ亜科が認められた。クヌギ節が多い結果は、焼土などを水洗選別して得られた炭化物の同定結果とも一致している。この結果から、住居構築材の多くの部材にクヌギ節が利用されていたことが推定される。クヌギ節の木材は、強度に優れた材質を有している(平井、1979)。また、二次林(雑木林)の構成種として、人里近くに広く見られる種類である。これらの点が、クヌギ節の木材が大量に利用された背景として考えられる。県内では、韮崎市堂の前遺跡の弥生時代後期後半の住居跡から出土した炭化材にクヌギ節の多い結果が認められている(高橋、1987)。この結果から、同様の用材が弥生時代から行われていたことが推定される。ハンノキ亜属とクマシデ節も比較的強度が高いことから、クヌギ節と同様に利用されていたことが推定される。タケ亜科は、焼土の水洗選別試料にも多く認められており、住居内に広く分布していることがうかがえる。材質などを考慮すれば、壁や屋根

などに利用された一部が炭化・残存したものと考えられる。

3号住居跡では、このほか針葉樹のヒノキ科が1点認められた。水洗選別された試料の調査では、平安時代の住居跡には針葉樹のモミ属やヒノキ属が認められたものの、古墳時代の3号住居跡からは認められていなかった。今回の結果から、古墳時代においても針葉樹材が利用されていたことがうかがえる。3号住居跡におけるヒノキ科の出土状況を見ると、南隅の壁際付近から小片で出土しており、利用時の部材の形状や大きさなどは不明である。古墳時代の住居跡から針葉樹材が出土した例としては、埼玉県中耕遺跡の垂木や、群馬県渋川市中筋遺跡第8次調査の貯蔵穴の蓋材などがある(パリノ・サーヴェイ株式会社、1993;橋本ほか、1995)。これらの結果から、針葉樹材は広葉樹材と同様に垂木等の部材に利用される場合と、針葉樹材の割りやすい材質を生かして板材として利用される場合とがあったことが推定される。3号住居跡の場合は、周辺に貯蔵穴などが見られないことから、垂木や横木などの部材の一部であった可能性もある。

平安時代の1号住居跡の壁材と考えられる編み物状の炭化物は、タケ亜科であった。この結果は、古墳時代の3号住居跡の結果とも調和的である。いずれも小径であることから、小径の種類または枝を利用したと考えられる。また、ヨシ属やススキ属も類似した組織を有することから、タケ亜科以外にも大型のイネ科草本類も利用されている可能性がある。

引用文献

橋本真紀夫・高橋　敦・馬場健司・田中義文(1995b)自然科学分析。渋川市発掘調査報告書第45集「中筋遺跡　第8次・第9次」、p. 73-100、群馬県渋川市教育委員会。

平井信二(1979)木の事典　第2巻。かなえ書房。

パリノ・サーヴェイ株式会社(1993)中耕遺跡出土遺物の自然科学分析報告。埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第125集「坂戸市　中耕遺跡　住宅・都市整備公団坂戸入西地区土地区画整理事業関係埋蔵文化財発掘調査報告　－Ⅵ－　本文編(第1分冊)」、p. 320-365、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団。

高橋利彦(1987)炭化材について。「山梨県韮崎市　中本田遺跡・堂の前遺跡　県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」、p. 56-60、韮崎市教育委員会・狭北土地改良事務所。

第Ⅵ章　まとめ

第１節　縄文時代中期中葉の遺物様相について

縄文中期中葉の遺構の中で多くの遺物を出土した第5号住居跡の様相を捉えてみたい。本住居跡は、9本柱穴で、逆五角形を呈する周溝が巡り、2段階(新・古)の建て替え(拡張)が想定される。遺物では、中期中葉を主体とする土器群をはじめ、多量の打製石斧などの石器群や土偶、円盤、耳飾などの土製品がまとまって出土している。

第１項　土器(PL－19～29)

第5号住居跡では、覆土中に中期土器群：狢沢式期(112)、新道式期(113・114)及び曽利式期(116～132)、加曽利E4式期(133～143)や後期土器群：称名寺式期(144～157)、加曽利B式期(158)などが混入しているが、藤内式期～井戸尻式期の土器群がまとまって出土している。

藤内式期～井戸尻式期の土器は、深鉢形土器を主体として、浅鉢形土器、有孔鍔付土器、小型土器、ミニチュア土器(1～110、163～172)などが出土し、多くが小破片のため時期決定には不確定な部分もあるが、藤内式期3・4段階(第Ⅱ群C類3～4段階)～井戸尻式期1段階(第Ⅱ群D類1段階)の大きく2期に分けられる。各期の出土土器は、表3－Ⅰに示したようにC類3～4段階では、3種(パネル文)及び4種(抽象文)、D類1段階では、1種(重三角区画文)及び6種(縄文地文)が、それぞれ主体的に出土している。また、C類では、新保・新崎式期(115)、D類では、平出Ⅲ類A系式期(111)が確認されている。C・D類の出土状況は、PL－4～6及び図Ⅵ－3に図示した。後世の攪乱等の影響も認められたが、層位的にはC類3～4段階では、床面から覆土中層、D類1段階では、床面直上～覆土中層を中心にそれぞれ分布している。平面的には、C類3～4段階では、住居中央から西側にかけて主に分布し、D類1段階では、住居中央よりやや西側に分布し、C類の分布の希薄な場所からの出土が主体的となり、出土位置の相違が認められる。C類3～4段階、D類1段階における時期差はほぼ層位的に捉えられたと思われる。

以上、本住居跡の廃絶は、藤内式期3・4段階(C類3～4段階)と思われるが、その直後に井戸尻式期1段階(D類1段階)の土器が一括廃棄された状況が捉えられたと思われる。

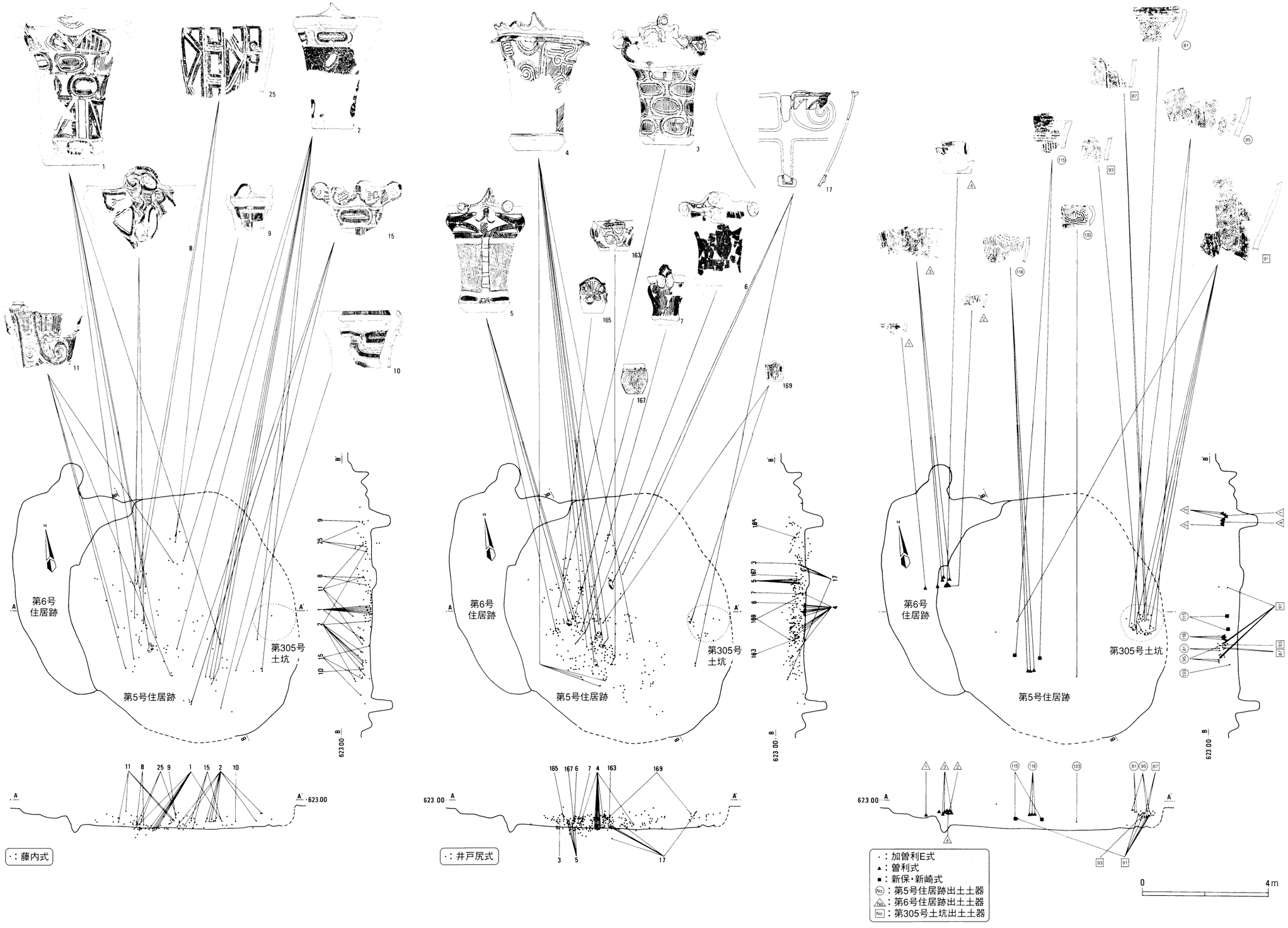
第２項　石器 (PL－35～48)

今回の調査では、総数331点の石器が発見され、その内65%にあたる216点が第5住居跡から出土し、器種組成では、表Ⅵ－1に示したように、剥片9点(4.2%)、石核4点(1.9%)、残核3点(1.4%)、原石1点(0.5%)、礫11点(5.1%)、石鏃8点(3.7%)、石錐1点(0.5%)、掻器2点(0.9%)、石匙3点(1.4%)、両極石器5点(2.3%)、使用痕石器1点(0.5%)、打製石斧68点(31.5%)、打製石斧素材剥片1点(0.5%)、打製石斧成形剥片38点(17.6%)、粗製石匙4点(1.9%)、削器17点(7.9%)、礫器18点(8.3%)、ハンマー2点(0.9%)、磨製石斧1点(0.5%)、磨石類13点(6.0%)、石皿5点(2.3%)、台石1点(0.5%)などが見られる。

特に注目されるのは、土器の混和剤(121など)と考えられる花崗岩片3点が出土しており、本遺跡における土器製作を捉える上で重要となろう。また、ホルンフェルス、砂岩、安山岩を石材とする打製石斧素材剥片(82)、打製石斧成形剥片(83など)、ハンマー(114～116)、台石など石器製作関連資料の出土である(図Ⅵ－4)。ここでは、これらの資料から打製石斧及び石匙・削器・礫器の製作工程を復元してみたい。

器種	剥片	石核	残核	原石	礫	石鏃	石錐	掻器	石匙	両極石器	使用痕石器	打製石斧	打斧素材剥片	打斧成形剥片	粗製石匙	削器	礫器	ハンマー	磨製石斧	磨石類	石皿	台石	総計
安山岩					8							8		7			14			13	4	1	55
黒色安山岩									3														3
砂岩		1	2		2							27	1	11	1	10	3	2					60
ホルンフェルス		1	1									28		19	2	7	1						59
黒曜石	9	2		1		8	1	2		5	1												29
粘板岩												4		1									5
緑色凝灰岩																			1				1
頁岩															1								1
花崗岩					1																		1
斑岩																					1		1
ハンレイ岩												1											1
総計	9	4	3	1	11	8	1	2	3	5	1	68	1	39	4	17	18	2	1	13	5	1	216

Ⅵ－1　第5号住居跡出土石器の石材組成



Ⅵ-2　第5・6号住居跡・第305号土坑出土土器分布

(1)打製石斧　打製石斧の製作に関する主要属性は、表Ⅵ－2に示した。まず目的とする剥片より大きな原石から剥離(楕円礫にハンマーで打撃を加えるなど)を行い、次に分割した横長素材剥片(82)を素材とし、長い両側辺と短辺の一端(刃部)にハードハンマー(116)による垂直方向からの直接打撃(HD／垂直)の加工を施し、貝殻状剥離が観察される。出土資料(52～74など)は、基本的に同じ製作技法が行われているが、HD／垂直と敲打(73)や素材打面部叩き折り(68・71)なども見られる。また、両側辺における刃潰し加工の位置の違いにより、横型(68・72など：並行)と縦型(52～67・69～71など：異なる)の装着方法が想定される。

(2)石匙・削器・礫器　石匙・削器・礫器は打製石斧と同種の石材で製作されたものが多く、これらの中には打製石斧の製作における原石から素材剥片を剥離する工程で生ずる剥片：打製石斧成形剥片(83など)を利用して製作されたものが認められる(削器：91・94など、礫器： 98など)。

以上のように、本遺跡においては打製石斧とその成形剥片を利用する石匙・削器・礫器の製作のシステム化が図られており、藤内式期～井戸尻式期における石器製作の一様相が捉えられよう。

装着方法	原石		剥片剥離		剥片	成形加工				使用痕	
	形状	石材		剥離方法	横長剥片	側辺部・刃部	剥離形状	刃潰し	刃部形状	摩耗	刃こぼれ
横型 (68・72)	楕円礫 など	ホルンフェルス 砂岩 安山岩 粘板岩	目的とする剥片より大きな原石から剥離する ※主要剥離面と背面には自然面や摂理面が見られるものもある	・原石を台石の上に置き手に持ったハンマーにより打撃を加える ※この他、原石を持って固定された石に当てたり(台石技法)、扁平な石材の縁が打点となるよう固定された上に石を落下させる方法なども考えられる。	・比較的薄い扁平な剥片 ・やや厚みのある剥片(82)	HD／垂直 (ハードハンマーによる垂直方向からの直接打撃) ※116:ハードハンマー ※73:HD／垂直と敲打 ※68.71:素材打面部叩き折る	貝殻状剥離	両側辺の並行する位置にある	直刃 凸刃 円刃	表面刃部 (52.56.59.64.65.67)	表面刃部 (60.61.63.69.70.71)
縦型 (52～67.69～71)								両側辺の異なる位置にある			

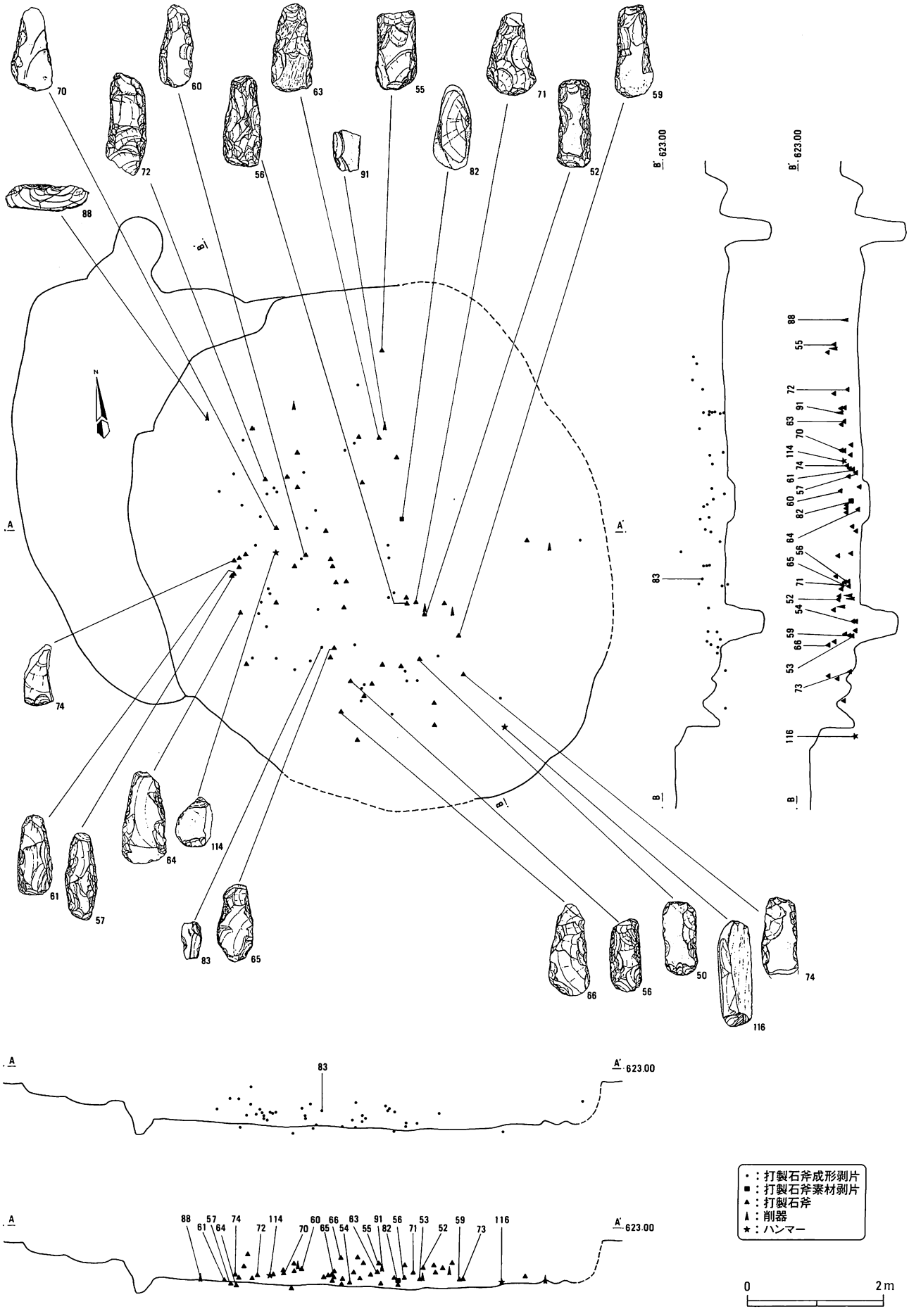
Ⅵ－3　第5号住居跡出土の打製石斧主要属性

第2節　古墳時代中期の焼失住居について

第3号住居跡は、床面やその直上に多くの焼土面や炭化物が検出された焼失住居である。これらの燃焼状況から住居構造について考えてみたい。個々の柱穴を結ぶ方形ラインの内側の床面に焼土面の形成が見られる。これは、家屋の燃焼過程で葺材や垂木材をはじめ簗・桁材・棟材などが潰れたため燃焼が進行したことによると考えられよう。また、一方では方形ラインの内外に炭化材が残る状況から、簗・桁材・棟材の落下の遅れが考えられ、本住居ではほぞ孔を持つ炭化材の出土から、簗・桁材を柱に組んだ構造も考えられ、落下の遅れの要因として考えられる。壁際の炭化材(垂木など)の良好な遺存状況からは、覆土(第12層)の検出状況と合わせ、土葺が簗・桁材付近より下だけに施されていた可能性が考えられる。

第3節　仏教関連遺物について

平安時代の主な遺構は、9世紀後半代の住居跡2軒が検出し、散在的な分布状況が確認されている。この内、第1号住居跡からは、壁際に2枚重なった状態でそれぞれ「寺」、「良」と記された墨書土器(「寺」：上位)が出土し、いずれも信州系黒色土器の坏で内面に黒色処理が施され、体部外面に正位で墨書されている。住居構造では、壁外柱穴(長坂町石原田北遺跡、須玉町西川遺跡、同町上ノ原遺跡に検出例有り)の他、竪穴壁下に径約8cmの小ピット7基を伴う周溝が全周し、全周囲の壁に水平又は斜めに陥入する小ピットが28基存在している。八ヶ岳南麓及び茅ヶ岳西麓における平安時代の遺跡は、9世紀中頃に形成され、10世紀中頃には廃絶するという傾向が見られ、東日本の各地で認められる計画的な山麓開発或いは御牧経営との関連した動向と理解されており、本遺跡出土資料は同時期の「寺」の墨書土器を出土した小淵沢町前田遺跡や則天文字を記した文字資料を出土した大泉村豆生田第3遺跡、長坂町柳坪遺跡、明野村屋敷添遺跡などと共に本地域における新興集落の出現段階から仏教信仰の普及が開始されたことを示唆するものと思われる。また、本地域における仏教関連遺跡では、明らかに「仏堂」と思われる遺構が存在しない状況で本遺跡も同様である。本遺跡の該期遺構の散在的な分布と特殊構造及び転用硯(8)を検出した住居の存在は、本地域における仏教信仰の集落内における在り方の一端を示唆する可能性があろう。なお、「良」の墨書土器は、「寺」の刻書土器の他、鉄鉢形須恵器、三彩陶器など仏教関連遺物を多量に出土した韮崎市宮ノ前遺跡においても確認されており、仏教関連遺物としての性格が捉えられよう。



Ⅵ-4　第5･6号住居跡出土石器分布

【遺構】

■遺物集中区一覧表

遺構番号	調査地点	グリッド	形状	規模 ( )：現存値 [ ]：復元値 長軸(cm)	規模 短軸(cm)	深さ(cm)	時期	諸特徴	出土遺物 土器
1	第1地点	D・E・F－7・8G	長楕円形	1000	500	40	Ⅰ	埋没谷に形成	押型文約80点、撚糸文3点

■竪穴状遺構一覧表

遺構番号	調査地点	グリッド	形状	規模 ( )：現存値 [ ]：復元値 長軸(cm)	規模 短軸(cm)	深さ(cm)	時期	諸特徴	出土遺物 土器	出土遺物 石器
1	第1地点	E・F－7G	不整円形	308	228	66	Ⅰ	坑底部に小ピット13	押型文7点	石鏃未製品1点(No.1)、石皿1点(No.149)

■住居跡一覧表

遺構番号	調査地点	グリッド	形状	規模 ( )：現存値 [ ]：復元値 長軸(cm)	規模 短軸(cm)	深さ(cm)	床面積(m²)	長軸方位	かまど位置	時期	諸特徴
1	第1地点	D・E－3G	長方形	495	390	33	19.3	X-3°-E	東壁	Ⅴ	竪穴壁外柱穴
2	第1地点	H－4・5G	円形	(350)	(320)		(11.2)	X-31°-E	不明	縄文	
3	第1地点	J－7・8G K－8G	正方形	425	409	50	(17.4)	X-30°-E	竪穴中央西寄り？	Ⅳ	焼失住居
4	第1地点	K－7・8G L－7・8G	長方形	544	410	52	22.3	X-101°-E	東：東壁 北：竪穴中央	Ⅴ	竈とかまどを持つ
5	第2地点	X－15・16・17G Y－15・16・17G	楕円形	(826)	(680)	16～73	(56.2)	X-25°-W	竪穴中央北寄り	Ⅱ－C	建て替え有り
6	第2地点	X－15・16G Y－15G	楕円形	(680)	(496)	20～30	(33.7)	X-9°-W	竪穴中央北寄り	Ⅱ－E	立石出土

■土坑一覧表

遺構番号	調査地点	グリッド	形状	規模 ( )：現存値 [ ]：復元値 長軸(cm)	規模 短軸(cm)	深さ(cm)	時期	諸特徴	出土遺物 土器	出土遺物 石器
1	第1地点	O・P－7G	不整円形	160	115	58	－	坑底部に小ピット1		
2	第1地点	A－3G	不整長方形	210	90	26	－			
3	第1地点	C－3G	円形	50	48	17	－			
4	第1地点	C－4G	楕円形	70	48	21	－			
5	第1地点	C－4G	楕円形	104	72	20	－			
6	第1地点	C－4G	円形	38	38	29	－			
7	第1地点	C－3G	不整楕円形	56	42	15	－			
8	第1地点	C－3G	楕円形	62	44	15	－			
9	第1地点	E－2G	円形	70	70	9	－			
10	第1地点	E－2G	円形	(74)	76	11	－			
11	第1地点	D・E－2G	不整円形	68	56	20	－			
12	第1地点	E－2G	不整楕円形	90	40	13	－			
13	第1地点	E－2G	不整楕円形	112	70	14	－			
14	第1地点	E・F－2G	円形	134	(120)	25	－			
15	第1地点	E－2・3G F－2・3G	楕円形	190	(108)	27	－			
16	第1地点	F－2G	不整円形	48	44	22	－			
17	第1地点	H・I－5G	不整円形	56	46	17	－	坑底部に小ピット1		
18	第1地点	I－5G	円形	30	30	7	－			
19	第1地点	J－6G	円形	32	30	27	－			
20	第1地点	J－6G	瓢箪形	66	30	27	－	坑底部に小ピット2		
21	第1地点	J－6G	円形	26	26	14	－			
22	第1地点	K－5G	楕円形	36	22	36	－			
23	第1地点	L－6G	円形	30	(30)	8	－			
24	第1地点	L－6G	円形	30	(30)	9	－			
25	第1地点	M－5G	楕円形	30	25	31	－			
26	第1地点	Q－4G R－4・5G	不整楕円形	(178)	104	41	－			
27	第1地点	R－5G	不整円形	204	(155)	40	－			
28	第1地点	L・M－7G	楕円形	264	128	141	－	陥し穴 坑底部に小ピット6		
29	第1地点	K・L－7G	不整円形	185	160	32	－			
30	第1地点	G－6・7G	楕円形	197	105	44	－			
31	第1地点	F－6・7G	楕円形	320	115	52	－			
32	第1地点	E－6G	楕円形	(170)	110	45	－			
33	第1地点	E－6・7G	楕円形	170	(115)	20	－			
34	第1地点	E－6・7G	楕円形	(150)	(90)	28	－			
35	第1地点	E－7G	楕円形	(210)	148	36	Ⅰ			
36	第1地点	D－6・7G	不整楕円形	(210)	106	32	－			礫器1点(No.100)
37	第1地点	D－7G	楕円形	(170)	108	46	－			
38	第1地点	G－7G	円形	14	14	3	－	焼土跡		
39	第1地点	D－7G	楕円形	145	123	15	－			
40	第1地点	C－6G	楕円形	(200)	94	33	－	坑底部に小ピット1		
41	第1地点	C－6G	円形	118	106	17	－	坑底部に小ピット1		
42	第1地点	B－5G	円形	44	38	8	－			
43	第1地点	B－5・6G	楕円形	90	70	21	－			
44	第1地点	B－6G	円形	40	42	151	－	坑底部に小ピット1		
45	第1地点	B－6G	円形	32	32	104	－			
46	第1地点	B－6G	楕円形	200	80	26	－			
47	第1地点	Q－7G	円形	22	22	28	－			
48	第1地点	M－7G	円形	41	34	47	－			
49	第1地点	M－7G	円形	54	60	2	－	焼土跡		
50	第1地点	E－7G	円形	58	53	24	Ⅰ	坑底部に小ピット1		
51	第1地点	E－7G	円形	60	58	25	Ⅰ	坑底部に小ピット1		礫残核1点
52	第1地点	D・E－7G	円形	52	50	25	Ⅰ	坑底部に小ピット1	土器2点	
53	第1地点	C－7G	楕円形	62	40	31	－			
54	第1地点	F－8G	円形	140	120	34	Ⅰ		土器2点：押型文1	礫器1点(No.101)
55	第1地点	G－8G	不整形	176	107	18	－			礫器1点(No.102) 礫1点
56	第1地点	E－7G	楕円形	50	44	12	Ⅰ		土器1点：押型文	台石1点
57	第1地点	E－7G	不整形	60	48	40	Ⅰ			
58	第1地点	E－7G	円形	43	38	24	Ⅰ			
59	第1地点	E－7G	不整楕円形	93	42	17	Ⅰ		土器1点：押型文	
60	第1地点	E－7G	円形	60	54	27	Ⅰ			
61	第1地点	E－6G	楕円形	(73)	53	13	Ⅰ			
62	第1地点	E－6G	円形	(50)	42	20	Ⅰ		土器1点：押型文	
63	第1地点	E－7G	不整楕円形	(165)	(105)	33	Ⅰ			
64	第1地点	I－9G	楕円形	125	88	24	－		土器2点	打製石斧1点(No.75)
65	第1地点	I－9G	楕円形	(32)	28	30	－	坑底部に小ピット1		
66	第1地点	D－7G	円形	38	36	28	－			
67	第1地点	I－8G	楕円形	95	(75)	51	－			磨石類1点(No.133) 石皿1点(No.154) 台石1点(No.159) 礫5点
68	第1地点	I－8G	円形	92	(85)	33	－			
69	第1地点	F－7G	円形	60	60	17	Ⅰ			
70	第1地点	F－7G	不整円形	105	50	19	Ⅰ			
71	第1地点	F－7G	円形	68	64	15	Ⅰ			
72	第1地点	F－7G	不整形	105	60	33	－	坑底部に小ピット1		
73	第1地点	F－7G	円形	83	83	17	－			
74	第1地点	F・G－7G	不整円形	210	142	34	－			
75	第1地点	F・G－7G	不整楕円形	164	102	38	－	坑底部に小ピット1		
76	第1地点	F・G－7G	円形	70	(70)	20	－			
77	第1地点	H－10G	不整円形	115	86	50	－	坑底部に小ピット3、ピット2		
78	第1地点	I－10・11G	不整形	230	79	80	－	風倒木跡		
79	第1地点	L－9G	楕円形	50	35	22	－			
80	第1地点	I－8G	円形	26	26	15	－			
81	第1地点	I－8G	楕円形	32	28	15	－		土器1点	礫残核1点
82	第1地点	I－8G	円形	58	55	48	－	坑底部に小ピット1		
83	第1地点	I－8G	円形	53	48	46	－			
84	第1地点	I－8G	楕円形	26	16	26	－			
85	第1地点	I－8・9G	楕円形	48	38	47	－			
86	第1地点	I－9G	不整円形	123	55	29	－		土器1点	黒曜石剥片1点
87	第1地点	I－9G	楕円形	60	46	23	Ⅱ－F		土器1点	
88	第1地点	I－9G	不整円形	85	58	30	Ⅱ－B		土器1点	
89	第1地点	I－9G	円形	41	41	50	－		土器2点	
90	第1地点	I－9G	円形	33	33	61	－			
91	第1地点	I－9G	楕円形	34	25	30	－			
92	第1地点	H－9・10 I－9・10G	不整楕円形	96	55	14	－	坑底部に小ピット1		
93	第1地点	H・I－10G	円形	45	45	36	Ⅱ－B		土器2点	
94	第1地点	I－10G	不整円形	30	26	20	－			
95	第1地点	I－10G	不整形	102	60	13	－			
96	第1地点	I－10G	円形	63	60	49	－		土器3点	
97	第1地点	I－10G	楕円形	41	28	14	Ⅱ－E		土器1点	
98	第1地点	I－10G	不整形	72	40	35	Ⅱ－C	坑底部に小ピット1	土器2点	
99	第1地点	I－10G	不整形	143	67	23	－		土器1点	
100	第1地点	I－10G	不整楕円形	48	38	12	－			
101	第1地点	I－10G	楕円形	57	40	13	Ⅲ－A		土器2点	
102	第1地点	I－10G	楕円形	(111)	87	14	－			礫1点
103	第1地点	I－10G	円形	(65)	57	11	－			
104	第1地点	I－10G	楕円形	24	16	8	－			
105	第1地点	I－10G	円形	56	54	17	Ⅱ－D	坑底部に小ピット1	土器1点	
106	第1地点	H－10G	楕円形	80	63	30	－			
107	第1地点	E－9G	円形	38	36	37	－			
108	第1地点	F－9G	円形（東側に小突出部）	50	42	20	－			
109	第1地点	F－9G	不整円形	58	56	32	－			
110	第1地点	F－11G	不整楕円形	86	53	31	－		土器1点	礫1点
111	第1地点	F－11G	不整形	186	154	34	－		土器1点	
112	第1地点	E－11G	円形	78	65	26	－			
113	第1地点	E－11G	円形	65	61	30	－			
114	第1地点	H－11G	円形	54	40	29	－			
115	第1地点	H－11G	円形	61	56	42	Ⅱ－E		土器2点	
116	第1地点	H－11G	不整形	128	80	37	Ⅱ－C		土器1点	礫1点
117	第1地点	G・H－11G	楕円形	77	43	31	－			
118	第1地点	G－11G	不整形	45	36	16	－			
119	第1地点	G－11G	不整形	86	54	38	－			
120	第1地点	G－10・11G H－10・11G	円形	77	68	53	Ⅱ－E		土器1点	磨石1点(No.134)
121	第1地点	G－10・11G	不整楕円形	154	63	27	－			
122	第1地点	G－10G	不整楕円形	76	55	44	－			
123	第1地点	G－10G	円形	37	32	18	－			
124	第1地点	H－10G	円形	90	75	16	－		土器1点	
125	第1地点	H－10G	円形	60	(48)	18	－			礫1点
126	第1地点	H－10G	円形	48	(35)	46	－			
127	第1地点	G－11G	円形	63	60	21	Ⅱ－D		土器1点	
128	第1地点	G－11G	楕円形	69	35	35	Ⅱ－C		土器1点	
129	第1地点	G－11G	不整楕円形	126	72	31	－			
130	第1地点	G・H－12G	円形	60	50	28	－			
131	第1地点	G・H－12G	円形	45	34	27	－			礫1点
132	第1地点	H－12G	不整形	155	90	45	－			
133	第1地点	H－12G	円形	56	48	36	－			
134	第1地点	I－11G	不整楕円形	245	111	46	Ⅱ－F		土器4点	
135	第1地点	J－11・12G	円形	55	40	46	Ⅱ－C		土器1点	
136	第1地点	J－11G	円形	110	105	35	－	坑底部に小ピット1		
137	第1地点	J－10・11G	円形	55	53	17	－			
138	第1地点	J－11G	不整形	189	71	37	Ⅱ－E	坑底部に小ピット1	土器4点	
139	第1地点	J－10・11G	楕円形	86	68	28	－			
140	第1地点	J－10G	楕円形	82	68	24	－		土器1点	
141	第1地点	J－11G	不整形	224	170	65	Ⅰ		土器3点	
142	第1地点	J－11G K－11・12G	楕円形	310	240	75	－		土器3点	
143	第1地点	K－11G	不整円形	52	42	45	－			
144	第1地点	K・L－11G	楕円形	71	53	31	－			
145	第1地点	L－11・12G	不整楕円形	68	54	44	－			
146	第1地点	L－11G	円形	68	58	43	－			
147	第1地点	L－11G	楕円形	86	46	25	－		土器1点	
148	第1地点	L－11G	楕円形	46	29	17	－			
149	第1地点	K・L－11G	不整円形	68	57	15	Ⅱ－D		土器1点	
150	第1地点	L－11G	不整円形	83	60	19	－			
151	第1地点	L－11G	楕円形	98	54	25	－		土器3点	
152	第1地点	L－10・11G	不整形	141	64	27	－		土器2点	
153	第1地点	L－10G	楕円形	41	28	16	－			
154	第1地点	L－10G	楕円形	49	29	20	－			
155	第1地点	J－9G	不整楕円形	(174)	72	111	－	坑底部に小ピット2	土器3点	
156	第1地点	K－9・10G	不整楕円形	120	60	29	Ⅲ－B		土器6点	
157	第1地点	J－9G	楕円形	(176)	115	126	Ⅱ－C	坑底部に小ピット1	土器16点	礫残核1点
158	第1地点	J・K－9G	楕円形	(130)	(98)	31	－		土器2点	

別表Ⅰ　遺構一覧表

遺構番号	調査地点	グリッド	形状	規模 ( )：現存値 [ ]：復元値 長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	時期	諸特徴	出土遺物 土器	石器
159	第1地点	L－9G	不整形	92	56	32	Ⅱ－E	東側に小ピット1	土器3点	礫剥片1点 礫2点
160	第1地点	J・K－9G	円形	67	(66)	49	－			磨石類2 (No.135・136)
161	第1地点	K－9G	隅丸長方形	87	69	48	－			
162	第1地点	J－9G	円形	(73)	(47)	27	－			
163	第1地点	J・K－9G	不整形	(68)	(66)	28	－			
164	第1地点	K－8G	楕円形	104	76	27	Ⅲ－A		土器5点	打製石斧1点 (No.76) 剥片1点 礫5点
165	第1地点	K－8G	円形	70	63	30	－			
166	第1地点	K－8G	楕円形	77	42	21	Ⅱ－E		土器1点	
167	第1地点	K－8G	不整形	(173)	94	33	Ⅲ－A		土器13点 (243土と接合)	打製石斧片 2点(No.77・78) 黒曜石剥片4点 礫1点
168	第1地点	K－8G	楕円形	(49)	35	32	－		土器2点	
169	第1地点	J・K－8G	楕円形	(45)	49	40	－			
170	第1地点	J・K－8G	不整形	76	(29)	24	－			
171	第1地点	J・K－8G	円形	75	74	41	－	坑底部に小ピット1		台石1点 (No.160) 礫4点
172	第1地点	K－8G	不整楕円形	93	53	32	Ⅱ－D		土器14点	
173	第1地点	J－8G	楕円形	(57)	39	14	－		土器2点	
174	第1地点	J－8G	楕円形	(52)	34	22	－			
175	第1地点	J－8・9G	楕円形	105	74	34	－		土器2点	
176	第1地点	J－8G	円形	62	54	37	－	坑底部に小ピット1	土器2点	礫剥片1点
177	第1地点	J－9G	円形	104	92	42	－			
178	第1地点	L－9・10G	不整形	173	146	37	－	坑底部に小ピット2	土器1点	
179	第1地点	L－9・10G	楕円形	102	76	18	－		土器1点	
180	第1地点	K・L－10G	不整形	125	64	40	Ⅱ－E	坑底部に小ピット1	土器2点	礫1点
181	第1地点	M－11G	楕円形	48	33	31	－		土器2点	
182	第1地点	K－10G	不整円形	100	83	36	－	坑底部に小ピット1		
183	第1地点	J－9G	円形	53	(39)	27	－		土器1点	
184	第1地点	K－10G	不整形	65	50	19	－			
185	第1地点	K－9G	円形	85	(60)	23	－		土器2点	
186	第1地点	K－9G	楕円形	140	110	27	Ⅲ－C		土器8点	
187	第1地点	K・L－9G	不整形	(87)	39	26	Ⅱ－F		土器1点	
188	第1地点	L－9G	不整円形	108	80	30	Ⅲ－C		土器1点	
189	第1地点	L－9G	円形	47	40	18	－		土器1点	
190	第1地点	L－9G	円形	38	34	16	－			
191	第1地点	L－9G	円形	50	39	50	－			
192	第1地点	L－9G	楕円形	63	42	18	－			
193	第1地点	L－9G	楕円形	(64)	52	34	－			
194	第1地点	L－9G	円形	32	32	27	－			
195	第1地点	L－8・9G	円形	72	70	25	－			
196	第1地点	L－8G	円形	65	52	41	－		土器3点	
197	第1地点	L－8G	円形	77	61	45	Ⅱ－C		土器2点	
198	第1地点	L－9G	円形	61	60	34	－			
199	第1地点	L－9G	円形	39	34	26	－			
200	第1地点	L－9G	円形	48	45	19	－			
201	第1地点	L－9G	円形	69	65	31	－			礫剥片1点
202	第1地点	J－8・9G	円形	79	(46)	64	－	坑底部に小ピット1	土器3点	
203	第1地点	J－9G	不整形	100	(35)	49	－	坑底部に小ピット1		
204	第1地点	J－9G	不整形	102	55	(111)	Ⅲ－A	坑底部に小ピット2	土器5点	打製石斧1点 (No.79) 礫1点
205	第1地点	J－9G	不整楕円形	114	93	98	－	坑底部に小ピット1		
206	第1地点	J－9G	楕円形	90	47	(50)	Ⅲ－A	坑底部に小ピット1	土器4点	礫2点
207	第1地点	J－9G	不整形	(70)	35	34	－	坑底部に小ピット1		打製石斧1点 (No.80) 礫1点
208	第1地点	J－9G	不整円形	75	68	32	－	坑底部に小ピット1		
209	第1地点	J・K－9G	円形	85	73	43	Ⅲ－C		土器7点	
210	第1地点	K－8G	楕円形	124	72	44	Ⅲ－A		土器2点	礫剥片1点
211	第1地点	K－8・9G	円形	48	43	52	－			
212	第1地点	K－9G	円形	34	33	77	－	坑底部に小ピット1		
213	第1地点	K－9G	円形	32	31	52	－	坑底部に小ピット1		
214	第1地点	K－9G	不整形	67	36	32	－			
215	第3地点	X－17G	隅丸方形	100	85	14	－		土器1点	
216	第3地点	X・Y－17G	円形	104	(86)	10	－			
217	第1地点	K－9・10G	不整形	132	26	26	Ⅱ－C		土器2点	
218	第1地点	K－10G	隅丸長方形	(90)	45	23	－			
219	第1地点	K－9・10G	隅丸長方形	90	62	29	－		土器3点	
220	第1地点	K－10G	楕円形	61	43	31	－			
221	第1地点	K－10G	円形	47	32	30	－			
222	第1地点	K－10G	円形	31	29	16	－			
223	第1地点	K－10G	楕円形	57	47	21	－			
224	第1地点	K－10G	円形	28	27	15	－			
225	第1地点	K－10G	楕円形	108	56	26	－			
226	第1地点	K－9G	円形	(42)	32	25	－			
227	第1地点	K－9G	円形	60	54	34	－			
228	第1地点	K－9G	円形	32	30	12	－			
229	第3地点	X・Y－18G	楕円形	(119)	(70)	(80)	Ⅱ－C	坑底部に小ピット7	土器25点	黒曜石剥片2点
230	第3地点	X・Y－18G	不整円形	(79)	(70)	15	－	坑底部に小ピット1	土器3点	磨製石斧1点 (No.117)：5住 X－16下層接合 礫剥片1点
231	第3地点	X・Y－18G	楕円形	91	(49)	10	－		土器4点	礫剥片1点
232	第3地点	X・Y－18G	円形	77	(58)	11	－	東側に小ピット1		
233	第3地点	W・X－18G	不整形	173	109	107	Ⅱ－E	坑底部に小ピット2	土器22点	黒曜石剥片2点
234	第3地点	X－18G	楕円形	90	68	19	－			黒曜石石核1点
235	第3地点	Y－18G	不整形	124	72	40	Ⅱ－E	坑底部に小ピット1	土器14点	
236	第3地点	W・X－18G	円形	83	76	92	Ⅱ－E	貯蔵穴。 坑底部に小ピット2	土器9点	礫剥片1点
237	第3地点	Y－17G	円形	83	(66)	13	Ⅱ－E		土器12点	黒曜石剥片1点
238	第3地点	X・Y－17G	円形	102	(56)	13	－			
239	第3地点	X・Y－17G	楕円形	77	55	5	－			
240	第3地点	Y－17G	円形	67	58	9	－			
241	第3地点	W－18・19G X－18・19G	楕円形	145	(104)	30	Ⅱ－C	坑底部に小ピット6	土器65点 (284土と接合)	礫器1点 礫剥片2点 チャート剥片 1点 礫3点
242	第3地点	X－17G	楕円形	56	33	38	－		土器6点	黒曜石剥片1点
243	第3地点	X－16・17G	円形	140	130	117	Ⅱ－F	坑底部より約50cm 上に焼土2カ所	土器51点 (167土と接合)	黒曜石剥片3点 礫剥片1点 礫4点
244	第3地点	X－17G	円形	32	32	(39)	－	坑底部に小ピット1		
245	第3地点	X－17G	円形	119	(102)	82	Ⅱ－E	坑底部に小ピット7	土器52点	台石1点 黒曜石剥片2点 礫剥片2点 礫3点
246	第3地点	X－17G	不整形	112	(84)	39	－		土器7点	
247	第3地点	X－17・18G	円形	111	93	56	－	坑底部に小ピット8	土器3点	
248	第3地点	X－18G	円形	85	72	15	－	坑底部に小ピット1		
249	第3地点	W－17・18G X－17・18G	不整形	192	133	88	Ⅱ－C	坑底部に小ピット1	土器59点	石匙1点 (No.26) 礫剥片3点
250	第3地点	X－18G	円形	25	25	55	－			
251	第3地点	X－18・19G	楕円形	70	52	31	－		土器6点	
252	第3地点	X－19G	楕円形	70	55	12	－			
253	第3地点	X－19G	円形	60	53	19	－			
254	第3地点	X－19G	円形	25	25	10	－			
255	第3地点	X－19G	不整形	115	80	24	－		土器6点	礫剥片1点
256	第3地点	X－18G	楕円形	40	30	10	－			
257	第1地点	J－10G	不整形	(65)	73	24	－			
258	第1地点	J－10G	不整形	225	140	30	－		土器16点	礫剥片1点
259	第1地点	J－10G	楕円形	(37)	27	29	－	坑底部に小ピット1		
260	第1地点	J・K－10G	円形	60	(26)	32	－	坑底部に小ピット1		
261	第1地点	J・K－10G	不整形	(105)	40	32	－		土器3点	
262	第1地点	N－11G	円形	43	34	29	－			
263	第1地点	M－10G	不整形	95	74	17	－			
264	第1地点	M－10G	楕円形	57	34	17	－			礫剥片1点
265	第1地点	M－11G	楕円形	29	21	18	－			
266	第1地点	M－11G	円形	52	44	37	－	坑底部に小ピット1		
267	第1地点	M－11G	円形	42	39	20	－			
268	第1地点	M－11G	楕円形	57	43	19	－		土器1点	
269	第1地点	L－11G	甕棺形	62	30	27	－	坑底部に小ピット1		
270	第1地点	M－11G	円形	47	(45)	55	－			
271	第1地点	M－12G	円形	51	(50)	45	－		土器1点	
272	第1地点	N－11G	円形	58	(35)	75	－			
273	第1地点	N－11G	円形	57	(40)	76	Ⅲ－A		土器1点	
274	第1地点	N－11G	楕円形	83	57	108	－	坑底部に小ピット1		
275	第1地点	N・O－11G	楕円形	70	52	54	－	坑底部に小ピット1	土器2点	
276	第1地点	P－11G	楕円形	93	45	74	－	坑底部に小ピット1		
277	第1地点	P－10G	円形	50	47	11	－			
278	第1地点	M－8G	不整楕円形	71	30	37	－			
279	第1地点	L・M－8G	円形	34	28	62	－			
280	第1地点	C－10G	楕円形	73	58	32	－			
281	第1地点	B・C－10G	不整形	90	68	25	Ⅱ－C			
282	第3地点	X・Y－18G	不整形	70	64	18	Ⅱ－C	坑底部に小ピット3	土器4点	
283	第3地点	X－21G	楕円形	83	(60)	17	－			
284	第3地点	W・X－21G	不整楕円形	(154)	84	55	Ⅱ－C	坑底部に小ピット1	土器10点 ：個体1 (241土と接合)	打製石斧1点 (No.81) 礫器3点 (No.103～105) 黒曜石剥片2点 礫5点
285	第3地点	X－23G	楕円形	86	47	14	Ⅱ－C		土器2点	黒曜石剥片2点
286	第3地点	X－24G	円形	122	(107)	56	Ⅱ－C	坑底部に小ピット5	土器13点	
287	第3地点	X－24G	楕円形	177	82	33	－	坑底部に小ピット1		
288	第3地点	W－22G	円形	160	(92)	47	－	坑底部に小ピット2		
289	第3地点	X－24G	円形	132	(114)	71	Ⅱ－C	坑底部に小ピット14	土器23点	黒曜石剥片2点 礫剥片1点
290	第3地点	X－24G	不整楕円形	220	(120)	45	－		土器1点	礫2点
291	第3地点	X－23・24G	不整形	78	50	12	－			
292	第3地点	X－15G	楕円形	61	47	27	Ⅲ－A		土器3点	礫1点
293	第3地点	W－24G	円形 (東側に 突出部有り)	178	138	61	Ⅱ－C	坑底部に小ピット7	土器3点	
294	第3地点	W－24G	甕棺形	105	53	32	Ⅱ－C	坑底部に小ピット9	土器3点	
295	第3地点	W－23・24G	円形	48	45	37	－		土器3点	
296	第3地点	W－24G	円形	27	22	8	－			
297	第3地点	W－24G	楕円形	28	20	13	－	坑底部に小ピット1		
298	第3地点	W－24G	円形	30	25	10	－			
299	第3地点	X－15G	不整形	170	(117)	72	Ⅱ－E	坑底部に小ピット22	土器8点	石棒1点 (No.165) 黒曜石片2点
300	第3地点	X－15G	円形	85	74	30	－			
301	第3地点	X－15G	円形	80	79	14	－			
302	第3地点	X－15G	円形	97	92	24	－		土器5点	
303	第3地点	Y－15G	楕円形	57	34	13	－			
304	第3地点	Y－17G	円形	75	69	17	Ⅱ－C		土器5点	礫1点
305	第3地点	Y－16・17G	円形	(190)	(180)	65	Ⅱ－F		多数	上層部に15cm 大の礫多数 礫剥片1点
306	第3地点	C－4G	楕円形	68	45	24	－			

■溝状遺構一覧表

遺構番号	調査地点	グリッド	形状	規模 ( )：現存値 [ ]：復元値 長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	諸特徴	出土遺物 土器	石器
1	第1地点	P・Q－9	弧状	(8.08)	1.44	0.48	Ⅴ	埋没谷上の傾斜変換点に立地	須恵器坏・甕	
2	第1地点	G－6. H・I－6・7	弧状	11.92	2.48	0.52	Ⅴ	埋没谷上の傾斜変換点に立地		
3	第1地点	B－6. C－6・7	弧状	6.40	1.32	0.60	Ⅴ	埋没谷上の傾斜変換点に立地		

【土器】

出土地点		図版番号	登録番号	時代		器種分類	法量（cm） （）：現存値 〔〕：復元値			部位	文様分類
調査地点	遺構			時期	段階		口径	底径	器高		
第1地点	1竪	PL－18－1	竪穴－1	Ⅰ	A	深鉢				口縁	1種
第1地点	1竪	PL－18－2	竪穴3・4	Ⅰ	A	深鉢				口縁	1種
第1地点	1土集	PL－18－3	C－7G－23	Ⅰ	A	深鉢				口縁	1種
第1地点	1土集	PL－18－4	E－7G－25	Ⅰ	A	深鉢				口縁	1種
第1地点	1土集	PL－18－5	E－7G－4	Ⅰ	A	深鉢				口縁	1種
第1地点	3住	PL－18－6	3住一括	Ⅰ	A	深鉢				口縁	1種
第1地点	62土	PL－18－7	62土－1	Ⅰ	A	深鉢				口縁	1種
第1地点	1土集	PL－18－8	F－8G一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－9	第1地点一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	141土	PL－18－10	141土一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－11	F－7G－4	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－12	D－7G－22	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1竪	PL－18－13	竪穴－7	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－14	D－7G－19	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－15	E－7G－28	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1竪	PL－18－16	竪穴－5	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－17	D－7G－21	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－18	E－8G一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－19	H－7G一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－20	3住一括 第1地点一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－21	F－7G－27	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－22	第1地点一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－23	D－7G－17	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1竪	PL－18－24	竪穴－6	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－25	第1地点一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－26	E－8G一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－27	E－7G－26、 F－7G－8	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－28	E－8G－16	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	56土	PL－18－29	56土－1	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	54土	PL－18－30	54土－1	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	59土	PL－18－31	59土－1	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	2溝	PL－18－32	2溝一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	3溝	PL－18－33	3溝一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－34	C－7G一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－35	D－7G－6	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－36	D－7G－7	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－37	D－8G－12	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－38	D－8G－14	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－39	D－8G－15	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－40	D－7G－20	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－41	D－8G一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－42	E－7G－3	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－43	E－7G－24	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－44	F－7G－6	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－45	F－7G一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	H－7G	PL－18－46	H－7G一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	H－10G	PL－18－47	H－10G一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	I－9G	PL－18－48	I－9G一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	3住	PL－18－49	3住一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－50	第1地点一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－51	第1地点一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－52	第1地点一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－53	第1地点一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－54	第1地点一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	I－9G	PL－18－55	I－9G一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	1種
第1地点	1土集	PL－18－56	第1地点一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	2種
第1地点	1土集	PL－18－57	D－8G－10・一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	2種
第1地点	1土集	PL－18－58	D－8G－11	Ⅰ	A	深鉢				胴	2種
第1地点	1土集	PL－18－59	D－8G－13	Ⅰ	A	深鉢				胴	2種
第1地点	1土集	PL－18－60	第1地点一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	2種
第1地点	1土集	PL－18－61	第1地点一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	2種
第1地点	1土集	PL－18－62	C－8G一括、 D－7G－9	Ⅰ	A	深鉢				胴	2種
第1地点	1土集	PL－18－63	D－7G－8	Ⅰ	A	深鉢				胴	2種
第1地点	1土集	PL－18－64	E－7G－2	Ⅰ	A	深鉢				胴	2種
第1地点	1土集	PL－18－65	E－7G－5	Ⅰ	A	深鉢				胴	2種
第1地点	I－9G	PL－18－66	I－9G一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	2種
第1地点	1土集	PL－18－67	D－7G－18	Ⅰ	A	深鉢				胴	2種
第1地点	1土集	PL－18－68	H－7G一括	Ⅰ	A	深鉢				胴	2種
第1地点	3住	PL－18－69	3住一括	Ⅰ	B	深鉢				胴	撚糸文
第1地点	3住	PL－18－70	3住一括	Ⅰ	B	深鉢				胴	撚糸文
第1地点	I－9G	PL－18－71	I－9G一括	Ⅰ	B	深鉢				胴	撚糸文
第2地点	5住	PL－19－1	5住－391・394・395・401・430・一括	Ⅱ－C	4	深鉢	〔29.0〕	16.4	(47.8)	口縁～底	1種
第2地点	5住	PL－19－2	5住－21・35・125・204・327・359・367・一括	Ⅱ－C	3	深鉢	(28.2)	〔13.0〕	40.2	口縁～底	3種
第2地点	5住	PL－20－3	5住－333・一括	Ⅱ－D	1	深鉢	〔25.0〕	14.4	41.8	口縁～底	1種
第2地点	5住	PL－20－4	5住－202・330・334・393・397・398・402・403	Ⅱ－D	1	深鉢	27.0	12.8	44.2	口縁～底	3種
第2地点	5住	PL－21－5	5住－348・409・410・411・415・420・一括	Ⅱ－D	1	深鉢	24.1	11.6	40.2	口縁～底	6種
第2地点	5住	PL－21－6	5住－413・下層・一括	Ⅱ－D	1	深鉢	(18.8)	〔13.2〕	〔30.4〕	口縁～底	6種
第2地点	5住	PL－21－7	5住－408	Ⅱ－D	1	深鉢	12.2	〔6.2〕	〔19.6〕	口縁～底	6種
第2地点	5住	PL－21－8	5住－425・下層	Ⅱ－C	3	深鉢			(26.4)	口縁	3種
第2地点	5住	PL－22－9	5住－365、X－16G下層	Ⅱ－C	4	深鉢	14.1		(15.2)	口縁～胴	3種
第2地点	5住	PL－22－10	5住－316	Ⅱ－C	3	深鉢	〔23.8〕		(18.6)	口縁～胴	4種
第2地点	5住	PL－22－11	5住－51・209・353・360	Ⅱ－C	3	深鉢			(21.0)	胴	3種
第2地点	5住	PL－22－12	5住－161、X－16G下層、Y－16G一括	Ⅱ－C	3	深鉢	〔32.6〕		(16.7)	口縁	4種
第2地点	5住	PL－22－13	5住－429	Ⅱ－C	3	深鉢		〔19.3〕	(12.6)	胴～底	4種
第2地点	5住	PL－22－14	5住－118	Ⅱ－C	3	深鉢	〔30.0〕		(5.4)	口縁	5種
第2地点	5住	PL－23－15	5住－37・38・325	Ⅱ－C	3	深鉢	〔17.6〕		(17.4)	口縁～胴	1種
第2地点	5住	PL－23－16	5住－211・317	Ⅱ－D	1	深鉢	〔34.4〕		(17.4)	口縁～胴	3種
第2地点	5住	PL－23－17	5住－19・128・137・139・157・181・384・一括	Ⅱ－D	1	深鉢				胴	有孔鍔付土器
第2地点	5住	PL－23－18	5住－337・343	Ⅱ－D	1	深鉢		6.6	〔8.6〕	胴下半～底	6種
第2地点	5住	PL－23－19	5住－152・153・220	Ⅱ－D	1	深鉢		6.7	(8.0)	胴下半～底	6種
第2地点	5住	PL－23－20	5住－322・324	Ⅱ－C	4	深鉢		11.3	(18.5)	胴～底	6種
第2地点	5住	PL－23－21	5住－414・一括	Ⅱ－D	1	深鉢		11.4	(20.3)	胴～底	6種
第2地点	5住	PL－23－22	5住－326	Ⅱ－D		深鉢		〔17.2〕	(5.0)	底	
第2地点	5住	PL－23－23	5住－323	Ⅱ－C	4	深鉢		16.4	(8.3)	底	6種
第2地点	5住	PL－23－24	5住－184・243・374・下層	Ⅱ－D		浅鉢	〔30.4〕		(11.2)	口縁～胴	6種
第2地点	5住	PL－24－25	5住－357・358・363・一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第2地点	5住	PL－24－26	5住－361・372	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第2地点	5住	PL－24－27	5住－210	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第2地点	5住	PL－24－28	5住－366	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第2地点	5住	PL－24－29	Y－16G一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第2地点	5住	PL－24－30	5住一括	Ⅱ－C		深鉢				口縁	
第2地点	5住	PL－24－31	Y－16G一括	Ⅱ－C	3	深鉢				口縁	1種
第2地点	5住	PL－24－32	5住－318	Ⅱ－C	3	深鉢				口縁	3種
第2地点	5住	PL－24－33	5住－70・124	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁	1種
第2地点	5住	PL－24－34	5住－440	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁	1種
第2地点	5住	PL－24－35	5住－60	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁	1種
第2地点	5住	PL－24－36	5住一括	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁	1種
第2地点	5住	PL－24－37	5住一括	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁	1種
第2地点	5住	PL－24－38	5住－36	Ⅱ－D	2	深鉢				口縁	8種
第2地点	5住	PL－24－39	5住－82	Ⅱ－D	1	深鉢				頸	9種
第2地点	5住	PL－24－40	5住－82	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁	1種
第2地点	5住	PL－24－41	5住－332	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁	6種
第2地点	5住	PL－24－42	5住－16・279	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁	7種
第2地点	5住	PL－24－43	5住－128	Ⅱ－D		深鉢				口縁	
第2地点	5住	PL－25－44	5住一括	Ⅱ－C	3	深鉢				口縁	1種
第2地点	5住	PL－25－45	5住一括	Ⅱ－C	3	深鉢				口縁	1種
第2地点	5住	PL－25－46	X－16G一括	Ⅱ－C		深鉢				口縁	
第2地点	5住	PL－25－47	5住－22	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	2種
第2地点	5住	PL－25－48	5住一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴～底	2種
第2地点	5住	PL－25－49	5住－129	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	2種
第2地点	5住	PL－25－50	5住－40・122・124	Ⅱ－C	3	深鉢				口縁	3種
第2地点	5住	PL－25－51	5住－39	Ⅱ－C	3	深鉢				口縁	3種
第2地点	5住	PL－25－52	5住－158	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第2地点	5住	PL－25－53	5住一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第2地点	5住	PL－25－54	Y－15G一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第2地点	5住	PL－25－55	5住－269	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第2地点	5住	PL－25－56	Y－16G一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴～底	3種
第2地点	5住	PL－25－57	5住一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第2地点	5住	PL－25－58	5住－146	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第2地点	5住	PL－25－59	5住－363	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種

別表Ⅱ　遺物一覧表

出土地点		図版番号	登録番号	時代		器種分類	法量（cm）（）：現存値〔〕：復元値			部位	文様分類
調査地点	遺構			時期	段階		口径	底径	器高		
第２地点	5住	PL－25－60	X－16G下層	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－61	5住－88・363	Ⅱ－C	3	深鉢				胴～底	3種
第２地点	5住	PL－25－62	5住－425	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－63	5住－320	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－64	Y－16G一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－65	5住一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－66	5住一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－67	5住－426	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－68	5住一括	Ⅱ－C	4	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－69	5住－66	Ⅱ－C	4	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－70	5住－176	Ⅱ－C	4	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－71	5住一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－72	5住－229	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－73	5住－436	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－74	5住一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－75	5住一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－76	5住－378	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－77	5住－429	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－25－78	5住－166	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－26－79	5住－432・下層・一括	Ⅱ－C	4	深鉢				胴	1種
第２地点	5住	PL－26－80	5住－150・231	Ⅱ－C	4	深鉢				胴	1種
第２地点	5住	PL－26－81	5住－398・439・下層・一括、305土一括	Ⅱ－C	4	深鉢				胴	1種
第２地点	5住	PL－26－82	5住一括、X－16G一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	4種
第２地点	5住	PL－26－83	5住一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	4種
第２地点	5住	PL－26－84	5住－232	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	4種
第２地点	5住	PL－26－85	X－16G下層	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	4種
第２地点	5住	PL－26－86	5住一括	Ⅱ－C	3	深鉢				口縁	5種
第２地点	5住	PL－26－87	5住一括	Ⅱ－C		深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－26－88	5住－29	Ⅱ－C		深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－26－89	5住－362	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁	1種
第２地点	5住	PL－26－90	5住－81	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁	1種
第２地点	5住	PL－26－91	5住－58	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁	1種
第２地点	5住	PL－26－92	5住－205	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁	1種
第２地点	5住	PL－26－93	X－16G下層	Ⅱ－D	1	深鉢				胴	1種
第２地点	5住	PL－26－94	5住－126	Ⅱ－D	3	深鉢				口縁	3種
第２地点	5住	PL－26－95	5住一括	Ⅱ－D	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－26－96	5住－92	Ⅱ－D	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－26－97	5住－136	Ⅱ－D	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－26－98	5住－28	Ⅱ－D	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－26－99	5住一括	Ⅱ－D	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－27－100	5住－117	Ⅱ－D	3	深鉢				胴	3種
第２地点	5住	PL－27－101	5住－142	Ⅱ－D	1	深鉢				胴～底	
第２地点	5住	PL－27－102	5住下層	Ⅱ－D	1	深鉢				胴～底	
第２地点	5住	PL－27－103	5住－385	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁	1種
第２地点	5住	PL－27－104	5住下層	Ⅱ－D	3	深鉢				口縁	10種
第２地点	5住	PL－27－105	5住－79・一括	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁	7種
第２地点	5住	PL－27－106	5住一括	Ⅱ－D	1	深鉢				胴	2種
第２地点	5住	PL－27－107	5住一括	Ⅱ－D	3	深鉢				胴	10種
第２地点	5住	PL－27－108	5住－101・103・267・Y－16G上層	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁～頸	6種
第２地点	5住	PL－27－109	5住－388	Ⅱ－D	1	深鉢				口縁～頸	6種
第２地点	5住	PL－27－110	Y－15G一括	Ⅱ－D		深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－27－111	5住－63	Ⅱ－G	D並行	深鉢				口縁	
第２地点	5住	PL－27－112	5住一括	Ⅱ－A	3	深鉢				口縁	角押文
第２地点	5住	PL－27－113	5住－214・241	Ⅱ－B	2	深鉢				胴	2種
第２地点	5住	PL－27－114	Y－16G一括	Ⅱ－B	1	深鉢				胴	1種
第２地点	5住	PL－27－115	5住－84・94	Ⅱ－H	C並行	深鉢				口縁	連華状文
第２地点	5住	PL－27－116	5住一括	Ⅱ－E	Ⅰ	深鉢				口縁	
第２地点	5住	PL－27－117	5住一括	Ⅱ－E	Ⅰ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－27－118	5住－53・54・86・一括	Ⅱ－E	Ⅰ	深鉢				胴～底	
第２地点	5住	PL－28－119	Y－17G一括、299土一括	Ⅱ－E	Ⅲ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－120	5住一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				口	
第２地点	5住	PL－28－121	5住一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				口	
第２地点	5住	PL－28－122	5住一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－123	5住一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－124	5住一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－125	5住一括	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－126	5住一括	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－127	5住一括	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－128	Y－16G一括	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－129	Y－16G一括	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－130	Y－16G一括	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－131	Y－16G一括	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－132	Y－16G一括	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－133	5住－32	Ⅱ－F	4	深鉢				口縁	
第２地点	5住	PL－28－134	5住一括	Ⅱ－F	4	深鉢				口縁	
第２地点	5住	PL－28－135	Y－16G一括	Ⅱ－F	4	深鉢				口縁	
第２地点	5住	PL－28－136	5住一括	Ⅱ－F	4	深鉢				口縁	
第２地点	5住	PL－28－137	5住一括	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－138	Y－16G一括	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－139	5住一括	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－140	5住一括	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－141	X－16G下層	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－142	5住一括	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－143	Y－16G一括	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－144	Y－16・17G一括	Ⅲ－A	Ⅱ	深鉢				口縁	
第２地点	5住	PL－28－145	Y－16G一括	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				口縁	
第２地点	5住	PL－28－146	5住一括	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				口縁	
第２地点	5住	PL－28－147	X・Y－15G一括	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				口縁	
第２地点	5住	PL－28－148	X・Y－15G一括	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				口縁	
第２地点	5住	PL－28－149	Y－16G一括	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－150	Y－16G一括	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－151	Y－16G一括	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－152	Y－16G一括	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－153	5住一括	Ⅲ－A	Ⅱ	深鉢				口縁	
第２地点	5住	PL－28－154	5住一括	Ⅲ－A	Ⅱ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－155	5住一括	Ⅲ－A	Ⅱ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－156	5住一括	Ⅲ－A	Ⅱ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－157	5住一括	Ⅲ－A	Ⅱ	深鉢				胴	
第２地点	5住	PL－28－158	5住一括	Ⅲ－C	2	深鉢				口縁	
第２地点	5住	PL－28－159	5住一括	－		深鉢				底	
第２地点	5住	PL－28－160	Y－16G一括	－		深鉢				底	
第２地点	5住	PL－28－161	Y－16G一括	－		深鉢				底	
第２地点	5住	PL－28－162	5住一括	－		深鉢				底	
第２地点	5住	PL－29－163	5住－331・一括	Ⅱ－D	1	小型	15.8	9.0	10.4	口縁～底	2種
第２地点	5住	PL－29－164	5住－107	Ⅱ－C・D		小型有孔	〔7.1〕		(5.4)	口縁～胴	有孔
第２地点	5住	PL－29－165	5住－345	Ⅱ－D	1	小型	8.4	5.6	11.6	口縁～底	2種
第２地点	5住	PL－29－166	5住－407	Ⅱ－C・D		小型	10.3	5.2	11.0	口縁～底	
第２地点	5住	PL－29－167	5住－406	Ⅱ－C・D		小型有孔鍔付	6.6	4.6	9.4	口縁～底	
第２地点	5住	PL－29－168	5住－413、X・Y－15G一括	Ⅱ－C・D		小型	9.2	5.2	12.0	口縁～底	
第２地点	5住	PL－29－169	5住－251	Ⅱ－C・D		ミニチュア	5.6	4.2	6.8	口縁～底	
第２地点	5住	PL－29－170	5住－X－16G一括	Ⅱ－C・D		ミニチュア	〔5.2〕	〔3.8〕	3.6	口縁～底	
第２地点	5住	PL－29－171	5住－242	Ⅱ－C・D		小型	9.0	丸底	5.0	口縁～底	
第２地点	5住	PL－29－172	5住－155・169	Ⅱ－C・D		小型	8.8	丸底	4.1	口縁～底	
第２地点	6住	PL－30－1	6住－1	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				口縁	
第２地点	6住	PL－30－2	6住－7	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
第２地点	6住	PL－30－3	6住－3・一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
第２地点	6住	PL－30－4	6住－5	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢		8.2	(10.1)	底	
第１地点	186土	PL－30－1	186土一括、209土一括、J－8・9G、K－7・8・9G、L－8G、P－8G	Ⅲ－B		浅鉢	〔18.2〕		(7.8)	口縁～胴	
第３地点	229土	PL－30－2	229土－1・一括	Ⅱ－C	3	深鉢	〔26.8〕			口縁～胴	3種
第３地点	241・284土	PL－30－3	241土－1・7・8・11・一括、284土－3・4・5・7	Ⅱ－C	3	浅鉢	〔28.2〕	〔11.2〕	〔14.4〕	口縁～底	3種
第３地点	243土	PL－30－4	243土－18	Ⅱ－F	4	深鉢		〔17.3〕		底	
第３地点	245土	PL－30－5	245土－12・13・14・15・16・21・24・一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢	〔20.2〕		(17.8)	口縁～胴	加曽利Ｅの影響
第３地点	245土	PL－30－6	245土－2・3・9・10・18・20・25・26・一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢	〔21.4〕		(10.8)	口縁～胴	加曽利Ｅの影響
第３地点	245土	PL－30－7	245土－23、246土一括	Ⅱ－E		深鉢		8.8	(3.7)	底	
第３地点	284土	PL－30－8	284土－3・4・10・12	Ⅱ－C	3	深鉢	〔18.8〕		(19.8)	口縁～胴	6種
第３地点	289土	PL－30－9	289土一括	Ⅱ－C		深鉢				口縁	
第１地点	88土	PL－31－10	88土－1	Ⅱ－B	2	深鉢				口縁	3種
第１地点	93土	PL－31－11	93土一括	Ⅱ－B	1	深鉢				胴	1種
第１地点	101土	PL－31－12	101土一括	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				胴	

出土地点		図版番号	登録番号	時代		器種分類	法量（cm） ( )：現存値 〔 〕：復元値			部位	文様分類
調査地点	遺構			時期	段階		口径	底径	器高		
第1地点	116土	PL－31－13	116土一括	Ⅱ－C		深鉢				口縁	
第1地点	127土	PL－31－14	127土一括	Ⅱ－D	Ⅰ	深鉢				胴	3種
第1地点	128土	PL－31－15	128土一括	Ⅱ－C		深鉢				胴	
第1地点	134土	PL－31－16	134土一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
第1地点	135土	PL－31－17	135土一括	Ⅱ－C		深鉢				胴	
第1地点	156土	PL－31－18	156土一括	Ⅲ－B	Ⅰ	深鉢				胴	
第1地点	157土	PL－31－19	157土一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	2種
第1地点	159土	PL－31－20	159土一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				口縁	
第1地点	164土	PL－31－21	164土－2	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				胴	
第1地点	166土	PL－31－22	166土一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
第1地点	167土	PL－31－23	167土一括	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				胴	
第1・2地点	167・243土	PL－31－24	167・243土一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
第1地点	187土	PL－31－25	187土一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
第1地点	197土	PL－31－26	197土一括	Ⅱ－C		深鉢				胴	
第1地点	206土	PL－31－27	206土一括	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				胴	
第1地点	210土	PL－31－28	210土一括	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				口縁	
第1地点	210土	PL－31－29	210土一括	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				胴	
第3地点	229土	PL－31－30	229土－5	Ⅱ－C		深鉢				胴	
第3地点	229土	PL－31－31	229土一括	Ⅱ－C		深鉢				胴	
第3地点	229土	PL－31－32	229土－4	Ⅱ－C		深鉢				胴	
第3地点	233土	PL－31－33	233土一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
第3地点	233土	PL－31－34	233土一括	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
第3地点	235土	PL－31－35	235土一括	Ⅱ－E		深鉢				胴	
第3地点	235土	PL－31－36	235土一括	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
第3地点	236土	PL－31－37	236土一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
第3地点	237土	PL－31－38	237土一括	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
第3地点	241土	PL－31－39	241土一括	Ⅱ－C	3	深鉢				口縁	3種
第3地点	241土	PL－31－40	241土－5	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第3地点	241土	PL－31－41	241土一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第3地点	241土	PL－31－42	241土－2	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第3地点	241土	PL－31－43	241土一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第3地点	241土	PL－31－44	241土一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第3地点	241土	PL－31－45	241土－9	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	
第3地点	241土	PL－31－46	241土一括	Ⅱ－C	3	深鉢				口縁	
第3地点	243土	PL－31－47	243土－13・14	Ⅱ－F	4	深鉢				口縁	
第3地点	243土	PL－31－48	243土－10	Ⅱ－F	4	深鉢				口縁	
第3地点	243土	PL－31－49	243土－12・21	Ⅱ－F	4	深鉢				口縁	
第3地点	243土	PL－31－50	243土一括	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
第3地点	245土	PL－31－51	245土一括	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				口縁	
第3地点	245土	PL－31－52	245土－1	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
第3地点	249土	PL－31－53	249土－2・10・一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	2種
第3地点	249土	PL－32－54	249土－18	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				口縁	
第3地点	249土	PL－32－55	249土－24	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	2種
第3地点	249土	PL－32－56	249土－22	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	2種
第3地点	249土	PL－32－57	249土－16	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	2種
第3地点	249土	PL－32－58	249土－21・一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	2種
第3地点	249土	PL－32－59	249土－20・一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	2種
第3地点	249土	PL－32－60	249土－5	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	2種
第3地点	249土	PL－32－61	249土－14	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
第3地点	249土	PL－32－62	249土－1	Ⅱ		深鉢				胴	
第3地点	249土	PL－32－63	249土－11・12・15・一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	2種
第1地点	273土	PL－32－64	273土一括	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				胴	
第1地点	281土	PL－32－65	281土一括	Ⅱ－C		深鉢				口縁	
第3地点	282土	PL－32－66	282土一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
第3地点	284土	PL－32－67	284土－1	Ⅱ－C	3	深鉢				口縁	1種
第3地点	284土	PL－32－68	284土－2・3・6・一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	2種
第3地点	284土	PL－32－69	284土－5・11・13・14・一括、249土一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	2種
第3地点	284土	PL－32－70	284土一括	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	5種
第3地点	285土	PL－32－71	285土一括	Ⅱ－C		深鉢				口縁	
第3地点	286土	PL－32－72	286土一括	Ⅱ－C		深鉢				胴	
第3地点	289土	PL－32－73	289土一括	Ⅱ－C	4	深鉢				口縁	6種
第3地点	289土	PL－32－74	289土一括	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第3地点	289土	PL－32－75	289土一括	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第3地点	292土	PL－32－76	292土－1	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				胴	
第3地点	293土	PL－32－77	293土一括	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第3地点	293土	PL－32－78	293土一括	Ⅱ－C		深鉢				口縁	
第3地点	299土	PL－32－79	299土－1	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
第3地点	302土	PL－32－80	302土一括	Ⅰ		深鉢				口縁	
第3地点	305土	PL－33－81	5住－13・14	Ⅱ－F	4	深鉢				口縁	
第3地点	305土	PL－33－82	5住－259	Ⅱ－F	4	深鉢				口縁	

出土地点		図版番号	登録番号	時代		器種分類	法量（cm） ( )：現存値 〔 〕：復元値			部位	文様分類
調査地点	遺構			時期	段階		口径	底径	器高		
第3地点	305土	PL－33－83	Y－16G一括	Ⅱ－F	4	深鉢				口縁	
第3地点	305土	PL－33－84	305土一括	Ⅱ－F	4	深鉢				口縁	
第3地点	305土	PL－33－85	Y－16G一括	Ⅱ－F	4	深鉢				口縁	
第3地点	305土	PL－33－86	305土－249・一括	Ⅱ－F	4	深鉢				口縁	
第3地点	305土	PL－33－87	305土－255・256	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第3地点	305土	PL－33－88	5住－9	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第3地点	305土	PL－33－89	5住一括、Y－16G一括	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第3地点	305土	PL－33－90	5住一括	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第3地点	305土	PL－33－91	5住－7・10・191・248・262・267	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第3地点	305土	PL－33－92	Y－15G一括	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第3地点	305土	PL－33－93	5住－260	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第3地点	305土	PL－33－94	305土－244	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第3地点	305土	PL－33－95	5住－2・3・15	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第3地点	305土	PL－33－96	Y－16G一括	Ⅱ－F	4	深鉢				胴	
第1地点	3住	PL－49－1	3住－1・2・3・4・6・7・8・9・23	Ⅳ		土師器壺		〔7.0〕		胴～底	
第1地点	3住	PL－49－2	3住－5・10・11・12・13・29・30・31	Ⅳ		土師器小型壺	8.8		(6.4)	口縁～胴	
第1地点	3住	PL－49－3	3住－13・16・17・18・26・28	Ⅳ		土師器高坏	〔18.3〕		(11.0)	口縁～脚	
第1地点	3住	PL－49－4	J－8G一括	Ⅳ		土師器高坏	〔22.0〕		(4.4)	口縁～坏	
第1地点	3住	PL－49－5	3住一括	Ⅳ		土師器高坏				坏	
第1地点	3住	PL－49－6	3住－15	Ⅳ		土師器高坏		12.2	(10.1)	脚	
第1地点	3住	PL－49－7	3住－14	Ⅳ		土師器高坏		14.2	(2.0)	脚	
第1地点	1住	PL－49－1	1住－45	Ⅴ	9世紀後半	土師器坏	13.6	5.4	4.3	口縁～底	[illegible]
第1地点	1住	PL－49－2	1住－46	Ⅴ	9世紀後半	土師器坏	13.8	5.2	4.6	口縁～底	[illegible]
第1地点	1住	PL－49－3	1住－34・一括、1住カマドー47・54・67・68・71・72・74・75・76・78・一括	Ⅴ	9世紀後半	土師器甕	〔29.9〕		(24.0)	口縁～胴	甲斐型
第1地点	1住	PL－49－4	1住－26・35、1住カマドー51・53・55・63・69・77・79・80・82	Ⅴ	9世紀後半	土師器甕	28.3		(20.4)	口縁～胴	甲斐型
第1地点	1住	PL－49－5	1住－22・23、1住カマドー62	Ⅴ	9世紀後半	土師器甕	〔28.6〕		(20.7)	口縁～胴	甲斐型
第1地点	1住	PL－49－6	1住－20・31	Ⅴ	9世紀後半	土師器甕	〔26.8〕		(7.0)	口縁～胴	甲斐型
第1地点	1住	PL－49－7	1住－24・一括、1住カマドー55	Ⅴ	9世紀後半	土師器甕		9.0	(9.2)	胴～底	甲斐型
第1地点	1住	PL－49－8	1住－42・60・61	Ⅴ	9世紀後半	須恵器甕					転用硯
第1地点	4住	PL－50－1	4住一括、4住カマドー6・15	Ⅴ	9世紀後半	土師器坏	〔15.2〕	〔10.0〕	9.8	口縁～底	信州系
第1地点	4住	PL－50－2	4住－3・4・5	Ⅴ	9世紀後半	土師器坏	〔15.3〕	〔6.3〕	5.9	口縁～底	[illegible]
第1地点	4住	PL－50－3	4住一括	Ⅴ	9世紀後半	土師器坏	〔13.0〕		(5.2)	口縁～胴	信州系内黒
第1地点	4住	PL－50－4	4住カマドー19・21	Ⅴ	9世紀後半	土師器坏	〔10.6〕	〔5.2〕	3.8	口縁～底	
第1地点	4住	PL－50－5	4住－19	Ⅴ	9世紀後半	須恵器坏		〔9.0〕	(3.2)	底	高台付坏
第1地点	4住	PL－50－6	4住pit5一括	Ⅴ	9世紀後半	土師器坏	〔15.1〕		(4.6)	口縁～胴	
第1地点	4住	PL－50－7	4住－10	Ⅴ	9世紀後半	土師器甕	〔24.7〕		(5.5)	口縁～胴	甲斐型
第1地点	4住	PL－50－8	4住－12	Ⅴ	9世紀後半	土師器甕		9.2	(2.9)	底	甲斐型
第1地点	4住	PL－50－9	4住カマドー5・10、pit5－2	Ⅴ	9世紀後半	土師器甕				口縁～胴	甲斐型
第1地点	4住	PL－50－10	4住カマドー14・20・26	Ⅴ	9世紀後半	土師器甕				胴	甲斐型
第1地点	4住	PL－50－11	4住カマドー23・24	Ⅴ	9世紀後半	土師器甕				胴	甲斐型
第1地点	1溝	PL－50－1	1溝一括	Ⅴ	9世紀後半	須恵器坏	〔12.0〕		(2.6)	口縁～胴	
第1地点	1溝	PL－50－2	1溝一括	Ⅴ	9世紀後半	須恵器甕	〔17.9〕		(2.7)	口縁	
第1地点	J－8G、K－9G	PL－50－1	J－8G一括、K－9G一括、P－8G一括	Ⅳ		土師器壺		〔6.6〕	(5.2)	胴	
第1地点	K－8G	PL－50－2	K－8G一括	Ⅳ		土師器甕	〔16.0〕		(3.8)	口縁	
第1地点	I－10G	PL－50－3	I－10G一括	Ⅴ	9世紀後半	須恵器坏	〔11.8〕		(2.8)	口縁～胴	
第1地点	L－8G	PL－50－4	L－8G一括	Ⅴ	9世紀後半	須恵器坏	〔12.8〕		(3.4)	口縁～胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－1	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ		ミニチュア	3.8	2.6	4.3	口縁～底	有孔土器
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－2	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅲ		ミニチュア	4.0	4.8	6.4	口縁～底	手づくね土器
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－3	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅲ－A	Ⅱ	小型		5.2	(6.3)	胴～底	2種

別表Ⅱ　遺物一覧表

出土地点		図版番号	登録番号	時代		器種分類	法量（cm） （）：現存値 〔〕：復元値			部位	文様分類
調査地点	遺構			時期	段階		口径	底径	器高		
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－4	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ	五領ヶ台Ⅱ古	深鉢				頸	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－5	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－C	1～2	深鉢				口縁	4種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－6	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－C	1～2	深鉢				胴	4種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－7	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	5種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－8	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－9	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－10	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－11	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－12	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－13	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－14	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－15	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－16	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－51－17	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－C	3	深鉢				胴	3種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－52－18	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－D	3	深鉢				胴	7種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－52－19	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－D	3	深鉢				胴	7種
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－52－20	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅰ古	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－52－21	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅱ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－52－22	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅱ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－52－23	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅱ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－52－24	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅱ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－52－25	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅱ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－52－26	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅱ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－52－27	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅱ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－52－28	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅱ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－29	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅱ	深鉢				口縁	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－30	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅱ	深鉢				口縁	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－31	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅱ	深鉢				口縁	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－32	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				口縁	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－33	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				口縁	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－34	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				口縁	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－35	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－36	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－37	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－38	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－39	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－40	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－41	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－42	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－53－43	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅳ	深鉢				胴	

出土地点		図版番号	登録番号	時代		器種分類	法量（cm） （）：現存値 〔〕：復元値			部位	文様分類
調査地点	遺構			時期	段階		口径	底径	器高		
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－54－44	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				口縁	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－54－45	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				口縁	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－54－46	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－54－47	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－54－48	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅴ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－54－49	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅴ終末	深鉢				口縁	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－54－50	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅴ終末	深鉢				口縁	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－54－51	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅴ終末	深鉢				口縁	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－54－52	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅴ終末	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－54－53	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅴ終末	深鉢				口縁	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－54－54	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ－E	Ⅴ終末	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－55－55	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				口縁	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－55－56	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅲ－A	Ⅰ	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－55－57	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅲ－B	2	深鉢				口縁	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－55－58	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅲ－B	2	深鉢				胴	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－55－59	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ		深鉢		13.6	(4.6)	底	網代痕
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－55－60	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ		深鉢		12.0	(7.2)	底	網代痕
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－55－61	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ		深鉢		10.6	(4.0)	底	網代痕
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－55－62	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅱ		深鉢		11.3	(11.7)	底	網代痕
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－55－63	峡北農業高等学校収蔵資料	弥生時代	後期	甕		8.7	(28.4)	口縁～胴	櫛描波状文
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－55－64	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅳ		有段口縁壺		8.4	28.8	口縁～底	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－55－65	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅴ	9世紀後半	坏	13.8	6.0	(5.6)	口縁～底	甲斐型
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－55－66	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅴ	9世紀後半	坏	11.2	4.6	4.4	口縁～底	甲斐型、黒色
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－55－67	峡北農業高等学校収蔵資料	Ⅴ	9世紀後半	坏	(14.8)	(5.4)	5.0	口縁～底	信州系黒色

【石器】

出土地点		図版番号	登録番号	器種分類	法量（cm）（）：現存値〔〕：復元値			重量（g）	石材
調査地点	遺構				最大長	最大幅	最大厚		
第1地点	1竪	PL－35－1	1竪S－2	石鎚	2.76	1.81	0.52	2.22	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－2	5住S－25	石鎚	1.92	(1.43)	0.34	0.49	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－3	5住S－32	石鎚	2.23	(1.54)	0.21	0.49	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－4	5住S－78	石鎚	1.69	1.24	0.25	0.34	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－5	5住S－128	石鎚	(1.53)	(1.19)	0.38	0.45	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－6	5住S－127	石鎚	2.27	1.66	0.47	1.26	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－7	5住一括	石鎚	2.35	1.52	0.50	1.32	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－8	5住一括	石鎚	1.98	1.50	0.49	0.96	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－9	5住一括	石鎚	2.01	1.75	0.50	1.44	黒曜石
第1地点	G－8G	PL－35－10	G－8G一括	石鎚	2.48	1.60	0.40	0.98	黒曜石
第1地点	I－10G	PL－35－11	I－10G一括	石鎚	(2.27)	(1.48)	0.27	0.72	頁岩
第1地点	I－10G	PL－35－12	I－10G一括	石鎚	2.06	(1.78)	0.25	0.60	黒曜石
第1地点	L－10G	PL－35－13	L－10G一括	石鎚	(2.05)	(0.92)	0.36	0.69	黒曜石
第1地点	N－10G	PL－35－14	N－10G一括	石鎚	(1.64)	2.50	0.26	0.67	黒曜石
第3地点	Y－15G	PL－35－15	Y－15G一括	石鎚	1.83	1.50	0.44	1.21	黒曜石
第3地点	Y－15G	PL－35－16	Y－15G一括	石鎚	(1.58)	(1.20)	0.41	0.70	黒曜石
第3地点	Y－15G	PL－35－17	Y－15G一括	石鎚	(2.63)	(1.43)	0.57	2.07	黒曜石
	表採	PL－35－18	表採	石鎚	1.56	(1.34)	0.22	0.26	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－19	5住一括	石錐	(2.81)	1.28	0.76	2.15	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－20	5住一括	掻器	2.54	2.16	1.00	3.88	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－21	5住一括	掻器	1.38	1.92	0.61	1.40	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－22	5住Y－15G一括	石匙	3.66	5.47	1.07	18.45	黒色安山岩
第3地点	5住	PL－35－23	5住S－111	石匙	4.80	(5.62)	0.84	21.58	黒色安山岩
第3地点	5住	PL－35－24	5住一括	石匙	5.35	6.46	0.85	23.34	黒色安山岩
第3地点	5住	PL－35－25	5住S－7	石匙	4.64	2.12	0.62	5.31	黒曜石
第3地点	249土	PL－35－26	249土S－1	石匙	(5.95)	3.50	1.54	26.64	頁岩
第3地点	5住	PL－35－27	5住pit5一括	両極石器	2.24	2.01	0.79	3.40	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－28	5住一括－a	両極石器	2.28	1.39	0.61	1.44	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－29	5住下層－b	両極石器	1.43	2.35	0.61	1.39	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－30	5住一括－c	両極石器	1.89	2.05	1.14	3.39	黒曜石
第3地点	5住	PL－35－31	5住X－1G一括	両極石器	3.27	2.49	1.12	4.09	黒曜石
第1地点	B－6G	PL－35－32	B－6G一括	両極石器	2.00	2.15	0.75	3.16	黒曜石
第1地点	B－6G		B－6G一括	両極石器	(2.00)	(2.08)	0.75	3.14	黒曜石
第1地点	3住	PL－35－33	3住一括	両極石器	2.55	2.60	1.21	6.88	黒曜石
第1地点	4住	PL－35－34	4住一括	両極石器	2.94	2.15	0.73	7.70	黒曜石
第1地点	3住		3住一括	両極石器	(2.54)	2.56	1.18	6.87	黒曜石
第1地点	4住		4住一括	両極石器	3.36	2.63	1.86	7.63	黒曜石
第3地点	5住	PL－36－35	5住一括	使用痕石器	3.45	2.01	1.10	3.55	黒曜石
第1地点	2溝	PL－36－36	2溝一括	使用痕石器	1.95	1.55	0.80	1.66	黒曜石
第3地点	5住	PL－36－37	5住一括－e	剥片（直接）	4.26	2.30	0.89	5.70	黒曜石
第3地点	5住	PL－36－38	5住一括－f	剥片（直接）	2.99	2.39	0.61	2.97	黒曜石
第3地点	5住	PL－36－39	5住一括－g	剥片（直接）	3.45	2.44	0.81	4.12	黒曜石
第3地点	5住	PL－36－40	5住一括	剥片（間接）	4.10	2.31	0.89	7.53	黒曜石
第3地点	5住	PL－36－41	5住一括	剥片（間接）	3.02	1.55	0.60	2.39	黒曜石
第3地点	5住	PL－36－42	5住一括	剥片（間接）	2.25	1.46	0.49	1.29	黒曜石
第3地点	5住	PL－36－43	5住一括	剥片（間接）	2.05	2.00	0.51	1.61	黒曜石
第3地点	5住	PL－36－44	5住一括	剥片（間接）	1.81	2.39	0.47	1.49	黒曜石
第3地点	5住	PL－36－45	5住一括	剥片（両極）	1.85	1.47	0.43	1.07	黒曜石
第1地点	N－11G	PL－36－46	N－11G一括	剥片（両極）	2.06	0.60	0.34	0.29	黒曜石
第3地点	Y－15G	PL－36－47	Y－15G一括	剥片（両極）	2.21	1.33	0.61	1.47	黒曜石
第3地点	I－9G		I－9G一括	剥片	(2.17)	1.88	0.66	1.65	頁岩
第3地点	5住	PL－36－48	5住一括h	石核（直接）	2.92	3.63	2.01	14.00	黒曜石
第3地点	5住	PL－36－49	5住一括	石核（両極）	2.99	2.15	1.88	8.19	黒曜石
第3地点	5住		5住S－144	石核	10.70	6.98	3.80	295.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－145	石核	8.37	5.50	3.06	115.00	砂岩
第3地点	D－7G		D－7GS－1	石核	9.92	6.36	4.19	180.00	ホルンフェルス
第3地点	G－8G		G－8G一括	石核	12.10	6.38	3.16	240.00	安山岩
第3地点	5住		5住S－100	残核	5.30	3.79	2.05	38.05	砂岩
第3地点	5住		5住S－117	残核	8.05	4.70	2.20	97.75	砂岩
第3地点	5住		5住S－132	残核	3.90	3.50	2.06	22.10	ホルンフェルス
第3地点	5住	PL－36－50	5住S－124	原石	4.97	4.06	3.07	49.59	黒曜石
第3地点	J－7G	PL－36－51	J－7G一括	原石	5.14	3.41	1.61	26.28	黒曜石
第3地点	5住		5住S－27	礫	7.82	5.43	2.30	100.00	安山岩
第3地点	5住		5住S－36	礫	7.56	4.01	1.48	33.30	砂岩
第3地点	5住		5住S－44	礫	11.52	6.22	2.61	190.00	安山岩
第3地点	5住		5住S－75	礫	9.67	7.08	3.23	230.00	花崗岩
第3地点	5住		5住S－82	礫	3.64	3.01	2.14	23.06	安山岩
第3地点	5住		5住S－122	礫	10.22	7.20	2.46	200.00	安山岩
第3地点	5住		5住S－129	礫	10.30	11.24	2.34	400.00	安山岩
第3地点	5住		5住S－130	礫	4.44	3.32	1.44	19.37	砂岩
第3地点	5住		5住S－141	礫	18.10	16.10	11.40	3140.00	安山岩
第3地点	5住		5住S－154	礫	7.16	6.02	1.65	75.35	安山岩
第3地点	5住		5住S－160	礫	7.06	3.90	3.28	120.00	安山岩
第3地点	5住	PL－37－52	5住S－9	打製石斧	12.94	4.90	2.00	180.00	砂岩
第3地点	5住	PL－37－53	5住S－77	打製石斧	10.70	4.98	2.16	150.00	ホルンフェルス
第3地点	5住	PL－37－54	5住S－61	打製石斧	10.60	4.70	1.62	100.00	砂岩
第3地点	5住	PL－37－55	5住S－29	打製石斧	11.44	6.32	1.72	180.00	砂岩
第3地点	5住	PL－37－56	5住S－53	打製石斧	13.63	5.61	2.10	200.00	安山岩
第3地点	5住	PL－37－57	5住S－135	打製石斧	12.86	4.70	1.92	140.00	ホルンフェルス
第3地点	5住	PL－37－58	5住X－16G下層	打製石斧	15.86	5.62	2.63	220.00	ホルンフェルス
第3地点	5住	PL－37－59	5住S－133	打製石斧	13.60	5.70	2.50	225.00	安山岩
第3地点	5住	PL－37－60	5住S－107	打製石斧	12.24	4.86	1.56	105.00	砂岩
第3地点	5住	PL－37－61	5住S－125	打製石斧	11.84	(4.98)	1.70	120.00	安山岩
第3地点	5住	PL－37－62	5住下層	打製石斧	12.94	6.20	1.80	160.00	ホルンフェルス
第3地点	5住	PL－37－63	5住S－15	打製石斧	13.12	6.10	2.38	200.00	砂岩
第3地点	5住	PL－37－64	5住S－116	打製石斧	13.56	6.46	1.80	185.00	安山岩
第3地点	5住	PL－37－65	5住S－41	打製石斧	11.64	5.36	1.24	100.00	ハンレイ岩
第3地点	5住	PL－37－66	5住S－4	打製石斧	13.64	5.88	2.41	230.00	ホルンフェルス
第3地点	5住	PL－37－67	5住一括	打製石斧	11.70	4.72	1.88	120.00	ホルンフェルス
第3地点	5住	PL－38－68	5住一括	打製石斧	11.45	5.32	1.98	120.00	砂岩
第3地点	5住	PL－38－69	5住一括	打製石斧	10.35	5.72	1.54	100.19	砂岩
第3地点	5住	PL－38－70	5住S－24	打製石斧	11.92	6.00	2.00	150.00	砂岩
第3地点	5住	PL－38－71	5住S－8	打製石斧	11.96	7.62	2.52	225.00	砂岩
第3地点	5住	PL－38－72	5住S－103	打製石斧	(15.14)	(5.60)	1.90	175.00	砂岩
第3地点	5住	PL－38－73	5住S－74	打製石斧	(11.45)	(5.10)	2.70	205.00	砂岩
第3地点	5住	PL－38－74	5住S－136	打製石斧	(8.95)	(4.20)	1.94	78.17	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－1	打製石斧	13.26	4.28	2.00	140.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－2	打製石斧	13.04	5.12	2.28	170.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－3	打製石斧	(9.76)	5.26	1.24	65.18	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－5	打製石斧	11.24	5.86	2.11	125.00	砂岩
第3地点	5住		5住S－10	打製石斧	(8.20)	(5.06)	1.84	87.02	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－11	打製石斧	(13.27)	(6.06)	1.88	130.00	粘板岩
第3地点	5住		5住S－13	打製石斧	(8.52)	(4.72)	1.32	63.13	粘板岩
第3地点	5住		5住S－17	打製石斧	(9.20)	(7.16)	2.76	120.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－18	打製石斧	12.90	5.44	2.04	150.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－21	打製石斧	(8.66)	(5.62)	1.00	77.68	粘板岩
第3地点	5住		5住S－22	打製石斧	(8.44)	(4.80)	1.34	71.07	安山岩

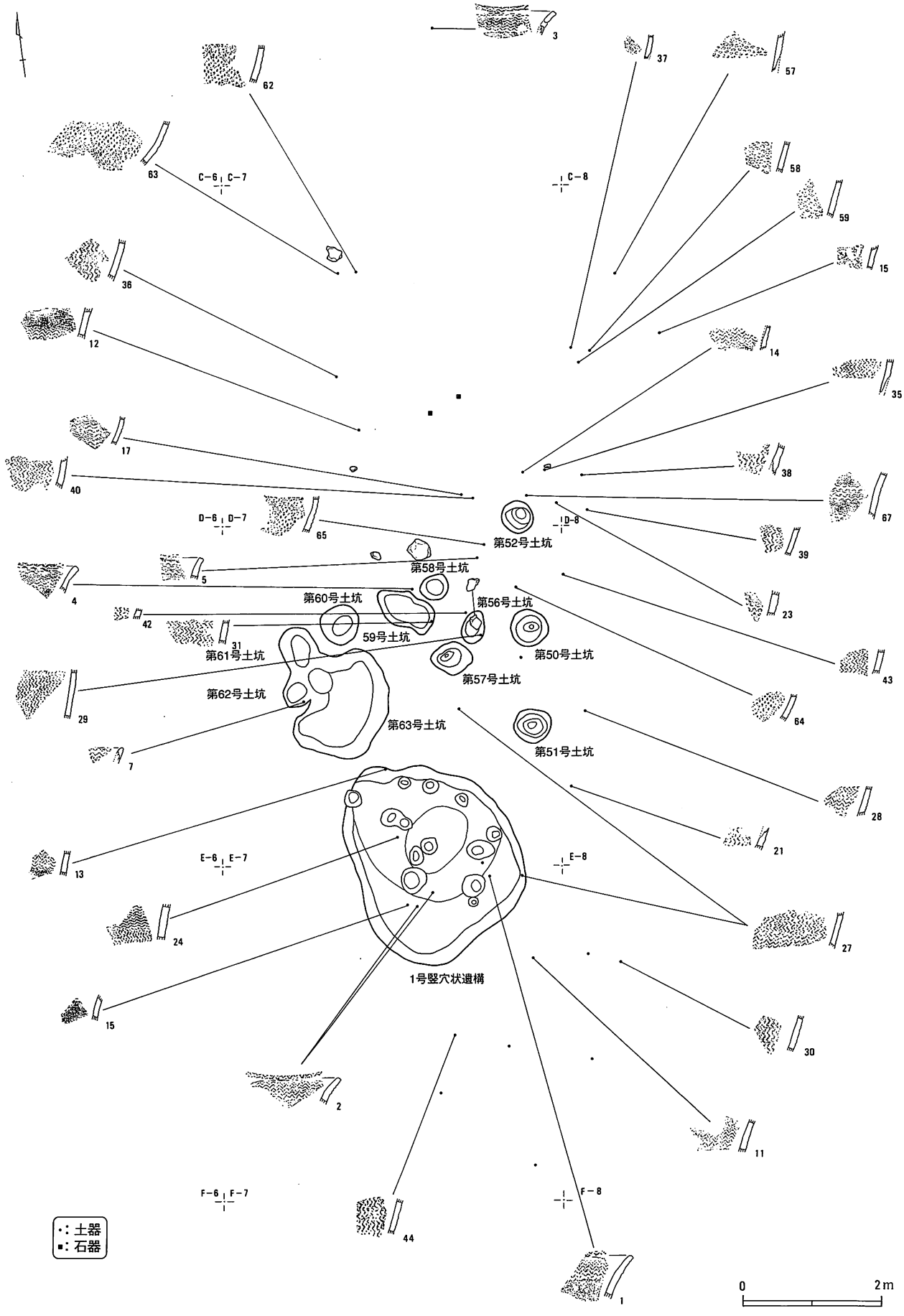
出土地点		図版番号	登録番号	器種分類	法量（cm）（）：現存値〔〕：復元値			重量（g）	石材
調査地点	遺構				最大長	最大幅	最大厚		
第3地点	5住		5住S－37	打製石斧	(10.28)	5.15	2.13	120.00	砂岩
第3地点	5住		5住S－50	打製石斧	(7.78)	5.53	1.44	93.54	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－54	打製石斧	(9.05)	5.10	1.50	94.25	砂岩
第3地点	5住		5住S－62	打製石斧	(11.55)	5.76	2.64	220.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－67	打製石斧	(8.16)	6.11	1.85	120.00	砂岩
第3地点	5住		5住S－69	打製石斧	(10.57)	(5.12)	1.92	110.00	安山岩
第3地点	5住		5住S－80	打製石斧	12.14	4.74	1.72	110.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－81	打製石斧	7.24	4.38	1.26	51.23	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－91	打製石斧	(10.32)	6.08	3.13	250.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－92	打製石斧	(5.65)	(6.22)	2.26	120.00	砂岩
第3地点	5住		5住S－101	打製石斧	(9.64)	6.11	1.50	130.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－105	打製石斧	(7.26)	(4.54)	1.90	83.93	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－114	打製石斧	(4.64)	(5.90)	1.34	48.23	安山岩
第3地点	5住		5住S－119	打製石斧	(6.64)	(7.50)	1.80	120.00	砂岩
第3地点	5住		5住S－126	打製石斧	(9.79)	(4.68)	(1.70)	77.59	砂岩
第3地点	5住		5住S－142	打製石斧	(8.43)	(4.98)	1.76	84.63	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－143	打製石斧	(5.88)	7.37	1.89	100.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－155	打製石斧	(4.50)	6.62	1.60	58.38	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－158	打製石斧	(7.46)	(5.58)	1.50	56.27	砂岩
第3地点	5住		5住X－16G一括	打製石斧	(3.28)	6.01	(1.41)	28.96	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住Y－16G一括	打製石斧	(8.50)	(4.40)	1.88	75.38	砂岩
第3地点	5住		5住一括	打製石斧	(10.05)	5.00	1.98	120.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住一括	打製石斧	14.12	5.72	1.83	125.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住一括	打製石斧	(8.14)	6.32	1.88	140.00	砂岩
第3地点	5住		5住一括	打製石斧	(8.58)	6.32	1.32	105.00	安山岩
第3地点	5住		5住一括	打製石斧	(7.46)	5.20	1.56	69.17	粘板岩
第3地点	5住		5住一括	打製石斧	(4.40)	4.76	1.05	28.05	砂岩
第3地点	5住		5住一括	打製石斧	(7.46)	(4.50)	2.10	65.65	砂岩
第3地点	5住		5住一括	打製石斧	(6.28)	5.26	1.51	63.59	砂岩
第3地点	5住		5住一括	打製石斧	(11.23)	(5.33)	2.12	120.00	砂岩
第3地点	5住		5住一括	打製石斧	(3.61)	(4.16)	(1.37)	23.96	砂岩
第3地点	5住		5住一括	打製石斧	(3.48)	(5.88)	1.40	40.24	砂岩
第3地点	5住		5住一括	打製石斧	(4.90)	5.93	1.87	52.98	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住一括	打製石斧	(4.76)	6.10	1.50	47.66	安山岩
第1地点	64土	PL－38－75	64土S－1	打製石斧	(8.04)	(6.49)	1.51	82.41	ホルンフェルス
第1地点	164土	PL－38－76	164土S－1	打製石斧	(13.22)	(5.53)	2.84	195.00	安山岩
第1地点	167土	PL－38－77	167土S－3	打製石斧	(7.82)	(6.12)	1.44	68.97	粘板岩
第1地点	167土	PL－38－78	167土S－1	打製石斧	(5.72)	5.58	2.32	76.60	砂岩
第1地点	204土	PL－38－79	204土S－1	打製石斧	(15.36)	7.83	1.61	240.00	粘板岩
第1地点	207土	PL－38－80	207土S－1	打製石斧	(9.65)	6.62	2.66	200.00	砂岩
第3地点	284土	PL－38－81	284土S－4	打製石斧	(7.98)	5.73	2.05	100.88	砂岩
第1地点	B－9G		B－9G一括	打製石斧	(12.10)	6.84	1.99	195.00	砂岩
第1地点	B－9G		B－9G一括	打製石斧	(7.66)	7.10	1.90	125.00	ホルンフェルス
第1地点	D－7G		D－7G一括	打製石斧	(7.54)	4.91	1.42	71.00	粘板岩
第1地点	F－9G		F－9G一括	打製石斧	(5.50)	(3.83)	1.51	41.00	粘板岩
第1地点	H－10G		H－10G一括	打製石斧	(7.93)	7.22	2.51	160.00	砂岩
第1地点	H－11G		H－11G一括	打製石斧	(8.75)	(4.49)	1.58	80.00	安山岩
第1地点	H－12G		H－12G一括	打製石斧	(14.70)	(5.95)	3.33	295.00	砂岩
第1地点	H－12G		H－12G一括	打製石斧	(11.10)	7.31	2.90	180.00	ホルンフェルス
第2地点	H－26G		H－26GS－2	打製石斧	(6.01)	(5.43)	1.37	50.00	砂岩
第1地点	I－11G		I－11G一括	打製石斧	8.60	5.62	2.30	110.00	ホルンフェルス
第1地点	M－9G		M－9G一括	打製石斧	(14.69)	7.79	2.72	290.00	砂岩
第1地点	N－11G		N－11G一括	打製石斧	(7.42)	(5.71)	(1.74)	78.00	ホルンフェルス
第1地点	表採		表採	打製石斧	(9.86)	(4.07)	1.64	80.00	安山岩
第1地点	撹乱		撹乱	打製石斧	(7.50)	(6.10)	1.80	99.60	砂岩
第3地点	5住	PL－38－82	5住S－12	打斧製作素材剥片	12.85	4.18	5.46	330.00	砂岩
第3地点	5住	PL－38－83	5住S－39	打斧製作成形剥片	5.72	3.02	0.54	12.10	安山岩
第3地点	5住		5住S－20	打斧成形剥片	7.68	(5.03)	1.58	57.53	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－26	打斧成形剥片	9.98	6.28	1.37	79.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－33	打斧成形剥片	10.32	7.84	2.30	170.00	砂岩
第3地点	5住		5住S－34	打斧成形剥片	6.82	8.48	2.50	150.00	砂岩
第3地点	5住		5住S－35	打斧成形剥片	8.36	4.22	1.22	44.95	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－38	打斧成形剥片	6.15	2.48	0.50	7.85	砂岩
第3地点	5住		5住S－43	打斧成形剥片	4.64	2.89	0.43	6.23	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－46	打斧成形剥片	7.60	4.16	1.17	35.38	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－47	打斧成形剥片	9.43	6.91	1.83	120.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－49	打斧成形剥片	11.30	6.21	2.61	220.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－60	打斧成形剥片	4.60	3.70	0.70	15.55	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－68	打斧成形剥片	8.26	4.16	1.52	36.20	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－70	打斧成形剥片	6.29	4.62	1.04	23.20	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－72	打斧成形剥片	9.98	6.92	2.08	170.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－76	打斧成形剥片	7.31	4.23	1.95	66.70	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－83	打斧成形剥片	8.46	5.39	2.32	62.64	砂岩
第3地点	5住		5住S－86	打斧成形剥片	8.14	5.00	1.90	65.83	砂岩
第3地点	5住		5住S－87	打斧成形剥片	7.48	7.11	1.65	85.46	砂岩
第3地点	5住		5住S－89	打斧成形剥片	6.22	4.12	0.36	12.34	安山岩
第3地点	5住		5住S－90	打斧成形剥片	7.50	5.05	1.34	51.83	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－93	打斧成形剥片	5.48	4.94	1.06	43.45	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－94	打斧成形剥片	5.22	4.68	1.20	31.59	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－95	打斧成形剥片	5.18	3.72	0.78	20.57	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－96	打斧成形剥片	7.60	4.23	1.86	66.24	安山岩
第3地点	5住		5住S－98	打斧成形剥片	3.57	3.22	0.92	11.44	安山岩
第3地点	5住		5住S－104	打斧成形剥片	10.04	3.73	0.80	26.90	安山岩
第3地点	5住		5住S－108	打斧成形剥片	5.91	4.01	0.86	22.06	砂岩
第3地点	5住		5住S－109	打斧成形剥片	5.57	4.86	2.88	79.53	砂岩
第3地点	5住		5住S－110	打斧成形剥片	5.52	3.44	1.40	25.76	安山岩
第3地点	5住		5住S－112	打斧成形剥片	7.18	5.22	1.12	46.64	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－115	打斧成形剥片	10.40	7.61	1.84	155.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住S－121	打斧成形剥片	8.60	3.22	1.90	36.54	砂岩
第3地点	5住		5住S－146	打斧成形剥片	5.26	7.26	1.30	46.23	砂岩
第3地点	5住		5住S－150	打斧成形剥片	3.46	3.15	0.74	7.02	安山岩
第3地点	5住		5住S－156	打斧成形剥片	8.20	4.44	1.48	36.77	砂岩
第3地点	5住		5住S－157	打斧成形剥片	7.84	3.52	1.40	44.99	粘板岩
第3地点	5住		5住一括	打斧成形剥片	4.48	3.36	1.48	30.80	ホルンフェルス
第3地点	6住		6住S－5	打斧成形剥片	9.96	5.40	0.72	30.68	ホルンフェルス
第3地点	6住		6住一括	打斧成形剥片	5.21	3.33	1.62	20.33	ホルンフェルス
第3地点	5住	PL－39－84	5住S－106	粗製石匙	(9.57)	(8.17)	1.65	78.44	頁岩
第3地点	5住		5住S－40	粗製石匙	6.60	4.46	1.96	70.83	砂岩
第3地点	5住		5住S－102	粗製石匙	7.00	13.37	1.70	120.00	ホルンフェルス
第3地点	5住		5住一括	粗製石匙	(3.85)	(3.24)	0.66	7.74	ホルンフェルス
第1地点	表採	PL－39－85	表採	粗製石匙	6.30	3.10	0.70	14.01	粘板岩
	表採	PL－39－86	表採	粗製石匙	7.50	8.80	1.60	82.86	黒色安山岩
	表採	PL－39－87	表採	粗製石匙	5.80	8.40	1.20	33.95	ホルンフェルス
第3地点	5住	PL－39－88	5住S－140	削器	11.94	3.90	1.27	66.25	砂岩
第1地点	L－9G	PL－39－89	L－9G一括	削器	10.49	4.81	1.39	77.73	安山岩
第1地点	L－10G	PL－39－90	L－10G一括	削器	(5.64)	5.41	1.38	38.24	ホルンフェルス
第3地点	5住	PL－39－91	5住S－16	削器	6.30	4.17	0.76	26.23	砂岩
第3地点	5住	PL－39－92	5住一括	削器	9.36	5.82	0.88	49.32	砂岩

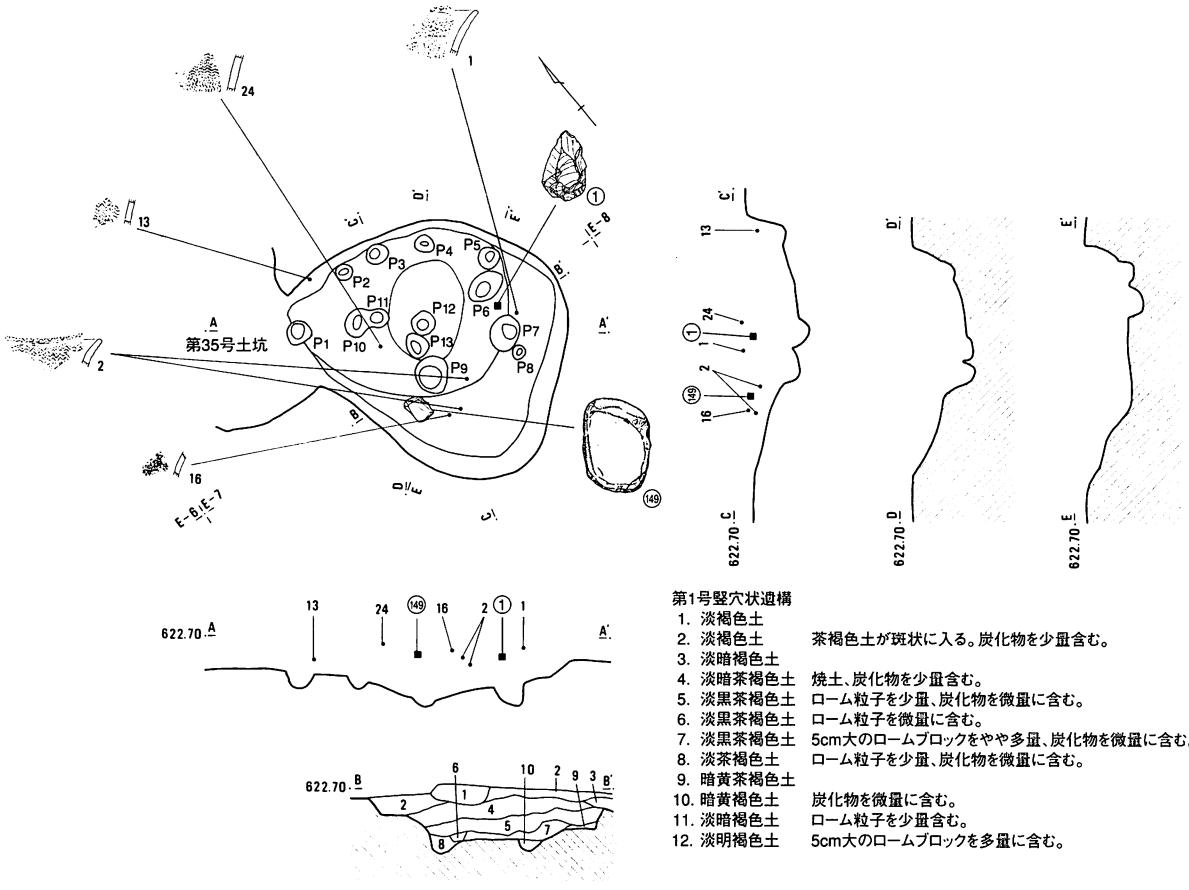
別表Ⅱ　遺物一覧表

出土地点		図版番号	登録番号	器種分類	法量（cm）（）：現存値〔〕：復元値			重量（g）	石材
調査地点	遺構				最大長	最大幅	最大厚		
第３地点	５住	PL－39－93	５住Ｓ－131	削器	8.01	10.28	1.90	130.00	砂岩
第３地点	５住	PL－39－94	５住Ｓ－14	削器	12.71	8.65	2.04	185.00	砂岩
第３地点	５住	PL－39－95	５住Ｓ－42	削器	5.51	7.42	0.86	51.00	ホルンフェルス
第３地点	５住		５住Ｓ－６	削器	8.94	8.52	3.20	250.00	ホルンフェルス
第３地点	５住		５住Ｓ－28	削器	5.08	6.41	0.87	38.45	ホルンフェルス
第３地点	５住		５住Ｓ－45	削器	7.72	(10.86)	2.23	180.00	ホルンフェルス
第３地点	５住		５住Ｓ－52	削器	5.10	8.36	1.28	58.20	ホルンフェルス
第３地点	５住		５住Ｓ－99	削器	12.06	5.94	1.56	100.48	砂岩
第３地点	５住		５住Ｓ－113	削器	5.60	8.50	1.78	56.72	砂岩
第３地点	５住		５住Ｓ－120	削器	(5.20)	(10.14)	1.12	96.05	砂岩
第３地点	５住		５住Ｓ－134	削器	5.70	9.67	1.08	76.45	砂岩
第３地点	５住		５住Ｙ－16Ｇ上層	削器	6.45	9.95	1.62	86.66	砂岩
第３地点	５住		５住一括	削器	3.76	6.35	1.30	28.72	ホルンフェルス
第３地点	５住		５住一括	削器	5.88	7.30	1.16	43.03	ホルンフェルス
第１地点	Ｆ－10Ｇ	PL－39－96	Ｆ－10Ｇ一括	削器	9.68	5.40	1.64	76.80	砂岩
第１地点	Ｏ－11Ｇ	PL－39－97	Ｏ－11Ｇ一括	削器	10.11	5.60	1.91	100.00	ホルンフェルス
第３地点	Ｘ－19Ｇ		Ｘ－19Ｇ一括	削器	(14.32)	6.02	2.08	210.00	ホルンフェルス
第３地点	５住	PL－39－98	５住Ｓ－48	礫器	8.06	8.58	2.65	230.00	砂岩
第３地点	５住	PL－39－99	５住Ｓ－23	礫器	7.24	7.13	4.66	305.00	砂岩
第３地点	５住		５住Ｓ－19	礫器	9.05	(6.31)	1.60	110.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－30	礫器	11.12	8.52	3.10	220.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－51	礫器	7.82	5.76	2.13	120.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－55	礫器	8.75	10.42	13.50	575.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－63	礫器	10.24	6.46	2.93	240.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－71	礫器	7.28	6.58	2.00	115.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－97	礫器	12.07	8.76	3.62	440.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－147	礫器	5.43	6.62	1.34	75.02	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－149	礫器	(7.66)	5.17	2.44	140.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－151	礫器	6.12	7.10	2.54	100.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－152	礫器	5.79	7.13	2.39	130.00	安山岩
第３地点	５住		５住一括	礫器	9.32	6.02	1.70	140.00	ホルンフェルス
第３地点	５住		５住Ｐ－376	礫器	5.72	6.24	1.66	77.49	安山岩
第３地点	５住		５住一括	礫器	6.66	5.84	1.43	68.77	砂岩
第３地点	５住		５住Ｐ－114	礫器	6.83	6.07	1.60	74.19	安山岩
第３地点	５住		５住一括	礫器	5.72	4.12	1.51	43.55	安山岩
第１地点	36土	PL－40－100	36土Ｓ－１	礫器	7.10	11.00	5.30	320.00	安山岩
第１地点	54土	PL－40－101	54土Ｓ－１	礫器	12.10	11.70	5.45	825.80	ホルンフェルス
第３地点	55土	PL－40－102	55上一括	礫器	10.26	10.39	3.90	240.00	ホルンフェルス
第３地点	284土	PL－40－103	284土Ｓ－５	礫器	8.07	10.42	3.30	280.00	安山岩
第３地点	284土	PL－40－104	284土Ｓ－２	礫器	7.34	7.80	2.68	140.00	安山岩
第３地点	284土	PL－40－105	284土Ｓ－３	礫器	7.43	8.01	2.45	160.00	安山岩
第１地点	Ｄ－9Ｇ	PL－40－106	Ｄ－9Ｇ一括	礫器	12.02	6.87	3.39	240.00	砂岩
第１地点	Ｉ－9Ｇ	PL－40－107	Ｉ－9Ｇ一括	礫器	11.77	9.62	3.32	640.00	砂岩
第１地点	Ｉ－10Ｇ	PL－40－108	Ｉ－10Ｇ一括	礫器	10.76	8.88	3.54	395.00	ホルンフェルス
第１地点	Ｉ－11Ｇ		Ｉ－11Ｇ一括	礫器	(15.63)	(8.39)	4.98	795.00	砂岩
第１地点	３住	PL－40－109	３住Ｓ－32	礫器	7.70	10.30	2.20	180.00	砂岩
第１地点	３住	PL－40－110	３住Ｓ－28	礫器	9.60	13.40	4.40	520.00	砂岩
第１地点	３住	PL－40－111	３住一括	礫器	8.80	10.80	3.10	240.00	ホルンフェルス
第１地点	１住	PL－41－112	１住一括	礫器	8.90	12.90	2.90	640.00	安山岩
第１地点	１地点表採	PL－41－113	１地点表採	礫器	12.61	9.37	5.63	680.00	安山岩
第３地点	５住	PL－41－114	５住Ｓ－153	ハンマー	7.10	5.32	1.50	71.17	砂岩
第１地点	Ｆ－9Ｇ	PL－40－115	Ｆ－9Ｇ一括	ハンマー	(8.25)	5.52	1.50	120.00	砂岩
第３地点	５住	PL－41－116	５住Ｓ－57	ハンマー	15.43	4.52	3.45	360.00	砂岩
第３地点	５住・230土	PL－41－117	５住Ｘ－16Ｇ下層 230土一括	磨製石斧	15.68	4.90	3.50	360.00	緑色凝灰岩
第１地点	Ｆ－11Ｇ	PL－41－118	Ｆ－11Ｇ一括	磨製石斧	(7.17)	(5.58)	(2.90)	130.00	緑色凝灰岩
第１地点	Ｈ－12Ｇ	PL－41－119	Ｈ－12Ｇ一括	磨製石斧	(7.51)	(4.44)	(3.51)	135.00	緑色凝灰岩
第１地点	Ｌ－8Ｇ	PL－41－120	Ｌ－8Ｇ一括	不明石器	4.89	0.94	0.73	6.48	安山岩
第３地点	５住	PL－41－121	５住Ｓ－85	土器混和剤	10.82	9.03	2.19	225.00	花崗岩
第３地点	５住		５住Ｓ－79	土器混和剤	12.00	11.22	6.50	1180.00	花崗岩
第３地点	５住		５住Ｓ－123	土器混和剤	11.56	6.20	1.76	120.00	花崗岩
第３地点	５住	PL－42－122	５住一括	磨石類	14.72	8.81	3.48	840.00	安山岩
第３地点	５住	PL－42－123	５住Ｓ－118	磨石類	8.58	7.30	3.94	320.00	安山岩
第３地点	５住	PL－42－124	５住Ｓ－56	磨石類	7.56	5.79	3.22	140.00	安山岩
第３地点	５住	PL－42－125	５住Ｓ－73	磨石類	8.94	7.64	4.33	360.00	安山岩
第３地点	５住	PL－42－126	５住Ｓ－31	磨石類	9.72	8.26	4.76	510.00	安山岩
第３地点	５住	PL－42－127	５住Ｓ－58	磨石類	10.34	7.28	5.60	560.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－84	磨石類	12.44	9.77	6.26	940.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－88	磨石類	11.14	9.71	7.05	925.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－137	磨石類	(15.60)	(14.60)	8.00	2159.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－138	磨石類	17.20	12.00	6.00	1979.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－139	磨石類	9.20	(6.14)	4.52	285.00	安山岩
第３地点	５住		５住一括	磨石類	17.73	13.96	7.70	2240.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｙ－16Ｇ上層	磨石類	13.36	6.38	3.87	510.00	安山岩
第３地点	６住	PL－42－128	６住Ｓ－３	磨石類	12.62	4.63	4.20	370.00	砂岩
第３地点	６住	PL－42－129	６住Ｓ－４	磨石類	12.82	4.93	4.25	420.00	砂岩
第３地点	６住	PL－42－130	６住Ｓ－２	磨石類	12.83	9.12	5.61	840.00	安山岩
第３地点	６住	PL－43－131	６住Ｓ－６	磨石類	12.58	7.83	3.56	485.00	安山岩
第３地点	６住	PL－43－132	６住Ｓ－７	磨石類	9.12	7.86	4.63	460.00	安山岩
第１地点	67土	PL－43－133	67土Ｓ－１	磨石類	(8.43)	6.86	4.97	675.00	安山岩
第１地点	120土	PL－43－134	120土一括	磨石類	(6.77)	(7.78)	(6.72)	445.00	安山岩
第１地点	160土	PL－43－135	160土Ｓ－２	磨石類	16.18	8.20	5.72	1220.00	安山岩
第１地点	160土	PL－43－136	160土Ｓ－１	磨石類	10.91	6.81	4.67	520.00	安山岩
第１地点	２溝	PL－43－137	２溝一括	磨石類	(10.83)	(8.94)	(2.17)	210.00	安山岩
第１地点	Ｂ－8Ｇ	PL－43－138	Ｂ－8Ｇ一括	磨石類	10.10	8.17	3.56	420.00	安山岩
第１地点	Ｇ－10Ｇ		Ｇ－10Ｇ一括	磨石類	(8.82)	(8.62)	(2.92)	180.00	安山岩
第１地点	Ｈ－11Ｇ	PL－44－139	Ｈ－11Ｇ一括	磨石類	9.18	8.25	5.56	590.00	安山岩
第１地点	Ｈ－12Ｇ	PL－44－140	Ｈ－12Ｇ一括	磨石類	(10.72)	8.10	5.39	410.00	砂岩
第１地点	Ｉ－7Ｇ	PL－44－141	Ｉ－7Ｇ一括	磨石類	11.16	7.92	6.02	740.00	安山岩
第１地点	Ｌ－9Ｇ		Ｌ－9Ｇ一括	磨石類	9.62	5.81	1.85	140.00	安山岩
第１地点	Ｊ－7Ｇ	PL－44－142	Ｊ－7Ｇ一括	磨石類	14.15	7.28	6.64	1090.00	安山岩
第１地点	Ｎ－10Ｇ	PL－44－143	Ｎ－10Ｇ一括	磨石類	(15.30)	5.01	3.83	590.00	砂岩
第１地点	Ｏ－10Ｇ	PL－44－144	Ｏ－10Ｇ一括	磨石類	11.43	7.53	5.50	700.00	安山岩
第１地点	Ｏ－11Ｇ	PL－44－145	Ｏ－11Ｇ一括	磨石類	13.72	8.94	6.15	930.00	安山岩
第３地点	Ｙ－14Ｇ	PL－45－146	Ｙ－14Ｇ一括	磨石類	9.91	8.03	5.42	650.00	安山岩
第１地点	１住	PL－45－147	１住Ｓ－１	磨石類	11.32	10.72	5.72	925.00	安山岩
第１地点	４住	PL－45－148	４住Ｓ－１	磨石類	15.64	6.40	4.18	540.00	砂岩
第１地点	表採		表採	磨石類	(7.13)	(2.29)	4.67	110.00	安山岩
第１地点	１地点南		１地点南Ｐ－42	磨石類	8.21	5.74	2.90	160.00	安山岩
第１地点	１地点南		１地点南Ｐ－22	磨石類	5.73	4.78	3.12	85.00	安山岩
第１地点	１竪	PL－45－149	１竪Ｓ－１	石皿	30.20	22.40	8.70	8320.00	安山岩
第３地点	５住	PL－45－150	５住Ｓ－59	石皿	22.40	19.60	5.52	3580.00	安山岩
第３地点	５住	PL－45－151	５住Ｓ－66	石皿	17.01	13.30	15.00	3420.00	斑岩？
第３地点	５住	PL－45－152	５住Ｓ－64	石皿	19.32	(13.46)	5.48	1860.00	安山岩
第３地点	５住	PL－45－153	５住Ｓ－65	石皿	10.10	9.50	7.54	1140.00	安山岩
第３地点	５住		５住Ｓ－148	石皿	(16.20)	(9.50)	(8.40)	1000.00	安山岩
第１地点	67土	PL－46－154	67土Ｓ－２	石皿	(6.64)	(5.36)	(6.72)	295.00	安山岩
第１地点	Ｇ－9Ｇ	PL－46－155	Ｇ－9Ｇ一括	石皿	12.83	9.86	5.14	940.00	安山岩
	表採	PL－46－156	表採	石皿	16.60	11.40	3.90	869.00	安山岩
第１地点	１住	PL－46－157	１住Ｓ－２	石皿	41.60	34.70	12.30	2700.00	安山岩
第３地点	表採	PL－46－158	表採	石皿	48.80	37.60	12.50	3100.00	斑岩？
第３地点	５住		５住Ｓ－159	台石	(20.50)	(16.00)	(12.90)	4580.00	安山岩
第１地点	67土	PL－47－159	67土Ｓ－３	台石	23.80	18.20	13.50	6860.00	安山岩
第１地点	171土	PL－47－160	171土一括	台石	(14.00)	(13.70)	5.60	1250.00	安山岩
第３地点	245土		245土一括	台石	(16.70)	(13.40)	(12.95)	3500.00	花崗岩
第１地点	Ｄ－7Ｇ	PL－47－161	Ｄ－7Ｇ－Ｓ－7	台石	25.40	23.00	11.15	5610.00	安山岩
第３地点	Ｙ－16Ｇ	PL－47－162	Ｙ－16Ｇ一括	台石	17.37	16.80	5.14	2170.00	安山岩
第１地点	Ｅ－7Ｇ	PL－47－163	Ｅ－7Ｇ－Ｓ－4	台石	29.40	27.40	13.20	1600.00	安山岩
第１地点	Ｉ－9Ｇ		Ｉ－9Ｇ一括	台石	(10.61)	(10.22)	(3.31)	560.00	安山岩
第１地点	Ｏ－10Ｇ		Ｏ－10Ｇ一括	台石	13.15	12.48	12.16	3160.00	安山岩
第３地点	６住	PL－47－164	６住Ｓ－１	立石	33.80	12.40	8.40	6150.00	砂岩
第３地点	299土	PL－47－165	299土Ｓ－１	石棒	(10.31)	(8.07)	(7.71)	890.00	安山岩
第１地点	３住	PL－50－１	３住一括	不明石器	10.26	5.69	2.92	165.00	安山岩
第３地点	４住	PL－50－１	４住カマド支脚	カマド支脚	(13.80)	(11.90)	(6.30)	1147.40	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－56－１	峡北農業高等学校収蔵資料	打製石斧	11.4	4.6	1.2	90.9	粘板岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－56－２	峡北農業高等学校収蔵資料	打製石斧	17.3	8.5	3.7	620.5	粘板岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－56－３	峡北農業高等学校収蔵資料	打製石斧	10.9	5.9	1.6	127.8	砂岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－56－４	峡北農業高等学校収蔵資料	打製石斧	11.0	4.6	1.7	110.4	砂岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－56－５	峡北農業高等学校収蔵資料	打製石斧	13.1	6.6	2.4	257.2	ホルンフェルス
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－56－６	峡北農業高等学校収蔵資料	石鋸	5.7	10.1	1.5	59.9	頁岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－56－７	峡北農業高等学校収蔵資料	磨製石斧	(13.8)	(5.2)		(310.4)	緑色凝灰岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－56－８	峡北農業高等学校収蔵資料	磨製石斧	(12.7)	(5.2)	(4.5)	(453.0)	緑色凝灰岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－56－９	峡北農業高等学校収蔵資料	磨石類	7.5	7.0	6.2	463.5	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－56－10	峡北農業高等学校収蔵資料	磨石類	14.0	8.8	4.9	939.9	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－56－11	峡北農業高等学校収蔵資料	磨石類	9.9	7.7	5.0	628.2	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－56－12	峡北農業高等学校収蔵資料	磨石類	14.7	8.7	3.7	701.2	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－56－13	峡北農業高等学校収蔵資料	磨石類	14.5	7.6	3.7	685.1	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－56－14	峡北農業高等学校収蔵資料	磨石類	13.8	8.6	4.0	666.8	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－57－15	峡北農業高等学校収蔵資料	磨石類	10.1	5.6	4.1	286.8	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－57－16	峡北農業高等学校収蔵資料	磨石類	9.8	8.6	5.7	565.0	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－57－17	峡北農業高等学校収蔵資料	多孔石	13.0	12.8	9.9	2125.5	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－57－18	峡北農業高等学校収蔵資料	多孔石	15.8	15.0	10.0	2800.0	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－58－19	峡北農業高等学校収蔵資料	多孔石	18.4	19.9	14.4	5400.0	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－58－20	峡北農業高等学校収蔵資料	多孔石	(17.2)	13.9	11.3	3400.0	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－59－21	峡北農業高等学校収蔵資料	石皿	44.5	41.5	15.3	33200.0	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－59－22	峡北農業高等学校収蔵資料	石皿	(34.8)	39.2	(9.5)	13700.0	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－59－23	峡北農業高等学校収蔵資料	石皿	22.8	20.5	6.4	4200.0	安山岩
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－60－24	峡北農業高等学校収蔵資料	石棒	(17.1)	(9.9)	(8.4)	1859.3	安山岩

【土製品】

出土地点		図版番号	登録番号	器種分類	法量（cm）（）：現存値〔〕：復元値			重量（g）	備考
調査地点	遺構				最大長	最大幅	最大厚		
第３地点	５住	PL－34－１	５住Ｄ－１	土偶	(7.40)	(8.36)	(6.61)	190.00	頭部
第３地点	５住	PL－34－２	５住Ｄ－２	土偶	(4.10)	(3.53)	(2.65)	20.26	右脚部
第３地点	５住	PL－34－３	５住Ｐ－369	土偶	(2.90)	(3.67)	(2.98)	14.22	右脚部
第３地点	５住	PL－34－４	５住一括	円盤	4.24	4.00	1.41	26.07	
第３地点	５住	PL－34－５	５住Ｘ－16Ｇ下層	円盤	3.06	2.96	0.72	7.32	有孔
第３地点	５住	PL－34－６	５住Ｙ－15Ｇ一括	スプーン	(3.50)	(2.01)	(2.35)	6.26	
第３地点	５住	PL－34－７	５住一括	耳飾り	2.53	2.44	(1.60)	6.13	
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－60－25	峡北農業高等学校収蔵資料	土偶	(7.3)	(5.6)	(4.0)	122.8	胴部～脚部
峡北農業高等学校収蔵資料		PL－60－26	峡北農業高等学校収蔵資料	土偶	(10.5)	(6.7)	(4.8)		胴部～脚部

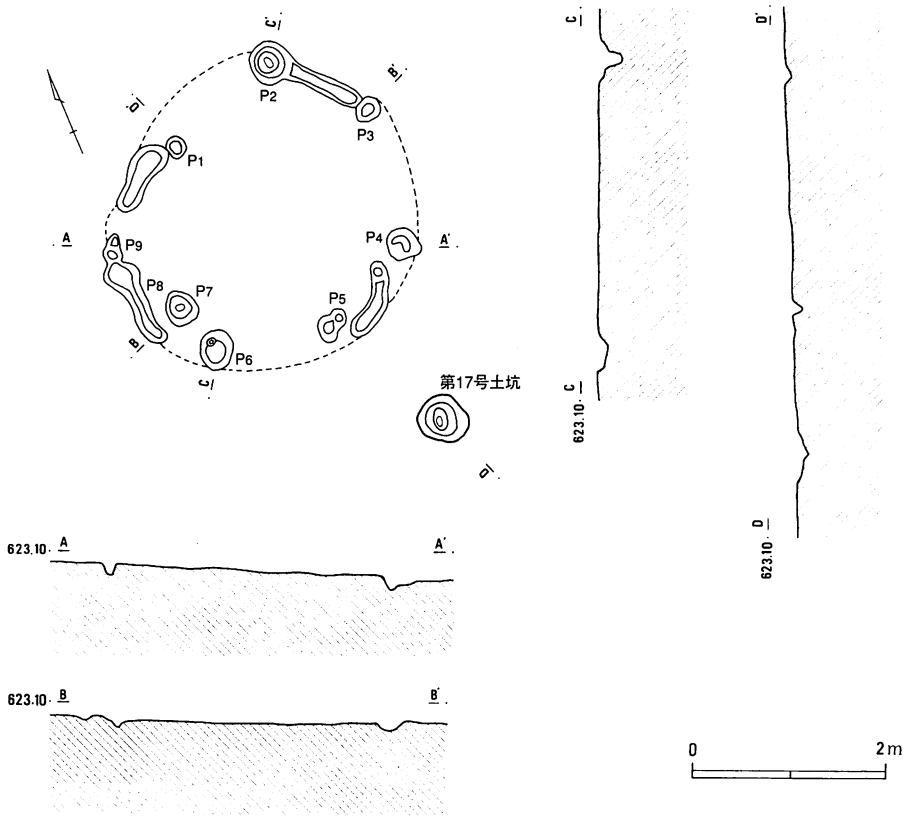

C-6
C-7
C-8
D-6
D-7
D-8
E-6
E-7
E-8
F-6
F-7
F-8
第52号土坑
第58号土坑
第60号土坑
第56号土坑
59号土坑
第61号土坑
第50号土坑
第57号土坑
第62号土坑
第63号土坑
第51号土坑
1号竪穴状遺構
・: 土器
▪: 石器
0
2m



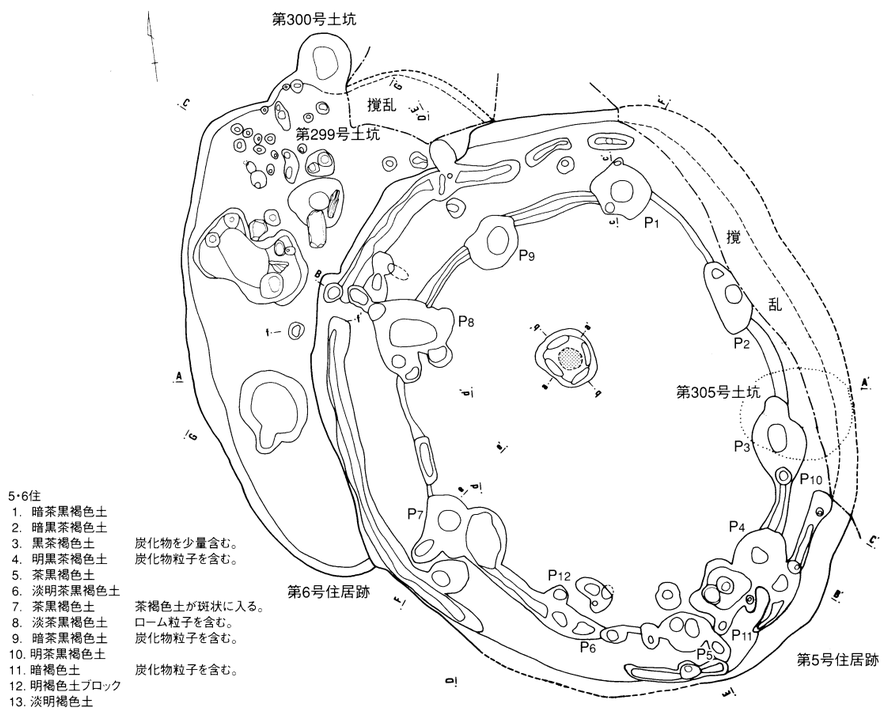
第1号竪穴状遺構

1. 淡褐色土
2. 淡褐色土　茶褐色土が斑状に入る。炭化物を少量含む。
3. 淡暗褐色土
4. 淡暗茶褐色土　焼土、炭化物を少量含む。
5. 淡黒茶褐色土　ローム粒子を少量、炭化物を微量に含む。
6. 淡黒茶褐色土　ローム粒子を微量に含む。
7. 淡黒茶褐色土　5cm大のロームブロックをやや多量、炭化物を微量に含む。
8. 淡茶褐色土　ローム粒子を少量、炭化物を微量に含む。
9. 暗黄茶褐色土
10. 暗黄褐色土　炭化物を微量に含む。
11. 淡暗褐色土　ローム粒子を少量含む。
12. 淡明褐色土　5cm大のロームブロックを多量に含む。

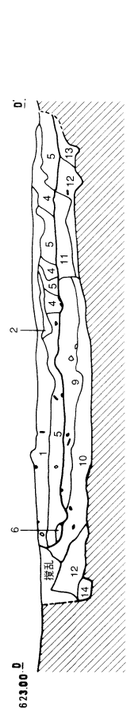
第1号竪穴状遺構

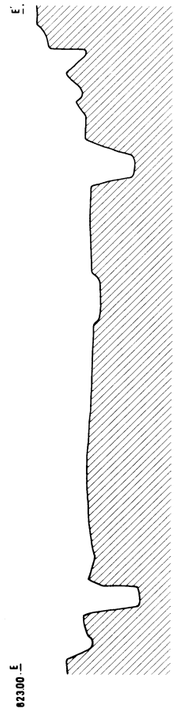


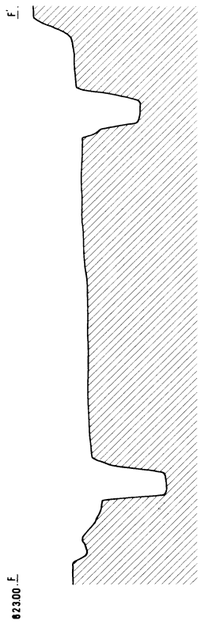
第2号住居跡

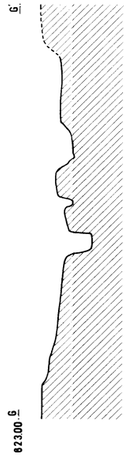


5・6住
1. 暗茶黒褐色土
2. 暗黒茶褐色土
3. 黒茶褐色土　炭化物を少量含む。
4. 明黒茶褐色土　炭化物粒子を含む。
5. 茶黒褐色土
6. 淡明茶黒褐色土
7. 茶黒褐色土　茶褐色土が斑状に入る。
8. 淡茶黒褐色土　ローム粒子を含む。
9. 暗茶黒褐色土　炭化物粒子を含む。
10. 明茶黒褐色土
11. 暗褐色土　炭化物粒子を含む。
12. 明褐色土ブロック
13. 淡明褐色土

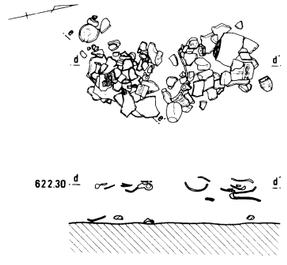




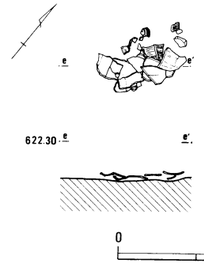


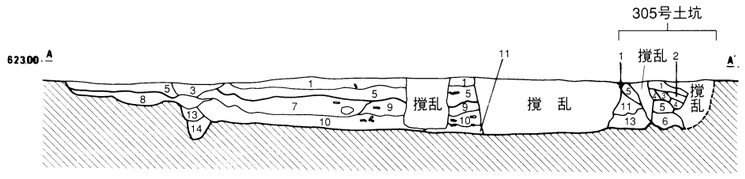


第5号住居跡土器集中出土地点（上面）

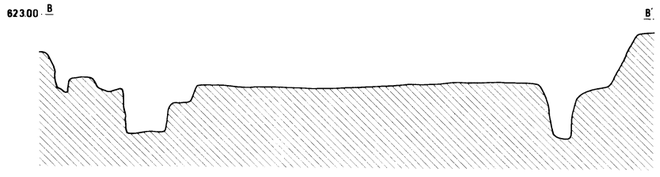


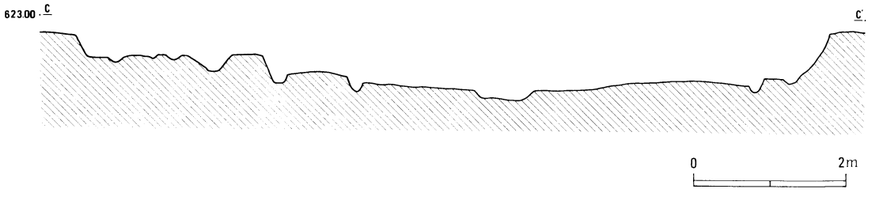
第5号住居跡土器集中出土地点（下面）



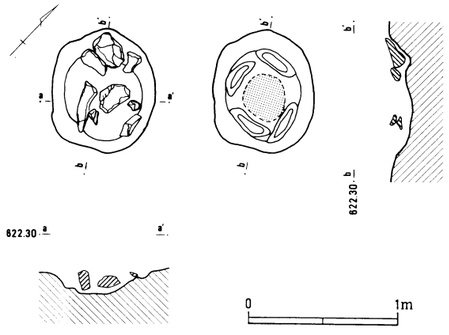


305土
1. 淡黒褐色土　ローム粒子、炭化物を微量に含む。
2. 淡黄茶褐色土　ローム粒子を微量に含む。
3. 淡黄褐色ロームブロック
4. 淡茶褐色土　炭化物を少量、焼土を微量に含む。
5. 淡褐色ロームブロック　ローム粒子、炭化物をやや多量に含む。
6. 淡暗黄褐色土　炭化物を少量含む。

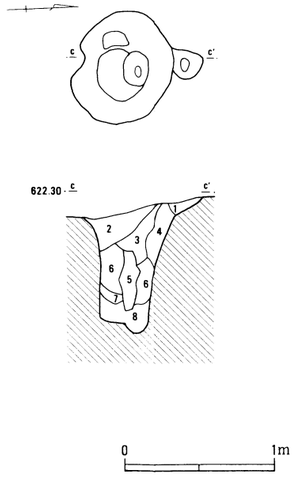




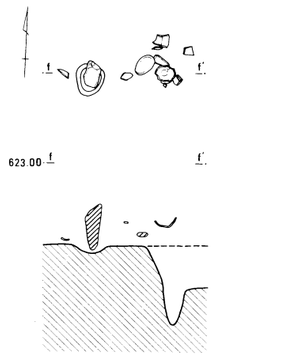
第5号住居跡・炉跡

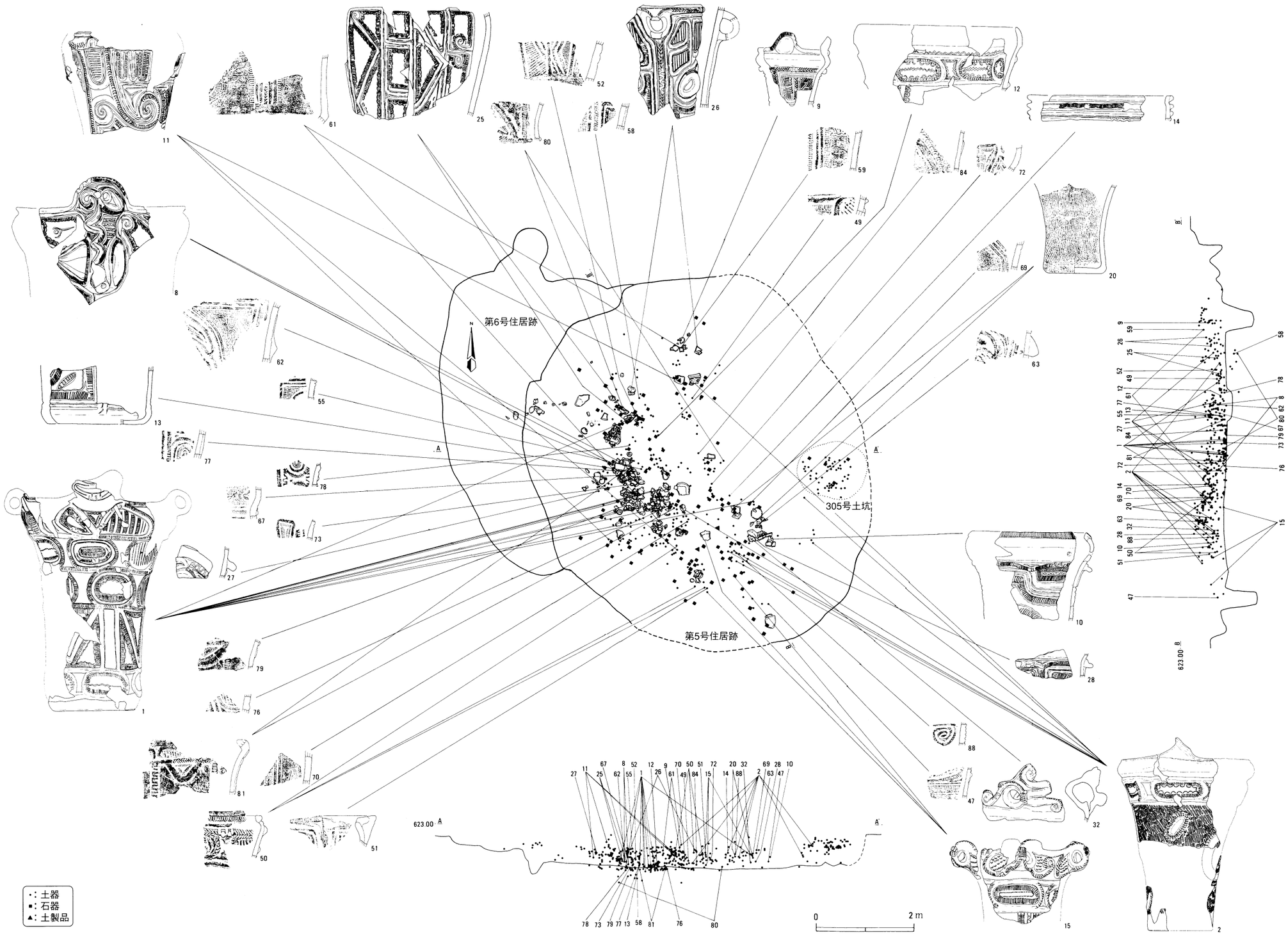


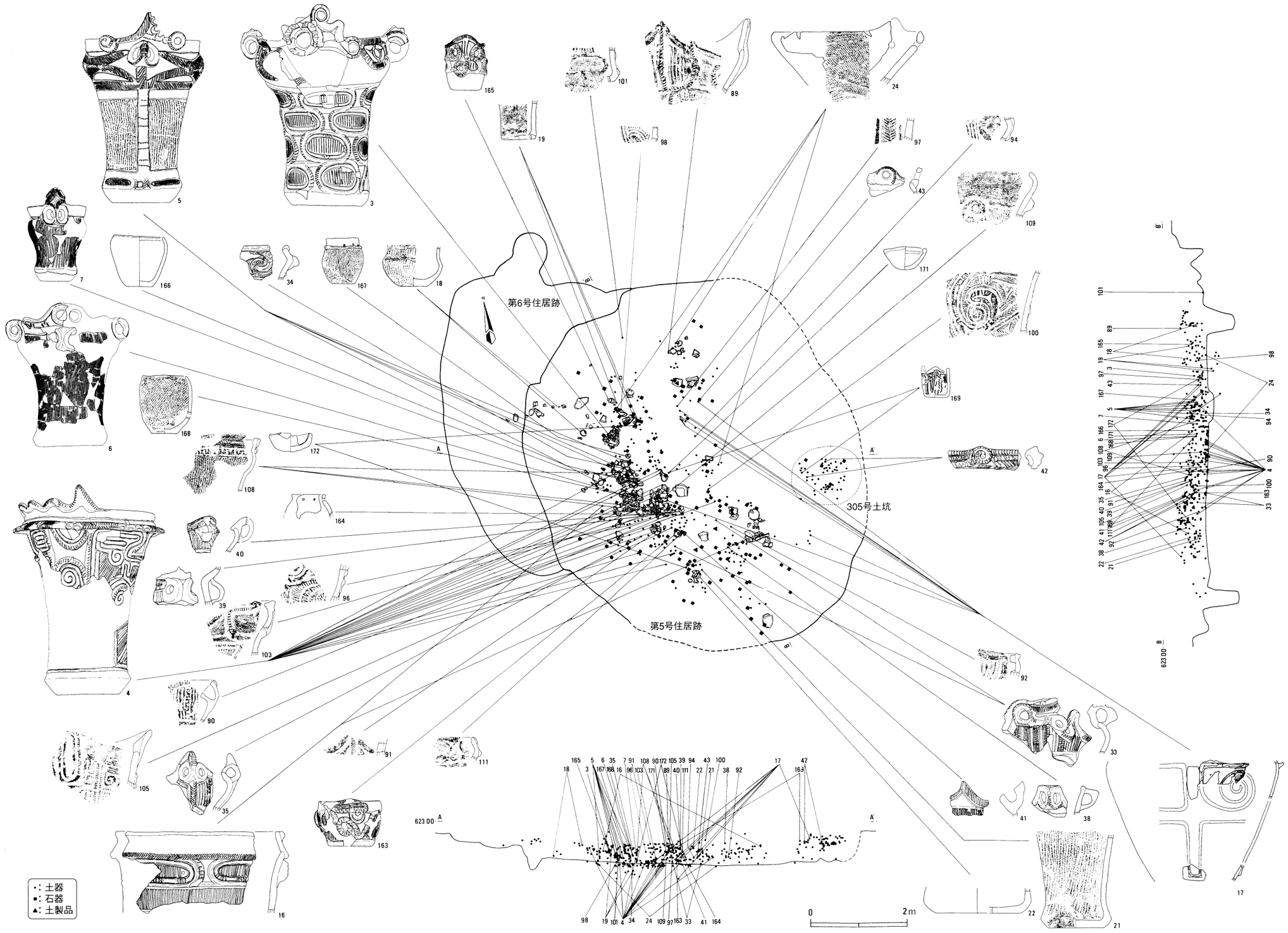
第5号住居跡P1

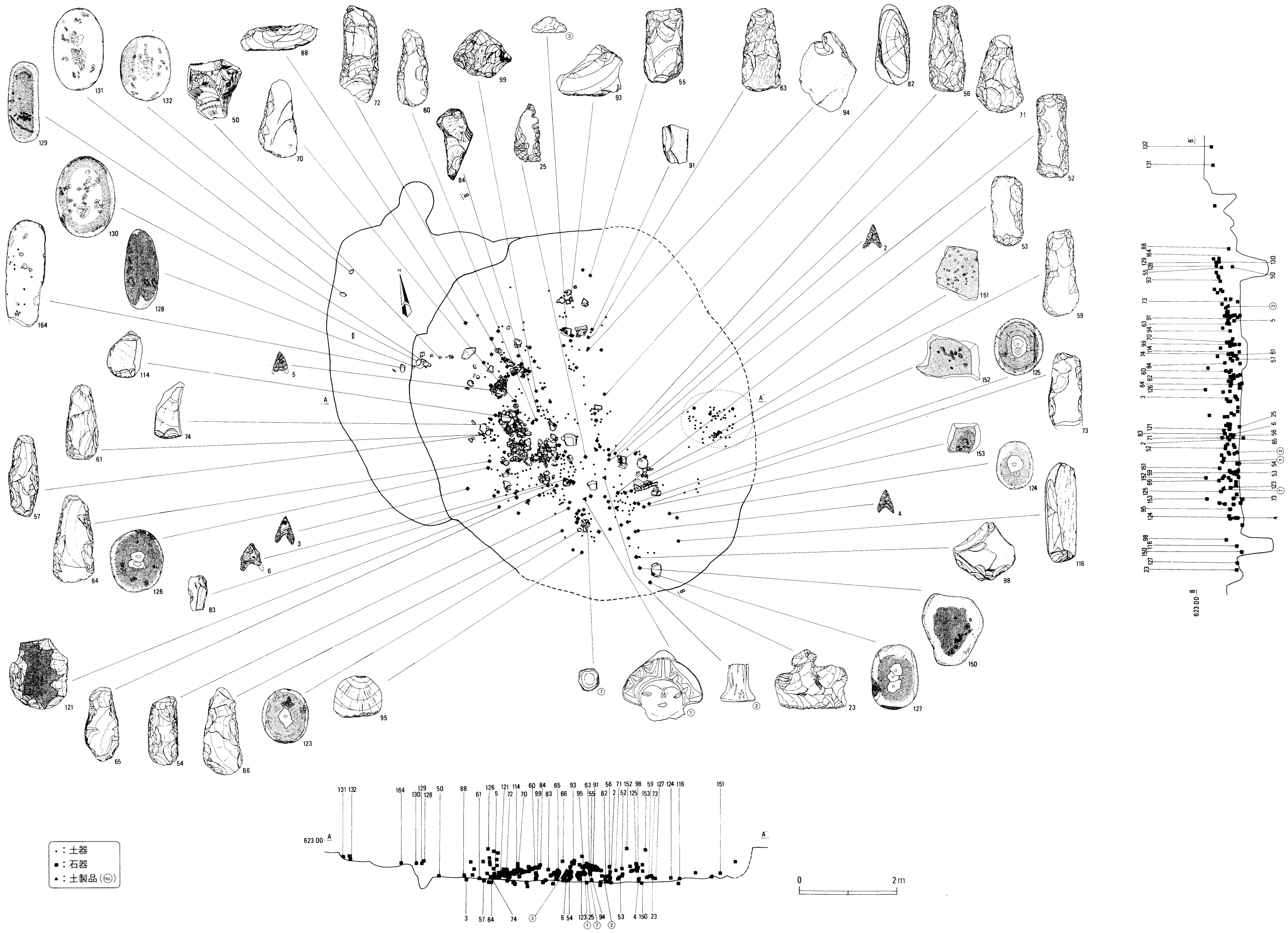


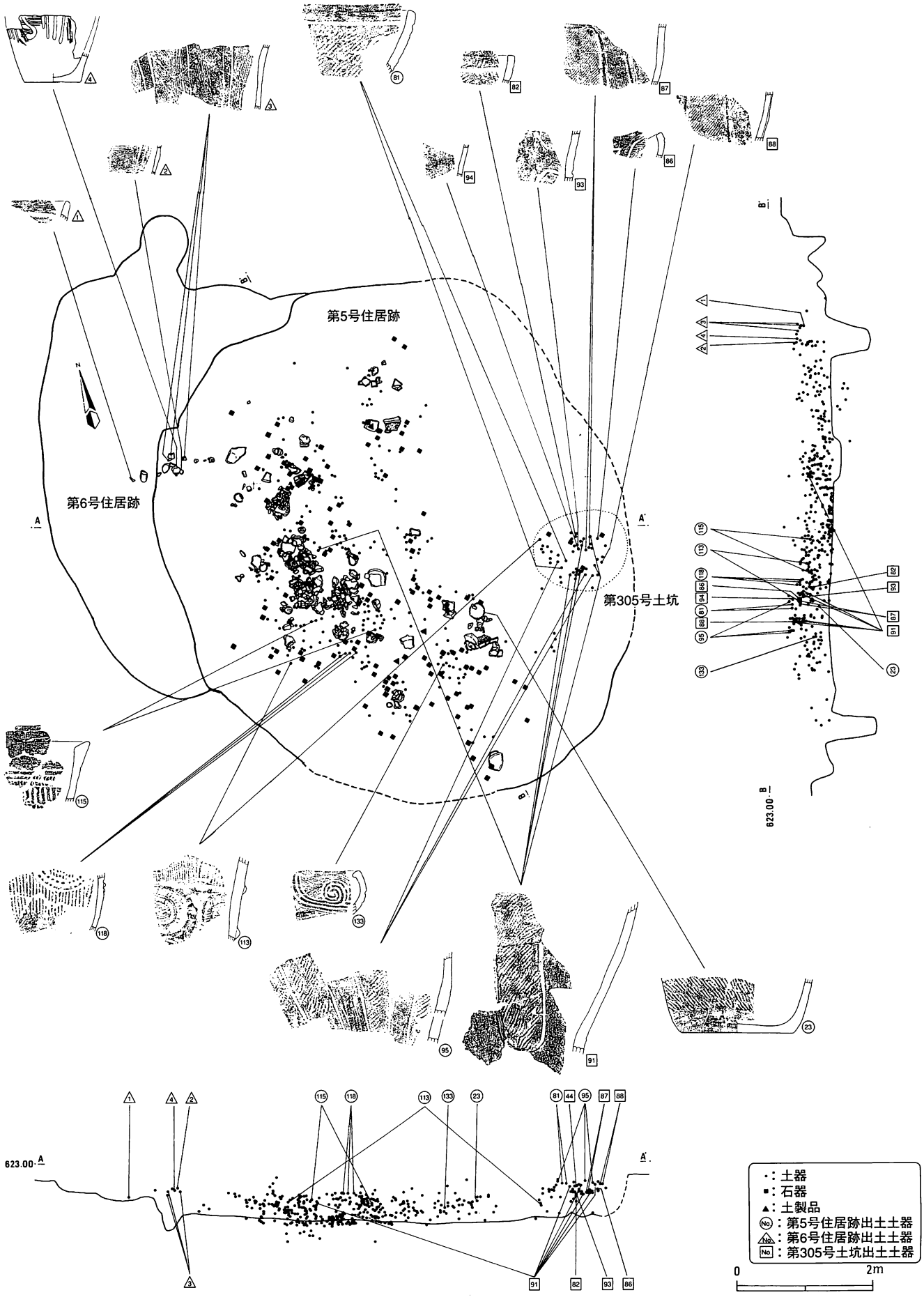
第6号住居跡遺物出土状況



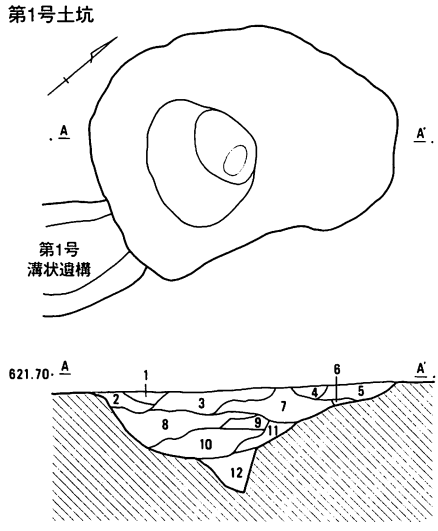

第6号住居跡
第5号住居跡
305号土坑
N
A
A'
B
B'
623.00
0
2 m
・: 土器
■: 石器
▲: 土製品


第6号住居跡
第5号住居跡
305号土坑
623.00
0
2m
∴: 土器
■: 石器
▲: 土製品


・：土器
■：石器
▲：土製品（No）
0
2m
623.00
A
A'
B
B'

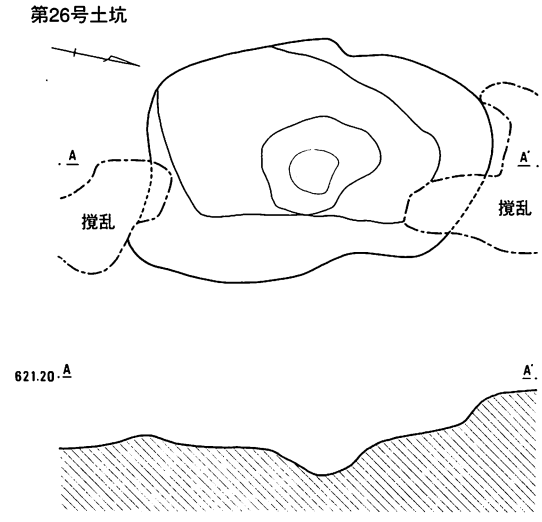

第5号住居跡
第6号住居跡
第305号土坑
623.00
・：土器
■：石器
▲：土製品
No.：第5号住居跡出土土器
No.：第6号住居跡出土土器
No.：第305号土坑出土土器
0
2m

第1号土坑

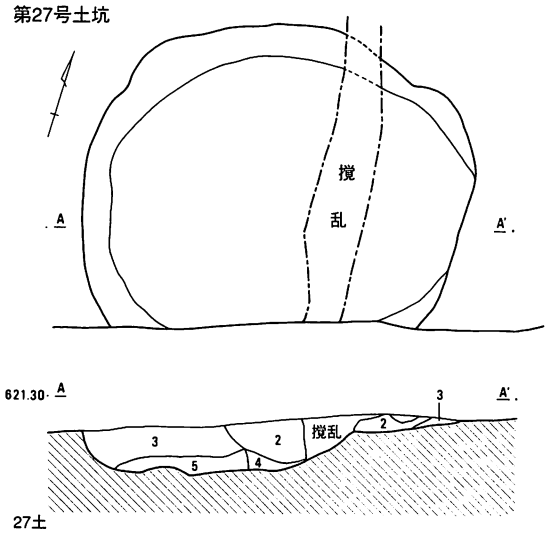


1土
1. 淡黒茶褐色土　1cm大ロームブロックを少量含む。
2. 淡黒茶褐色土
3. 明茶黒褐色土　炭化物を微量に含む。
4. 明褐色土
5. 淡褐色土　炭化物を少量含む。
6. 淡明褐色土　ローム粒子を多量に含む。
7. 淡暗褐色土
8. 淡暗褐色土　7層より暗い。
9. 暗黄褐色土　ローム粒子を多量に含む。
10. 淡明褐色土　ローム粒子を多量、1cm大のロームブロックを少量含む。
11. 暗黄褐色土
12. 暗黄茶褐色ロームブロック

第26号土坑

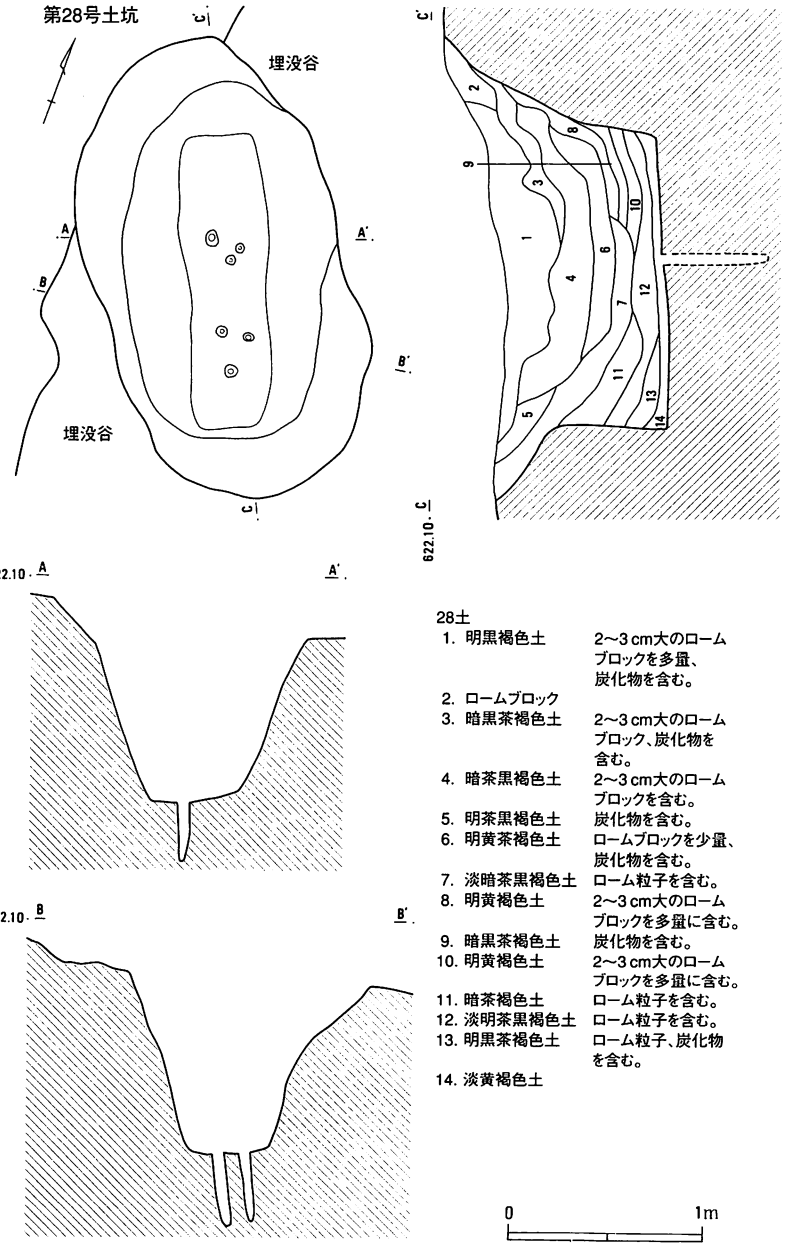


第27号土坑



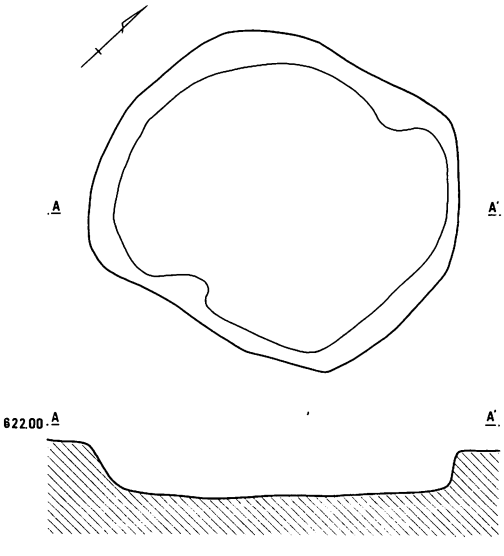
27土
1. ロームブロック
2. 褐色土　炭化物を少量含む。
3. 暗褐色土　炭化物を含む。
4. 暗黄茶色土　ロームを含む。
5. 明黄茶色土　ロームを多量に含む。

第28号土坑



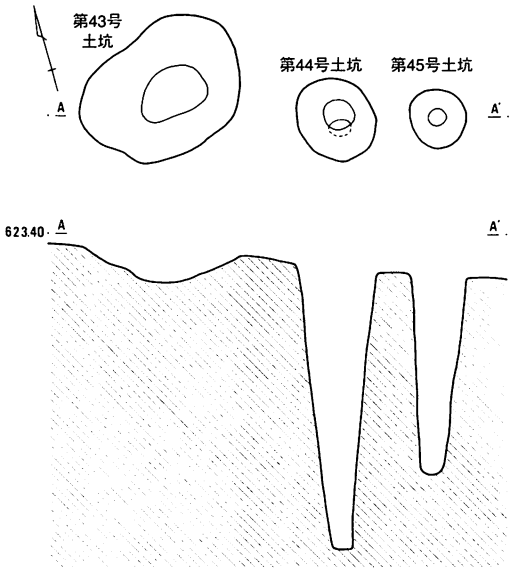
28土
1. 明黒褐色土　2～3cm大のロームブロックを多量、炭化物を含む。
2. ロームブロック
3. 暗黒茶褐色土　2～3cm大のロームブロック、炭化物を含む。
4. 暗茶黒褐色土　2～3cm大のロームブロックを含む。
5. 明茶黒褐色土　炭化物を含む。
6. 明黄茶褐色土　ロームブロックを少量、炭化物を含む。
7. 淡暗茶黒褐色土　ローム粒子を含む。
8. 明黄褐色土　2～3cm大のロームブロックを多量に含む。
9. 暗黒茶褐色土　炭化物を含む。
10. 明黄褐色土　2～3cm大のロームブロックを多量に含む。
11. 暗茶褐色土　ローム粒子を含む。
12. 淡明茶黒褐色土　ローム粒子を含む。
13. 明黒茶褐色土　ローム粒子、炭化物を含む。
14. 淡黄褐色土

第29号土坑

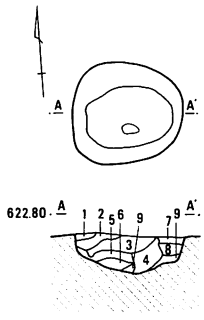


0　1m

第43・44・45号土坑

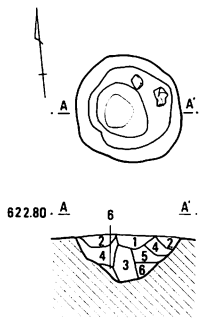


第50号土坑



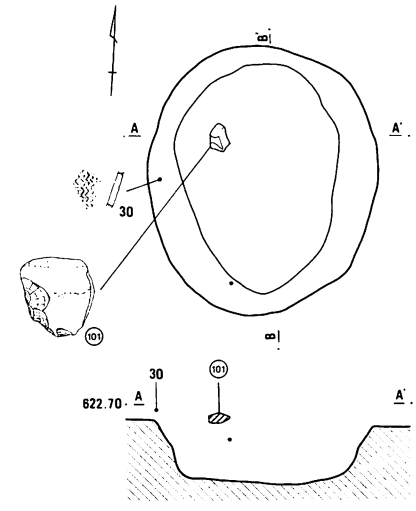
50土
1. 淡褐色土
2. 淡黒褐色土　ローム粒子を少量含む。
3. 淡褐色土　ローム粒子、炭化物を少量含む。
4. 淡暗褐色土
5. 淡黄褐色土　炭化物を微量に含む。
6. 淡黒褐色土　3mm大のロームブロックを微量に含む。
7. 淡茶黒褐色土
8. 黒褐色土
9. 淡暗茶褐色土

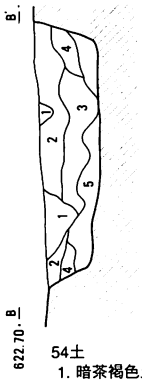
第51号土坑



51土
1. 淡暗褐色土　ローム粒子、5mm大のロームブロックをやや多量、焼土を微量に含む。
2. 淡暗茶褐色土　炭化物を微量に含む。
3. 淡褐色土　ローム粒子を微量に含む。
4. 淡黄褐色土　焼土を少量含む。
5. 淡褐色土　ローム粒子、5mm大のロームブロックをやや多量に含む。
6. 淡暗褐色土　ローム粒子、5mm大のロームブロックをやや多量に含む。

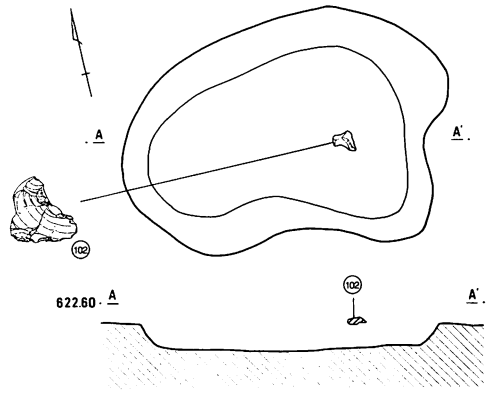
第54号土坑



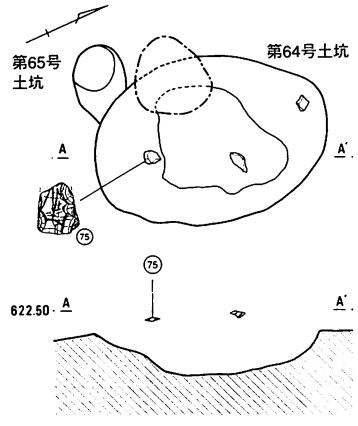


54土
1. 暗茶褐色土
2. 茶褐色土
3. 茶黒褐色土　ロームブロックを含む。
4. 暗褐色土
5. 淡茶褐色土

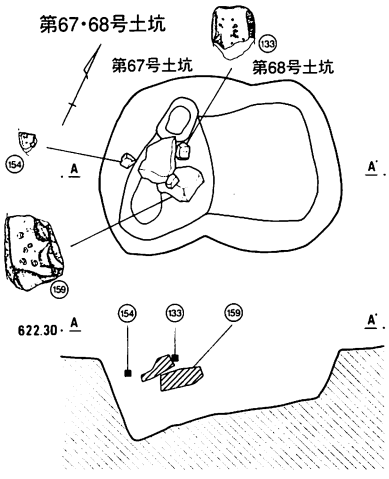
第55号土坑



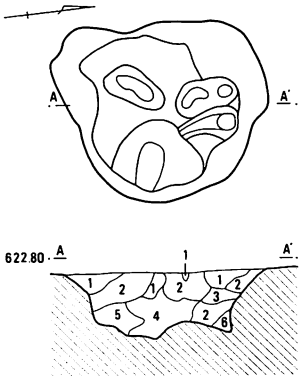
第64・65号土坑



第67・68号土坑



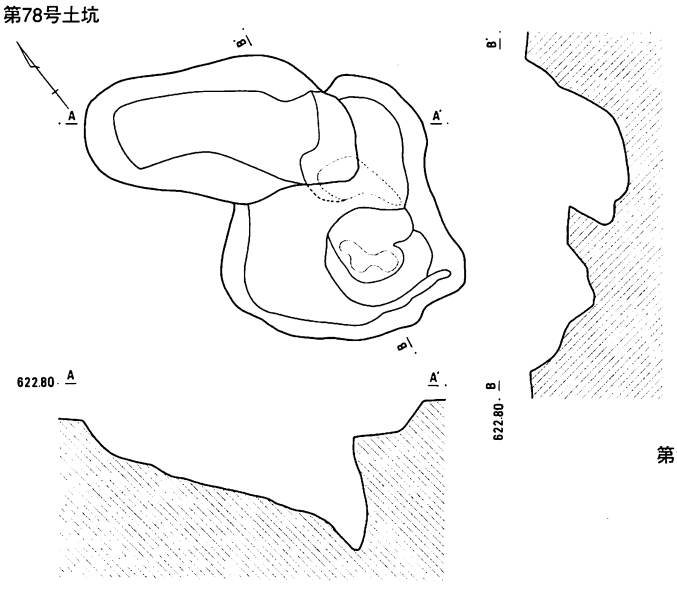
第77号土坑



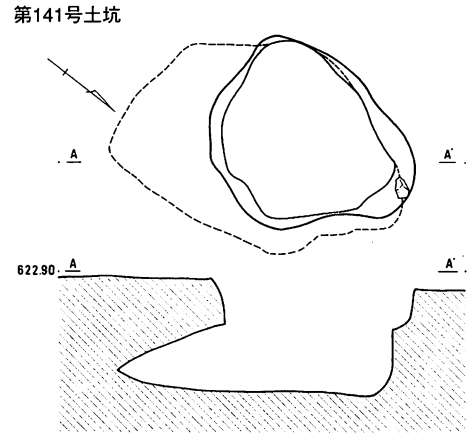
77土
1. 淡明黒茶褐色土
2. ロームブロック
3. 淡茶褐色土
4. 淡黄茶褐色土　ソフトローム。
5. 明茶黒褐色土　ローム粒子を含む。
6. 暗褐色土

0　1m

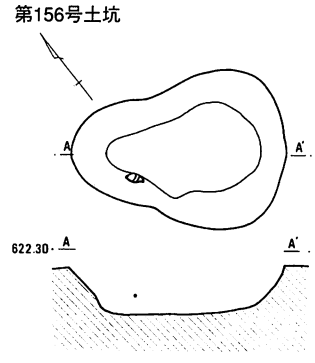
第78号土坑



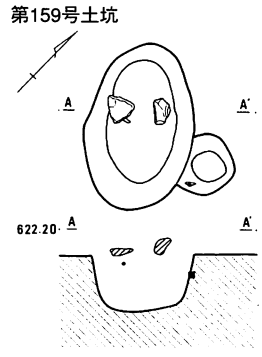
第141号土坑



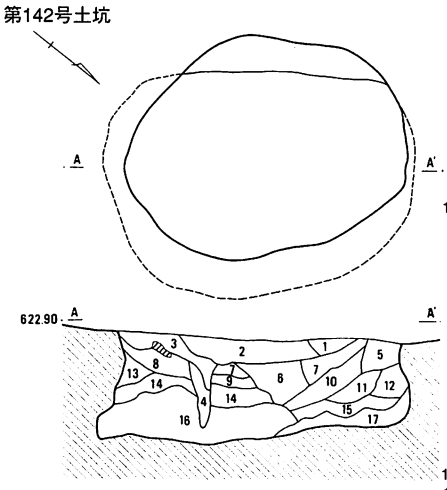
第156号土坑



第159号土坑

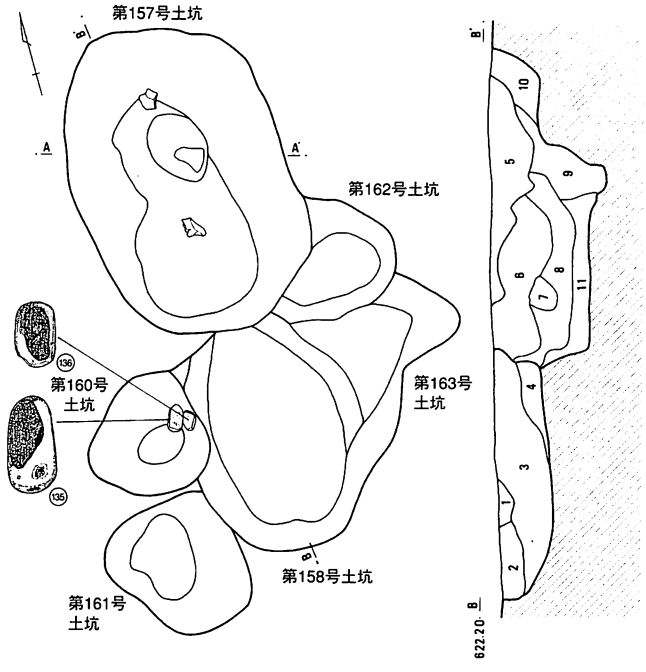


第142号土坑

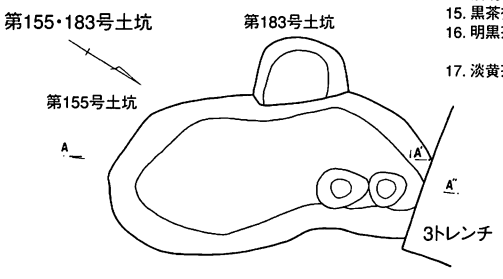


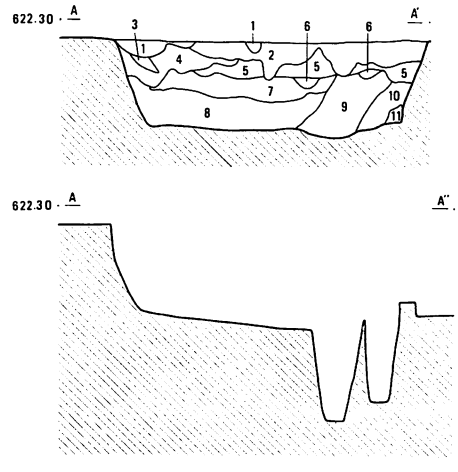
142土
1. 淡明茶褐色土
2. 明茶褐色土
3. 黒茶褐色土
4. 黄褐色土
5. 茶褐色土　ローム粒子を含む。
6. 淡明黒茶褐色土　ローム粒子を含む。
7. 暗黒茶褐色土　ローム粒子を含む。
8. 暗茶褐色土
9. 黒褐色土　ローム粒子を含む。
10. 淡明茶黒褐色土
11. 茶黒褐色土
12. 淡茶黒褐色土
13. 明黒茶褐色土
14. 淡明茶黒褐色土
15. 黒茶褐色土
16. 明黒茶褐色土　ロームブロックを含む。
17. 淡黄茶褐色土

第157・158・160～163号土坑

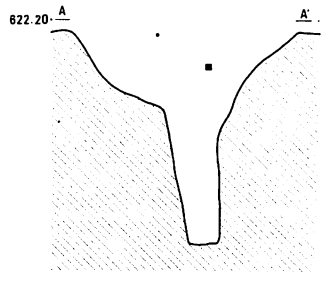


第155・183号土坑



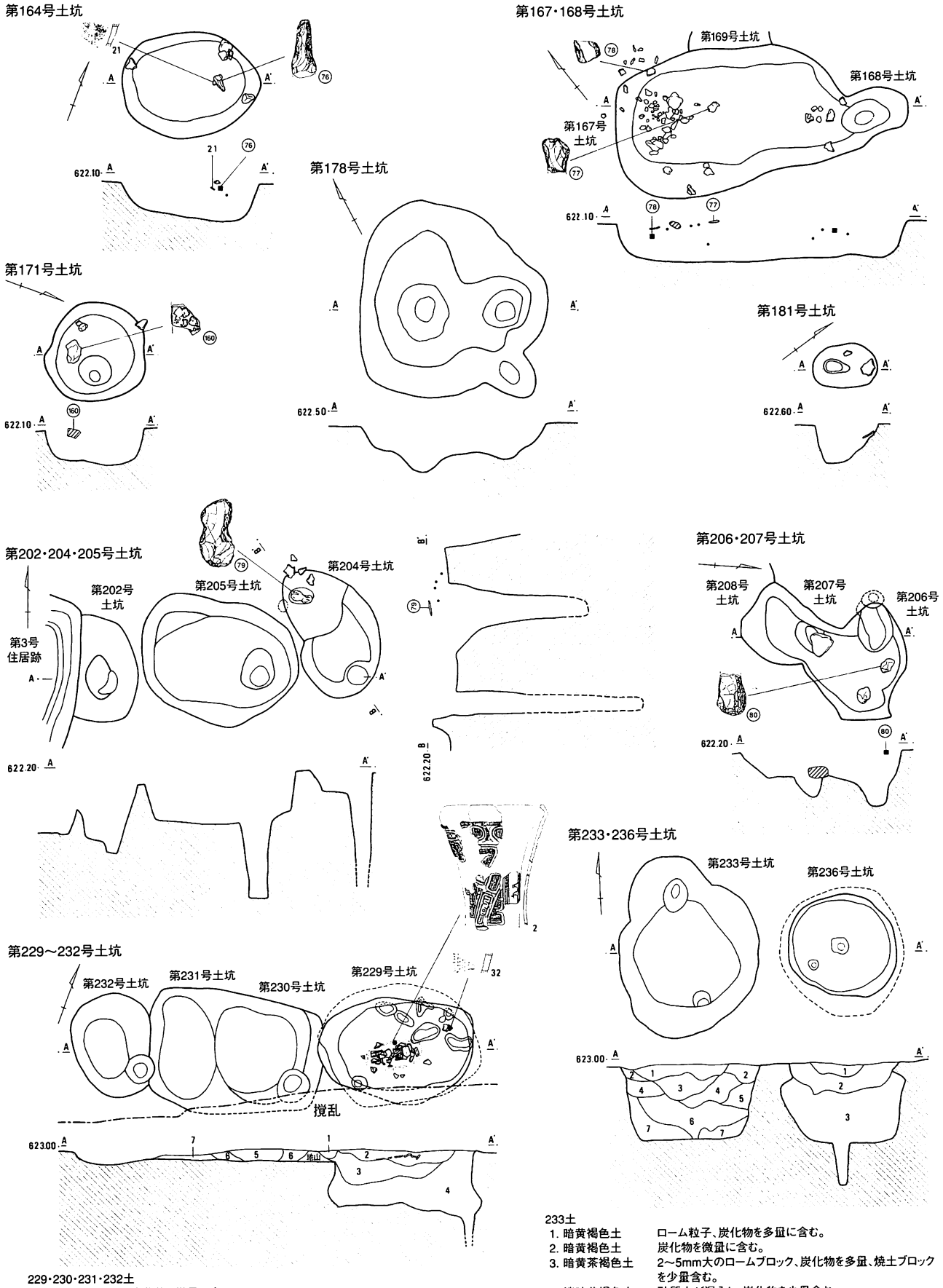


155土
1. 黒茶褐色土
2. 暗茶褐色土
3. 黒褐色土
4. 淡暗黒茶褐色土
5. 明茶褐色土
6. 暗茶黒褐色土
7. 茶黒褐色土　炭化物粒を含む。
8. 明黒茶褐色土
9. 明茶黒褐色土
10. 暗茶褐色土
11. 褐色土



157・158土
1. 黒茶褐色土　ローム粒子を含む。
2. 明黒茶褐色土
3. 淡茶黒褐色土
4. 明茶黒褐色土
5. 暗茶黒褐色土
6. 明黒茶褐色土
7. 黒茶褐色土
8. 淡明茶黒褐色土
9. 暗茶褐色土
10. 明茶褐色土
11. 明茶黒褐色土　ローム粒子を含む。

0　1m

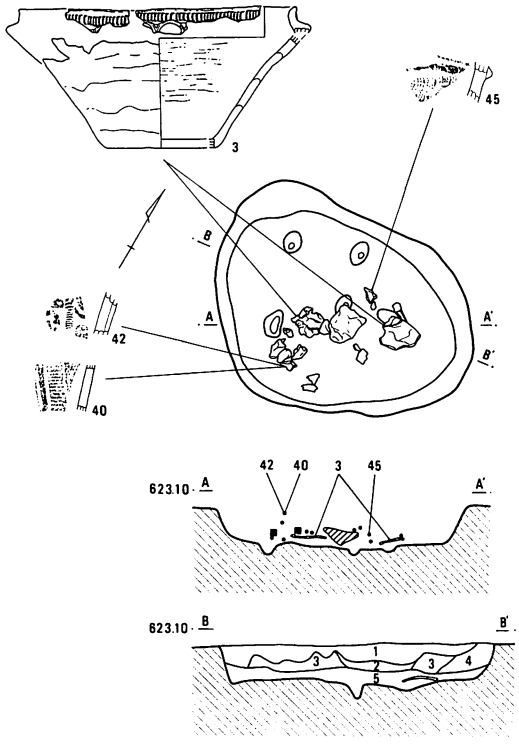


229・230・231・232土
1. 淡暗褐色土　炭化物を微量に含む。
2. 淡暗黄褐色土　ローム粒子を多量、焼土ブロック、炭化物を少量含む。
3. 暗黄褐色土　炭化物を少量含む。
4. 淡暗褐色土　5～20mm大のロームブロック、焼土ブロック、炭化物を多量に含む。
5. 暗黄褐色土　炭化物を少量含む。
6. 淡暗黄褐色土　焼土、炭化物を微量に含む。
7. 淡暗褐色土ブロック

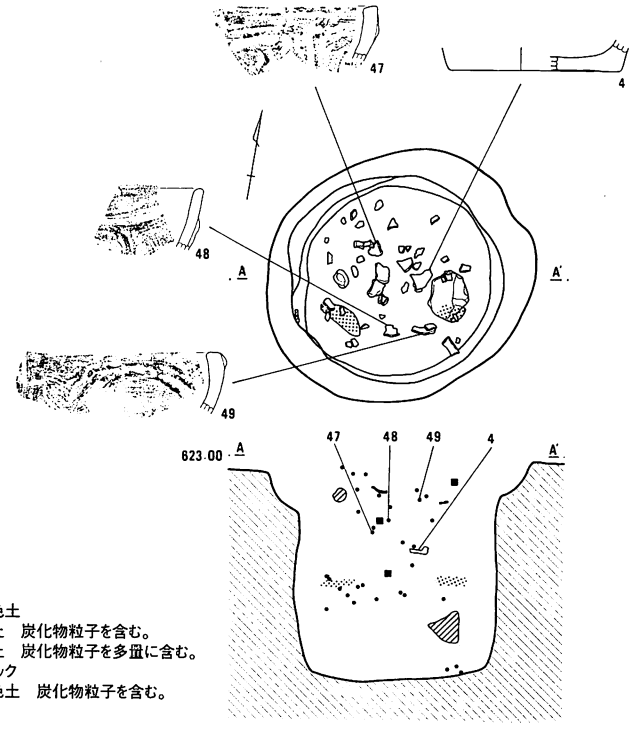
233土
1. 暗黄褐色土　ローム粒子、炭化物を多量に含む。
2. 暗黄褐色土　炭化物を微量に含む。
3. 暗黄茶褐色土　2～5mm大のロームブロック、炭化物を多量、焼土ブロックを少量含む。
4. 淡暗黄褐色土　砂質土が混入し、炭化物を少量含む。
5. 黄褐色土　1cm大のロームブロックを少量、炭化物を微量に含む。
6. 淡暗茶黒褐色土　1～3cm大のロームブロック、炭化物を多量に含む。
7. 暗黄褐色土　2～3cm大のロームブロックを多量、炭化物を少量含む。

0　1m

第241号土坑

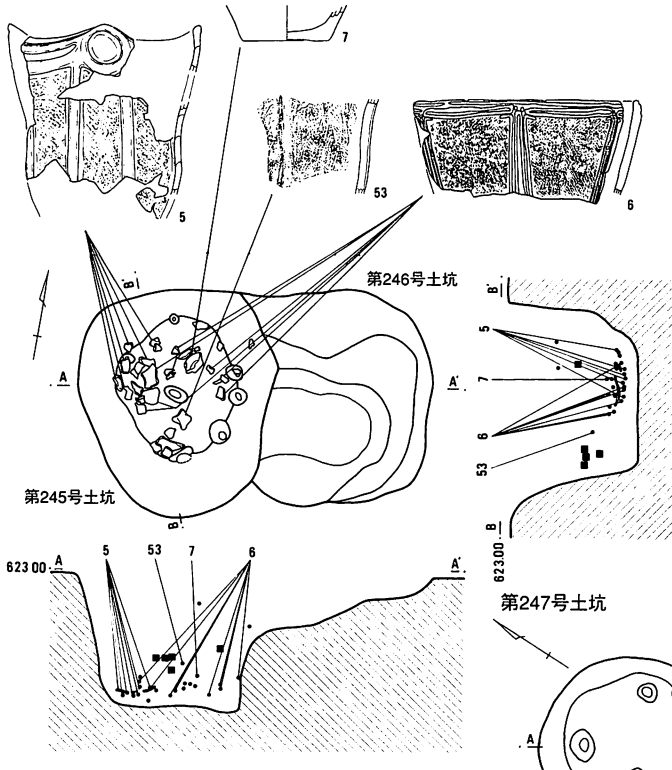


第243号土坑

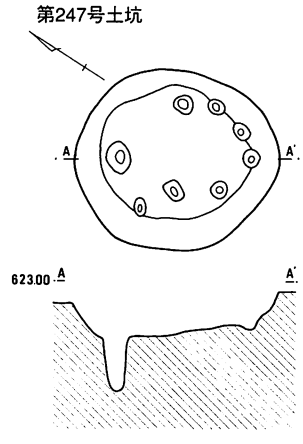


241土
1. 淡明茶褐色土
2. 黄茶褐色土　炭化物粒子を含む。
3. 茶黒褐色土　炭化物粒子を多量に含む。
4. ロームブロック
5. 暗茶黒褐色土　炭化物粒子を含む。

第245・246号土坑

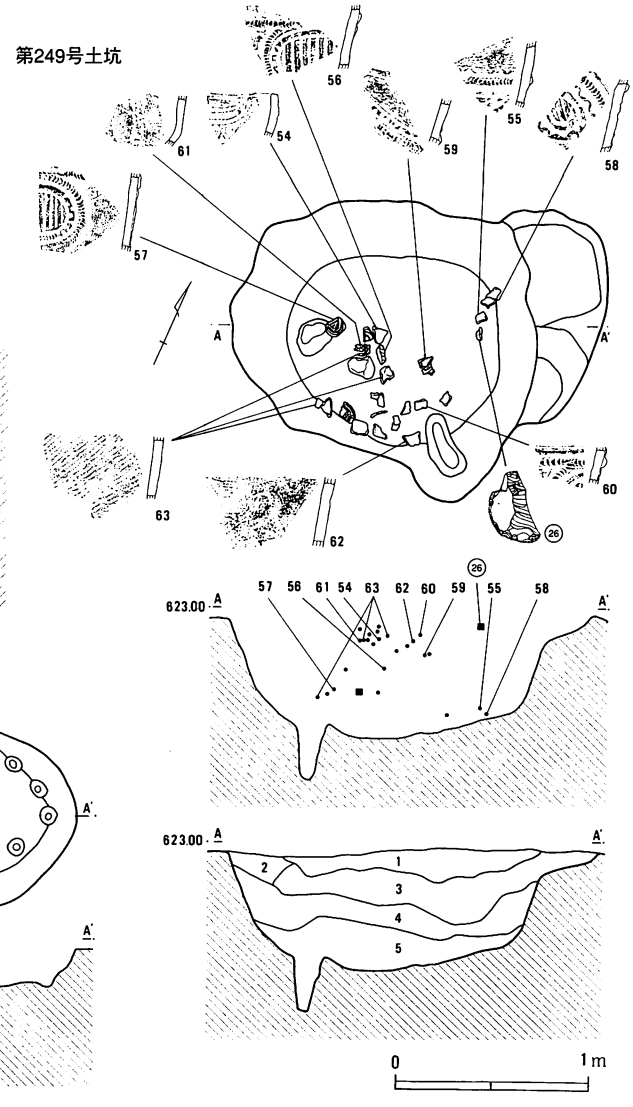


第247号土坑

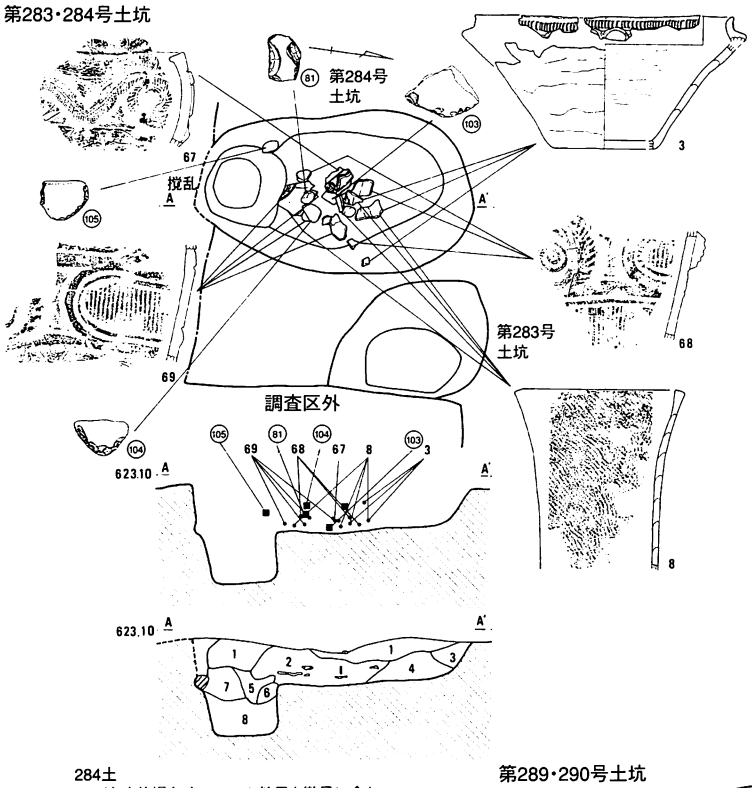


284土
1. 暗黄褐色土　ローム粒子を含む。
2. 暗黄褐色土　炭化物を微量に含む。
3. 茶黒褐色土　炭化物粒子を多量に含む。
4. 淡暗茶黒褐色土　1～3cm大のロームブロック、炭化物を多量に含む。
5. 暗茶黒褐色土　2～3cm大のロームブロックを多量、炭化物を少量含む。

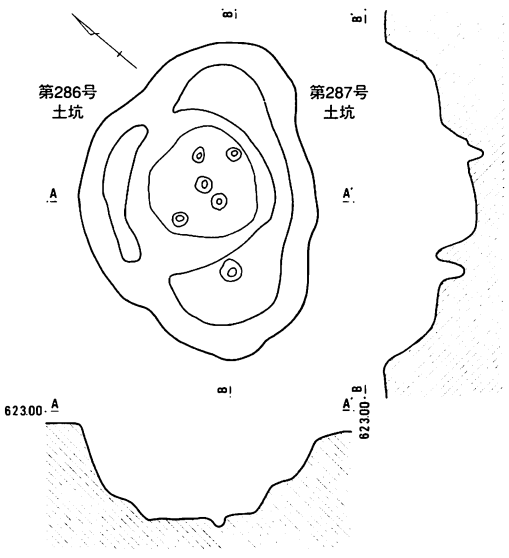
第249号土坑



第283・284号土坑

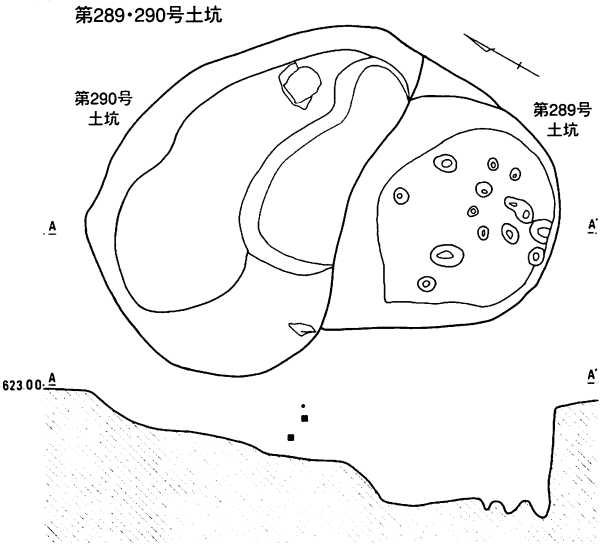


第286・287号土坑

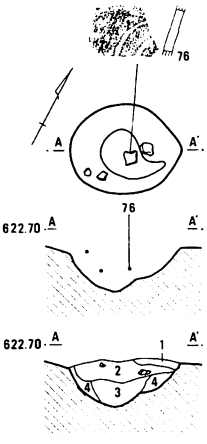


284土
1. 淡暗茶褐色土　ローム粒子を微量に含む。
2. 暗茶褐色土　ローム粒子、炭化物粒子を含む。
3. 淡明茶褐色土　炭化物粒子を含む。
4. 黄茶褐色土
5. 暗茶褐色土
6. 黒茶褐色土
7. 淡茶黒褐色土　ローム粒子を含む。
8. 明茶黒褐色土　ローム粒子を含む。

第289・290号土坑

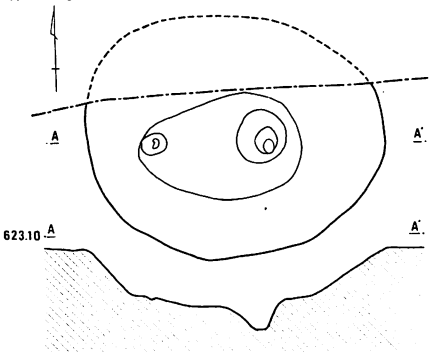


第292号土坑

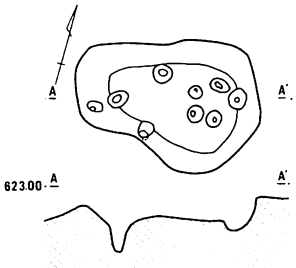


292土
1. 茶黒褐色土
2. 明茶黒褐色土　焼土粒子を含む。
3. 淡黒茶褐色土
4. 淡暗褐色土

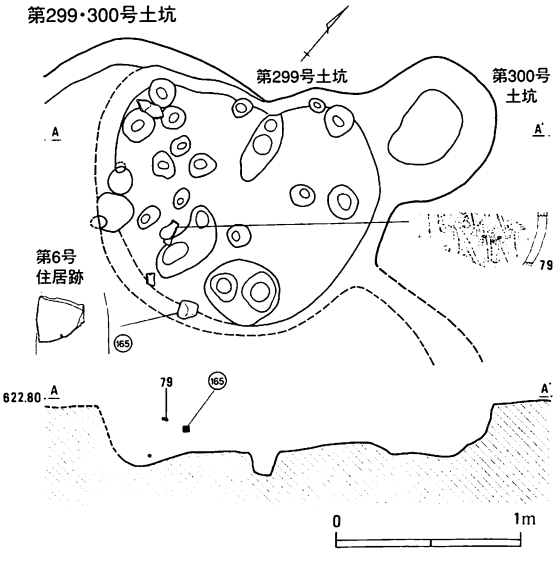
第288号土坑



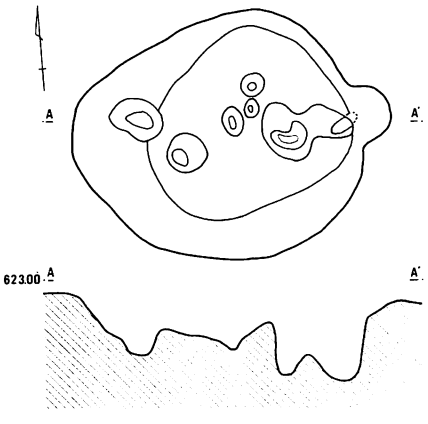
第294号土坑



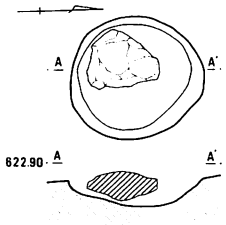
第299・300号土坑



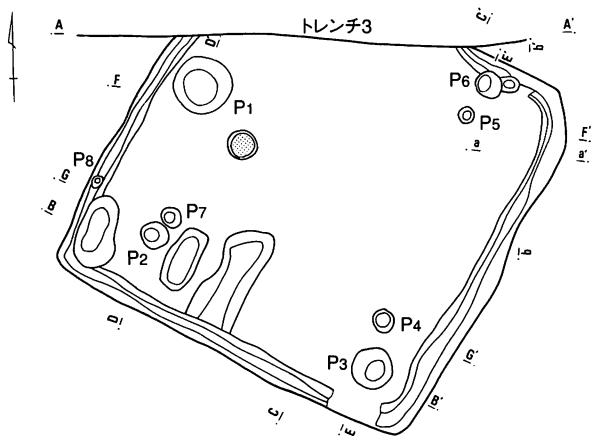
第293号土坑

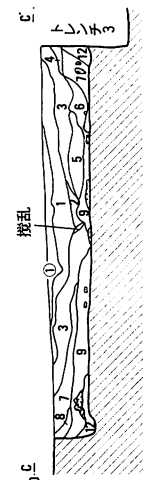


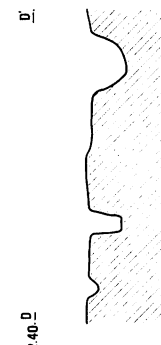
第304号土坑

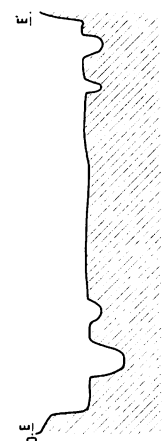


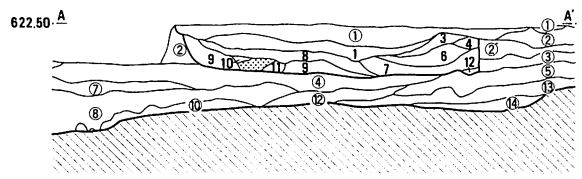
PL-14　第3号住居跡（1）

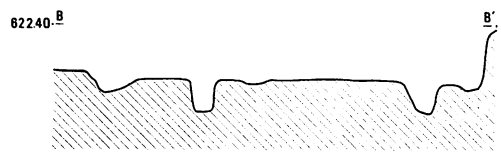












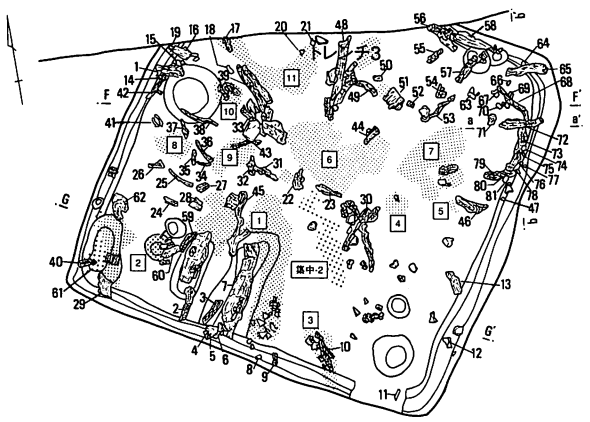
3住

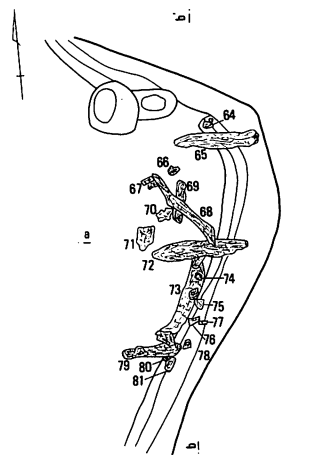
1. 淡黒褐色土　炭化物を少量含む。
2. 淡黒褐色土　1cm大のロームブロック、焼土を微量に含む。
3. 淡黒茶褐色土　炭化物を少量含む。
4. 暗茶褐色土
5. 暗褐色土　焼土を少量、炭化材を多量に含む。
6. 淡茶黒褐色土　焼土を微量、炭化物、炭化材をやや多量に含む。
7. 淡暗褐色土　焼土、炭化材を多量に含む。
8. 暗褐色土　焼土、炭化材やや多量に含む。
9. 淡黄茶褐色土　焼土、炭化材を少量含む。
10. 淡黄茶褐色土　焼土を少量含む。
11. 淡暗黄茶褐色土　焼土、炭化物を微量に含む。
12. 淡暗黄褐色土

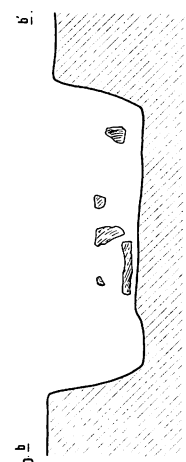
0　2m

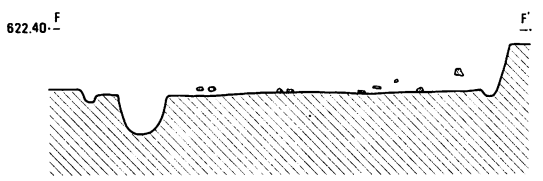
〈①～⑭：基本層序1～14に対応〉

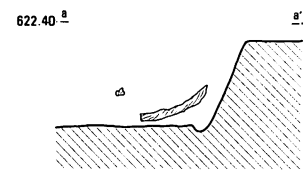
①. 褐色土（表土）
②. 淡茶褐色土　古墳時代以降の遺物を包含する。
2′. 淡暗褐色土
③. 茶黒褐色土　ブロック状に茶褐色土を含む。縄文時代の遺物を包含する。
④. 黒茶褐色土　ブロック状に茶褐色土を含む。
⑦. 淡暗褐色土
⑧. 黒褐色土（黒ぼく）　遺物を少量含む。
⑪. 淡黄黒褐色土　ロームに淡暗褐色土が混入する。
⑫. 淡茶黒褐色土
⑬. 淡黄褐色土
⑭. 黄褐色土



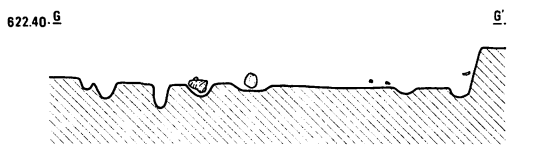






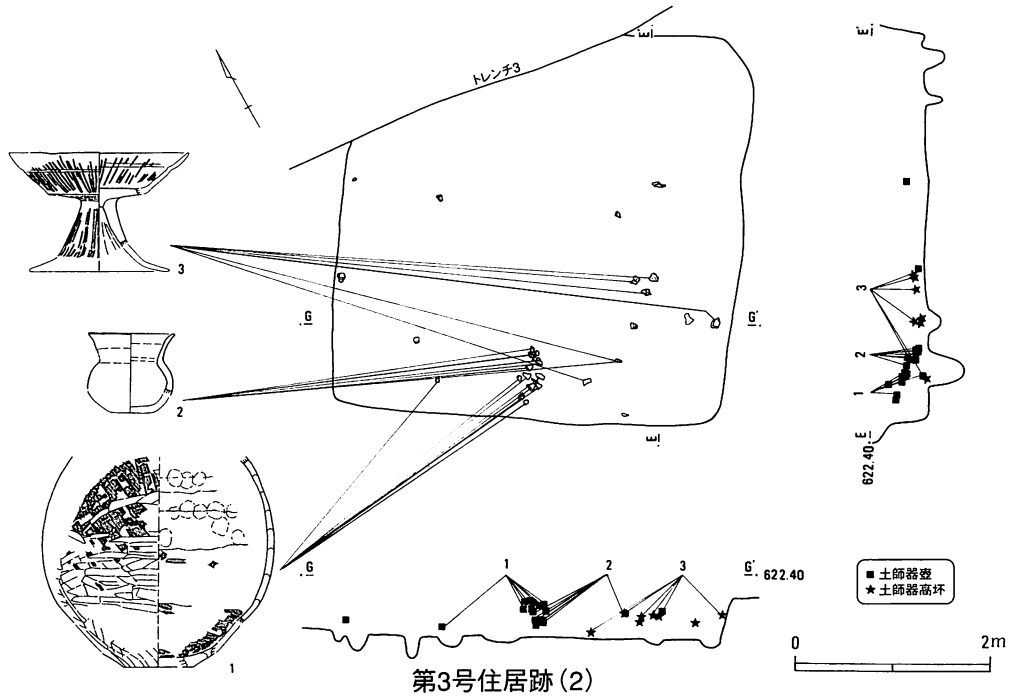


0　1m

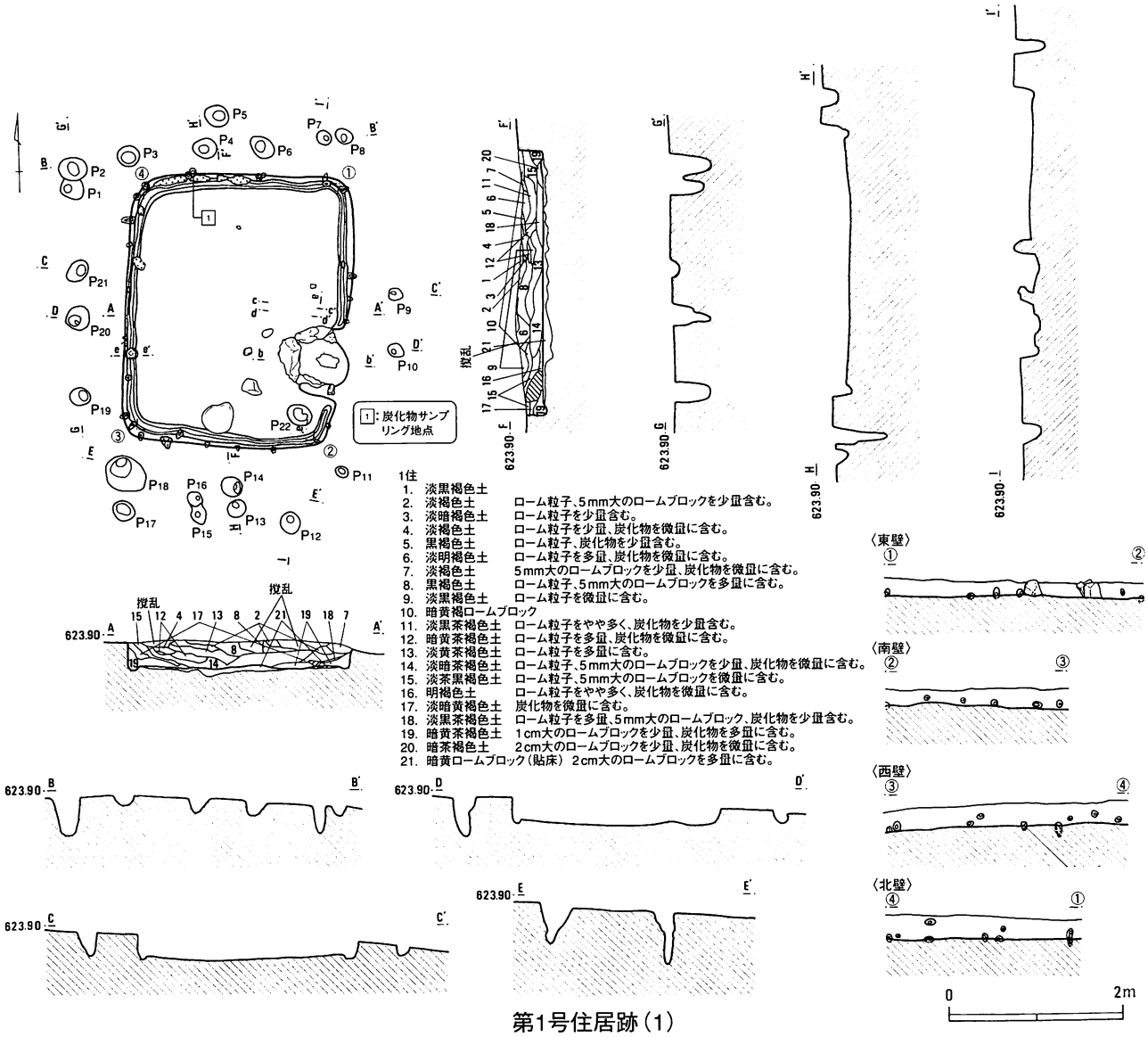


1～11：炭化物（焼土）サンプリング地点
1～81、集中-2：炭化材サンプリング地点

0　2m

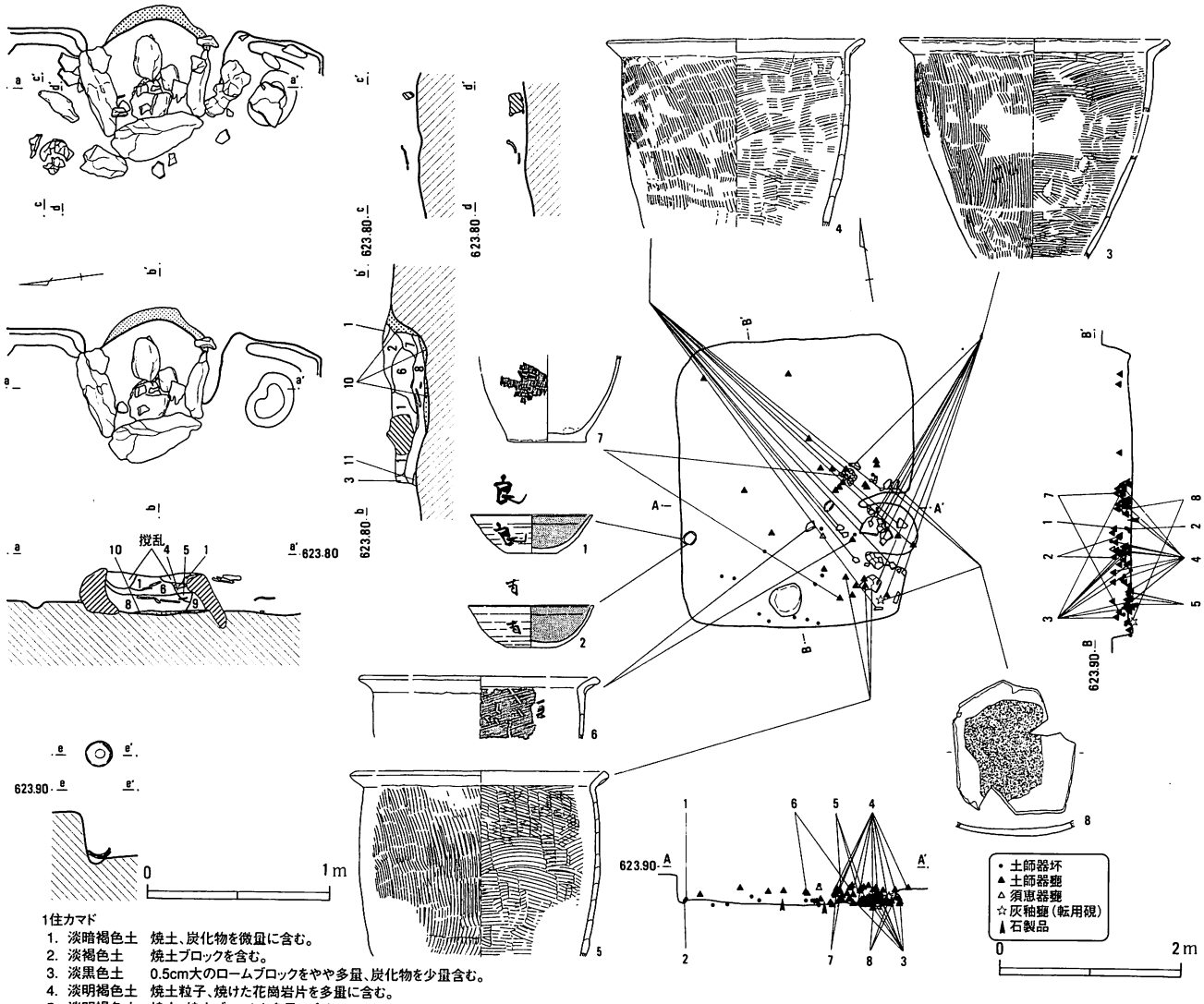


第3号住居跡(2)



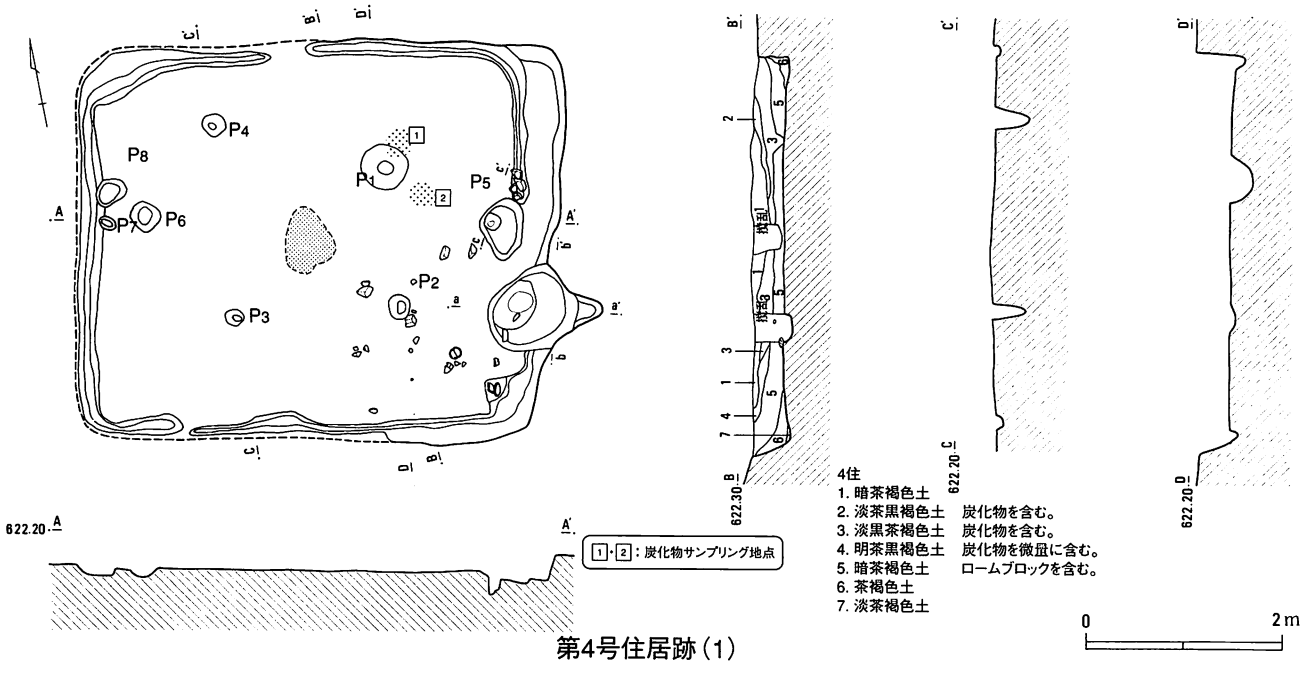
1住
1. 淡黒褐色土
2. 淡褐色土　ローム粒子、5mm大のロームブロックを少量含む。
3. 淡暗褐色土　ローム粒子を少量含む。
4. 淡褐色土　ローム粒子を少量、炭化物を微量に含む。
5. 黒褐色土　ローム粒子、炭化物を少量含む。
6. 淡明褐色土　ローム粒子を多量、炭化物を微量に含む。
7. 淡褐色土　5mm大のロームブロックを少量、炭化物を微量に含む。
8. 黒褐色土　ローム粒子、5mm大のロームブロックを多量に含む。
9. 淡黒褐色土　ローム粒子を微量に含む。
10. 暗黄褐ロームブロック
11. 淡黒茶褐色土　ローム粒子をやや多く、炭化物を少量含む。
12. 暗黄茶褐色土　ローム粒子を多量、炭化物を微量に含む。
13. 淡黄茶褐色土　ローム粒子を多量に含む。
14. 淡暗茶褐色土　ローム粒子、5mm大のロームブロックを少量、炭化物を微量に含む。
15. 淡茶黒褐色土　ローム粒子、5mm大のロームブロックを微量に含む。
16. 明褐色土　ローム粒子をやや多く、炭化物を微量に含む。
17. 淡暗黄褐色土　炭化物を微量に含む。
18. 淡黒茶褐色土　ローム粒子を多量、5mm大のロームブロック、炭化物を少量含む。
19. 暗黄茶褐色土　1cm大のロームブロックを少量、炭化物を多量に含む。
20. 暗茶褐色土　2cm大のロームブロックを少量、炭化物を微量に含む。
21. 暗黄ロームブロック(貼床)　2cm大のロームブロックを多量に含む。

第1号住居跡(1)



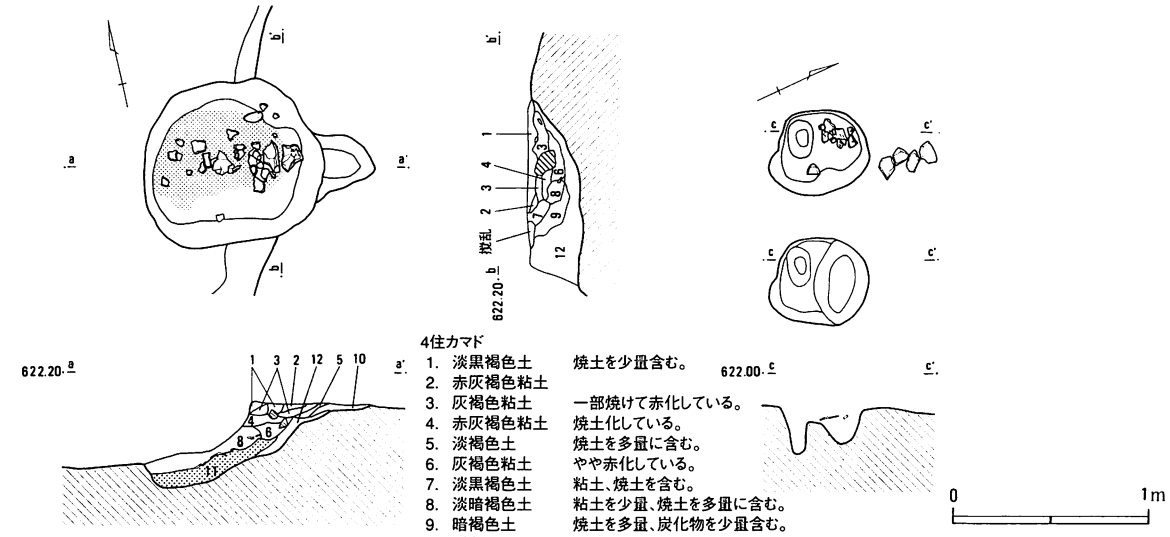
1住カマド
1. 淡暗褐色土　焼土、炭化物を微量に含む。
2. 淡褐色土　焼土ブロックを含む。
3. 淡黒色土　0.5cm大のロームブロックをやや多量、炭化物を少量含む。
4. 淡明褐色土　焼土粒子、焼けた花崗岩片を多量に含む。
5. 淡明褐色土　焼土、焼土ブロックを多量に含む。
6. 淡褐色土　白色粘土粒子、焼土、炭化物を少量含む。
7. 黒褐色土　0.5～1cm大のロームブロックを多量に含む。
8. 暗褐色土　1cm大のロームブロックを少量含む。
9. 暗黄褐色土　焼土を多量、炭化物を少量含む。
10. 暗褐色土　焼土、焼土ブロックをやや多量に含む。
11. 淡褐色土　白色粘土、焼土、炭化物を微量に含む。

第1号住居跡(2)



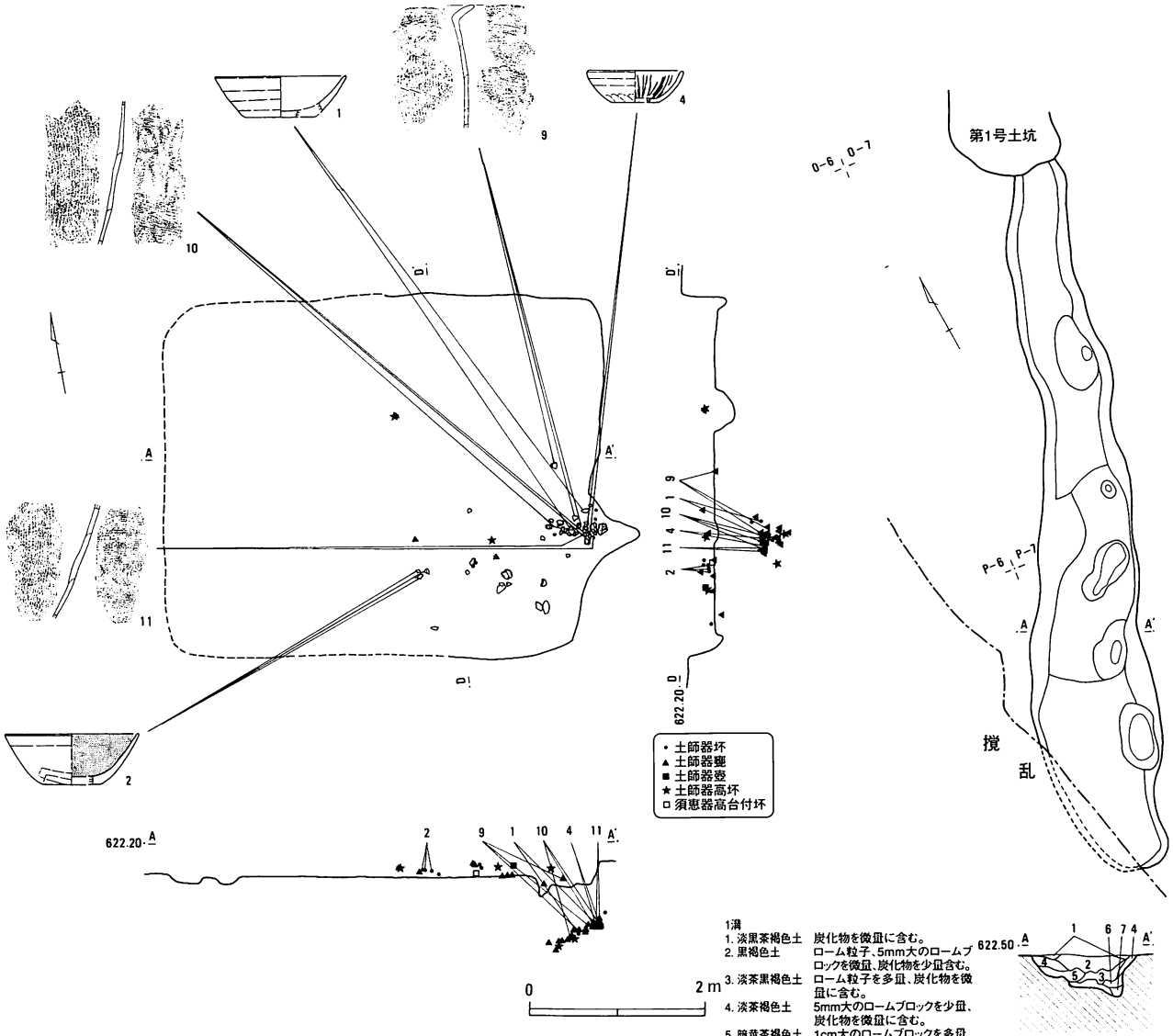
4住
1. 暗茶褐色土
2. 淡茶黒褐色土　炭化物を含む。
3. 淡黒茶褐色土　炭化物を含む。
4. 明茶黒褐色土　炭化物を微量に含む。
5. 暗茶褐色土　ロームブロックを含む。
6. 茶褐色土
7. 淡茶褐色土

第4号住居跡(1)



4住カマド

1. 淡黒褐色土　焼土を少量含む。
2. 赤灰褐色粘土
3. 灰褐色粘土　一部焼けて赤化している。
4. 赤灰褐色粘土　焼土化している。
5. 淡褐色土　焼土を多量に含む。
6. 灰褐色粘土　やや赤化している。
7. 淡黒褐色土　粘土、焼土を含む。
8. 淡暗褐色土　粘土を少量、焼土を多量に含む。
9. 暗褐色土　焼土を多量、炭化物を少量含む。
10. 褐色土
11. 赤褐色土（純焼土）
12. 暗褐色土　焼土やや多量、炭化物を少量含む。



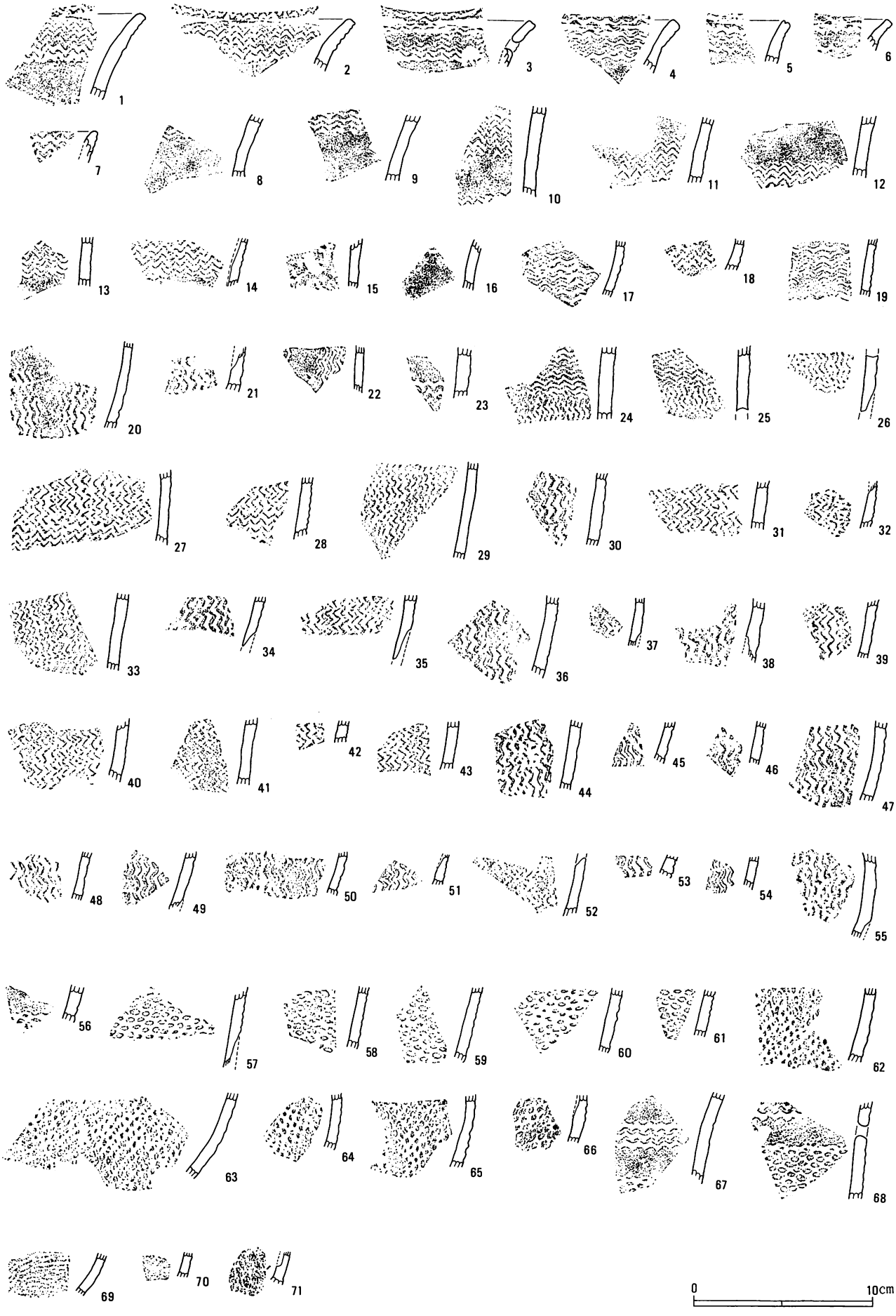
第4号住居跡（2）

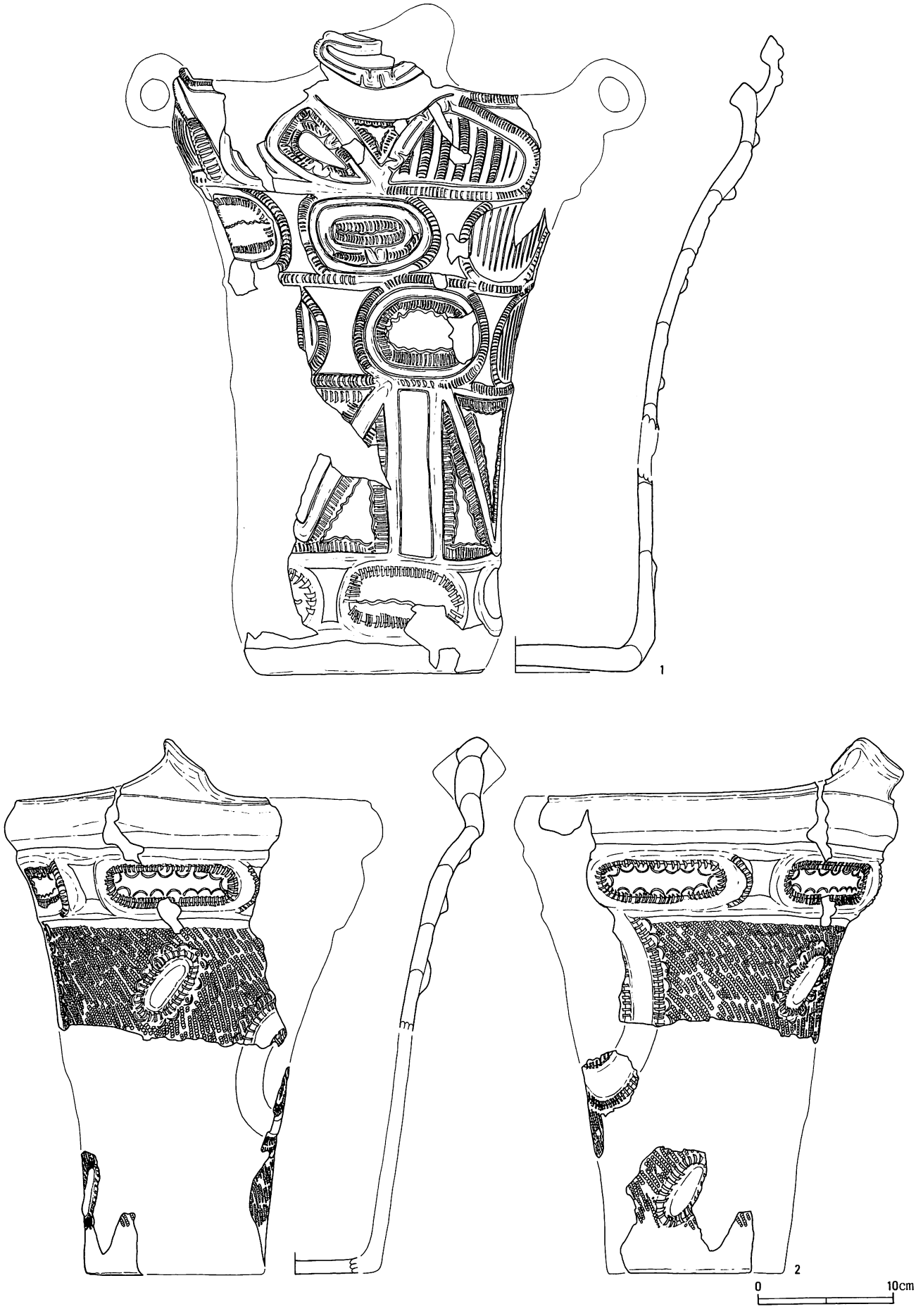
1溝

1. 淡黒茶褐色土　炭化物を微量に含む。
2. 黒褐色土　ローム粒子、5mm大のロームブロックを微量、炭化物を少量含む。
3. 淡茶黒褐色土　ローム粒子を多量、炭化物を微量に含む。
4. 淡茶褐色土　5mm大のロームブロックを少量、炭化物を微量に含む。
5. 暗黄茶褐色土　1cm大のロームブロックを多量、炭化物を微量に含む。
6. 淡茶褐色土　1cm大のロームブロックを少量含む。
7. 暗褐色土　1cm大のロームブロックを微量に含む。
8. 暗黄ロームブロック　暗褐色土が混入する。

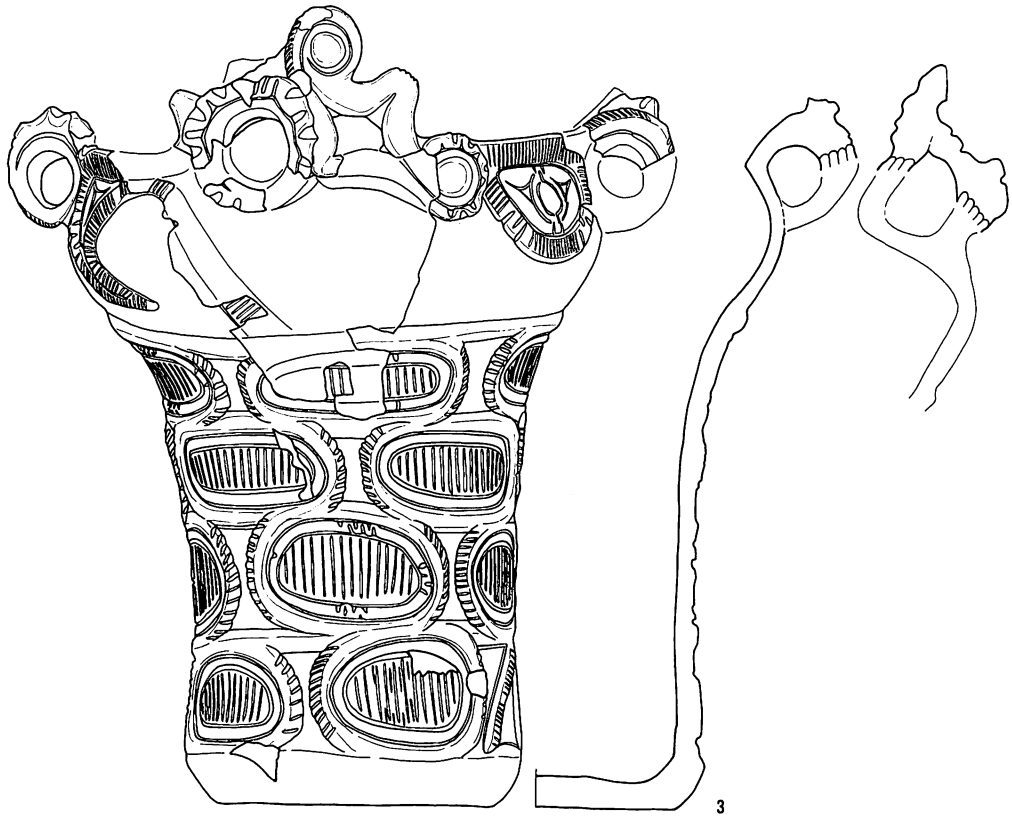
第1号溝状遺構

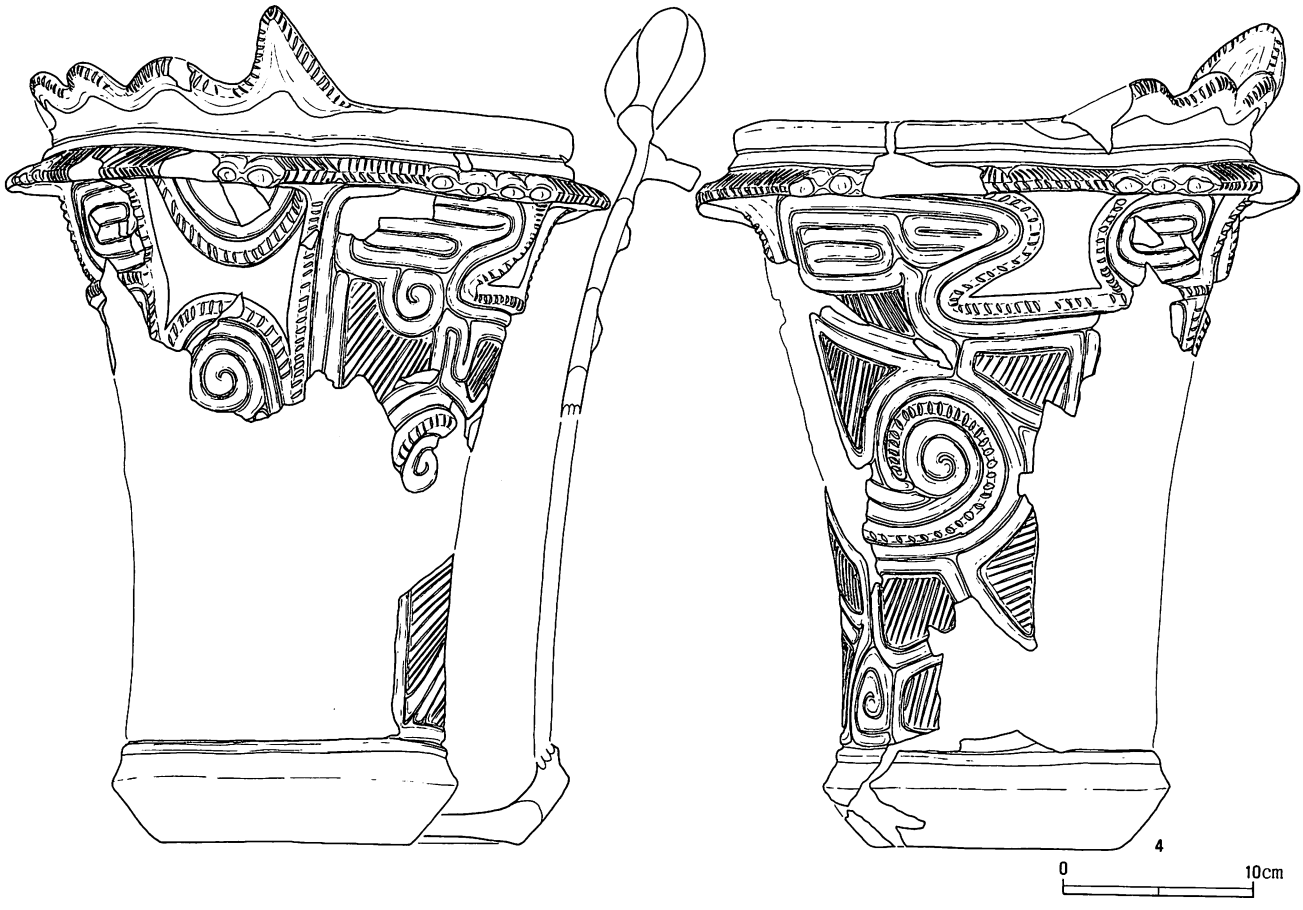
PL-18　第Ⅰ群土器（第1号遺物集中区他出土土器）

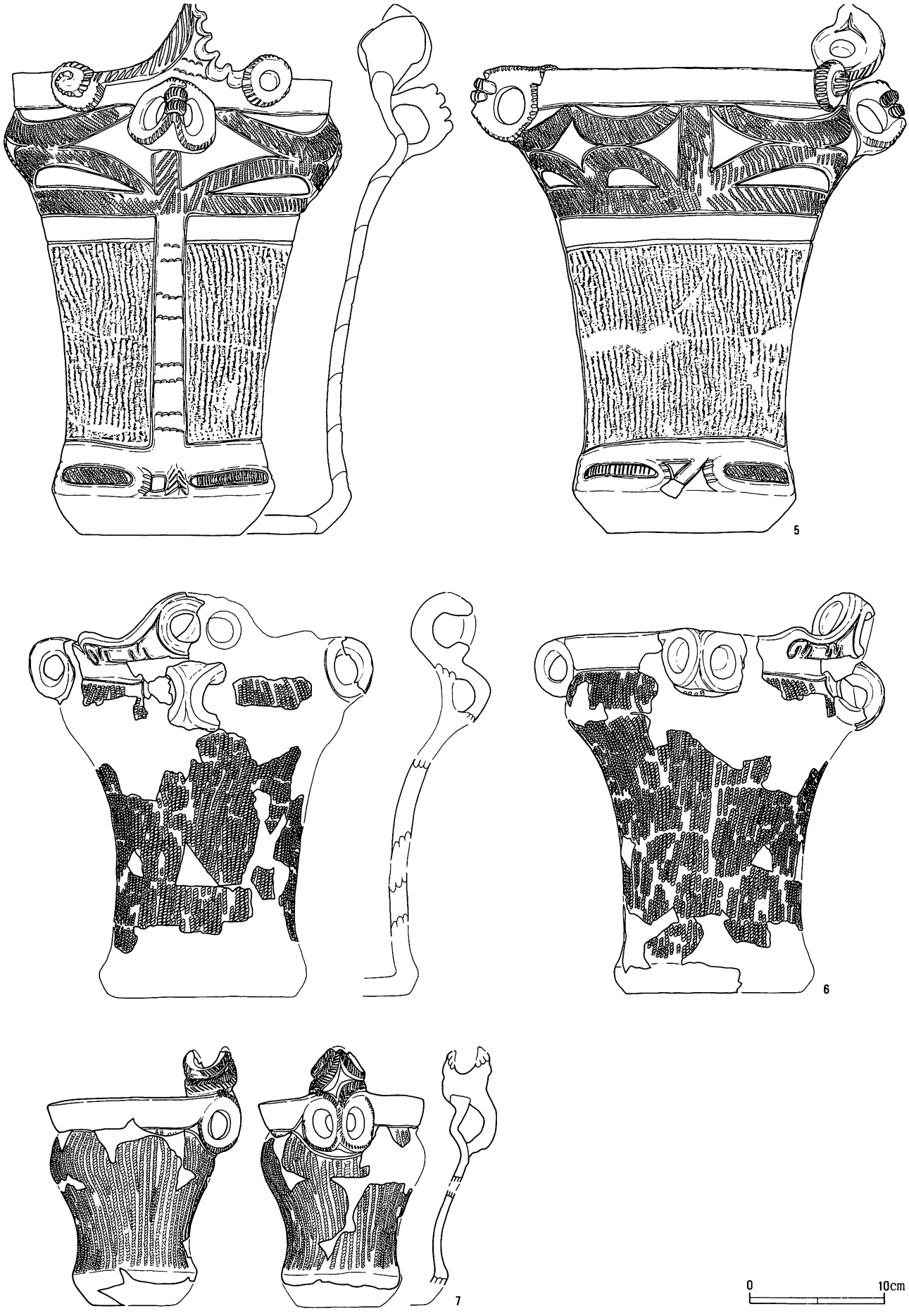



1
2
0
10cm

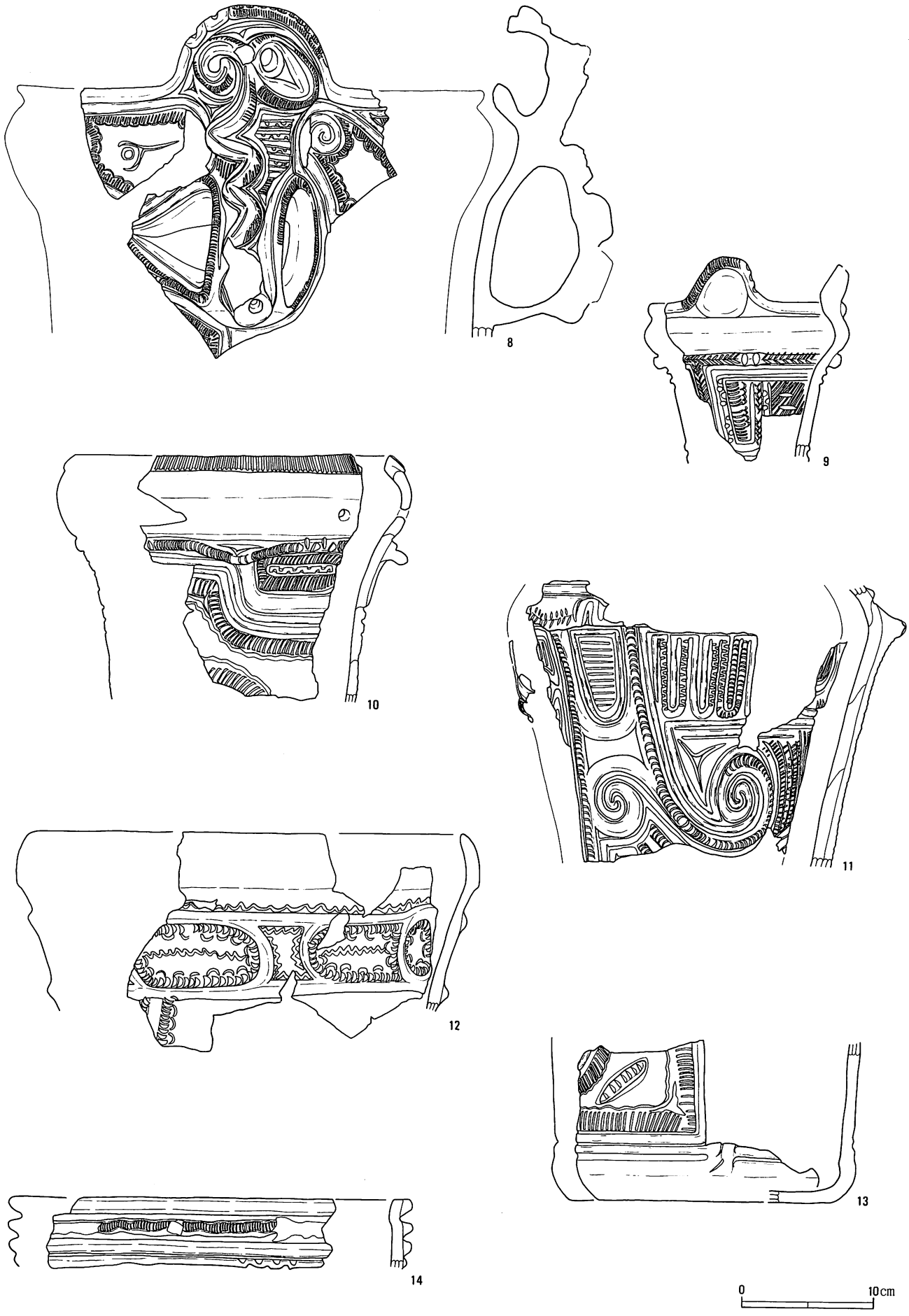
PL-20　第5号住居跡出土土器(2)

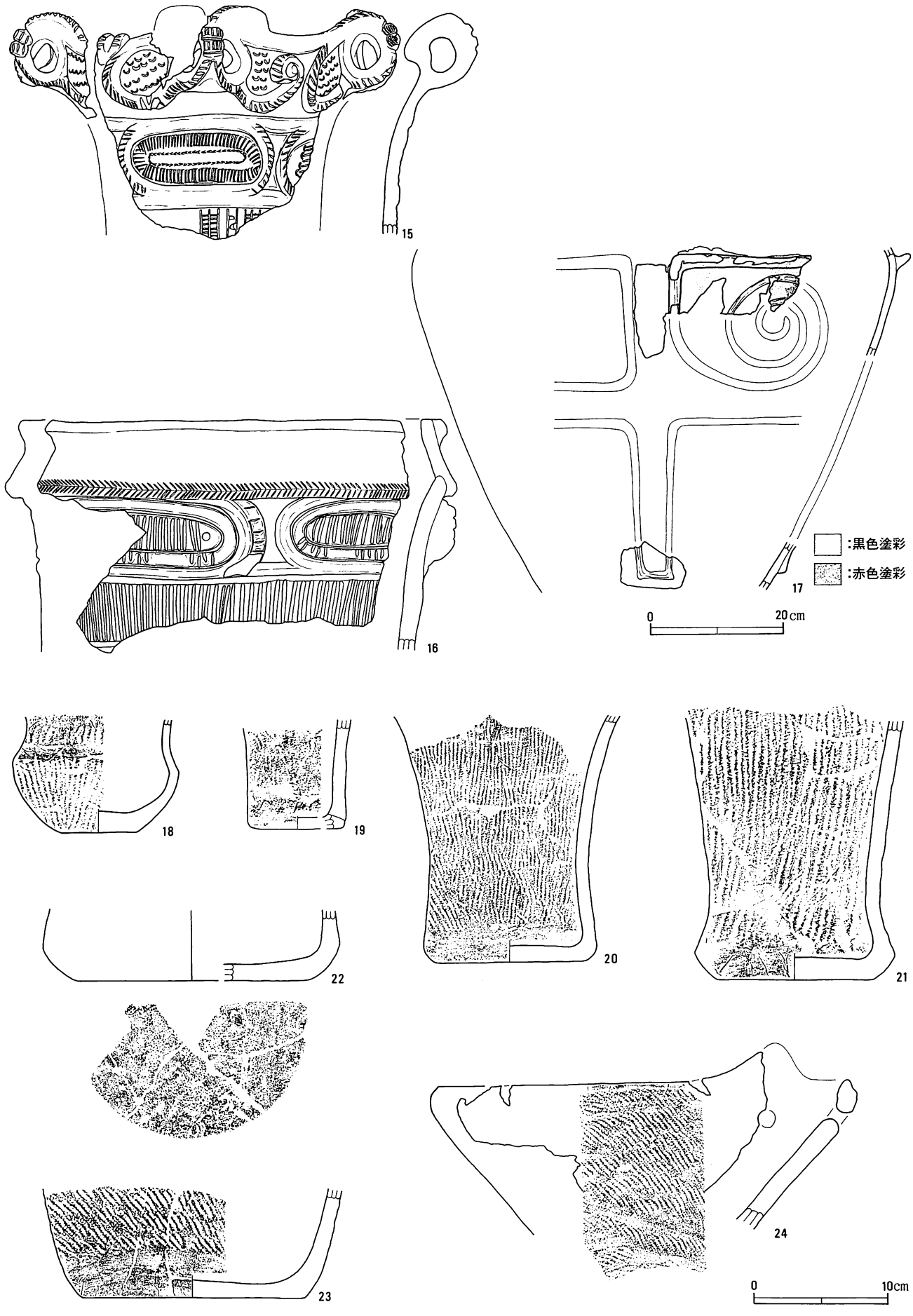




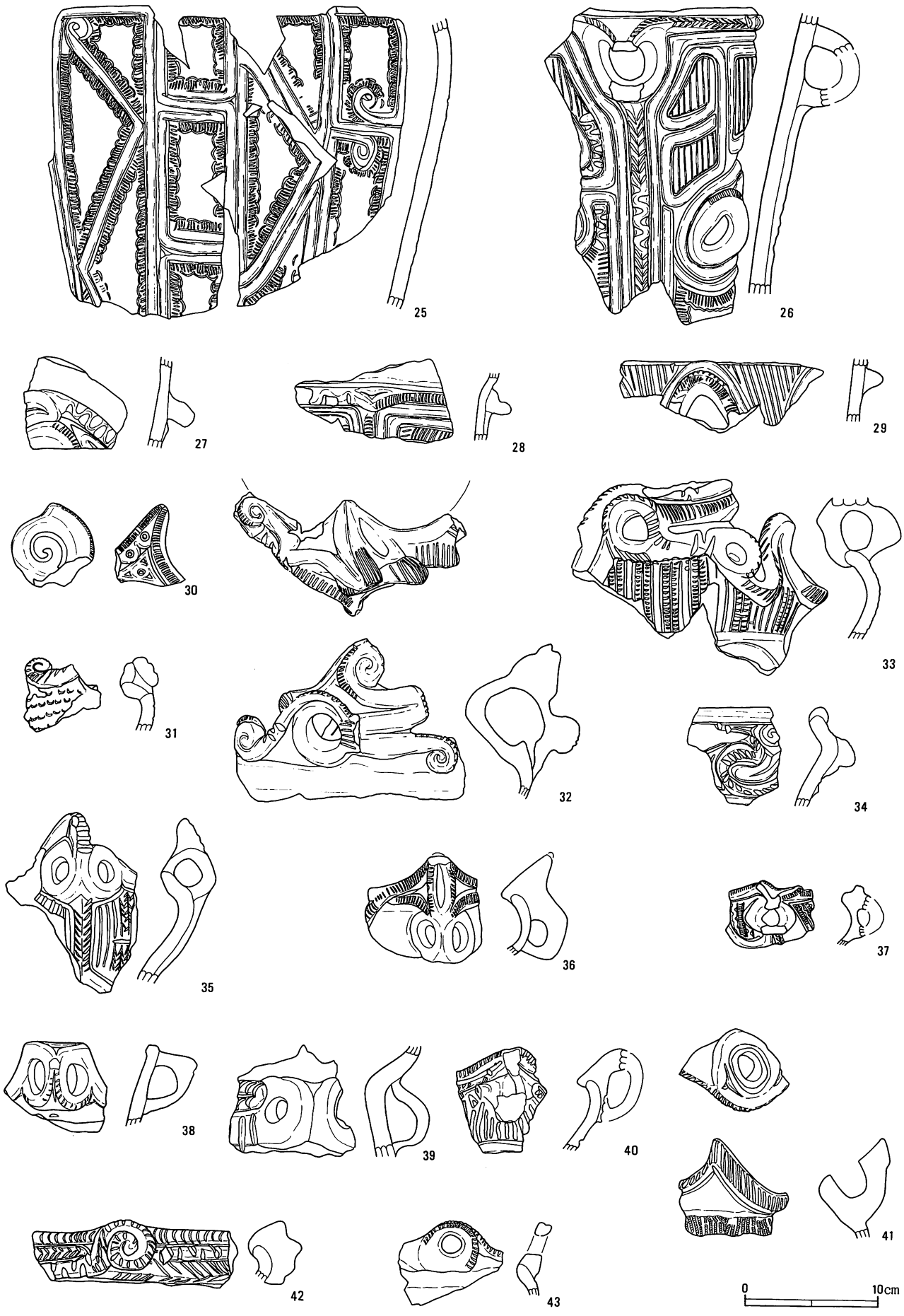

5
6
7
0
10cm

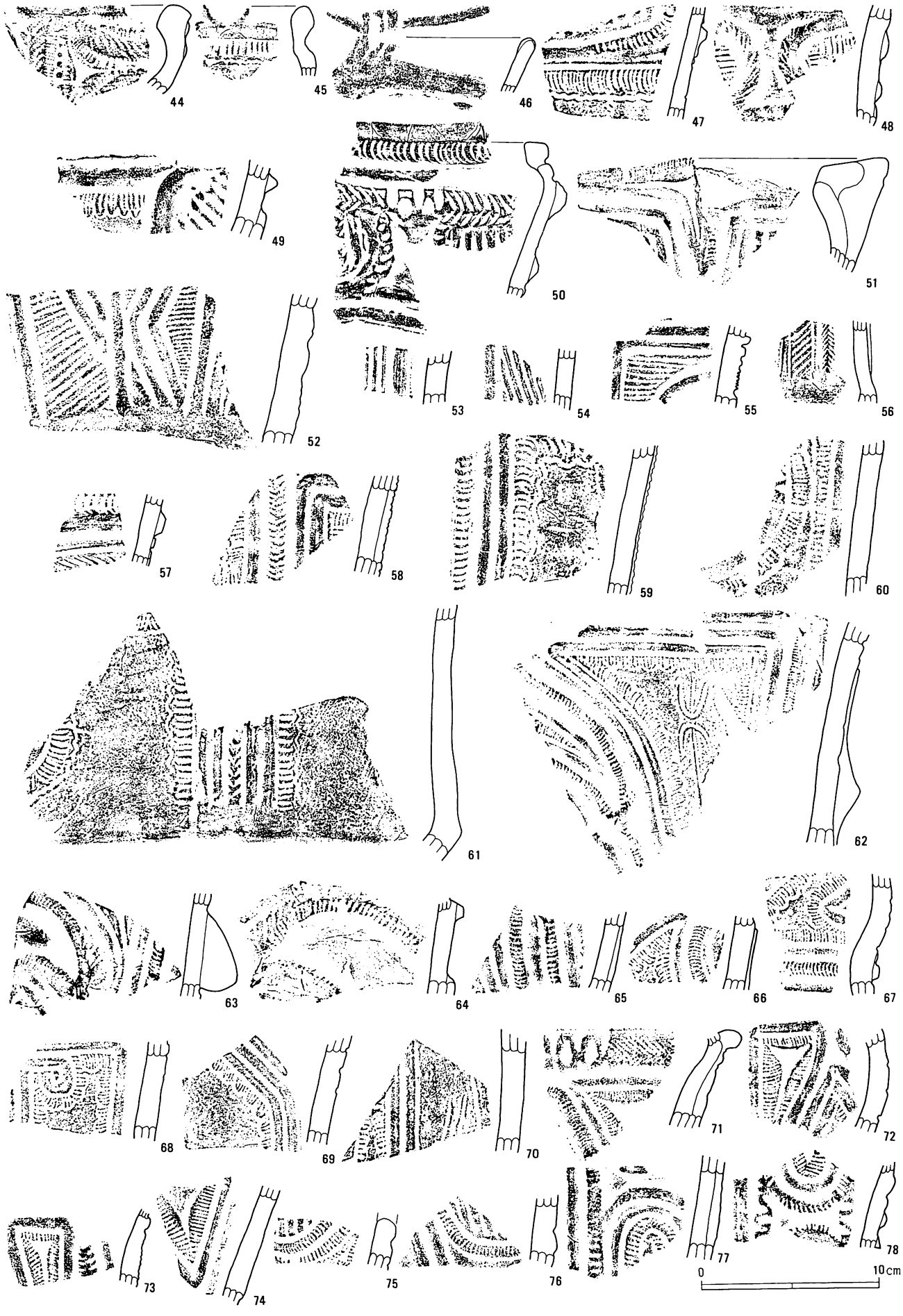
PL-22　第5号住居跡出土土器(4)




15
16
17
:黒色塗彩
:赤色塗彩
0
20cm
18
19
20
21
22
23
24
0
10cm

PL-24　第5号住居跡出土土器(6)

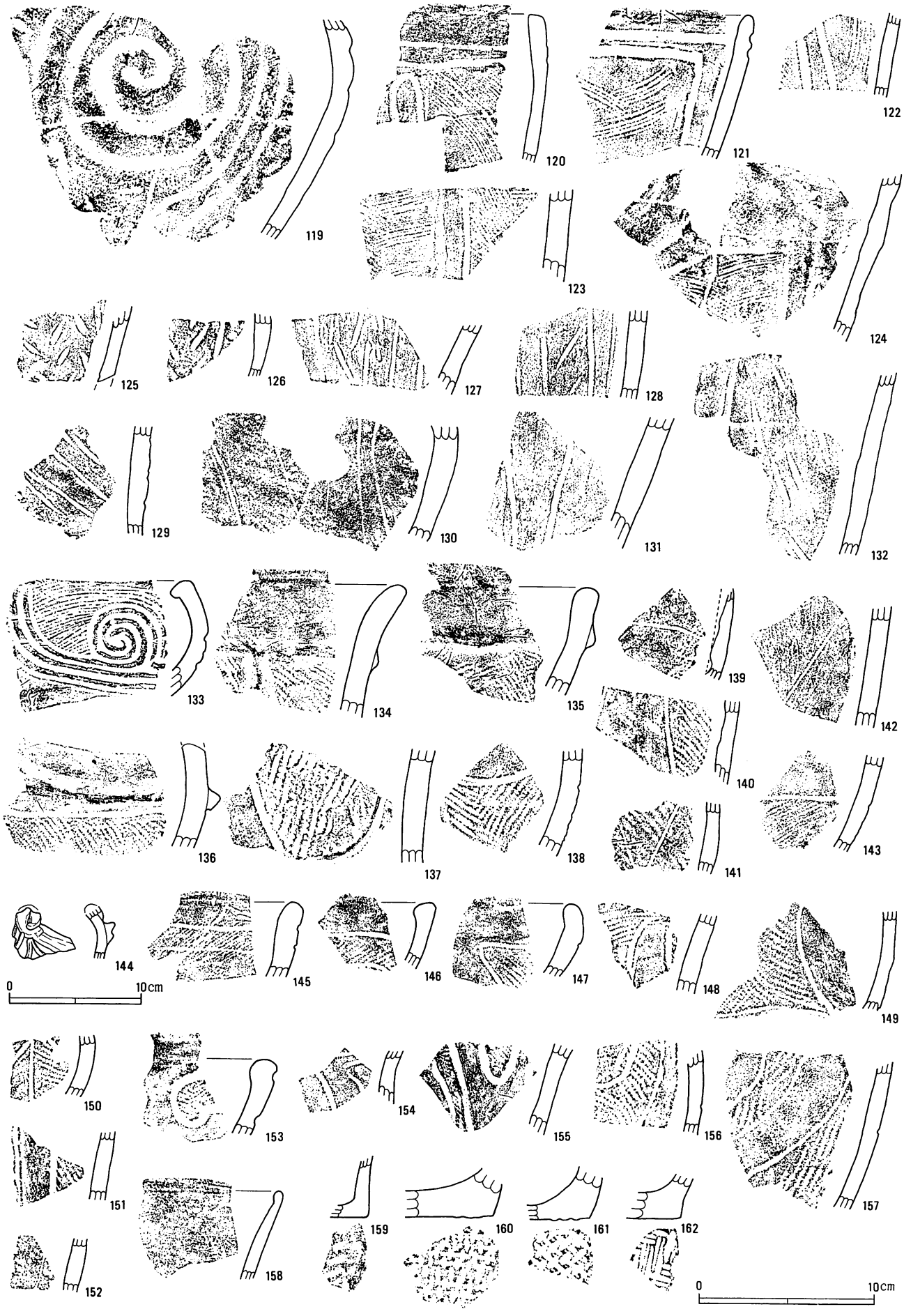


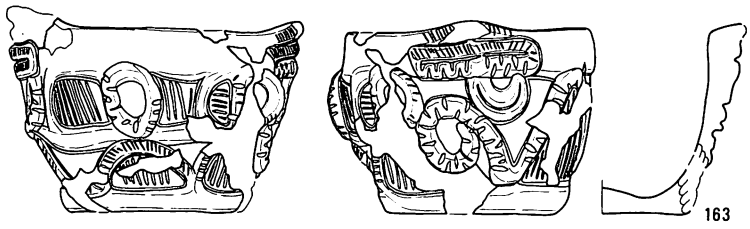

44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
0
10cm

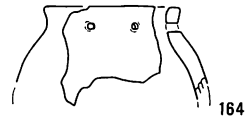
PL-26　第5号住居跡出土土器(8)

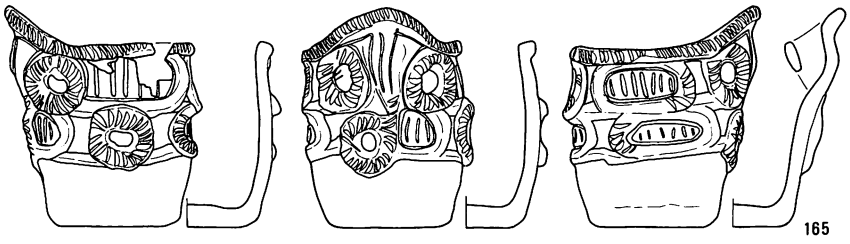
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
0
10cm
0
10cm

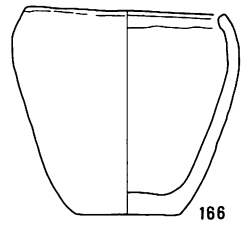
PL-28　第5号住居跡出土土器(10)

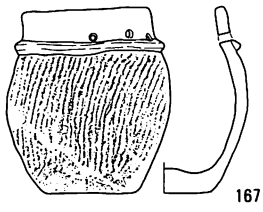


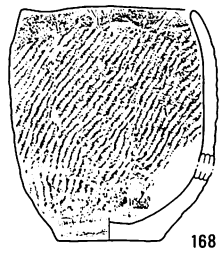

163


164


165

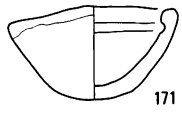

166

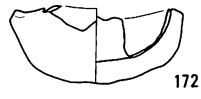

167

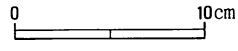

168

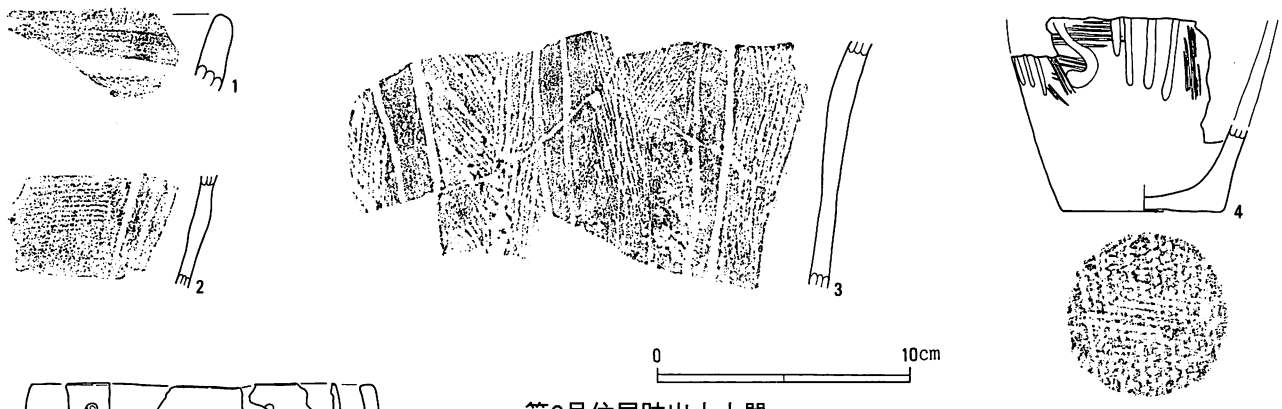
169

170

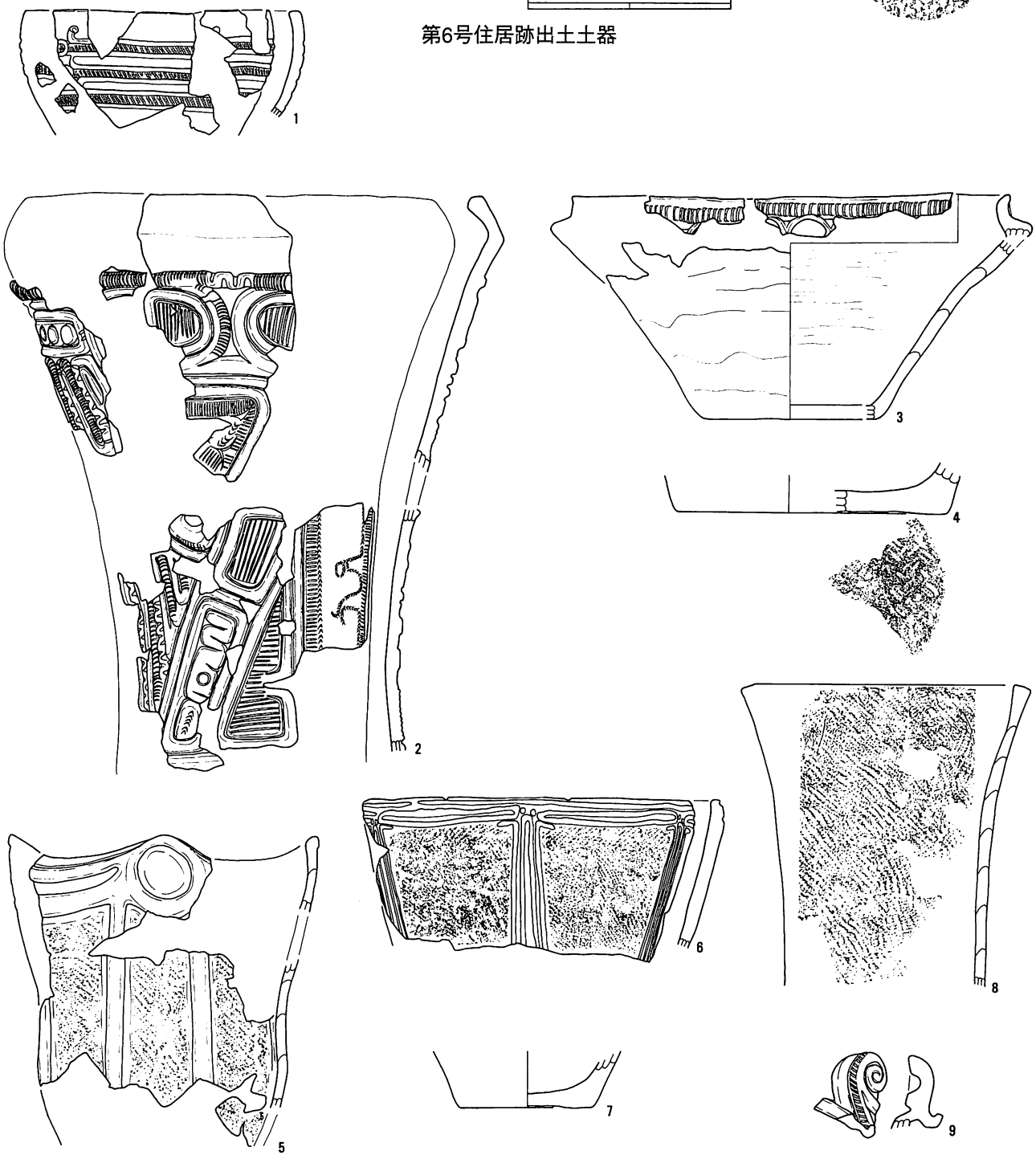

171


172

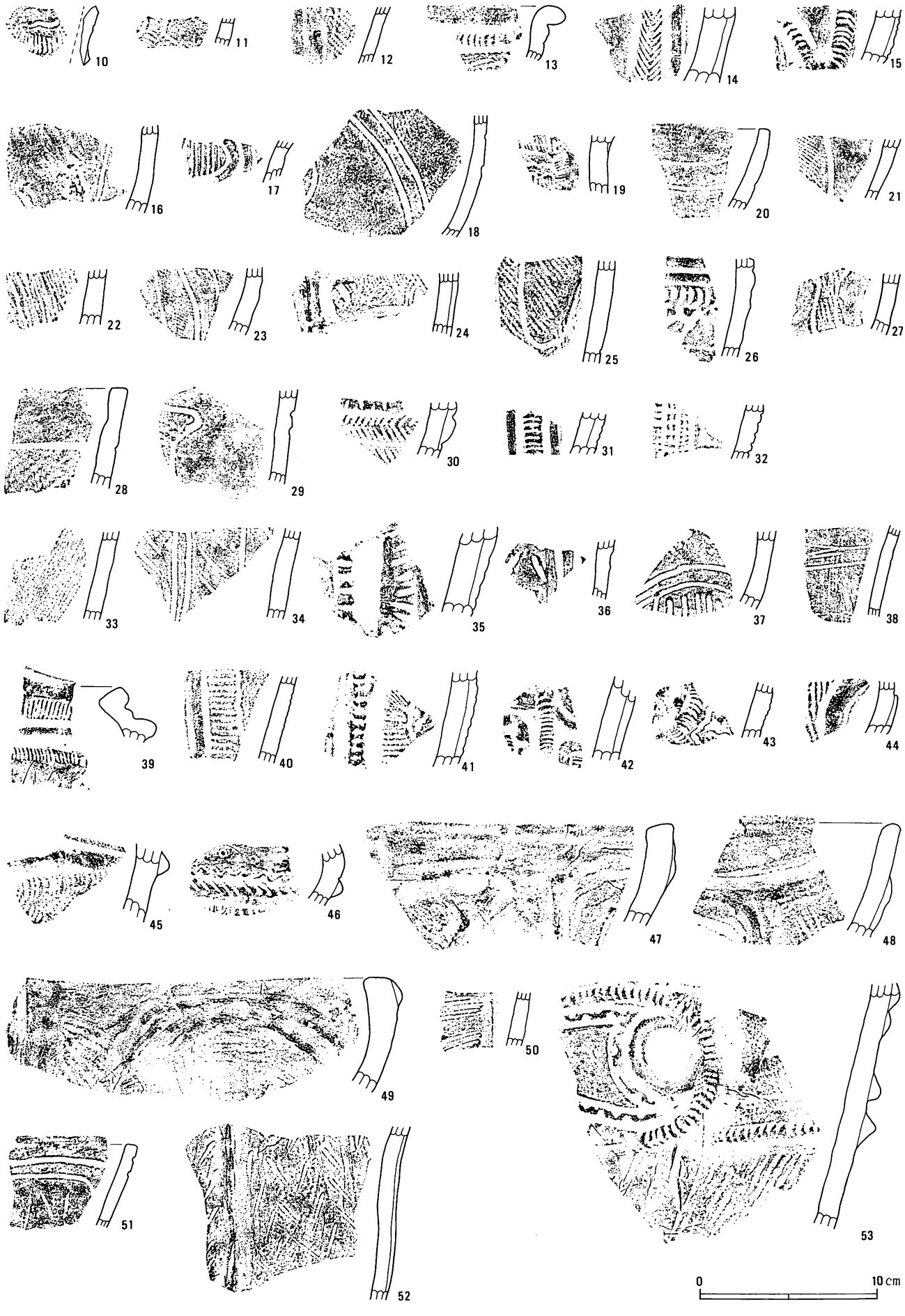

0
10cm



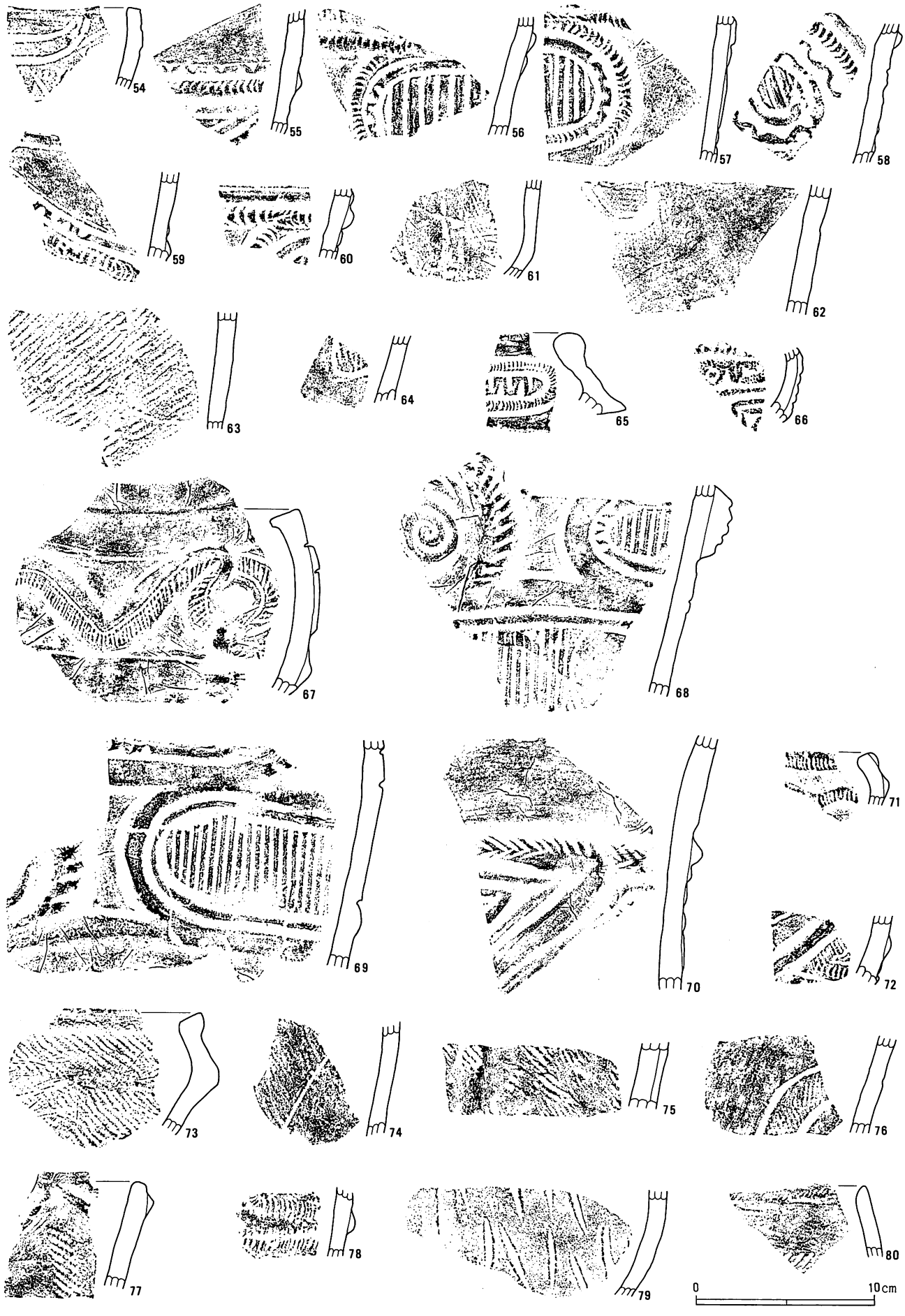
第6号住居跡出土土器



土坑出土土器（1）

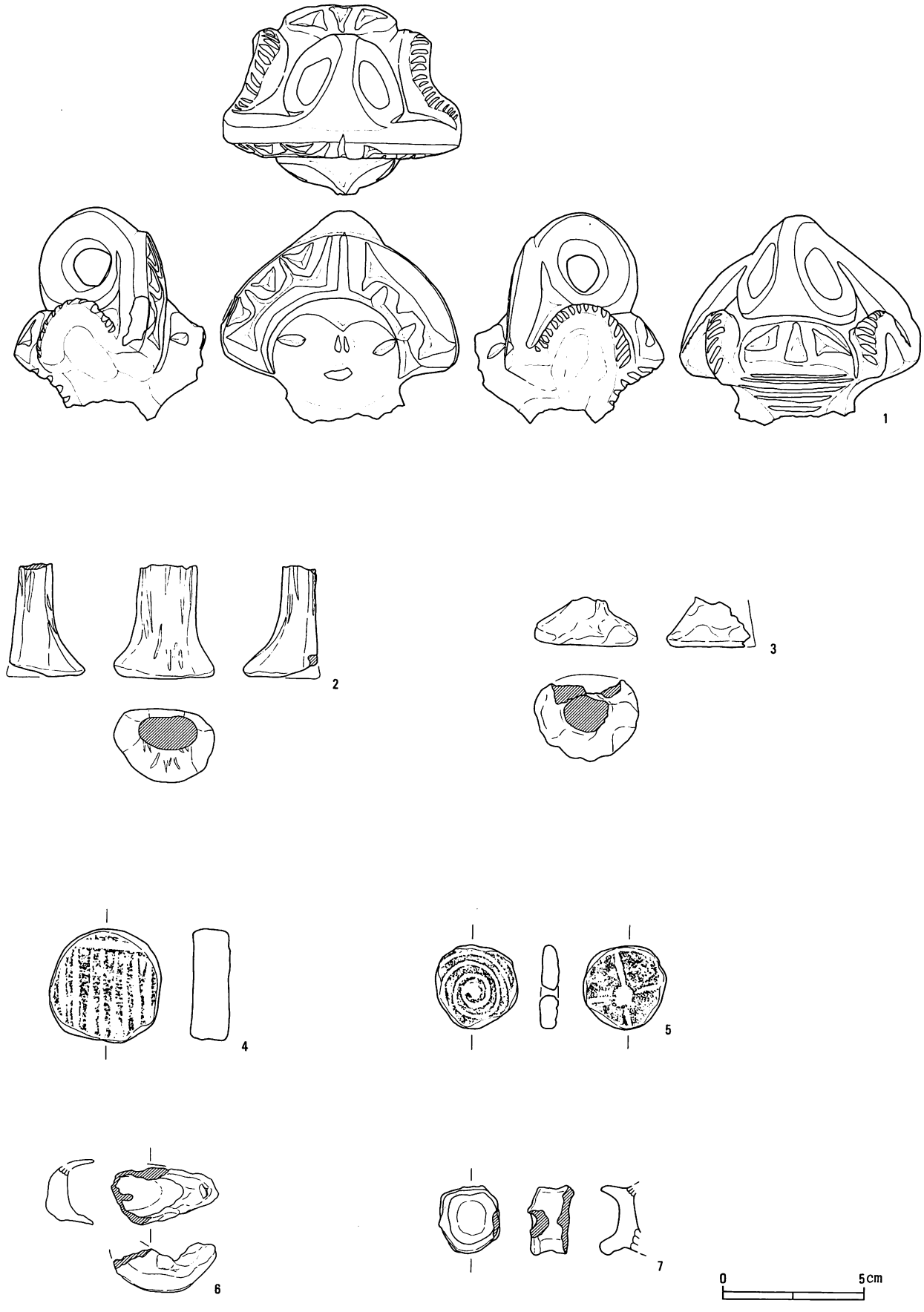

10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
0
10 cm

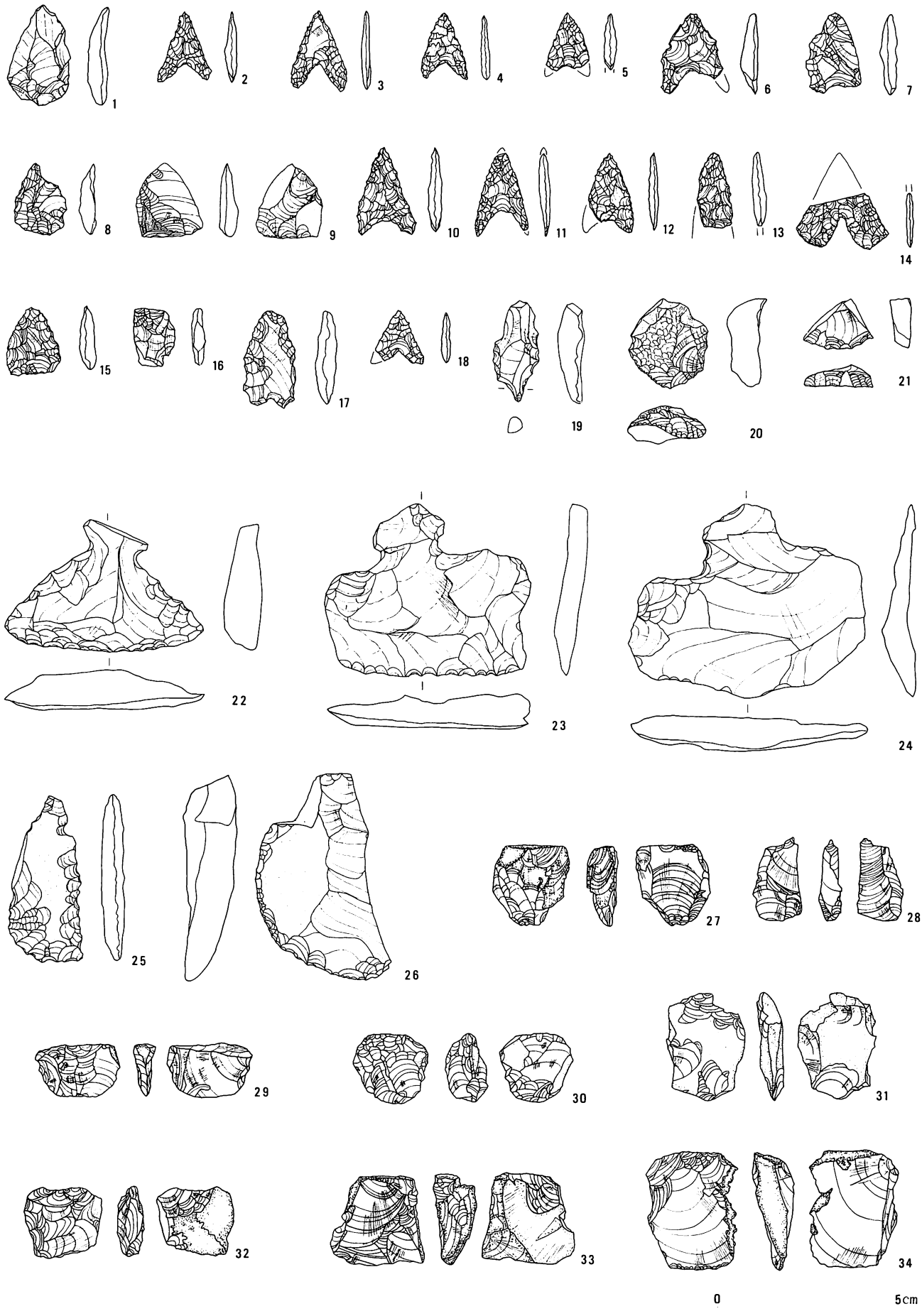
PL-32　土坑出土土器(3)



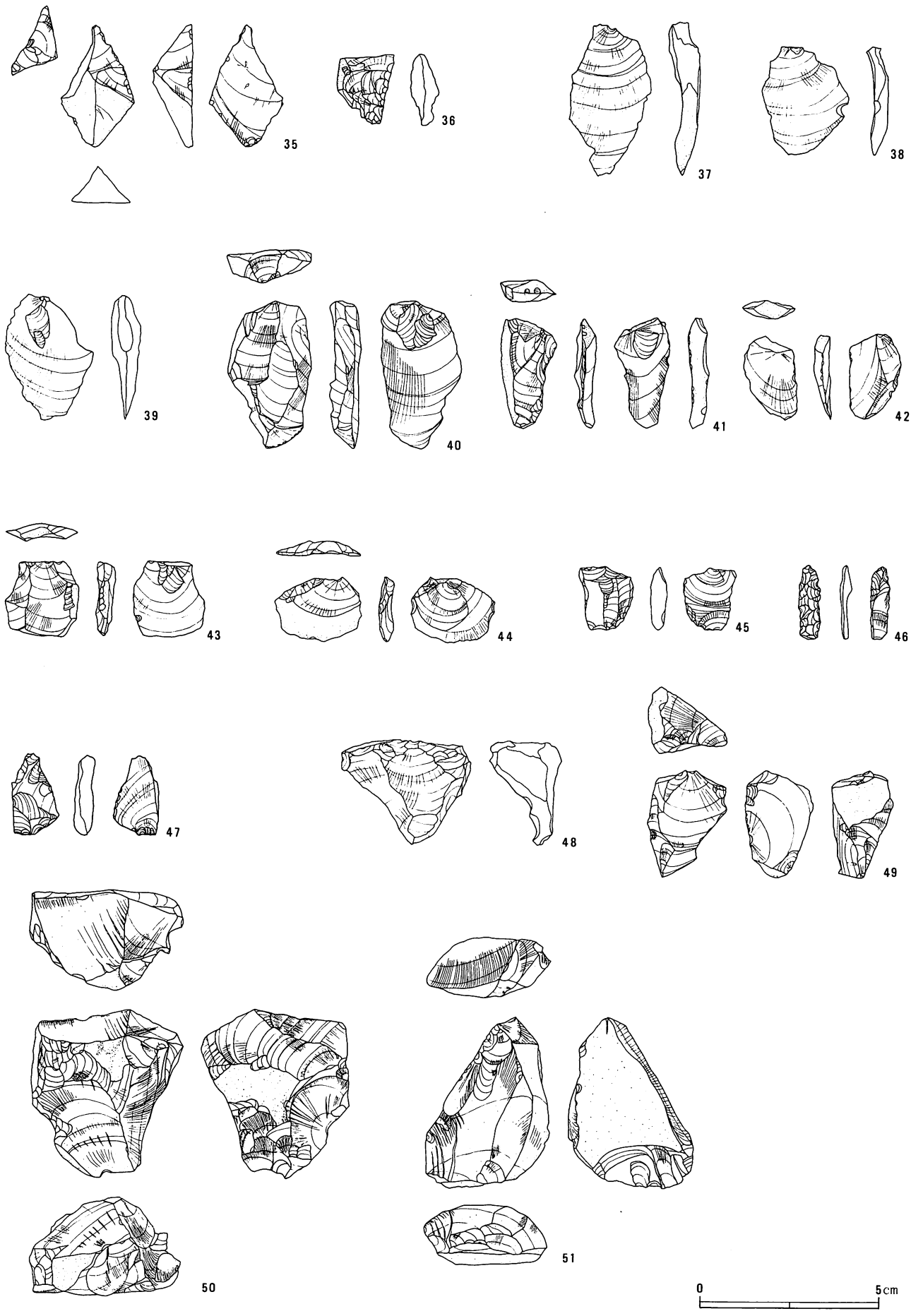
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
0
10cm

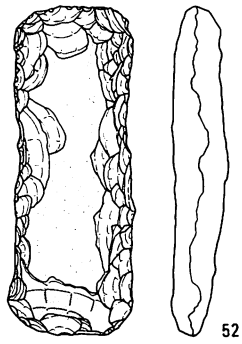
PL-34　縄文時代土製品

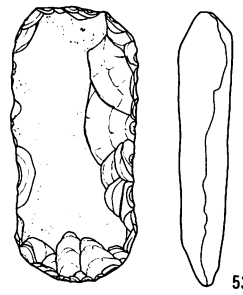


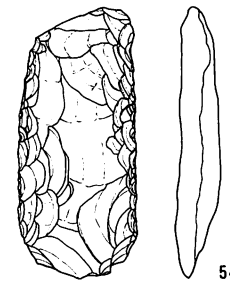

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
0
5cm

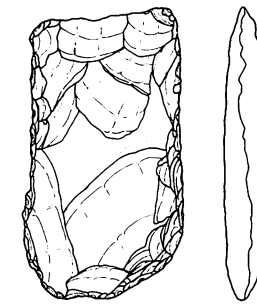
PL-36　剥片石器類

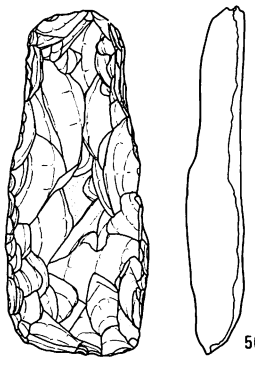


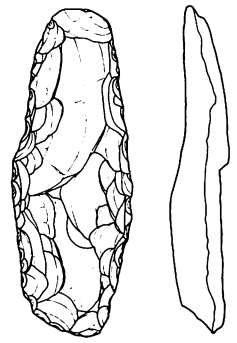

52

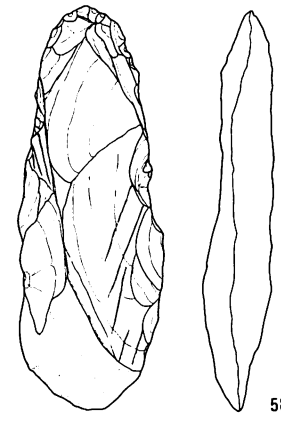

53

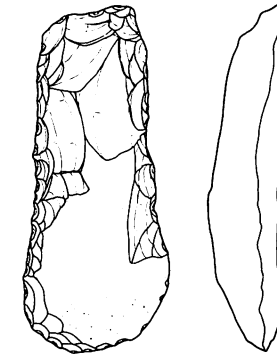

54

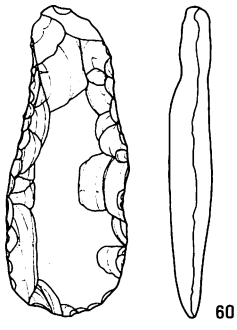

55

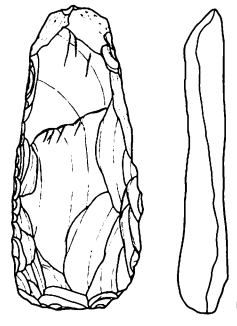

56

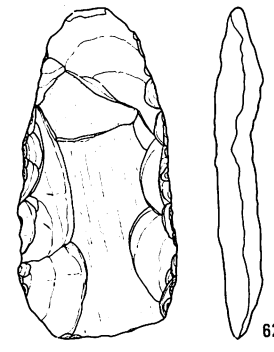

57

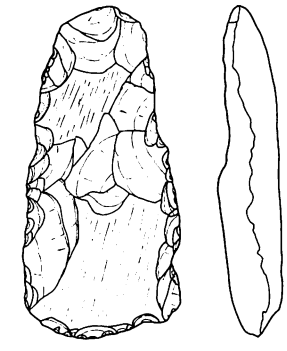

58

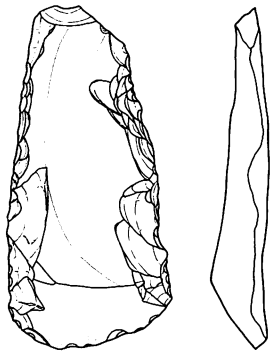

59

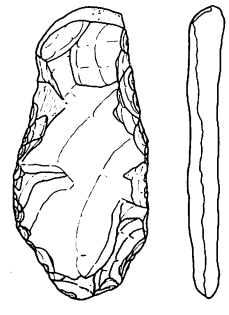

60

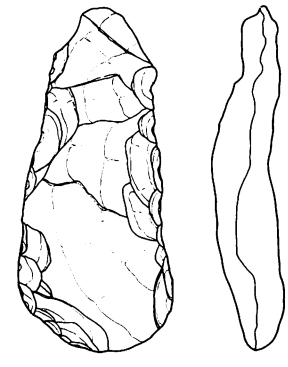

61

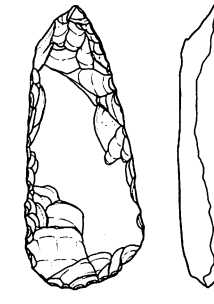

62


63


64

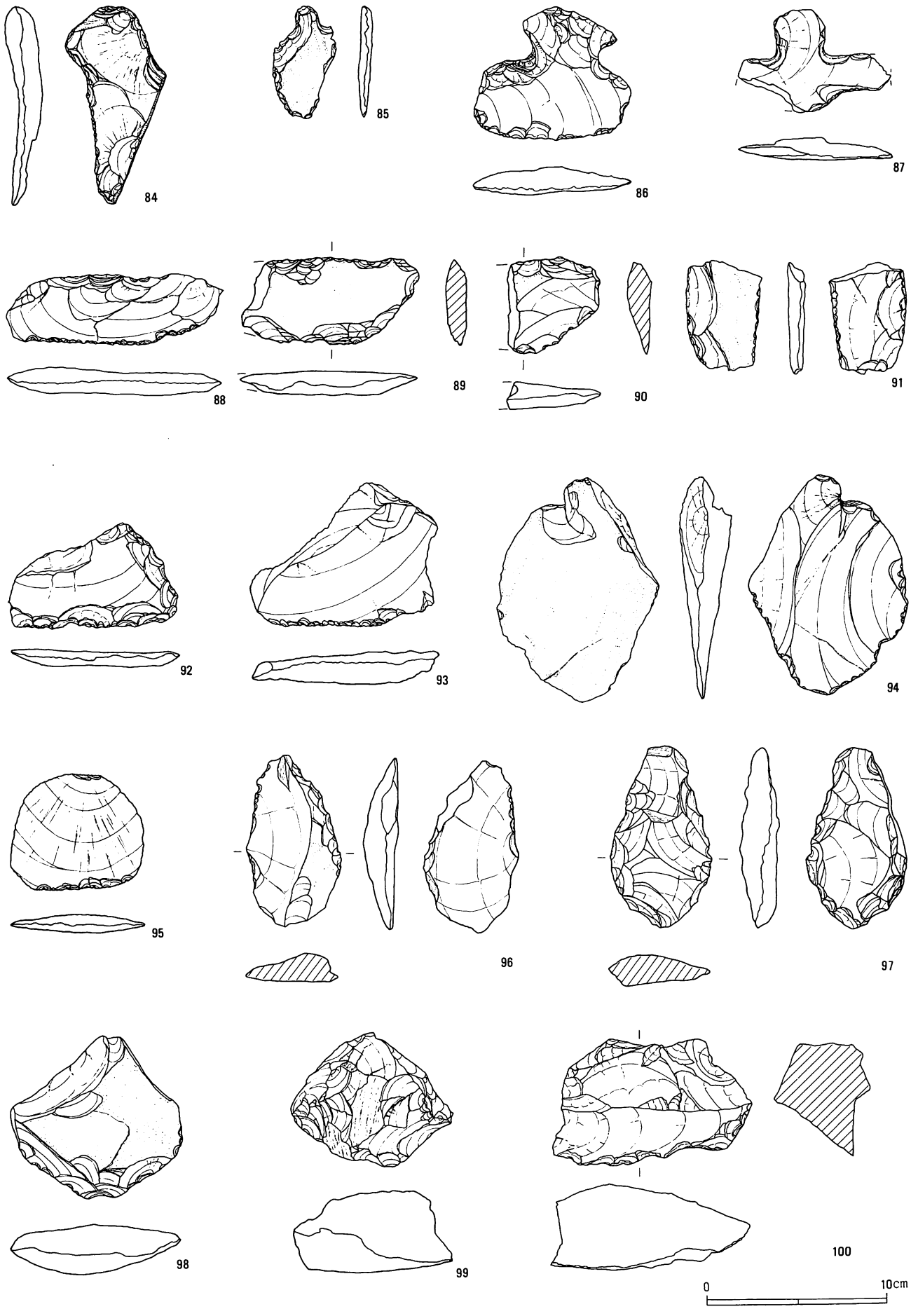

65

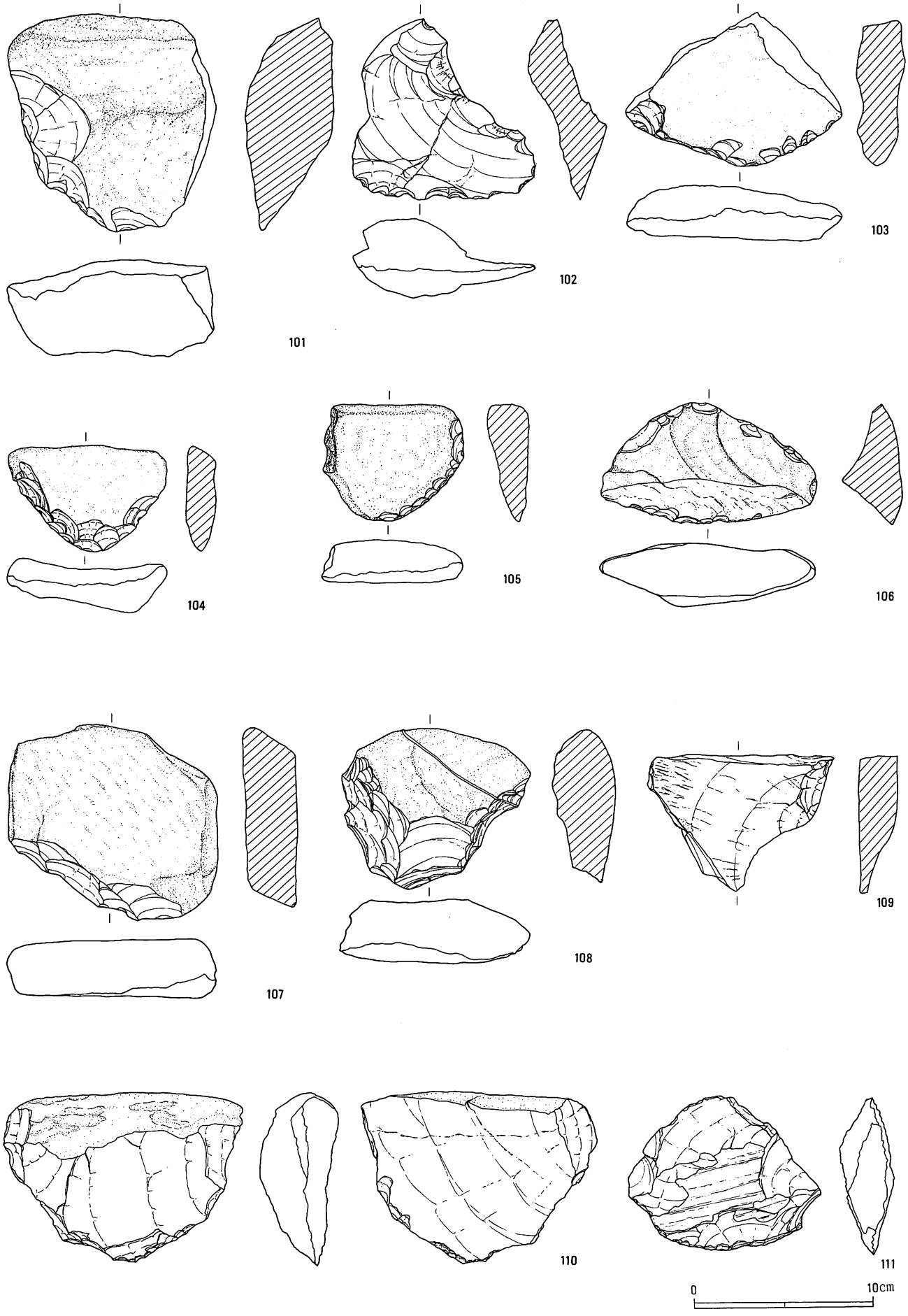

66


67

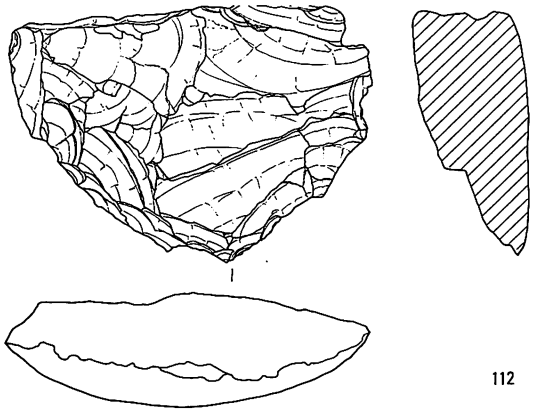
0　10cm

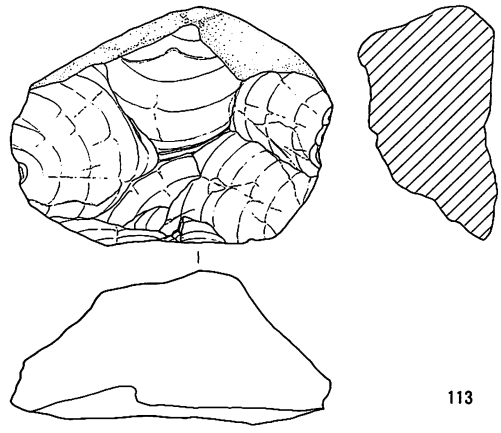
PL-38　打製石斧(2)
打製石斧成形・素材剥片

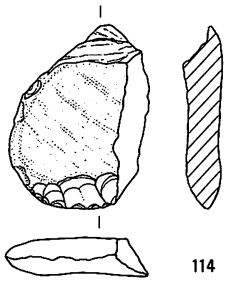

84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
0
10cm

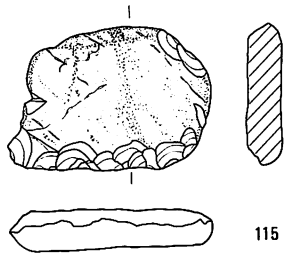

101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
0
10cm

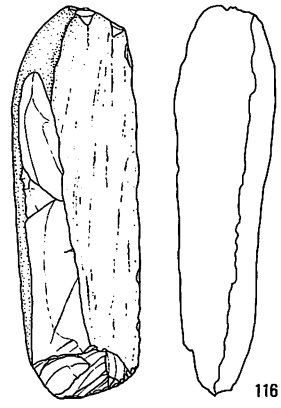
PL-41　礫器（3）・ハンマー
磨製石斧・不明石器・土器混和剤

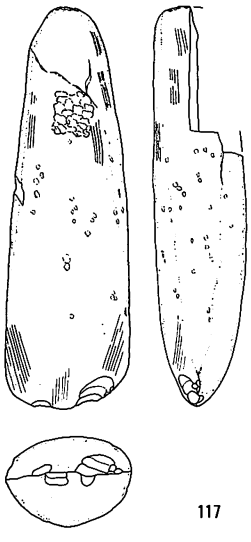


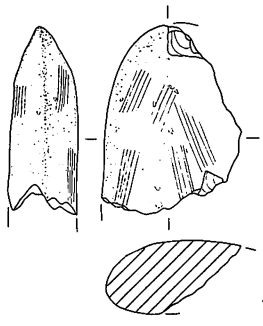


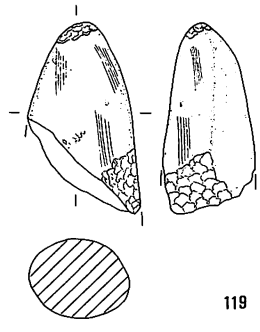


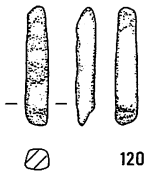


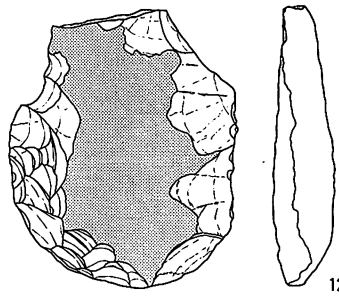


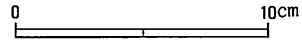


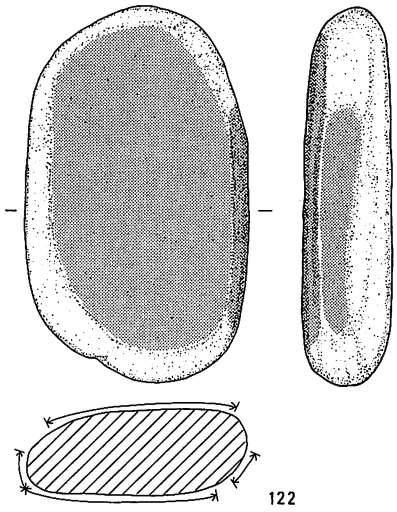


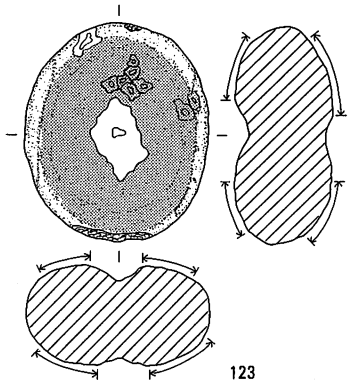


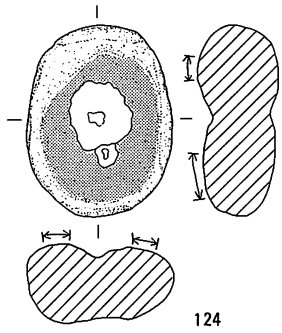


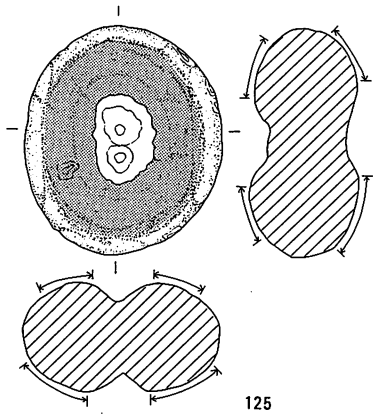


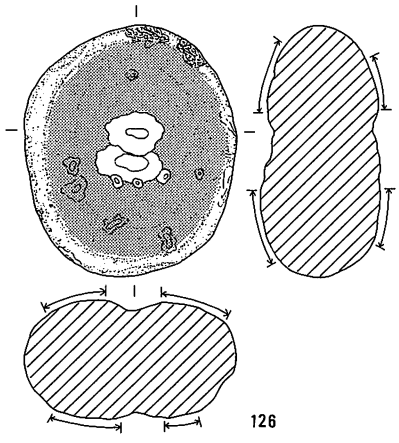


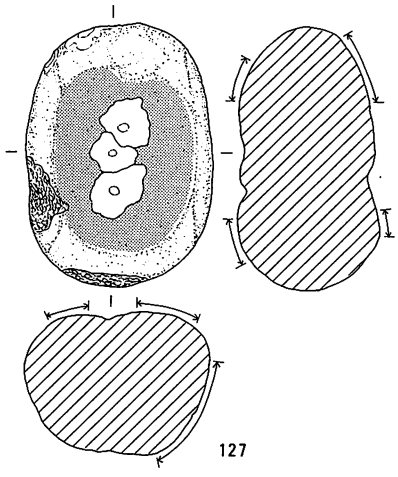

122

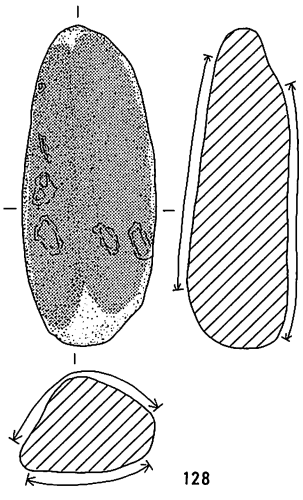

123

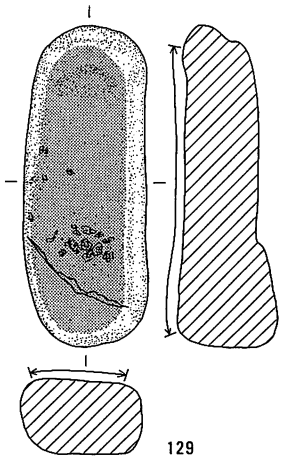

124

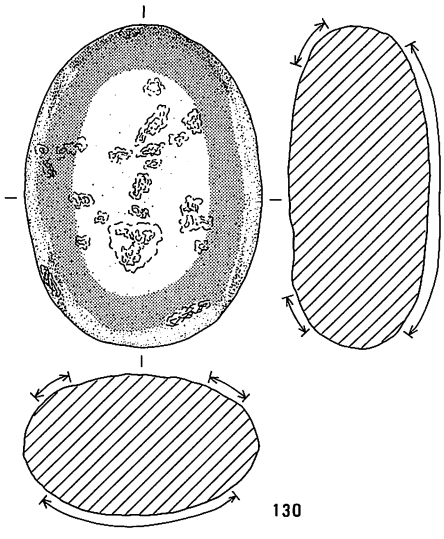

125

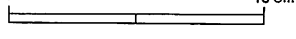

126

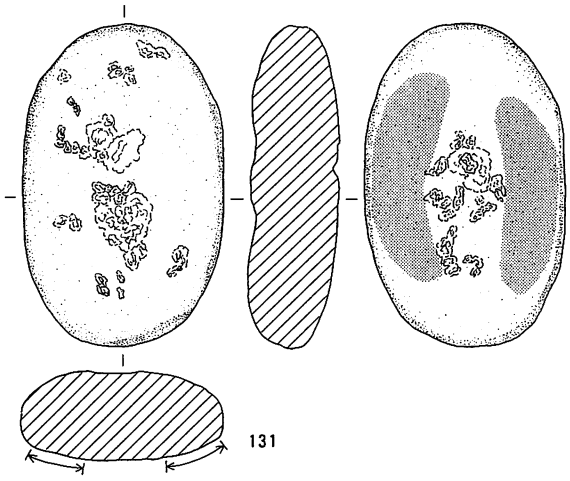

127

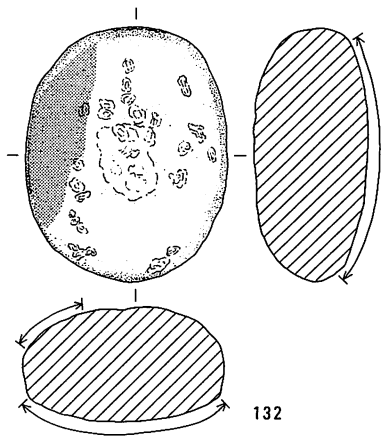

128

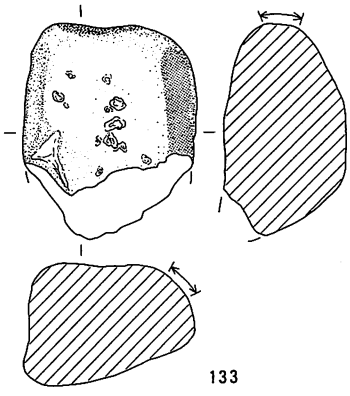

129

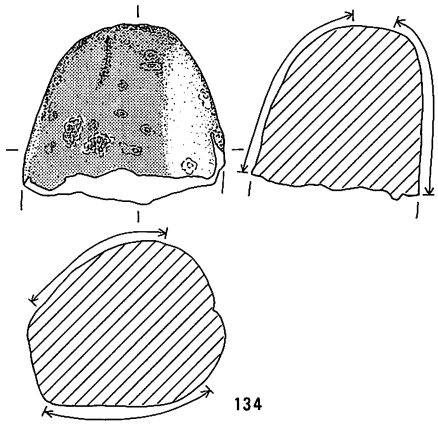

130

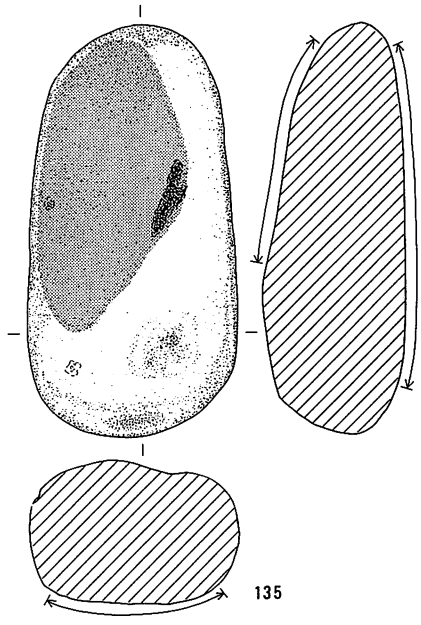

0
10cm

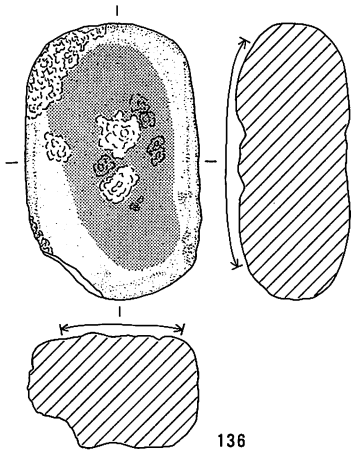

131

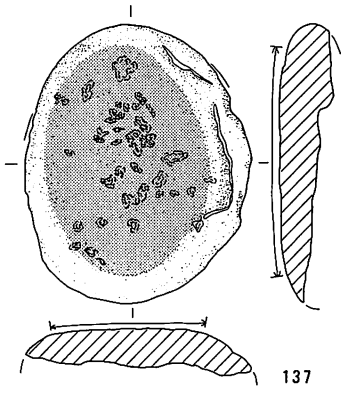

132

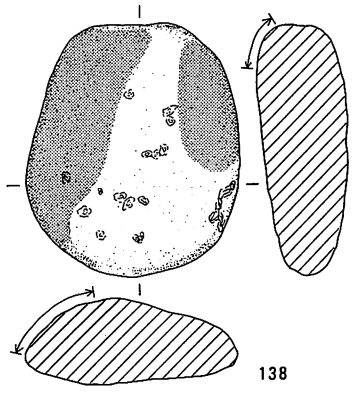

133

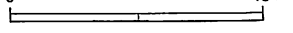

134

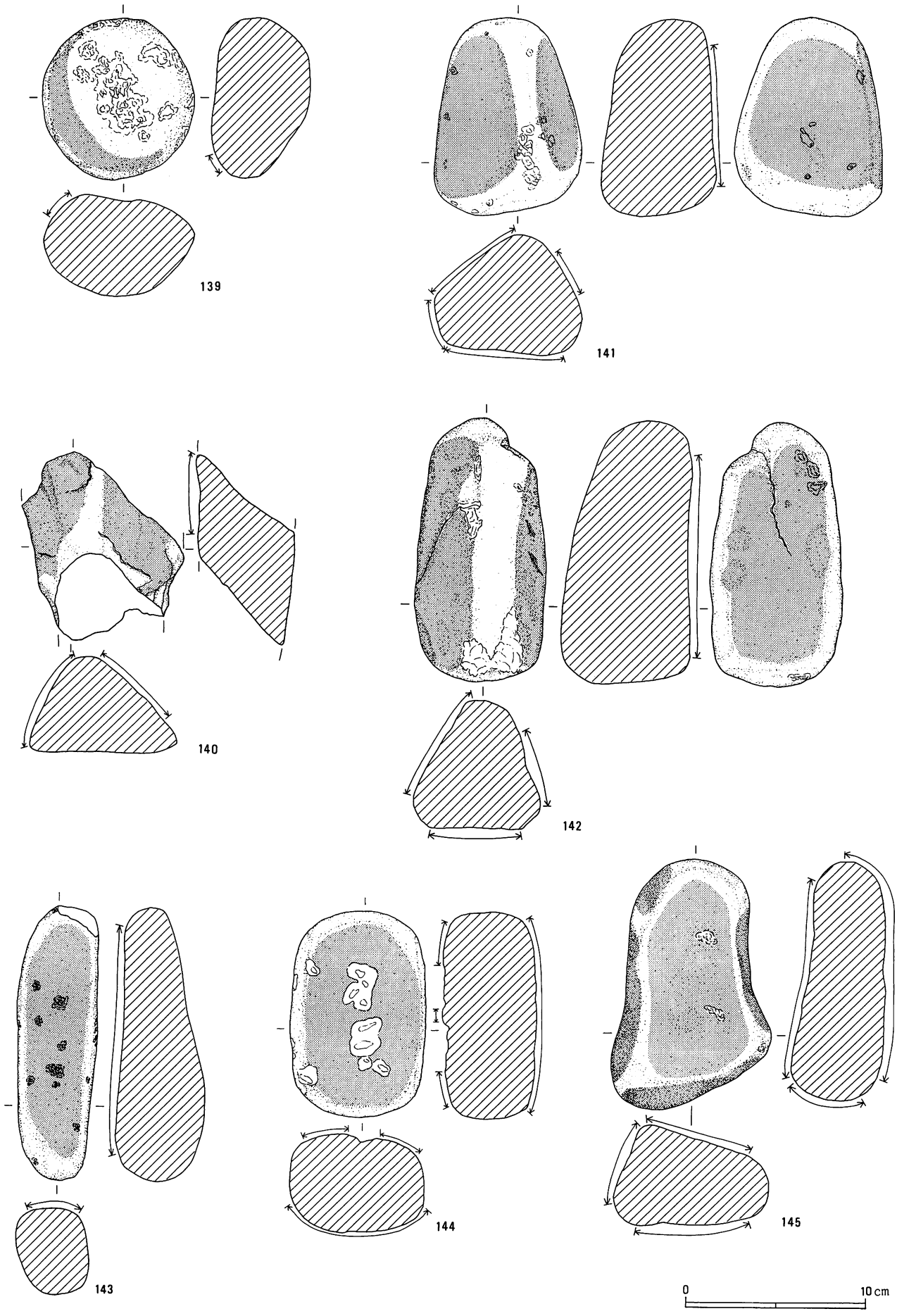

135

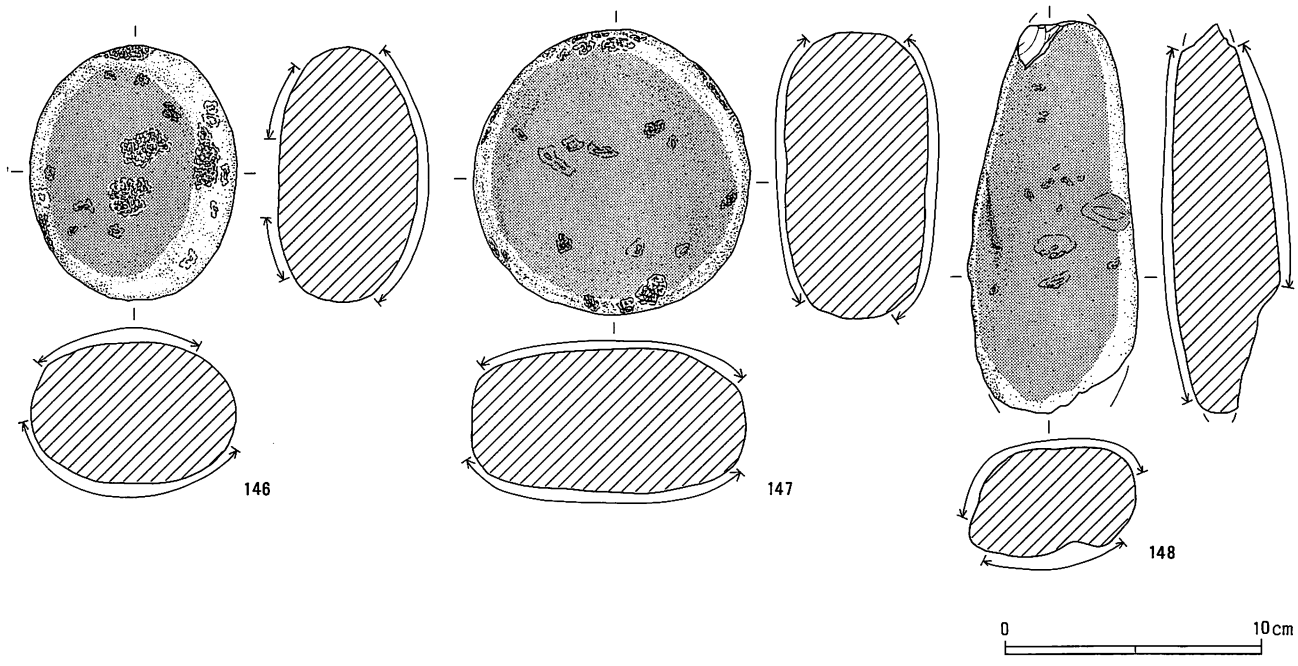

136

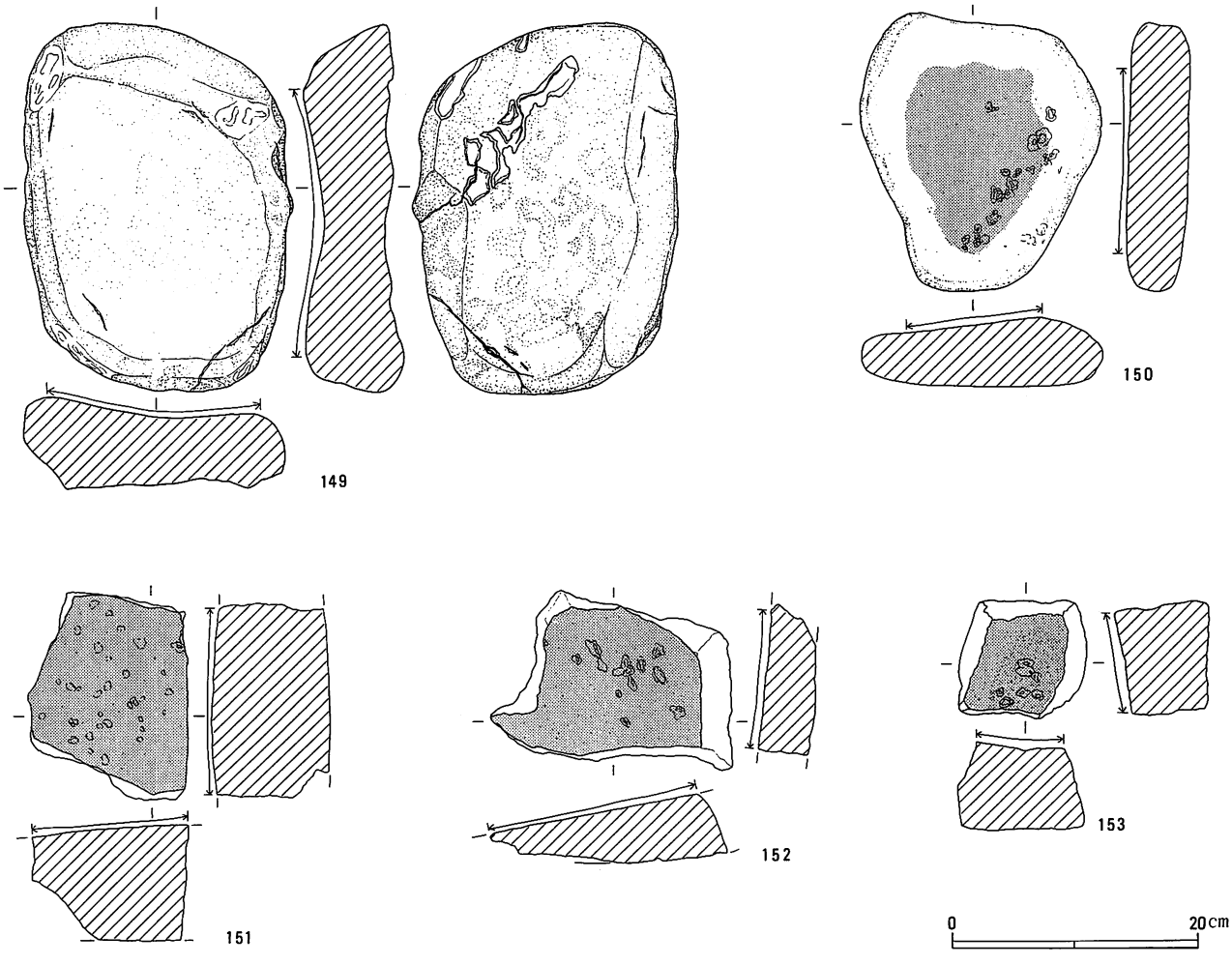

137

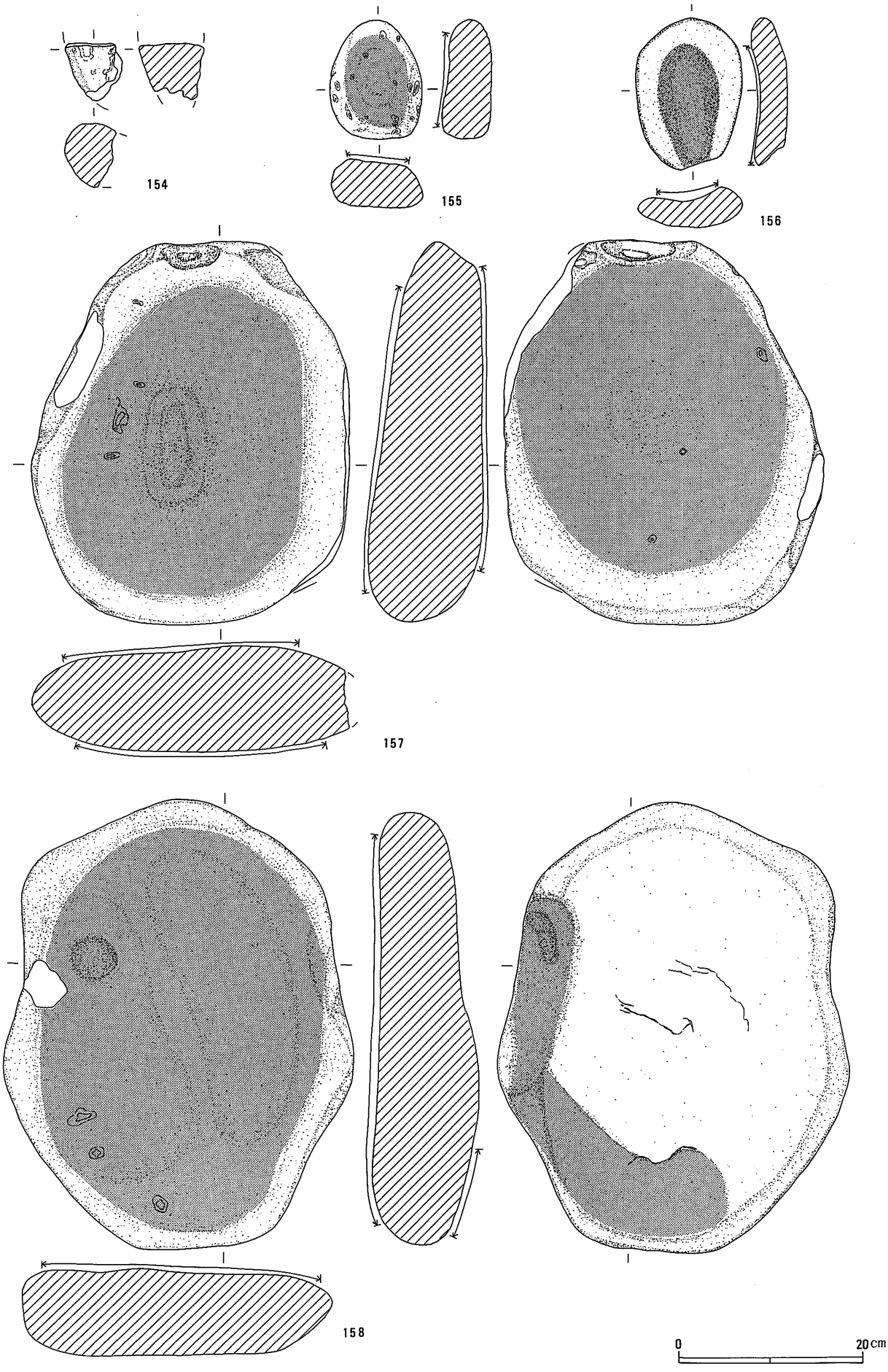

138

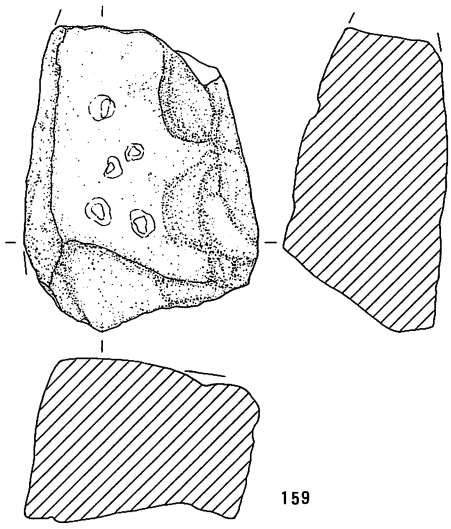

0
10cm

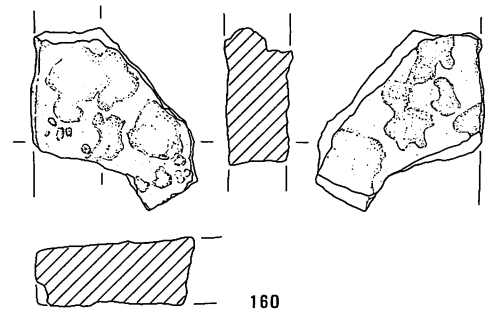

139
141
140
142
143
144
145
0
10cm

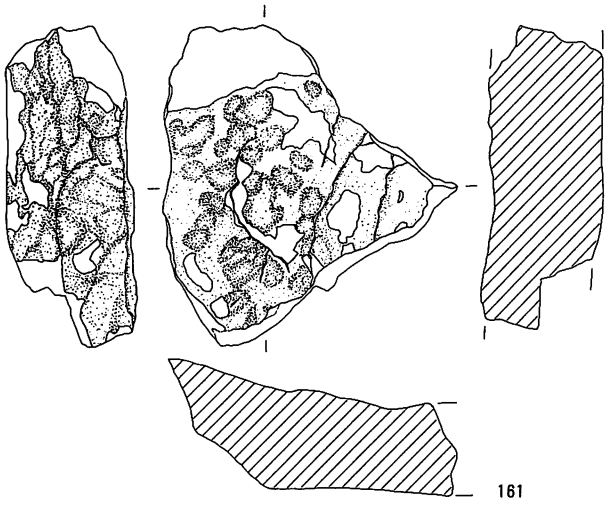

146
147
148
0
10cm

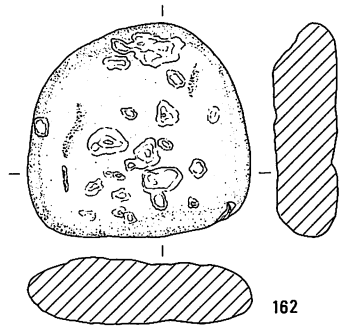

149
150
151
152
153
0
20cm

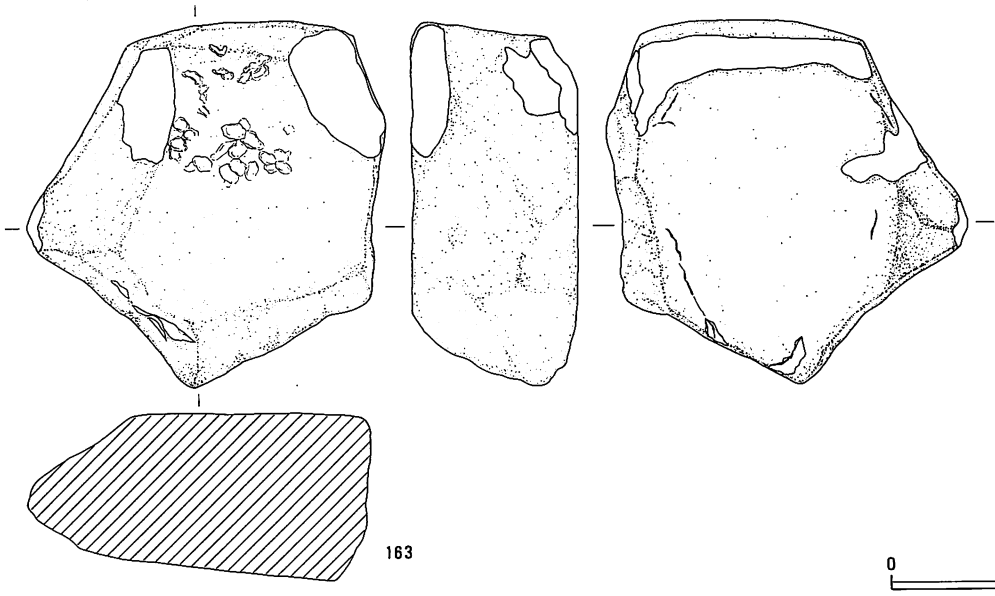

154
155
156
157
158
0
20cm

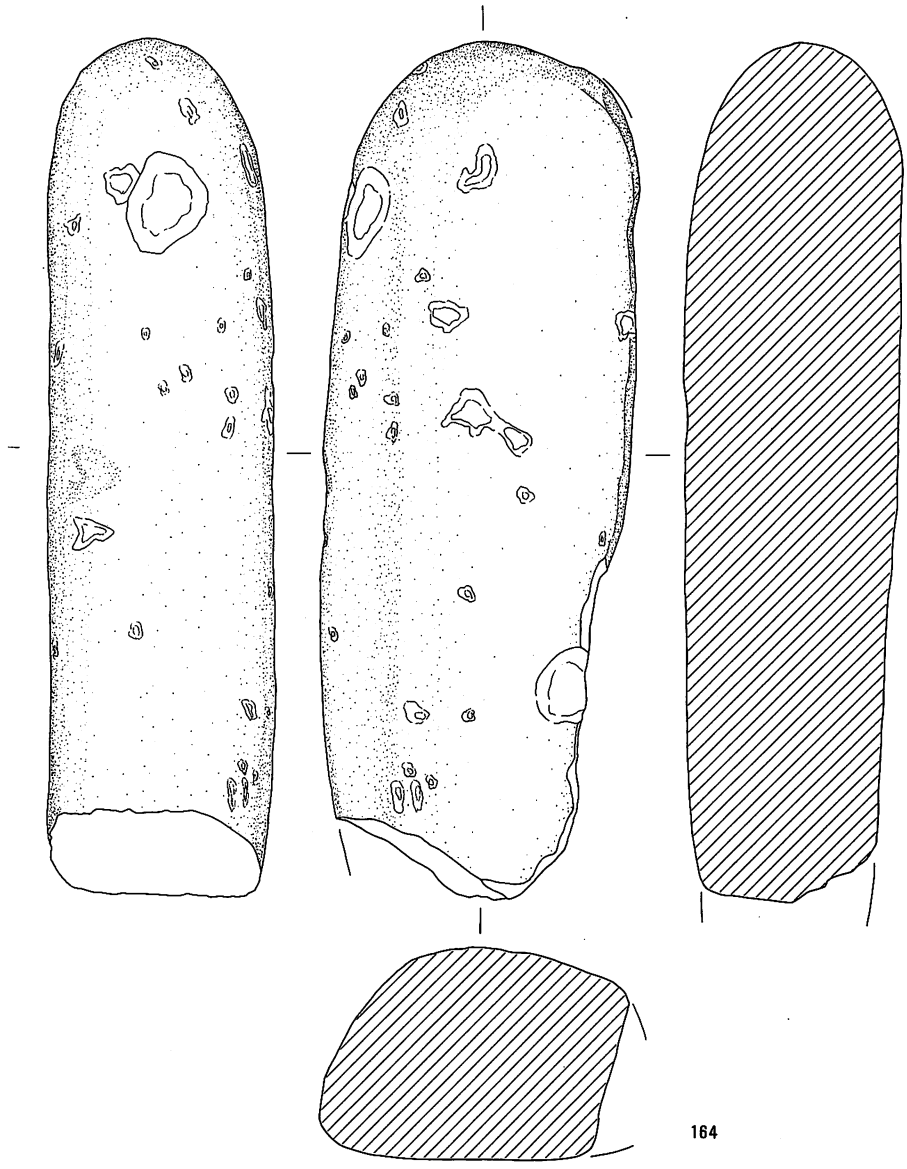

159


160

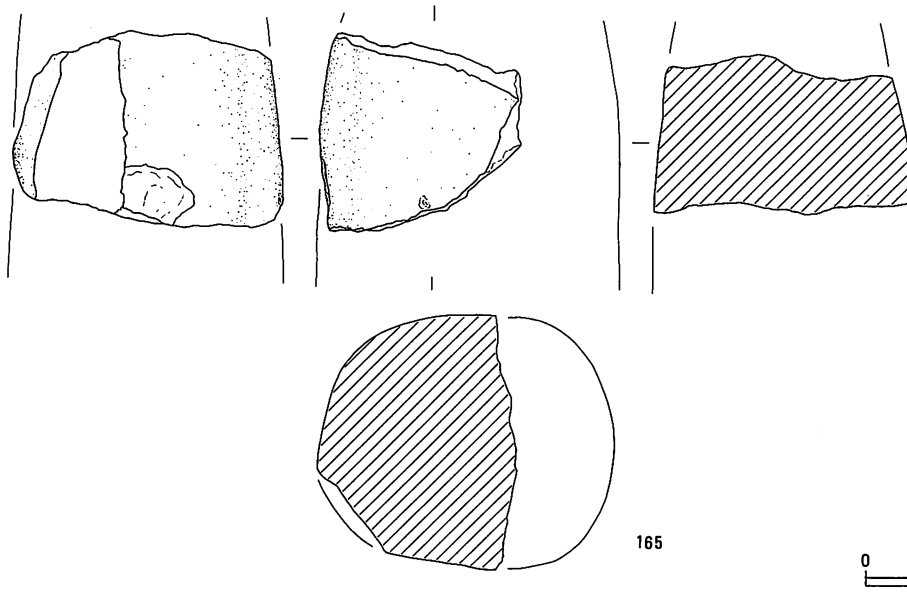

161


162


163
0
20cm

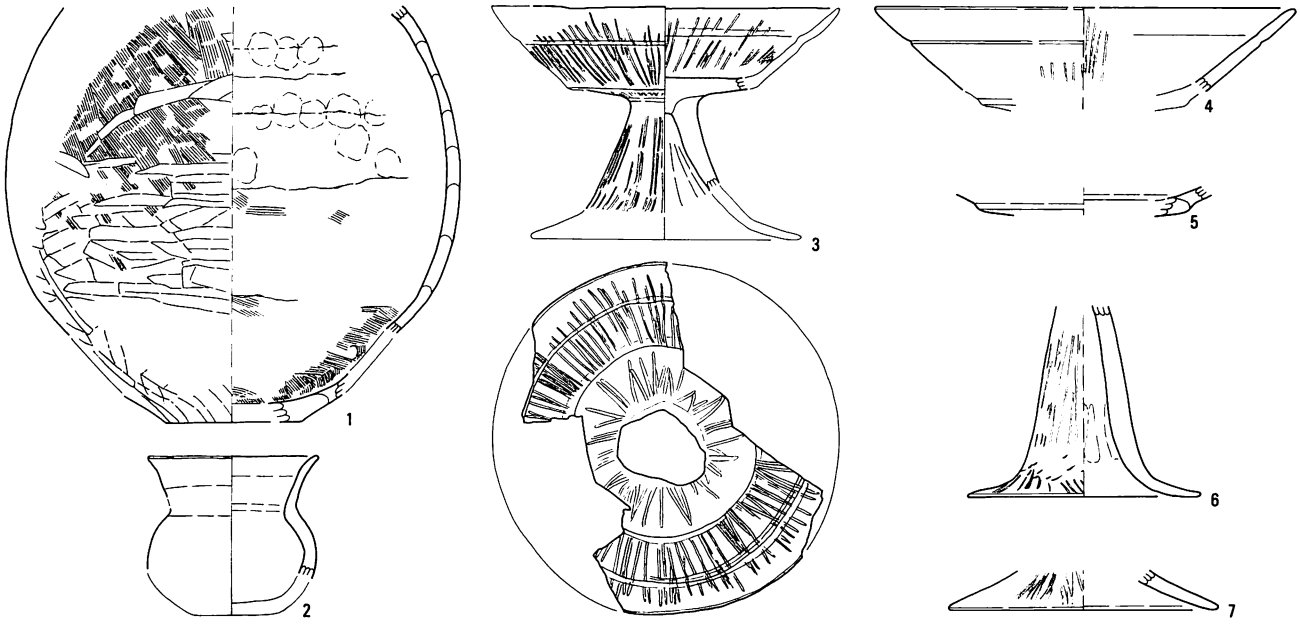


164

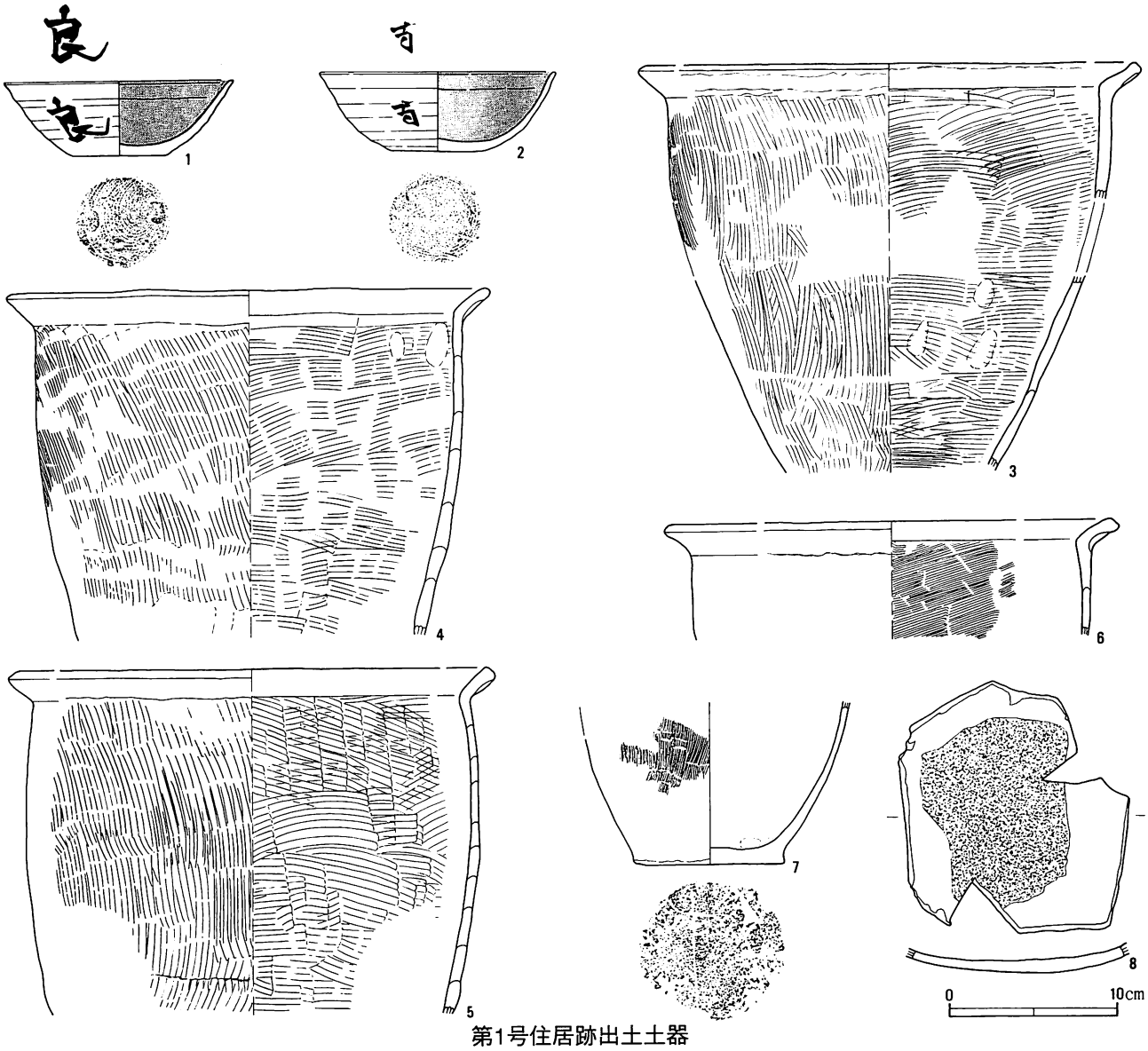


165

0　10cm

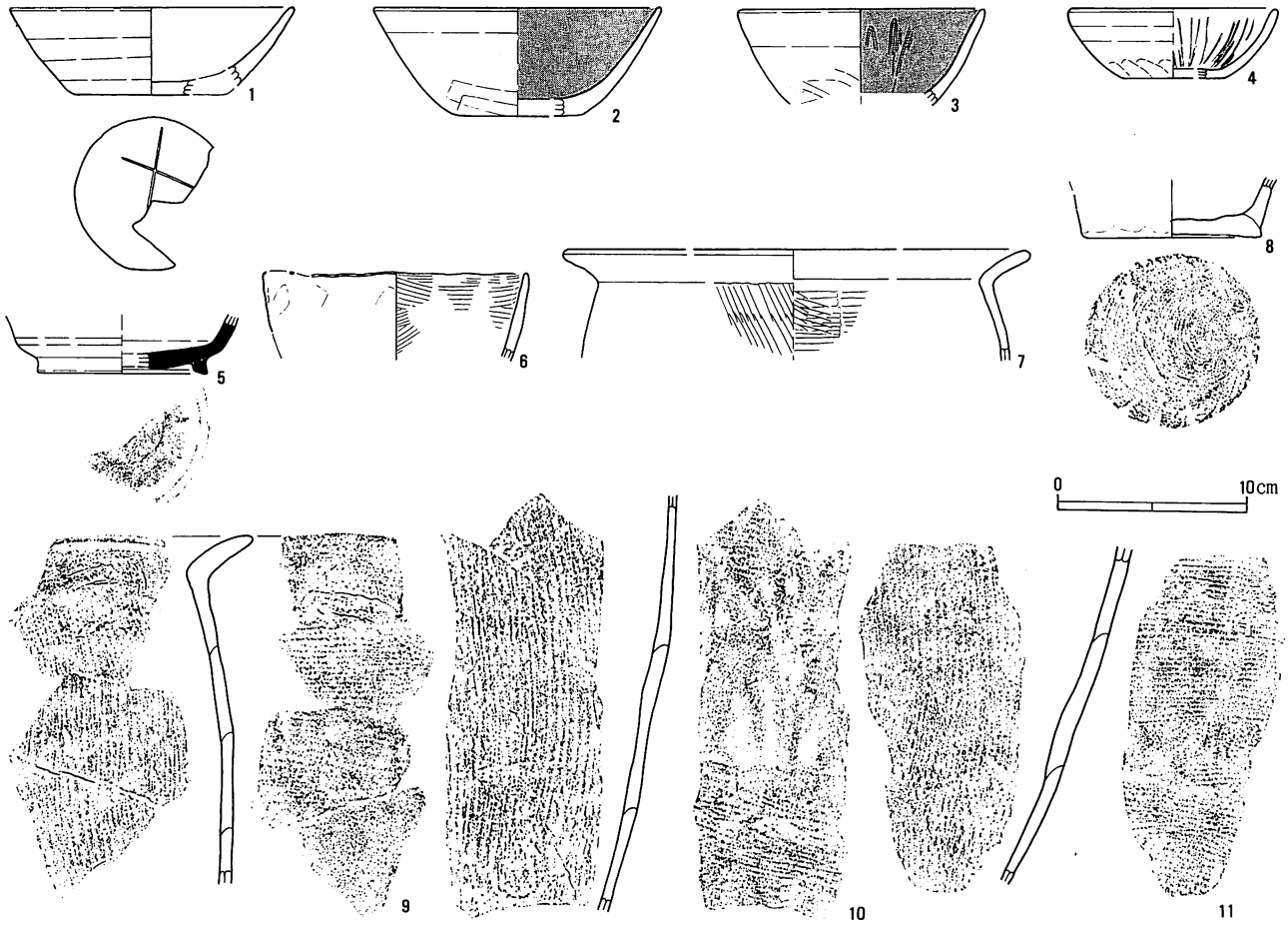


第3号住居跡出土土器

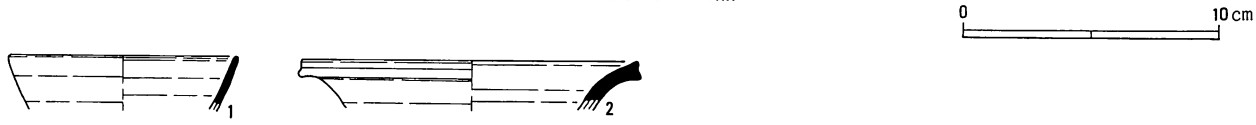


第1号住居跡出土土器

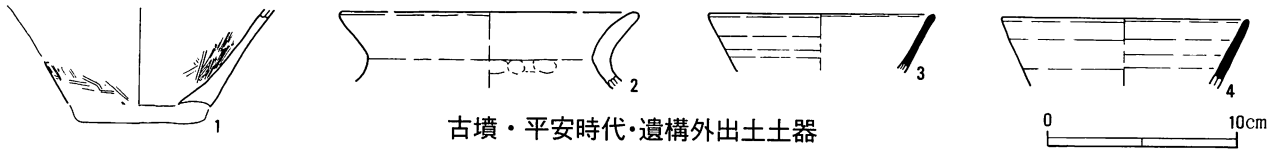
PL-50　第4号住居跡・第1号溝状遺構・古墳・平安時代・遺構外出土土器
第3・4号住居跡出土石器



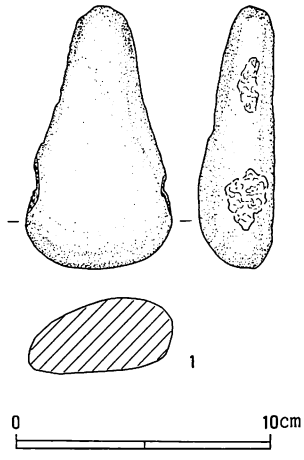
第4号住居跡出土土器



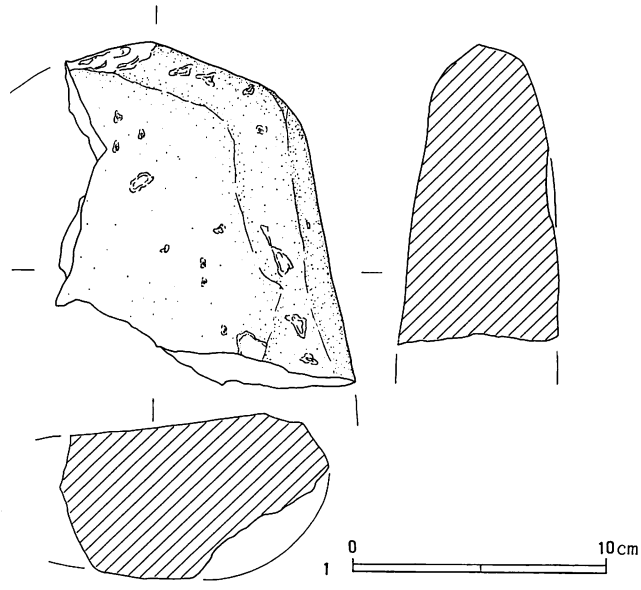
第1号溝状遺構出土土器



古墳・平安時代・遺構外出土土器

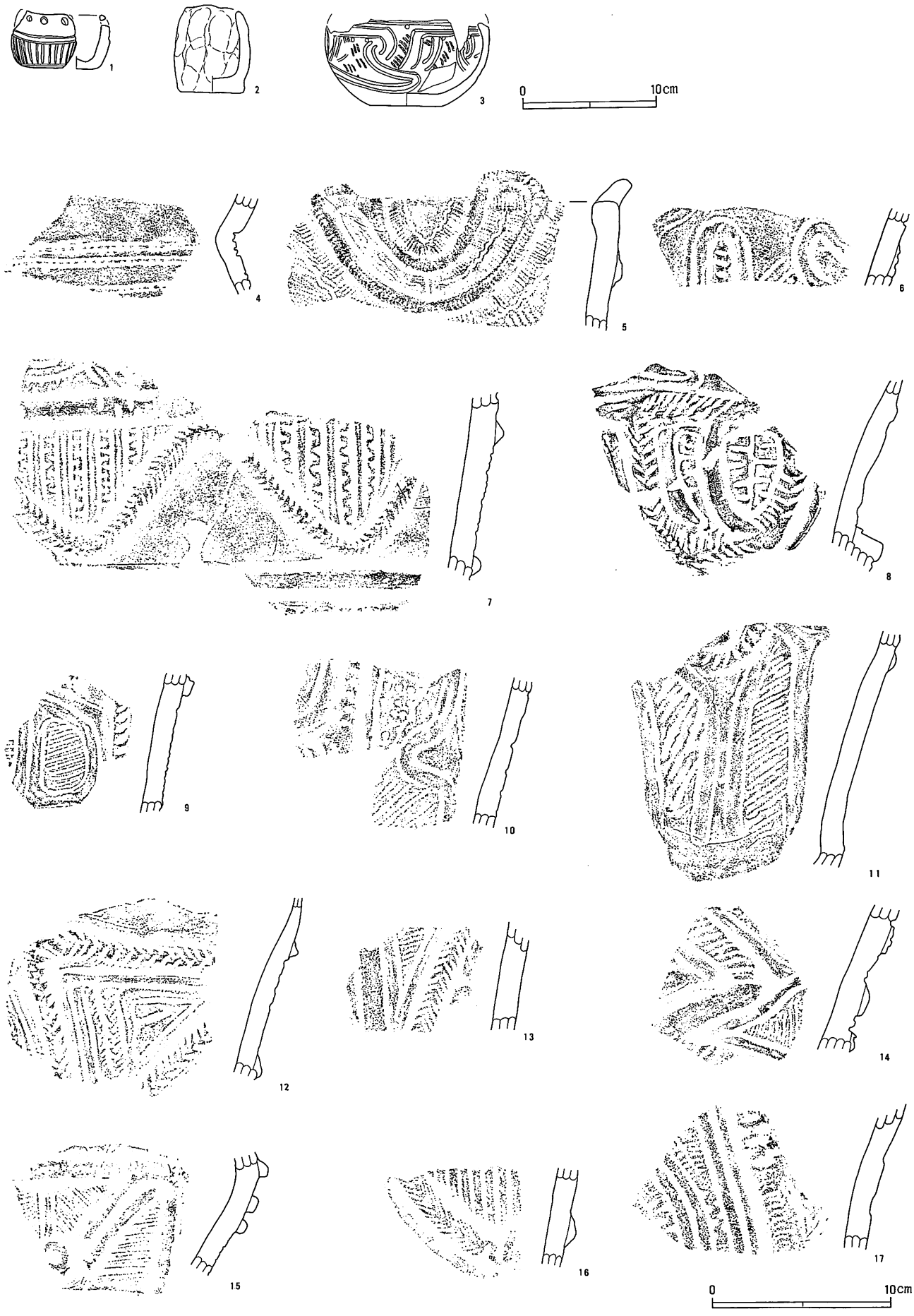


第3号住居跡出土石器

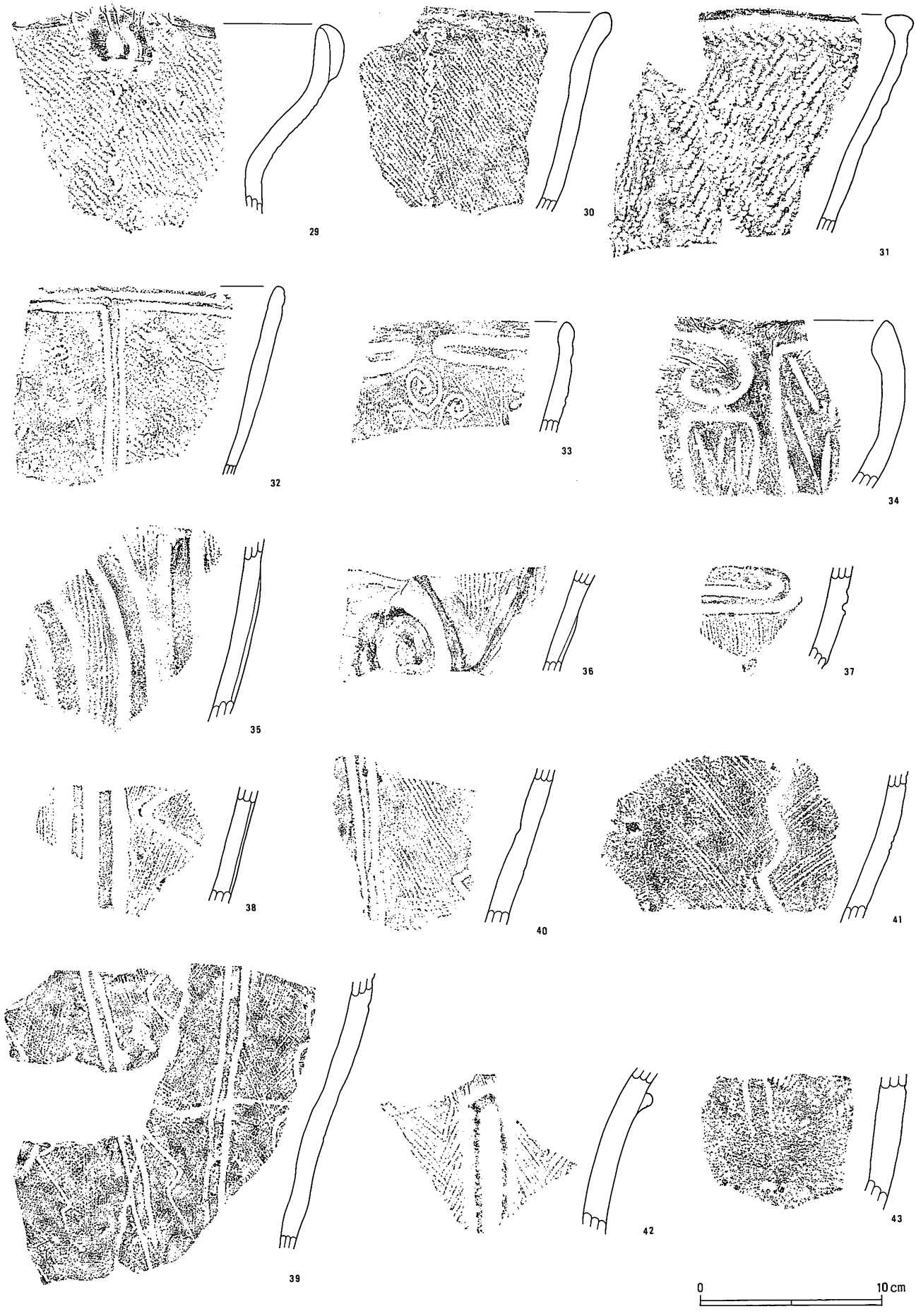


第4号住居跡出土石器

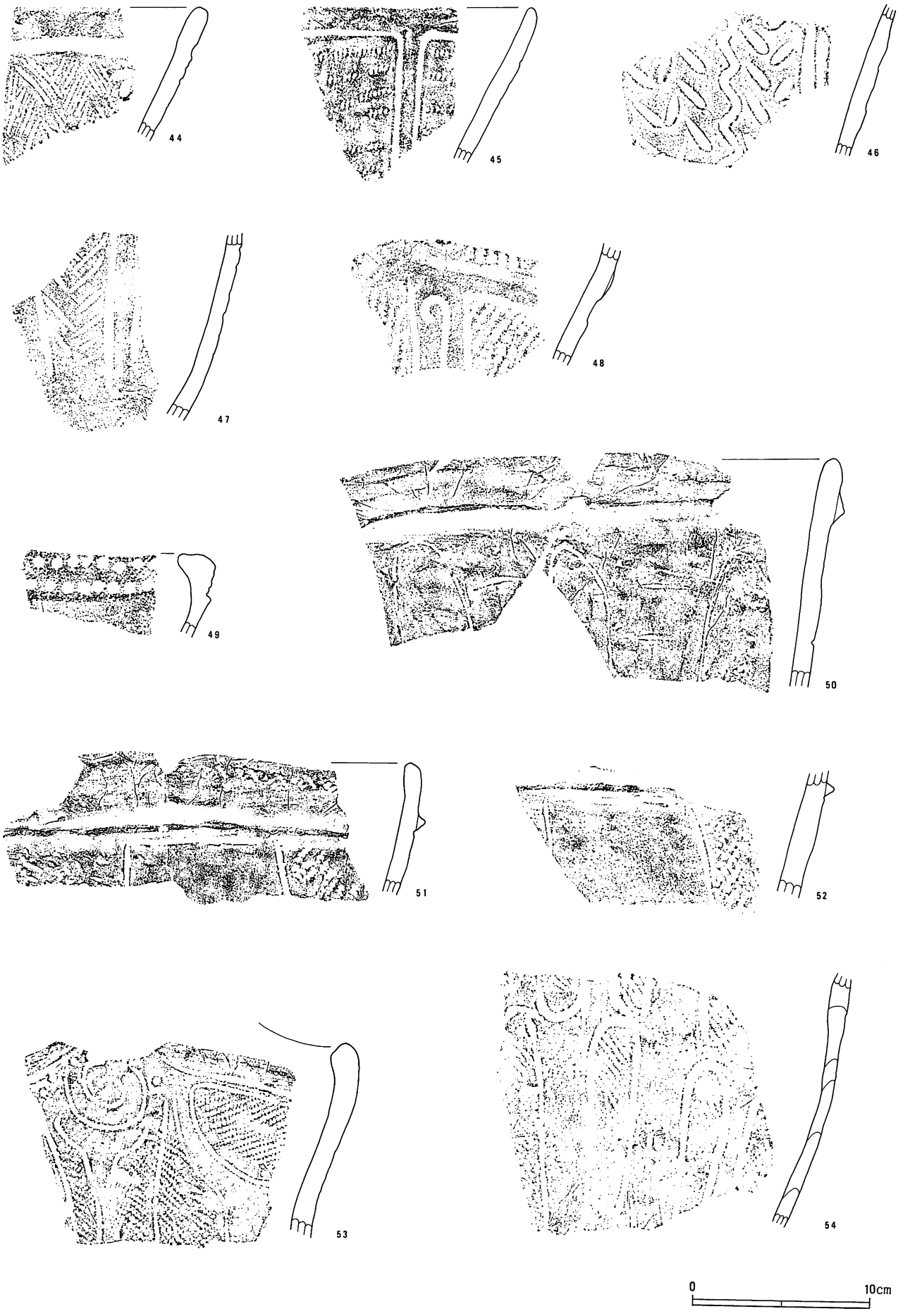
PL-51　峡北農業高等学校収蔵資料（1）
縄文土器①

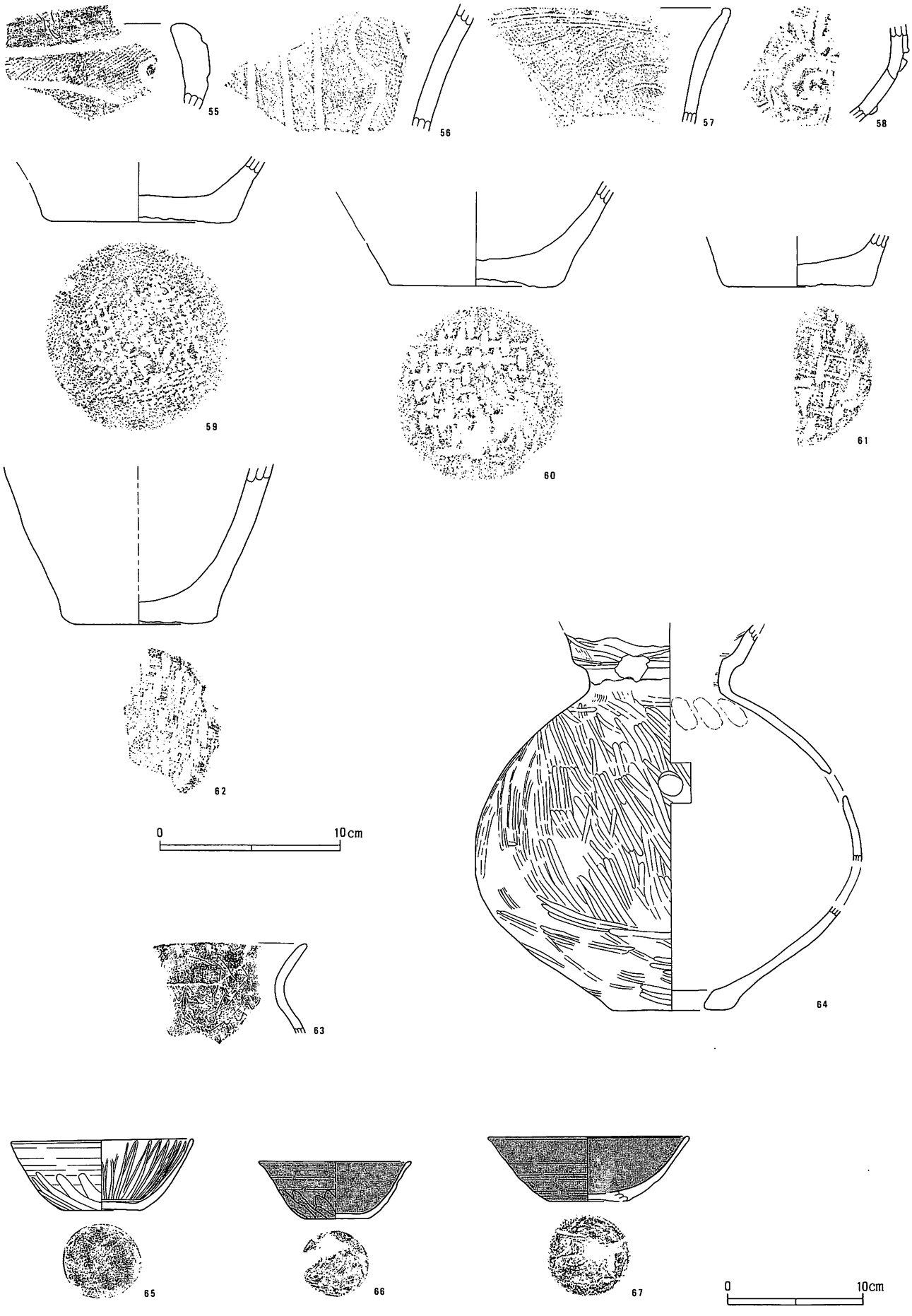


PL-52　峡北農業高等学校収蔵資料（2）
縄文土器②

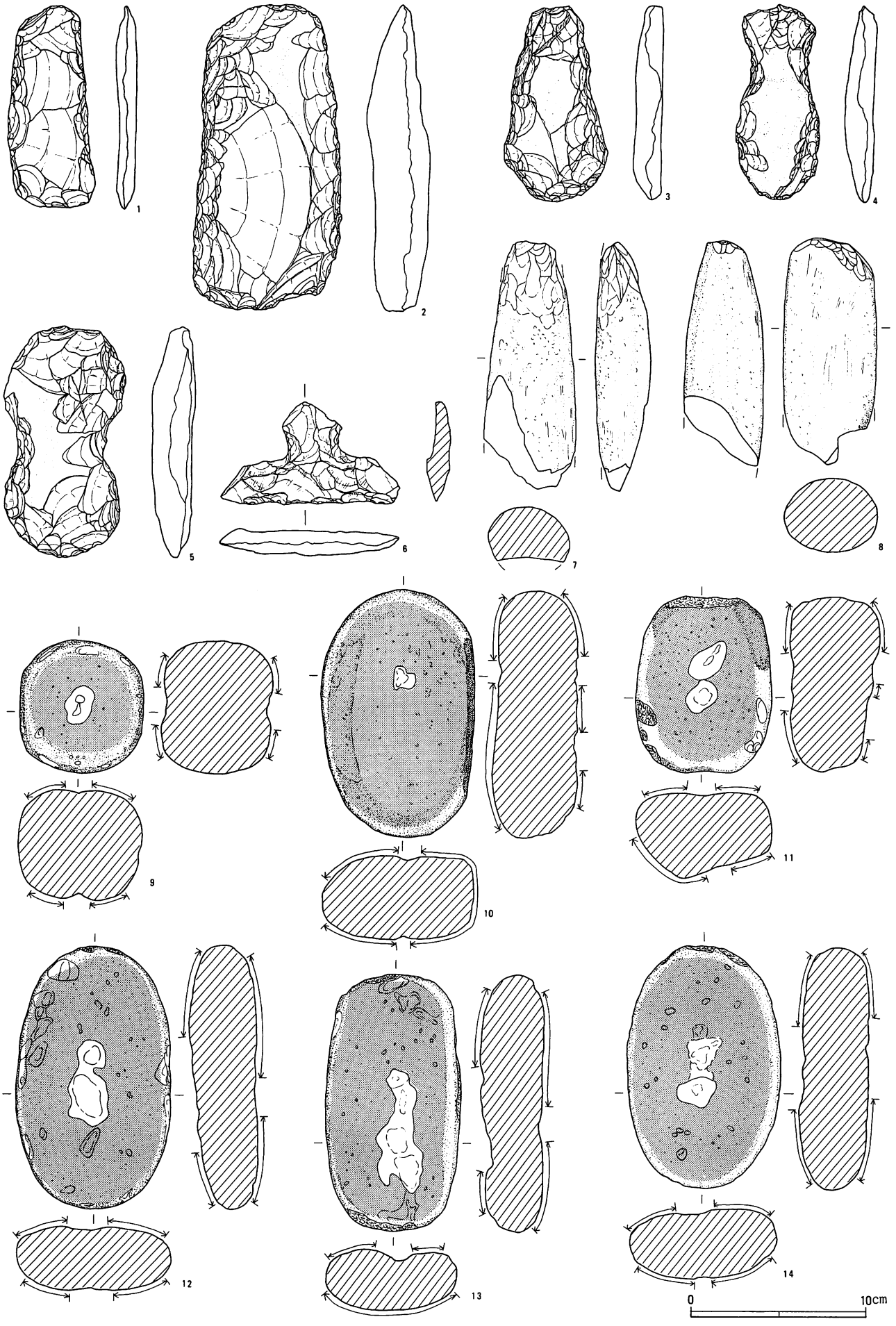

29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
40
41
39
42
43
0
10cm

PL-54　峡北農業高等学校収蔵資料（4）
縄文土器④



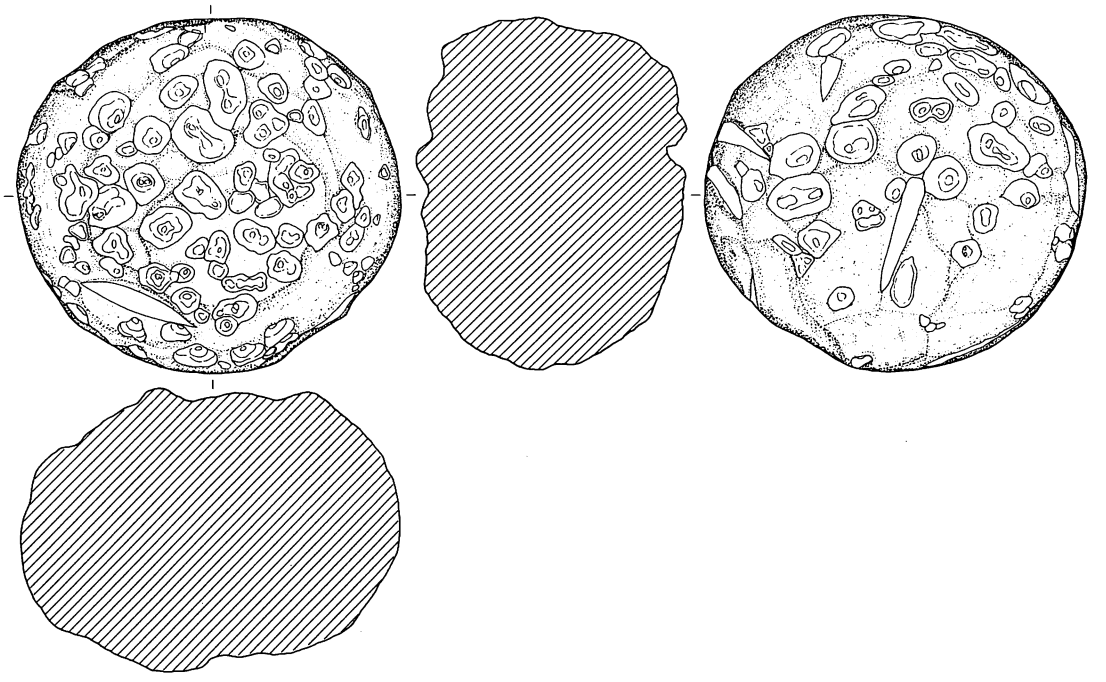

55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
0
10cm
0
10cm

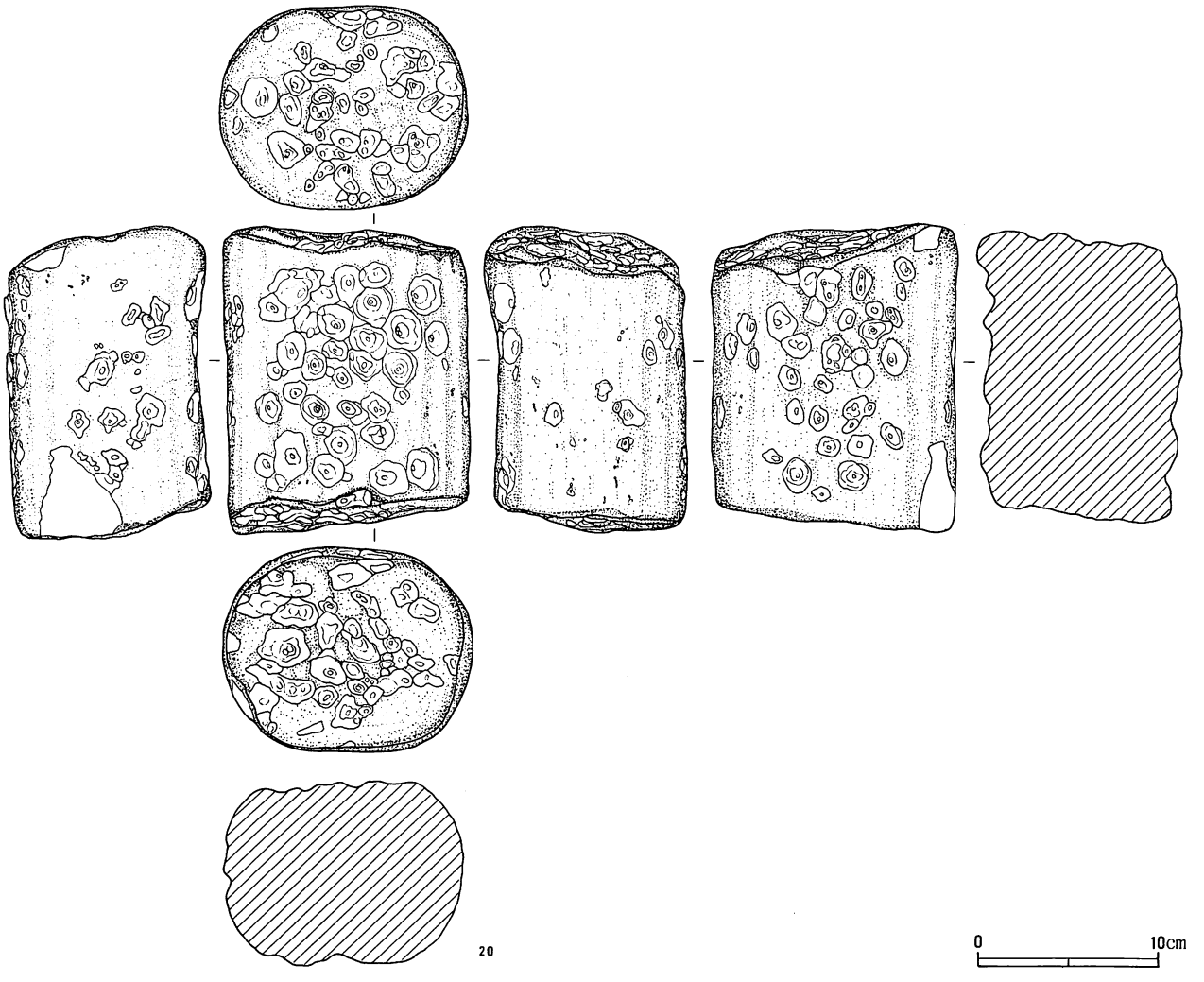
PL-56　峡北農業高等学校収蔵資料（6）
縄文石器①

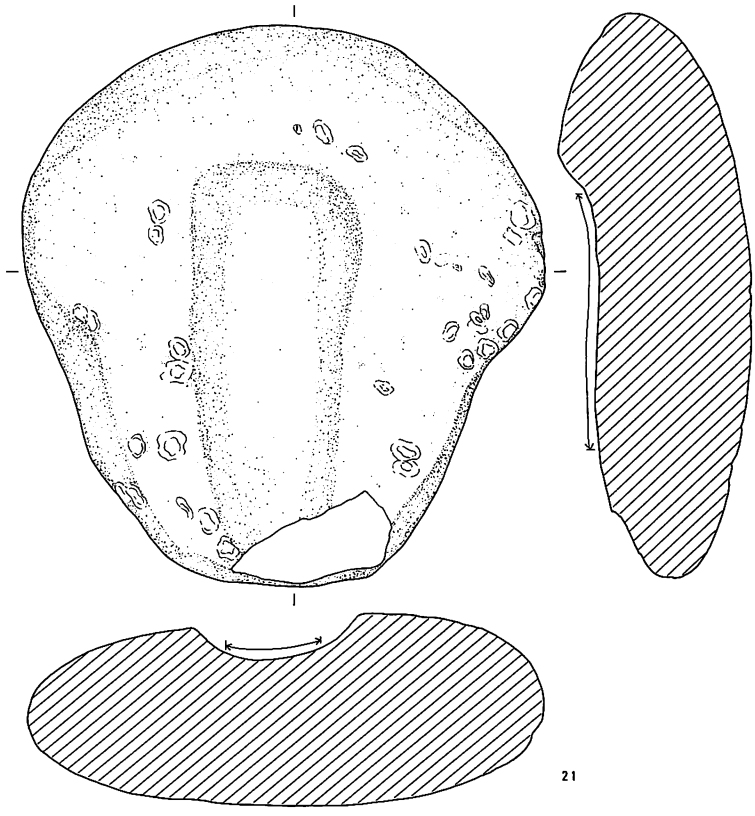


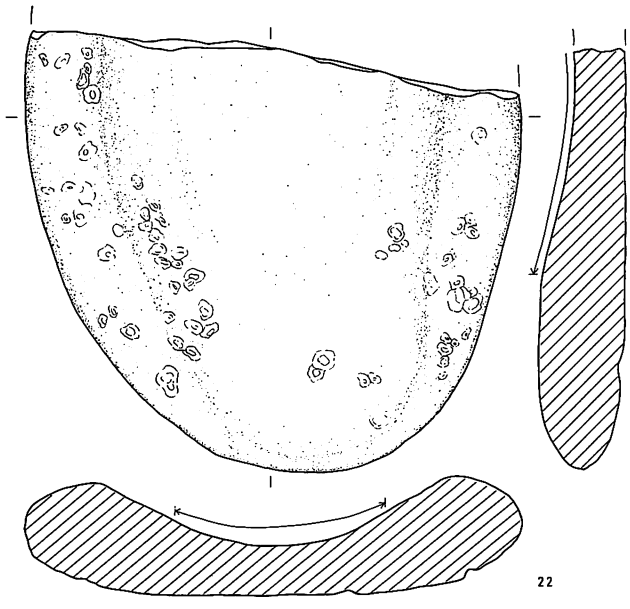
15
16
17
18
0
10cm

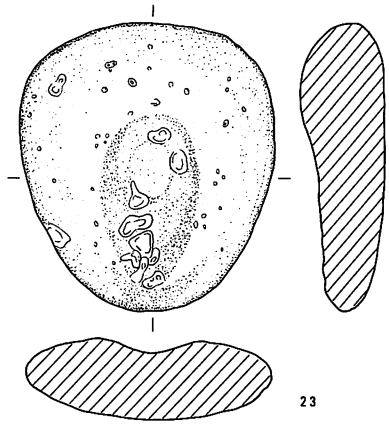
PL-58　峡北農業高等学校収蔵資料(8)
縄文石器③





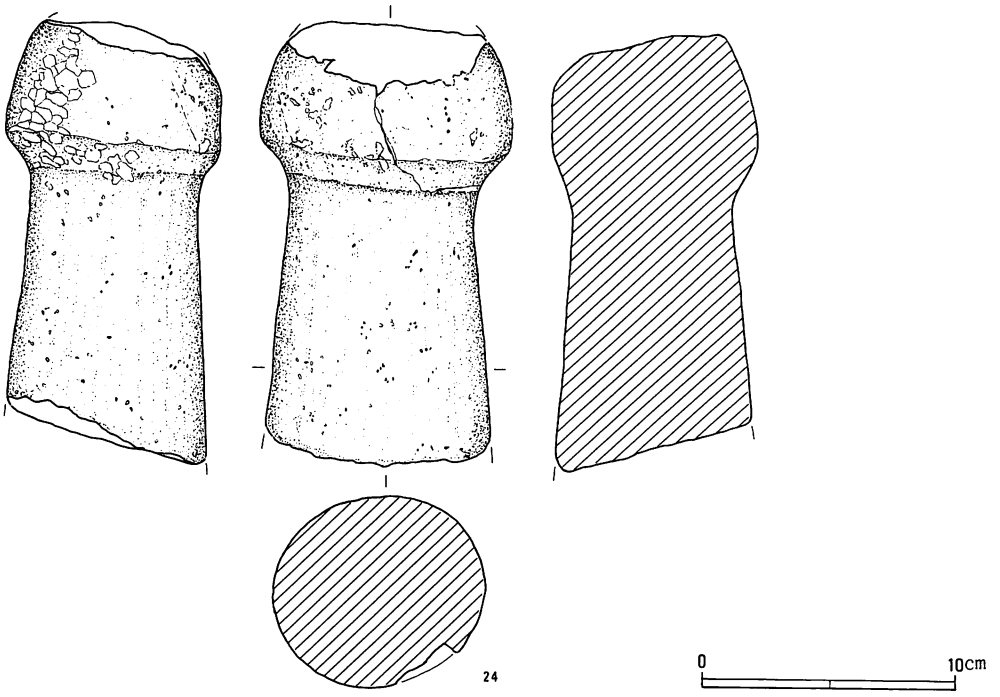


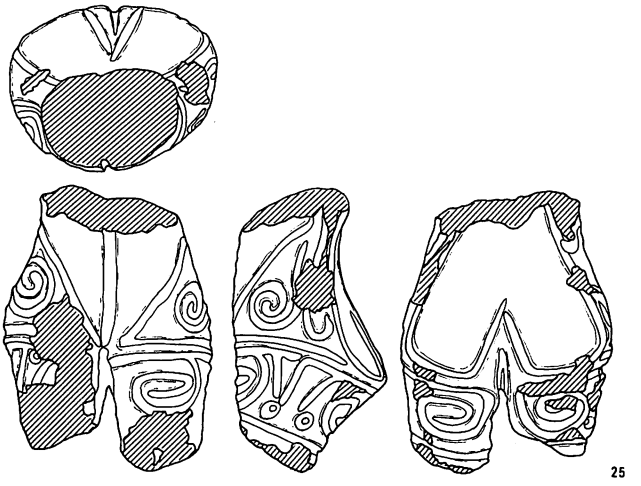




0　10cm

PL-60　峡北農業高等学校収蔵資料（10）
縄文石器⑤　土偶





写 真 図 版

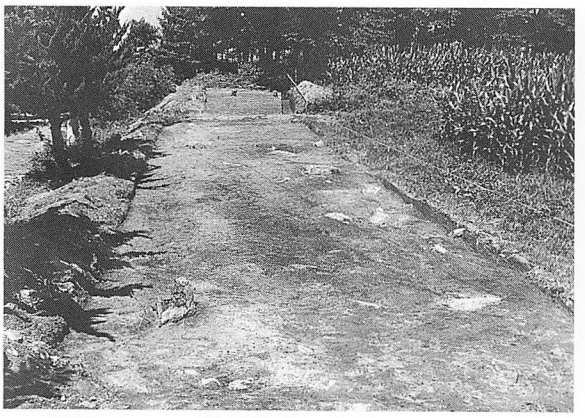
第1・3地点　全景

第1地点　西側調査区

第1地点　東側調査区

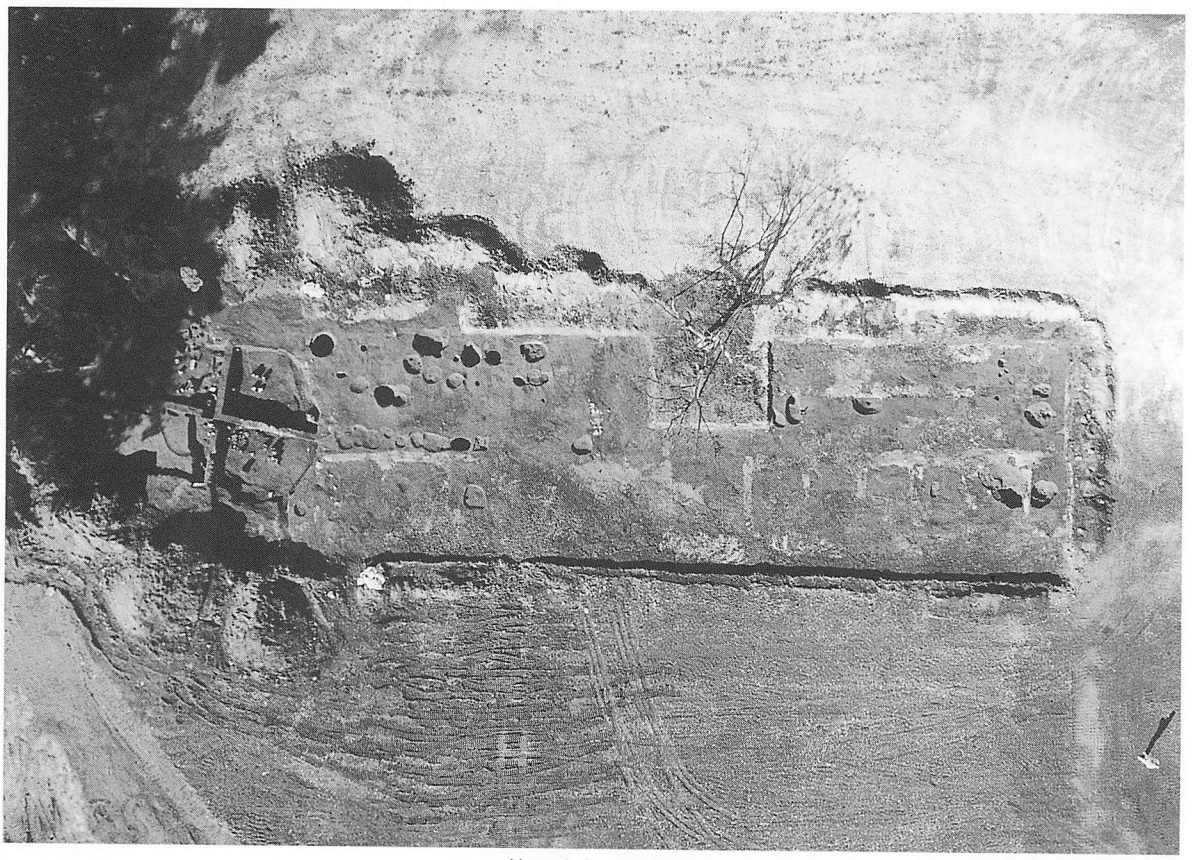
第1地点　作業風景

第1地点　調査区北壁



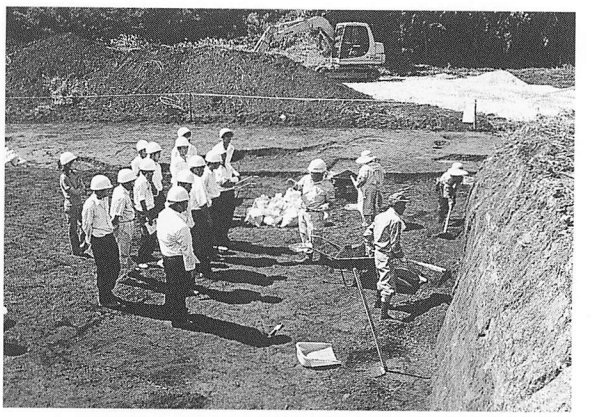
第2地点　全景

第2地点　作業風景



第3地点　全景

第3地点　作業風景

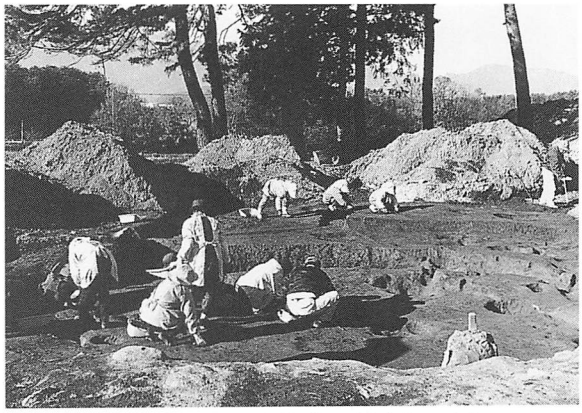


遺跡見学（峡北農業高等学校の生徒）

第1号遺物集中区（東から）

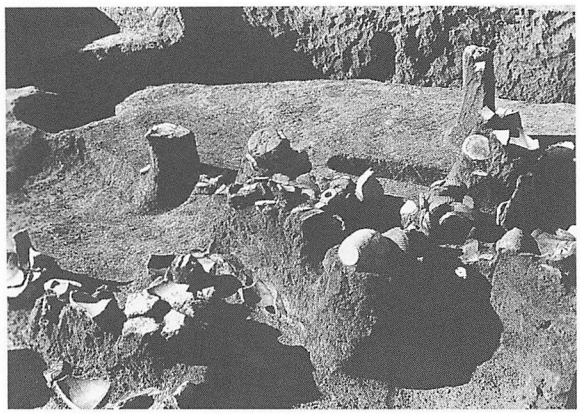
第1号竪穴状遺構遺物出土状況（南から）

第2号住居跡（南から）

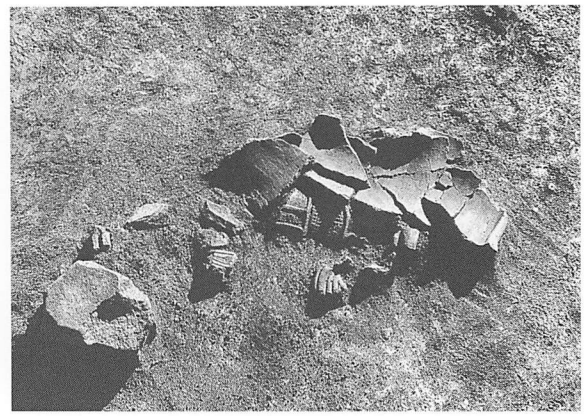


第5・6号住居跡作業風景（東から）

第5号住居跡（東から）

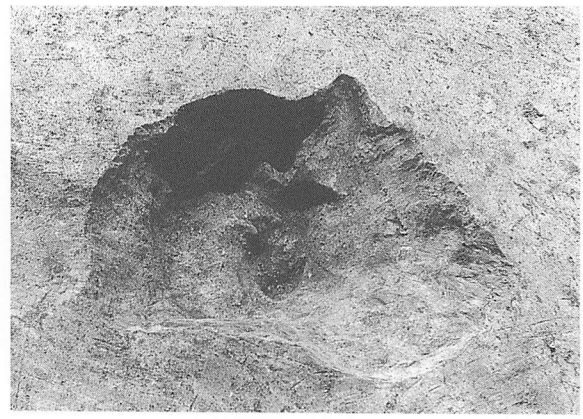


第5号住居跡遺物出土状況(東から)



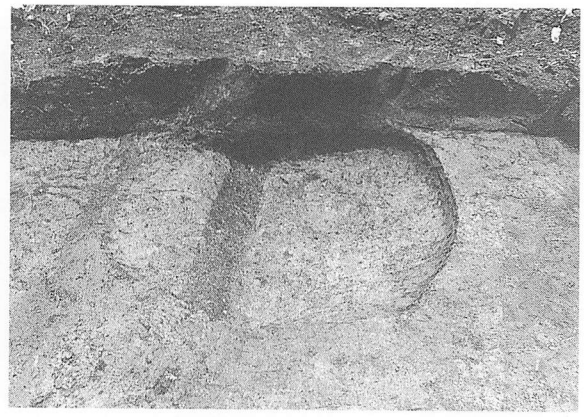
第5号住居跡遺物出土状況

第6号住居跡遺物出土状況(東から)

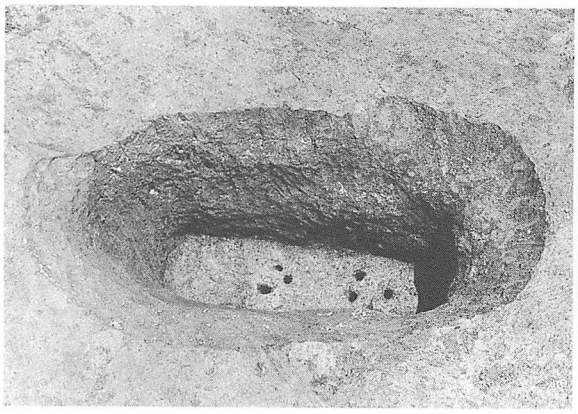


第1号土坑(東から)

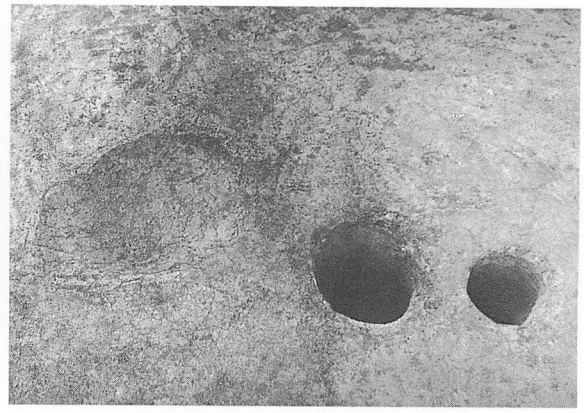
第26号土坑(東から)



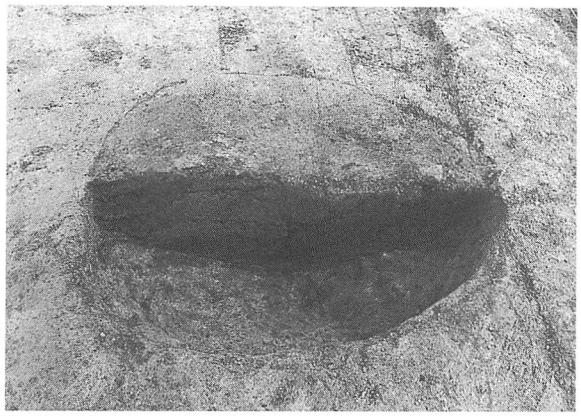
第27号土坑(北から)



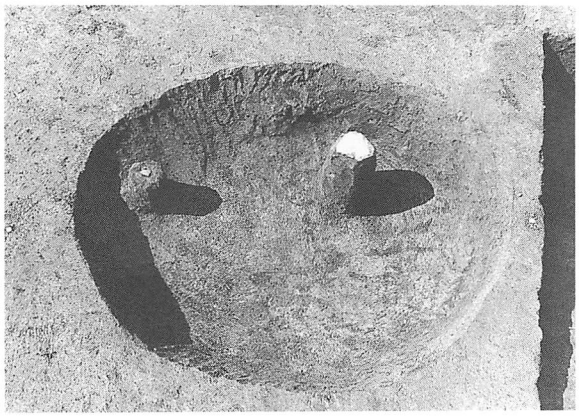
第28号土坑(西から)

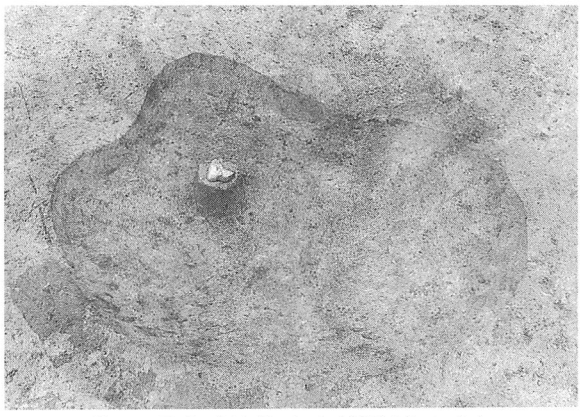


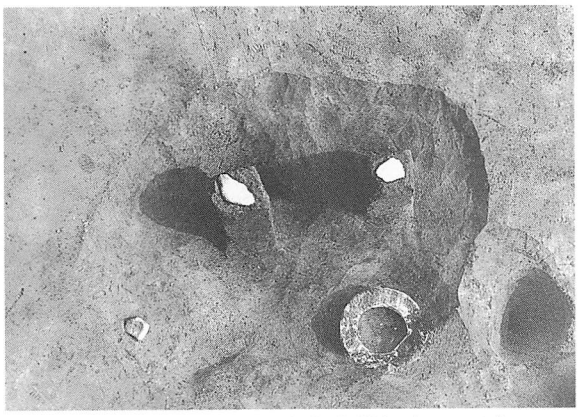
第43～45号土坑(南から)


第50号土坑セクション（南から）

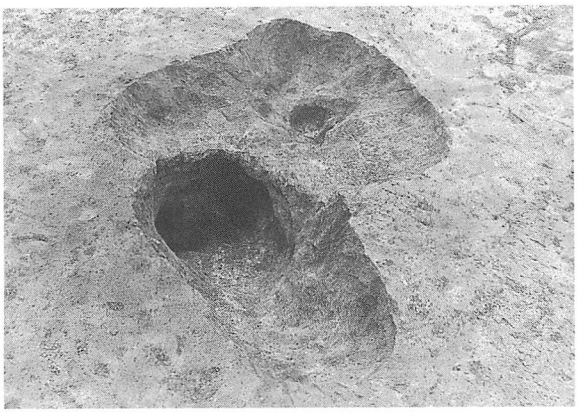
第51号土坑遺物出土状況（南から）

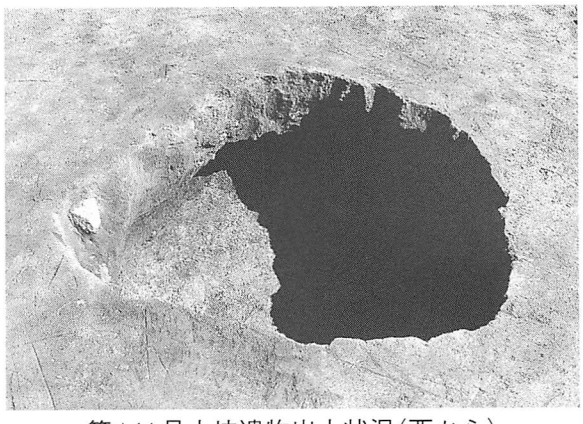

第54号土坑遺物出土状況（東から）

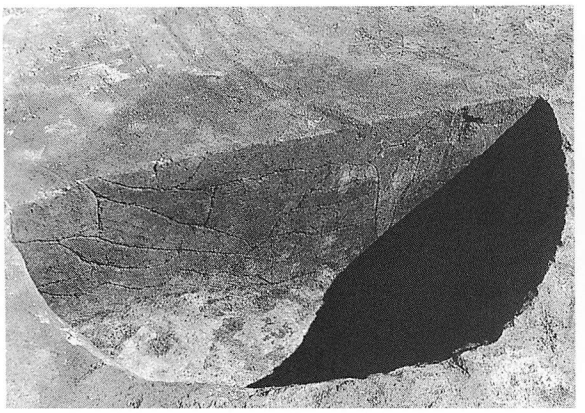

第55号土坑遺物出土状況（北から）

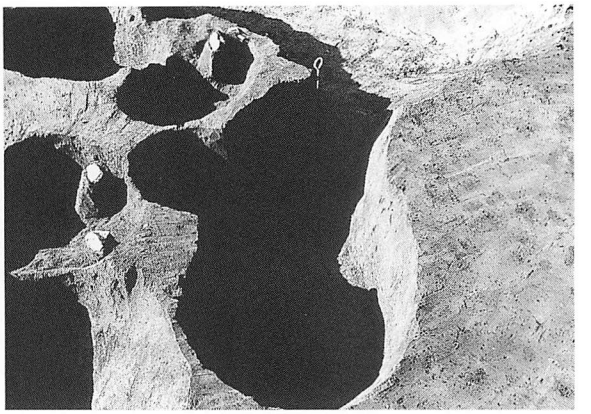

第64・65号土坑遺物出土状況（西から）

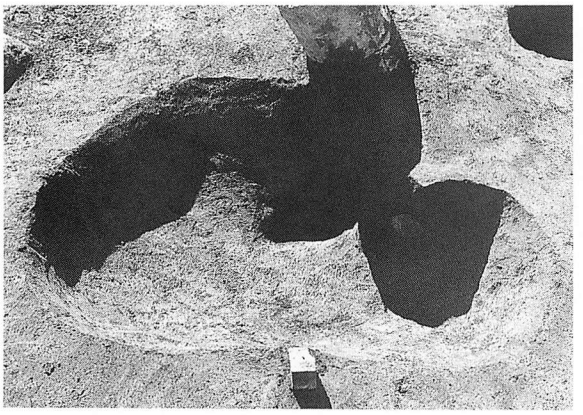
第67・68号土坑遺物出土状況（南東から）

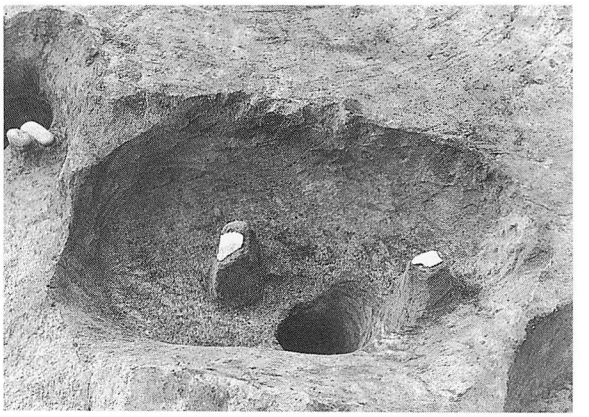

第78号土坑（北西から）

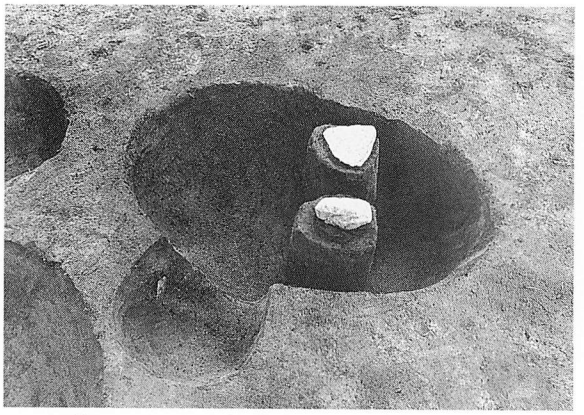

第141号土坑遺物出土状況（西から）


第142号土坑セクション(西から)

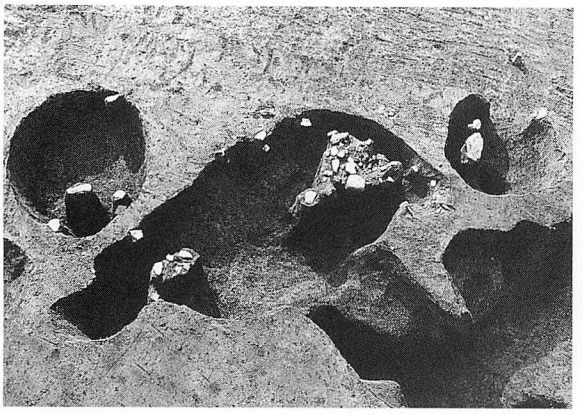

第155号土坑(南から)

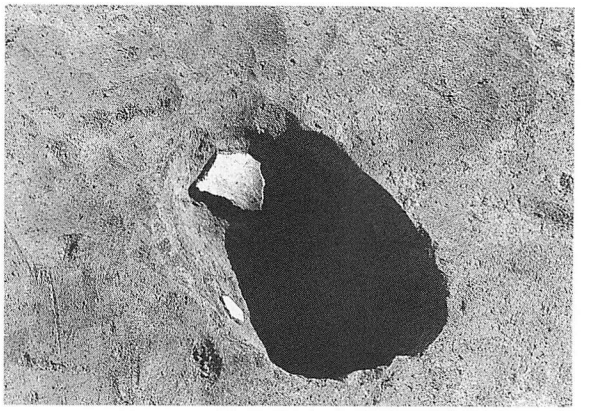

第156号土坑遺物出土状況(北から)

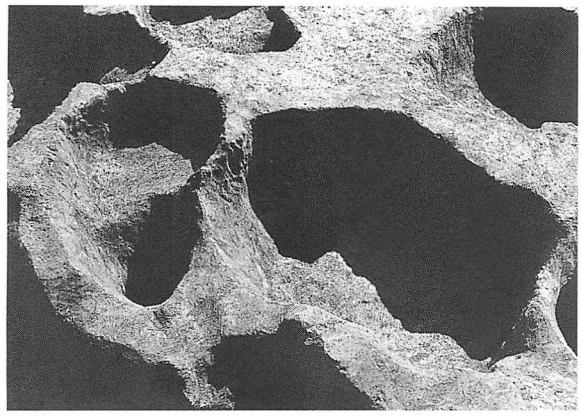

第157号土坑遺物出土状況(東から)

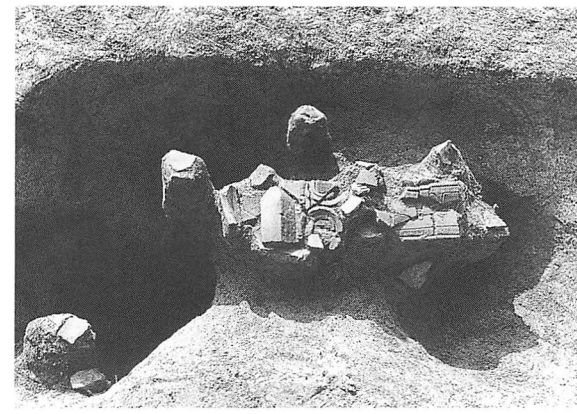

第159号土坑遺物出土状況(北東から)

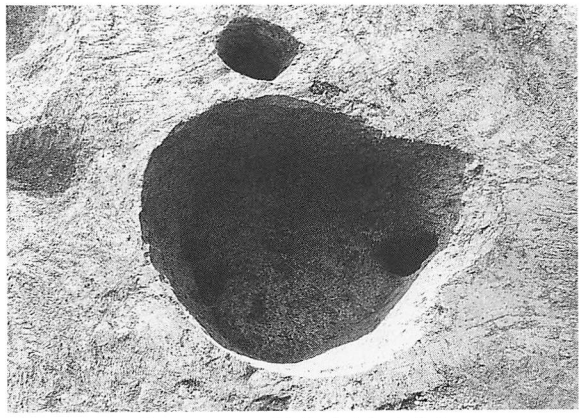
第160号土坑遺物出土状況(西から)

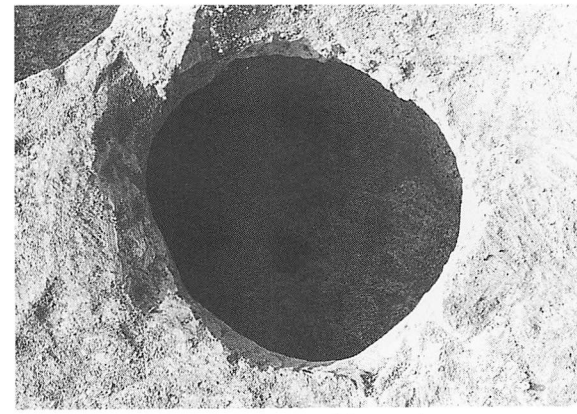

第164～171号土坑遺物出土状況(北から)


第181号土坑遺物出土状況(南西から)


第204・205号土坑（北から）

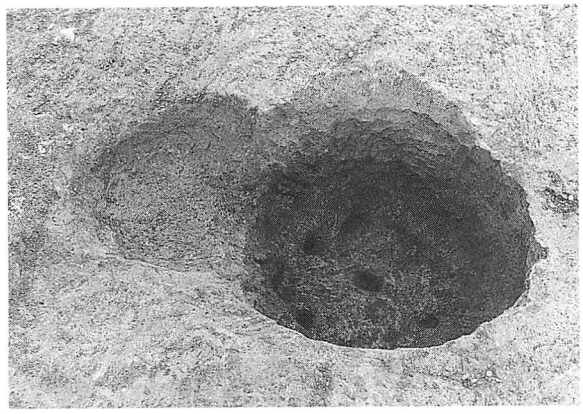

第229号土坑遺物出土状況（北から）


第233・256号土坑（東から）

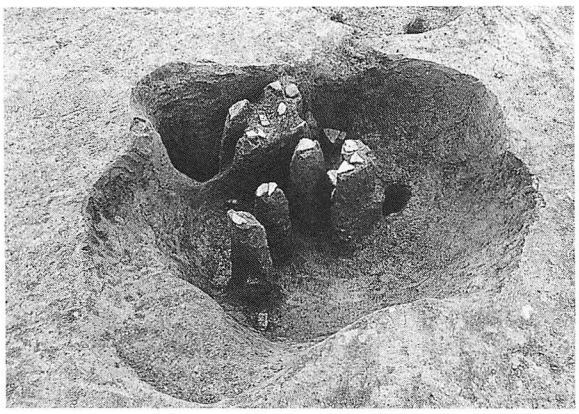

第236号土坑（南から）

第241号土坑遺物出土状況（北から）

第243号土坑遺物出土状況（北西から）

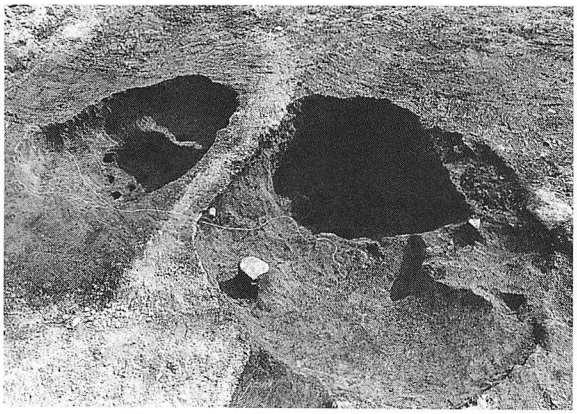

第245・246号土坑（北から）

第245号土坑遺物出土状況（北から）

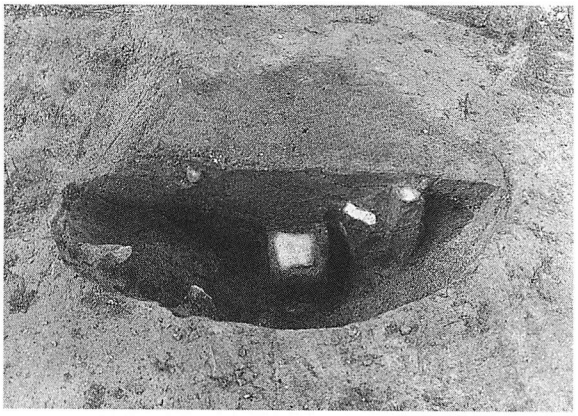


第249号土坑遺物出土状況(北から)

第284号土坑遺物出土状況(東から)

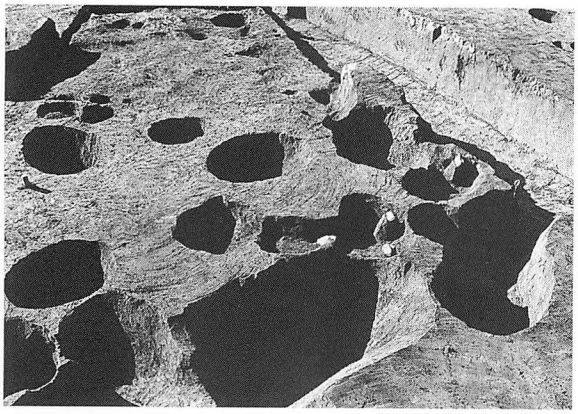


第286～291号土坑(北から)

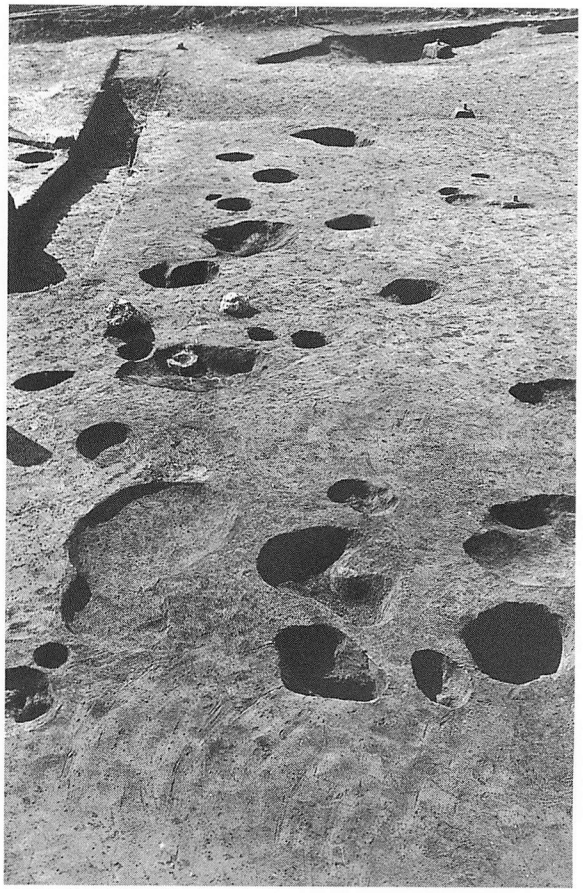


第292号土坑セクション(南から)

E-7グリッド周辺土坑群(東から)



J-8・9グリッド周辺土坑群(南東から)

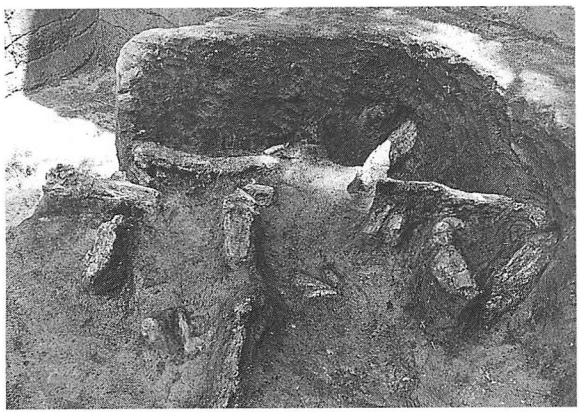


I-8・9グリッド周辺土坑群(東から)

第3号住居跡遺物出土状況(西から)

第3号住居跡作業風景(南東から)

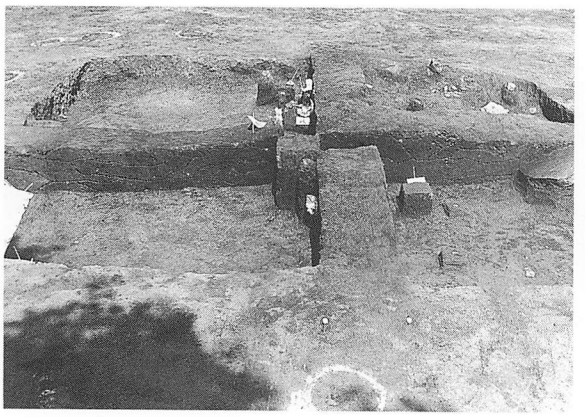
第3号住居跡東壁際遺物出土状況(西から)



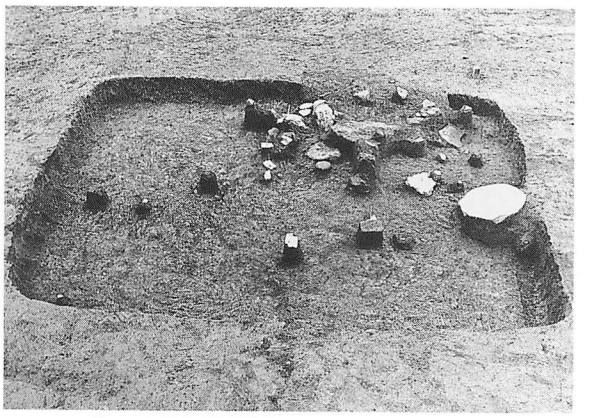
第3号住居跡北東コーナー付近炭化物出土状況(西から)

第3号住居跡北西コーナー付近炭化物出土状況(西から)

第1号住居跡作業風景（北から）

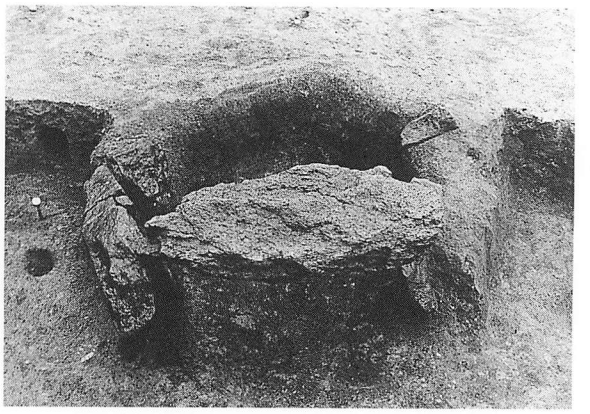


第1号住居跡セクション（西から）

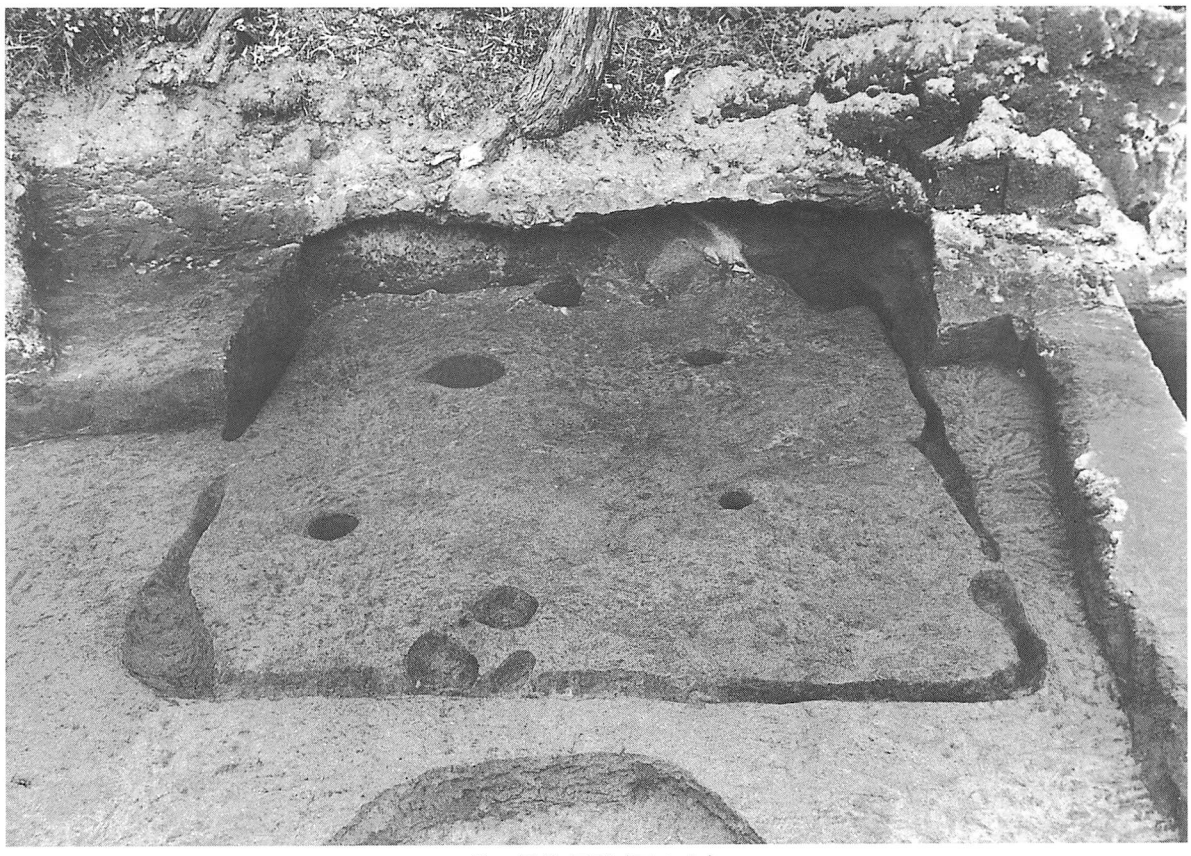


第1号住居跡遺物出土状況（西から）

第1号住居跡カマド（東から）



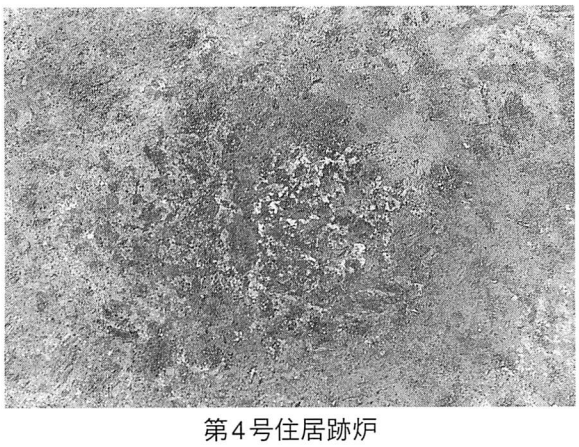
第1号住居跡カマド復元状況（東から）



第4号住居跡(西から)

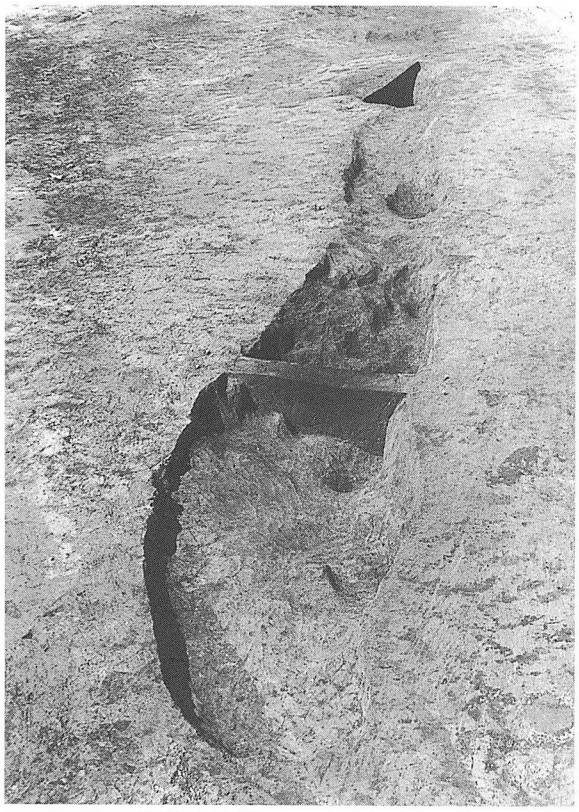
第4号住居跡ピット5(西から)

第4号住居跡遺物出土状況(南西から)

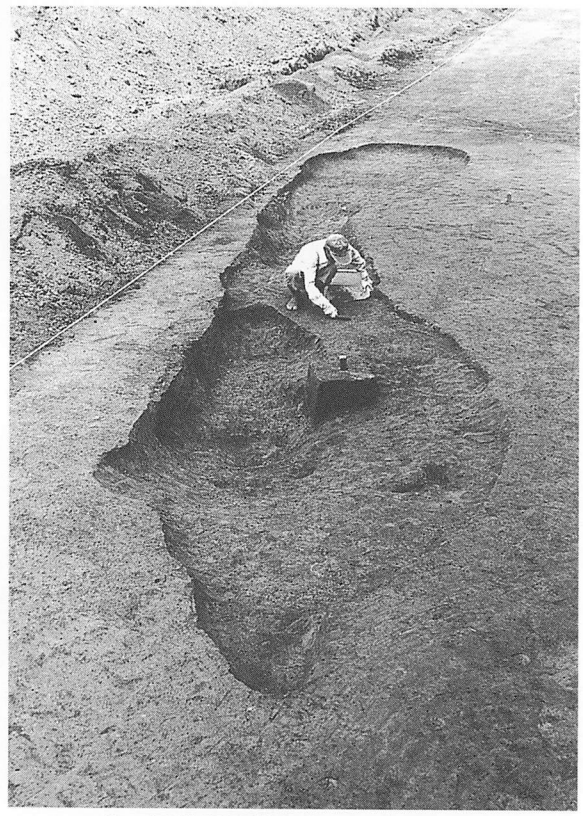


第4号住居跡炉

第4号住居跡(西から)

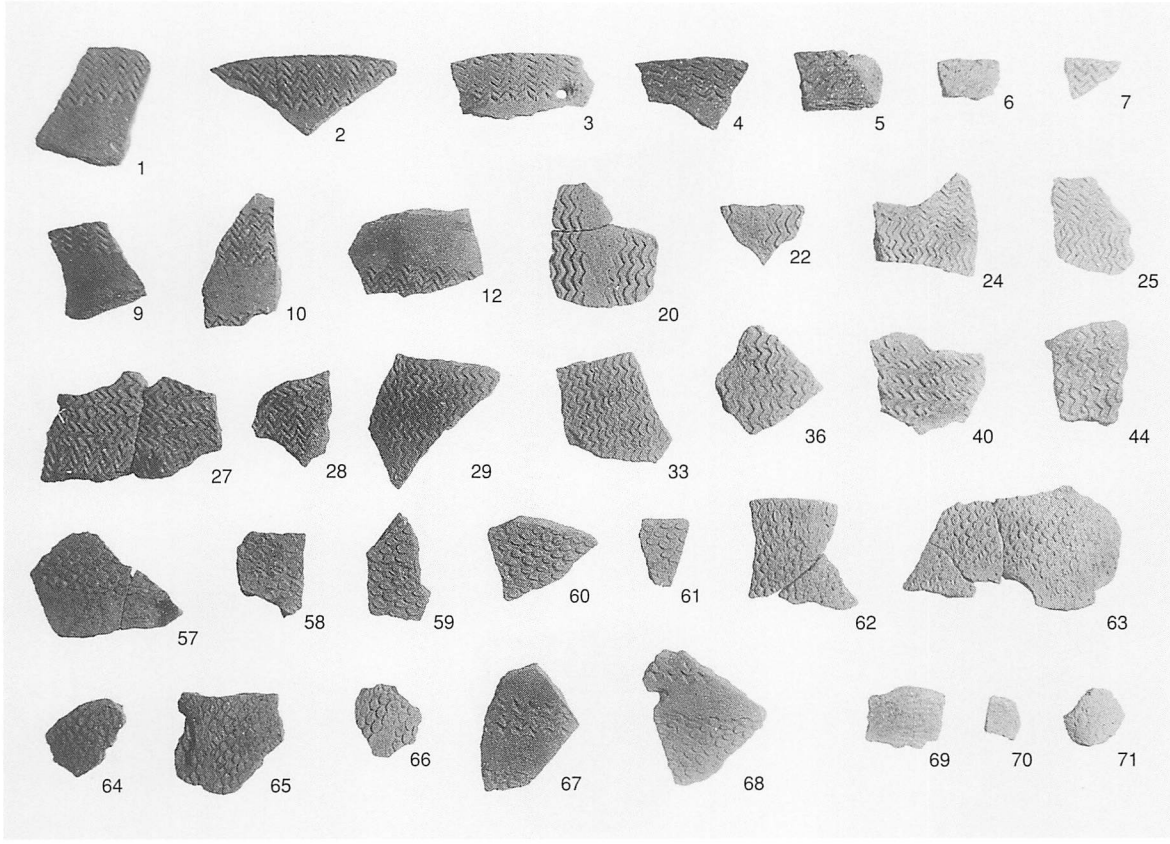


第1号溝状遺構セクション(南から)

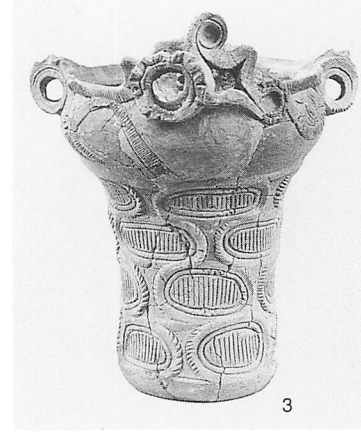


第2号溝状遺構作業風景(南から)

第3号溝状遺構作業風景(南から)



第1号遺物集中区（押型文土器）



第5号住居跡（1）

PL-74　縄文土器(2)
第5号住居跡(2)

8

11

15

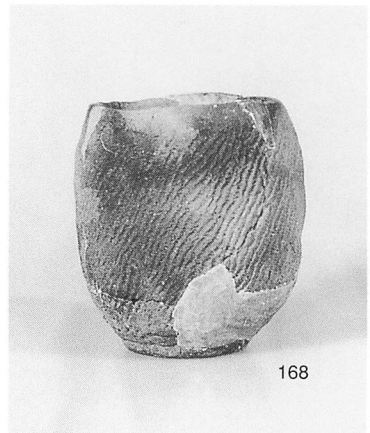
7

163

165

166

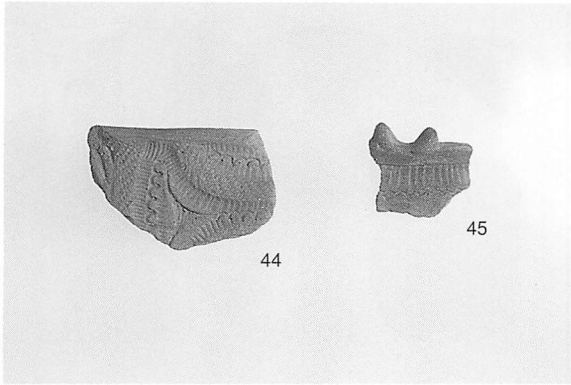
167


168

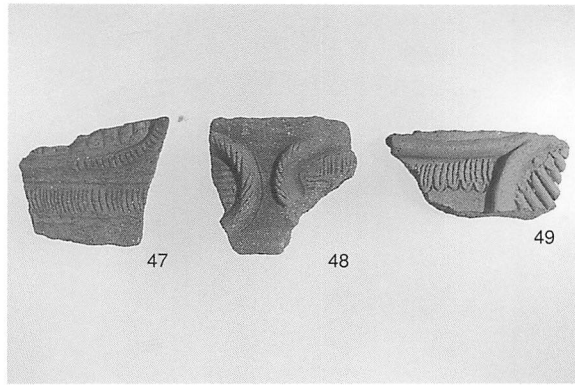
169

171

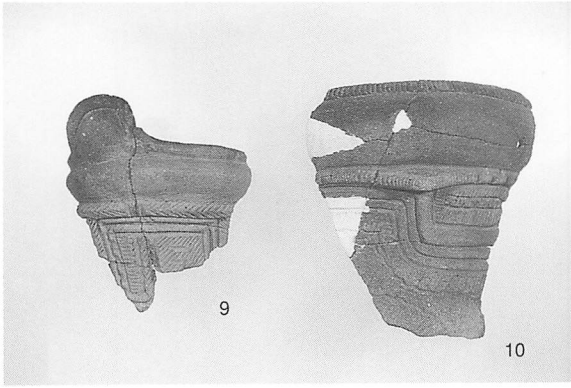
172



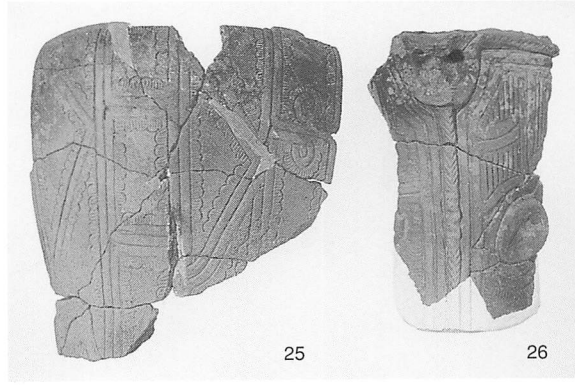
第Ⅱ群C類1種土器



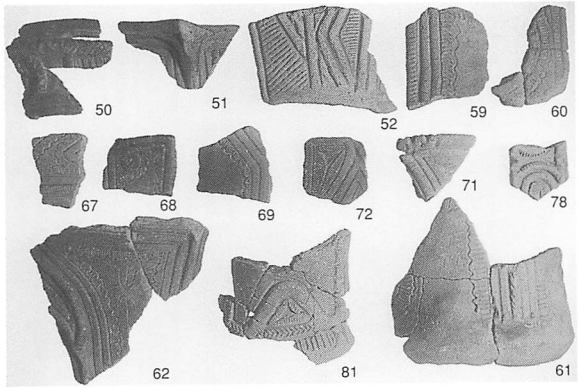
第Ⅱ群C類2種土器



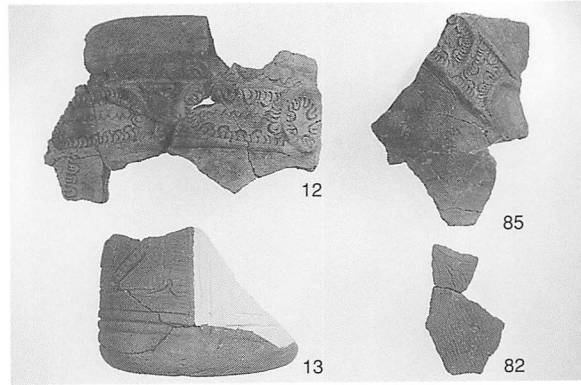
第Ⅱ群C類3・4種土器



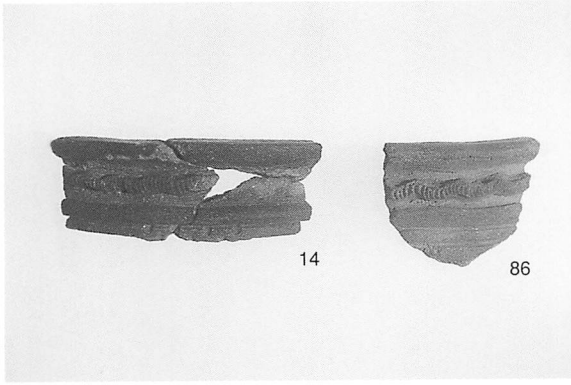
第Ⅱ群C類3種土器



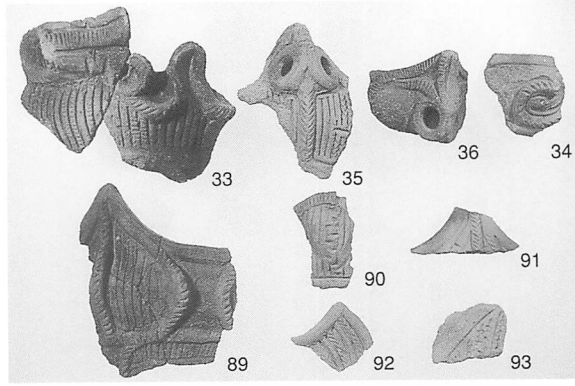
第Ⅱ群C類1・3種土器



第Ⅱ群C類4種土器

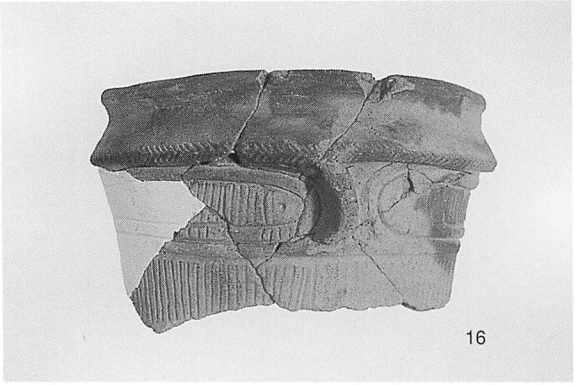


第Ⅱ群C類5種土器

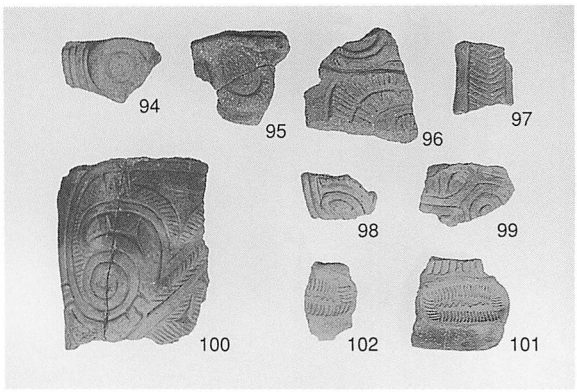


第Ⅱ群D類1種土器

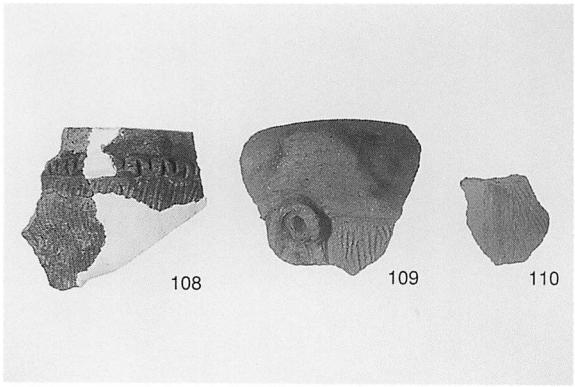
PL-76　縄文土器(4)
第5号住居跡(4)・第6号住居跡



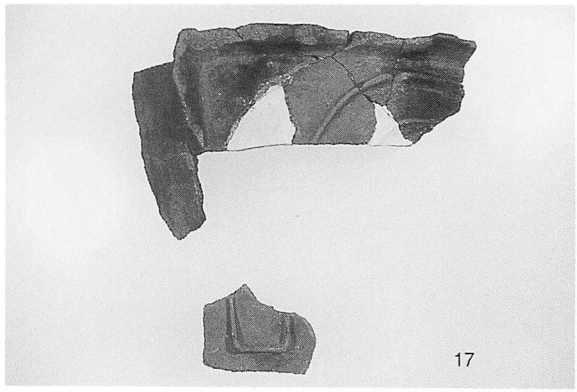
第Ⅱ群D類3種土器



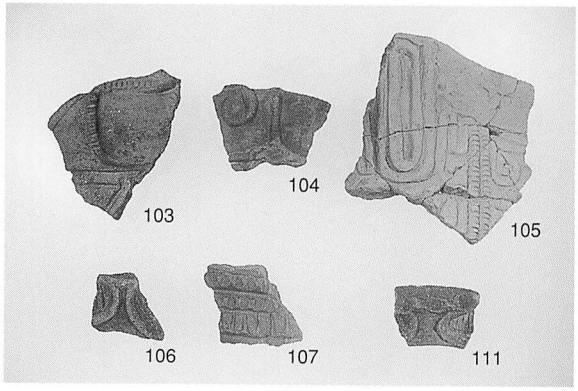
第Ⅱ群D類3種土器



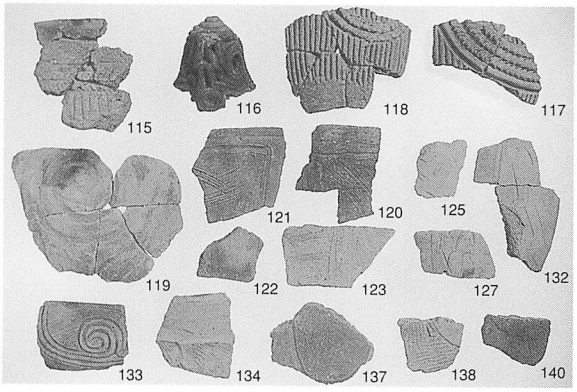
第Ⅱ群D類6種土器



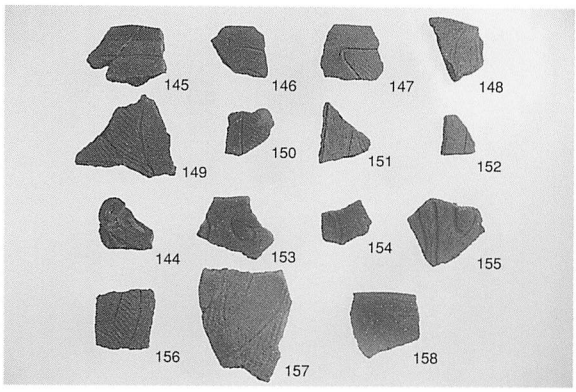
第Ⅱ群有孔鍔付土器



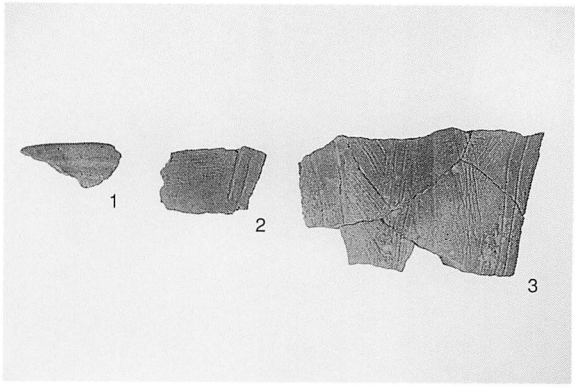
第Ⅱ群D類1・2・7・10種、G類土器



第Ⅱ群E・F類土器



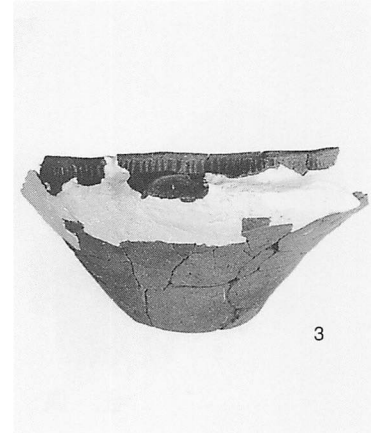
第Ⅲ群A・C類土器



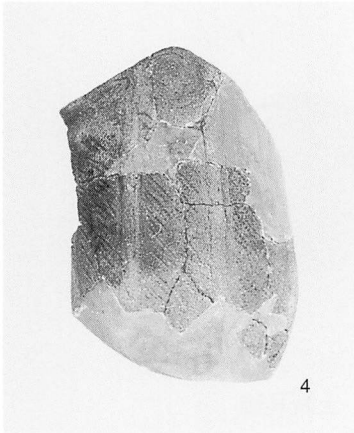
第6号住居跡

第186号土坑

第229号土坑

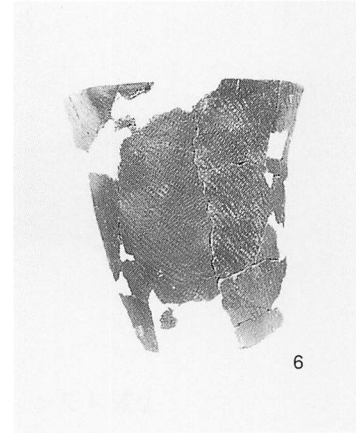


第241・284号土坑

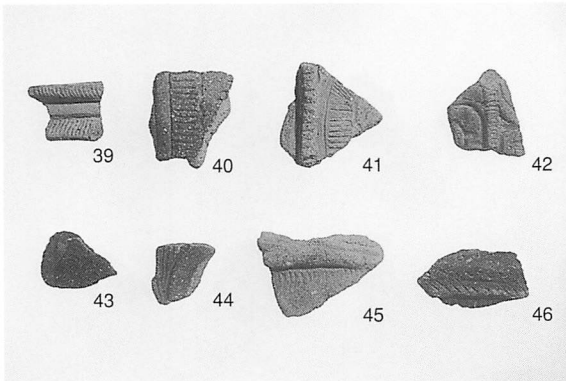


第245号土坑(1)

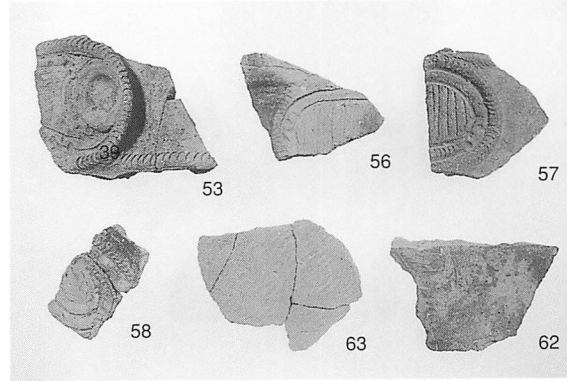
第245号土坑(2)



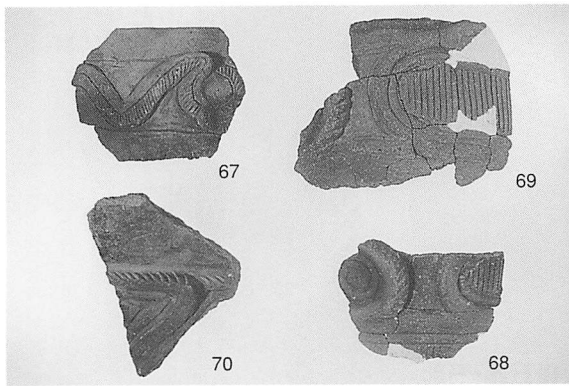
第284号土坑(1)



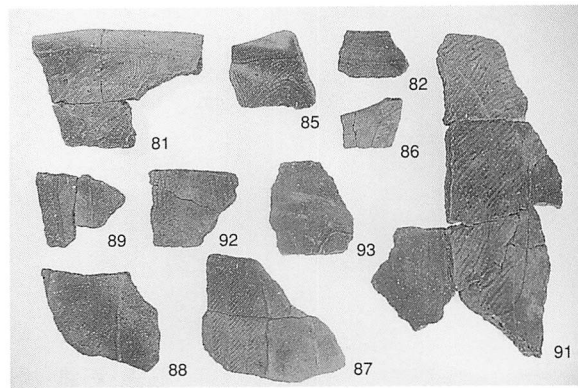
第241号土坑



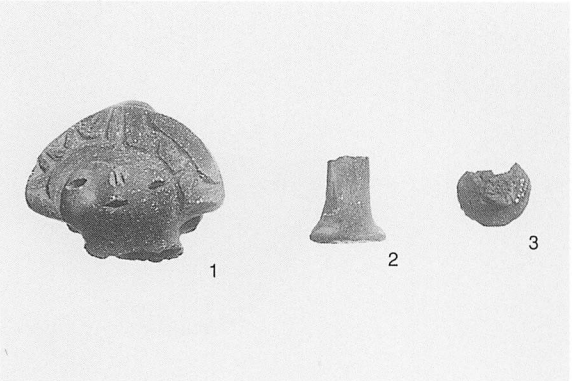
第249号土坑



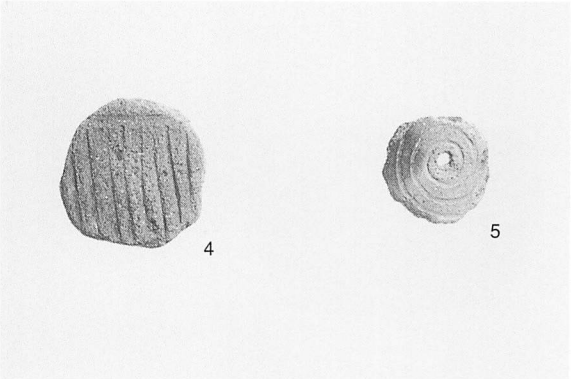
第284号土坑(2)



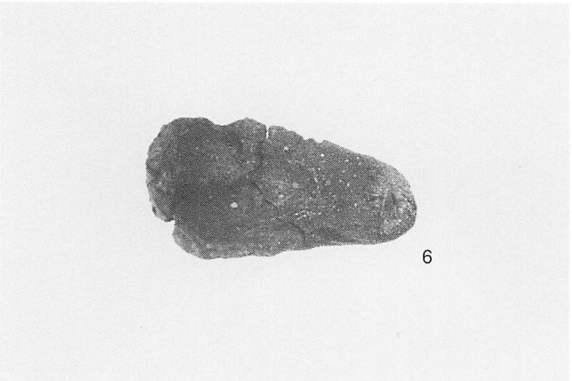
第305号土坑



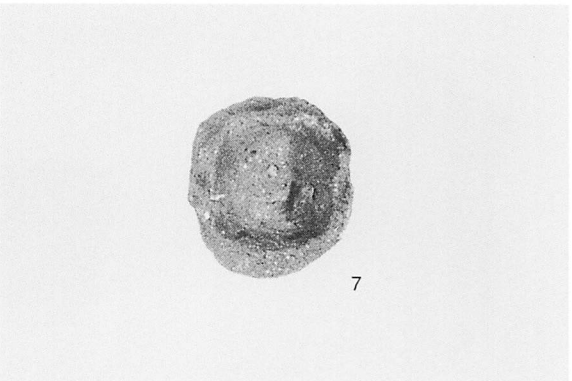
土　偶



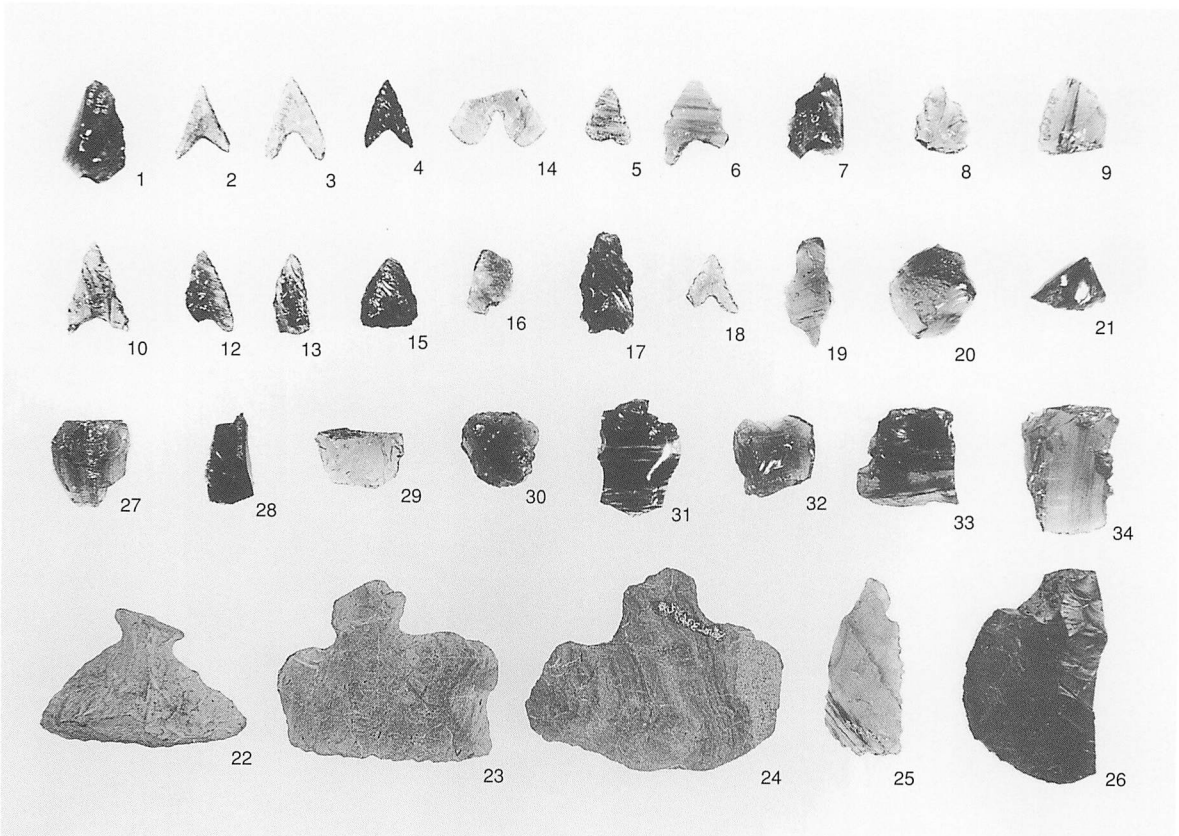
土製円盤



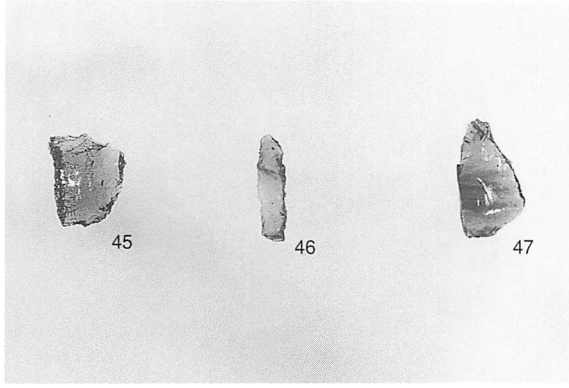
土製スプーン



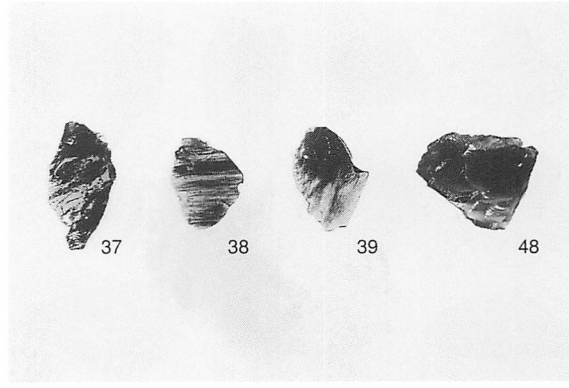
土製耳飾



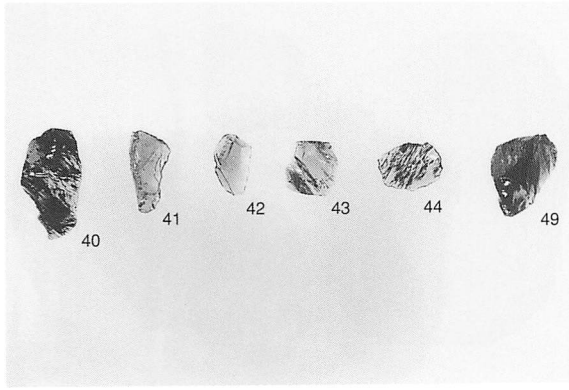
石鏃・石錐・掻器・両極石器・石匙



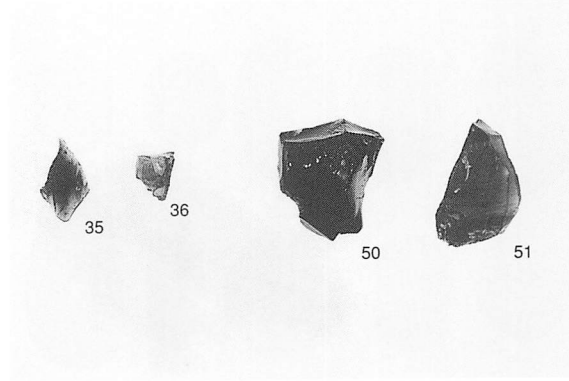
剥片(両極)



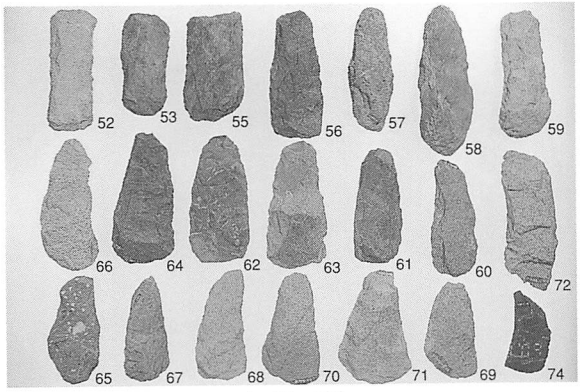
剥片(直接)



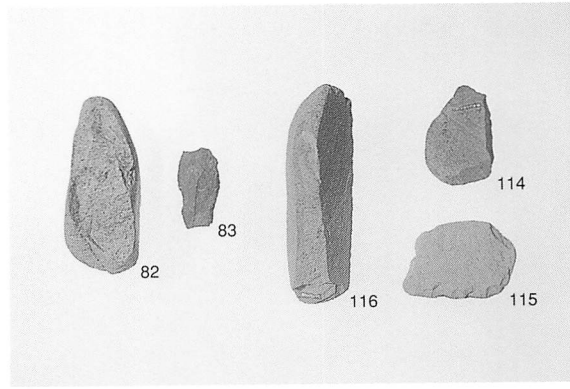
剥片(間接)



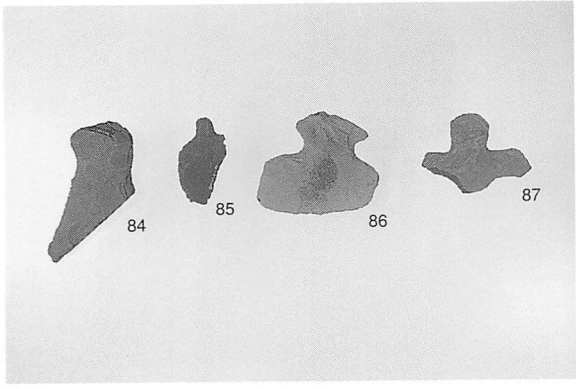
使用痕石器・原石



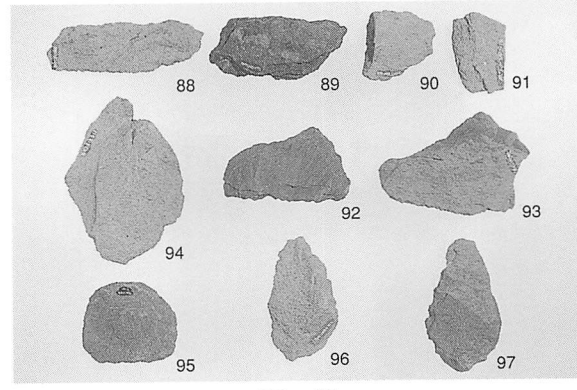
打製石斧



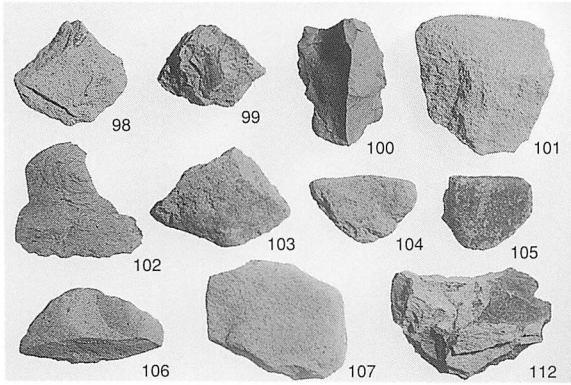
打製石斧素材・成形剥片・ハンマー



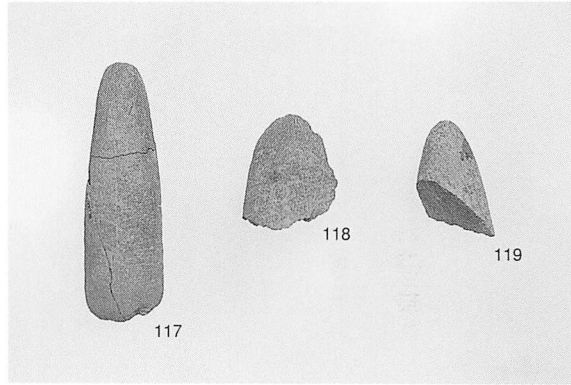
石　匙



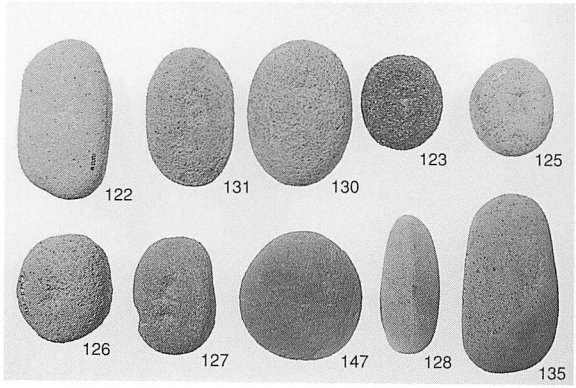
削　器



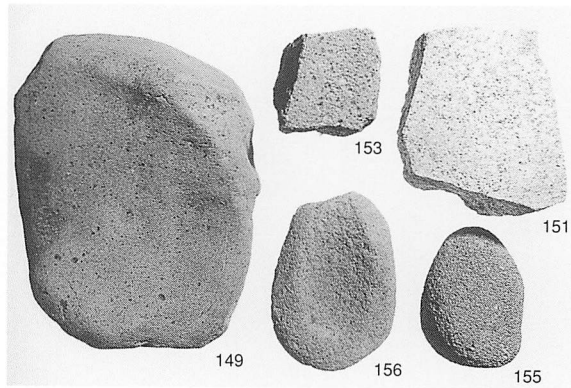
礫　器



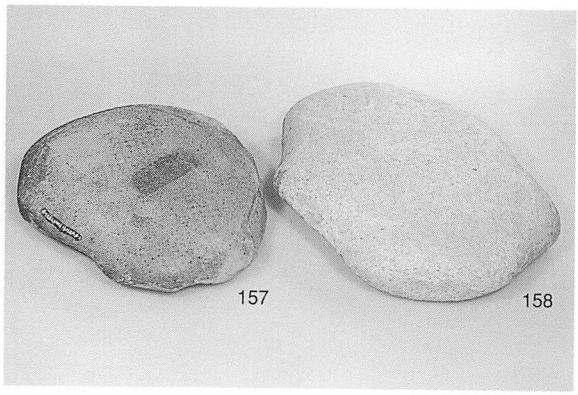
磨製石斧



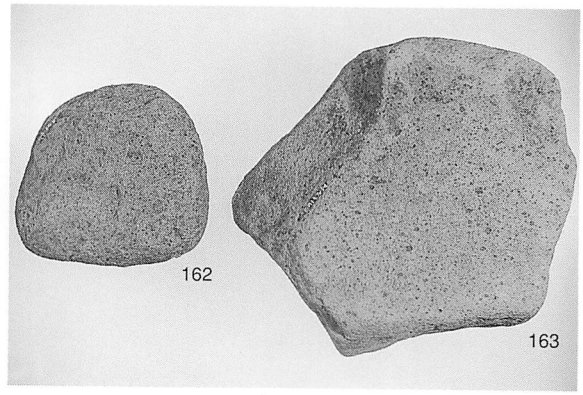
磨石類



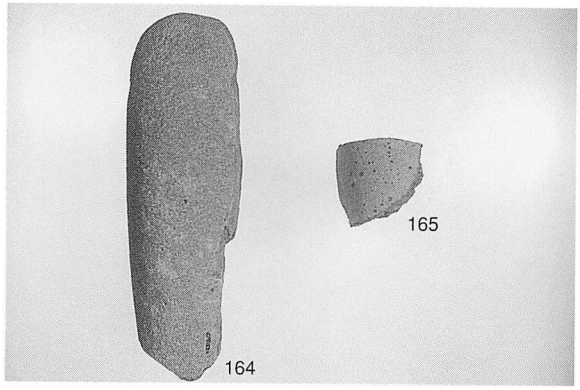
石皿(1)



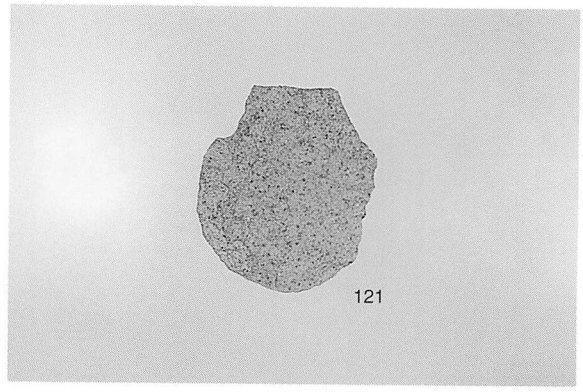
石皿(2)



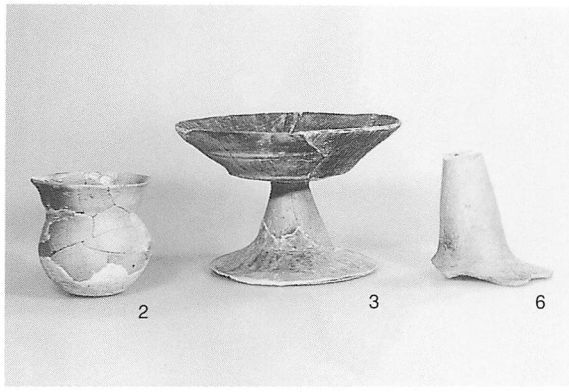
台　石



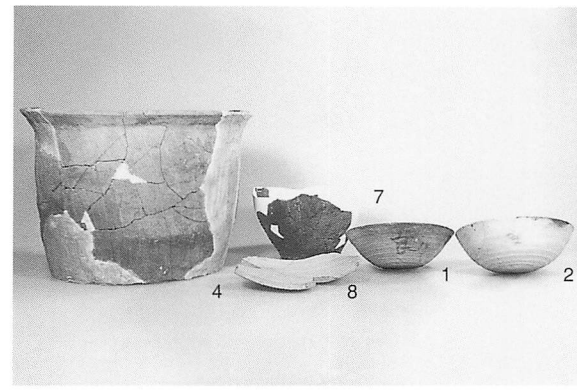
立石・石棒



土器混和剤

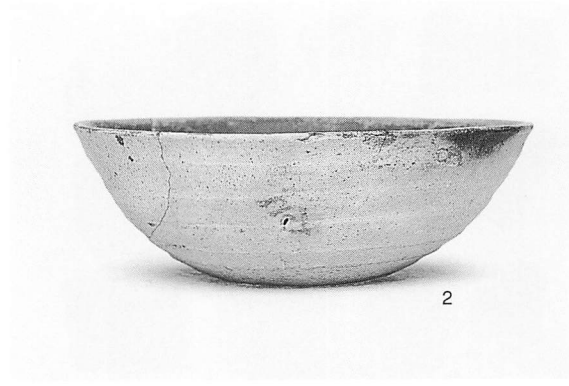


第3,号住居跡

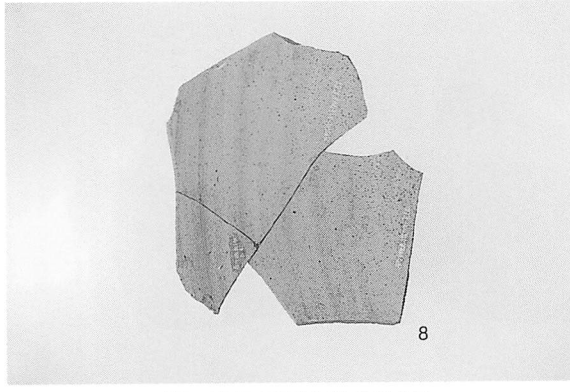


第1号住居跡(1)

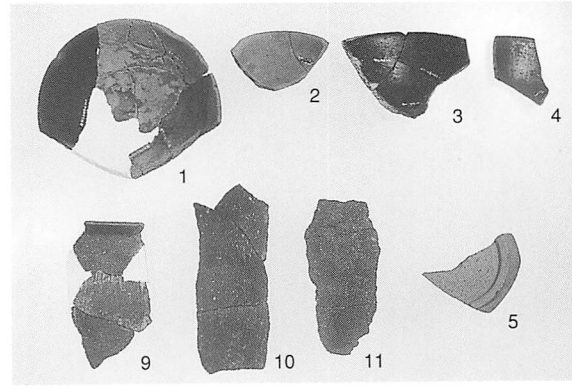
第1号住居跡(2)墨書土器



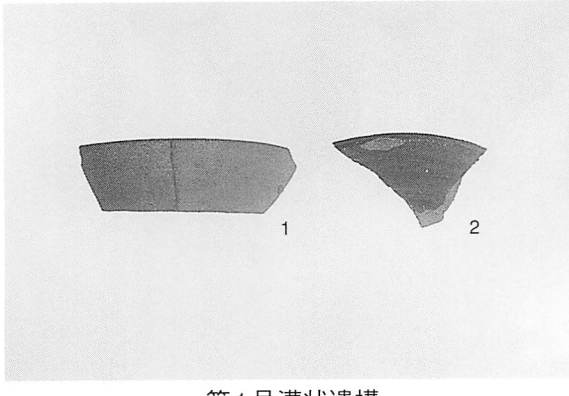
第1号住居跡(3)墨書土器



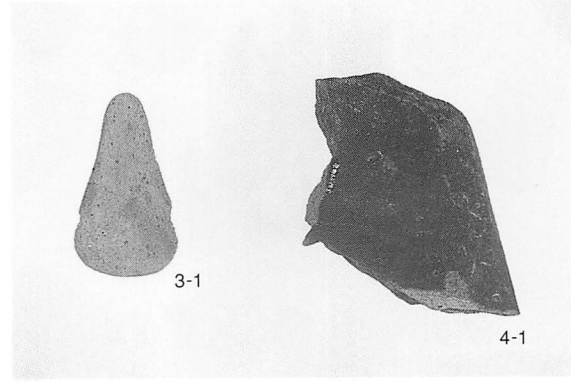
第1号住居跡(4)転用硯



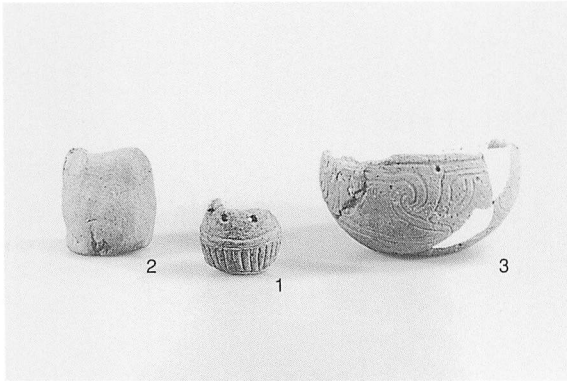
第4号住居跡



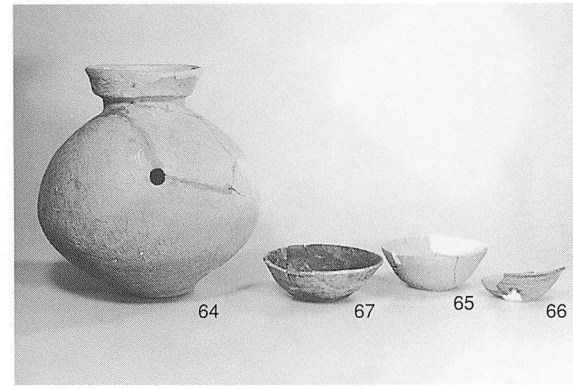
第1号溝状遺構



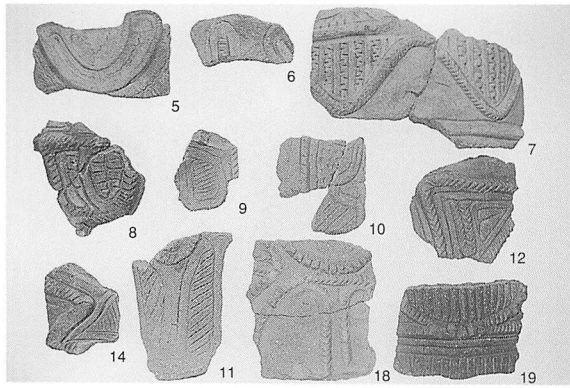
第3・4号住居跡



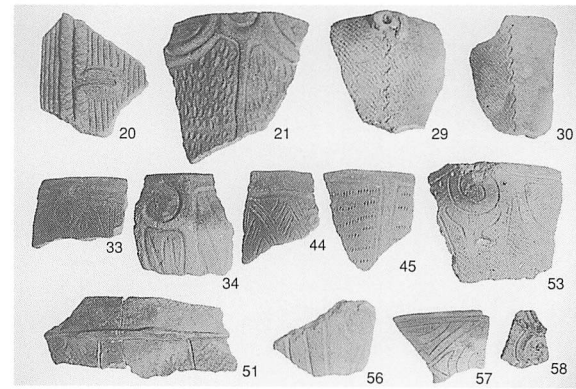
縄文土器(1)



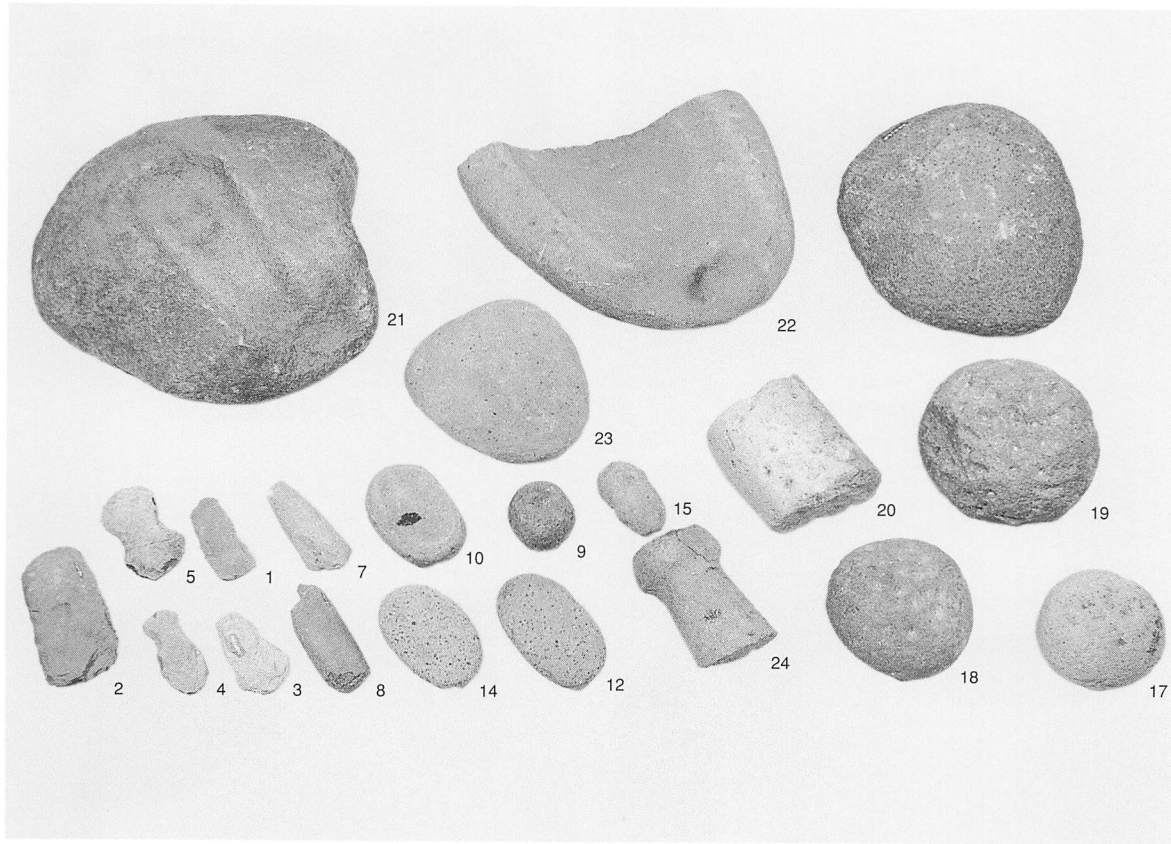
古墳～平安時代土器



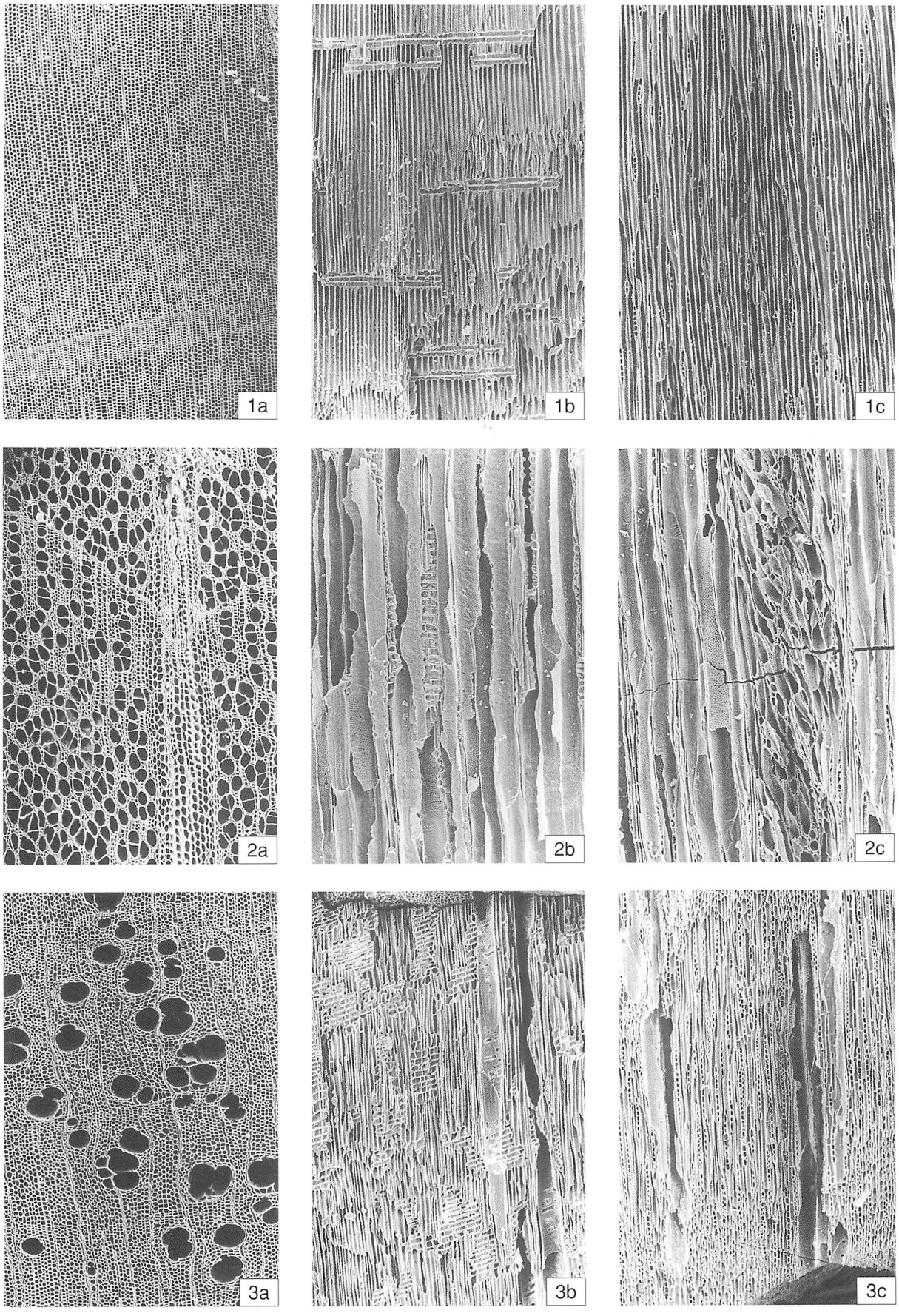
縄文土器(2)



縄文土器(3)

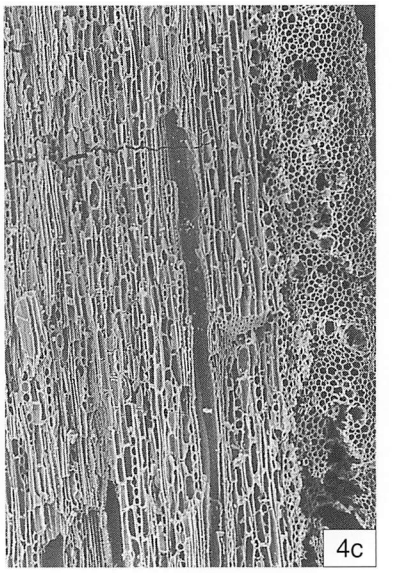


縄文石器



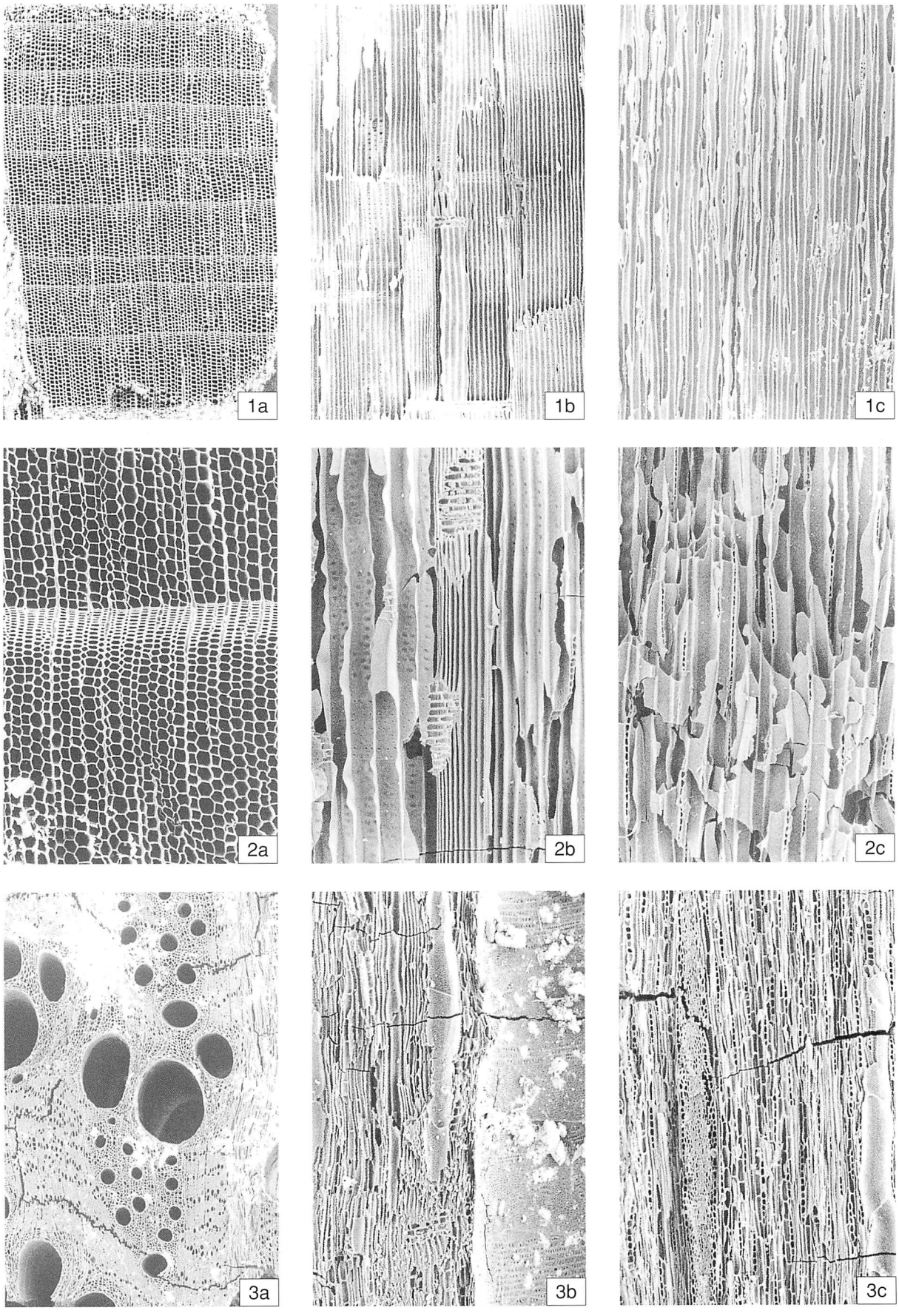
1. ヒノキ科（3 号住 C-11）
2. ハンノキ属ハンノキ亜属（3 号住 C-6）
3. クマシデ属クマシデ節（3 号住 C-59）
　a：木口、b：柾目、c：板目

200 μm：a
200 μm：b、c



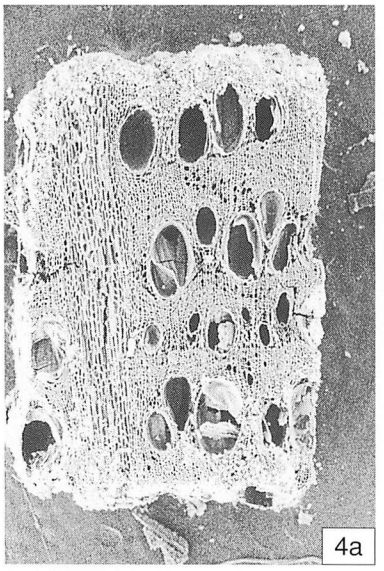
4. コナラ属コナラ亜属クヌギ節（3 号住 C-12）
　a：木口、b：柾目、c：板目

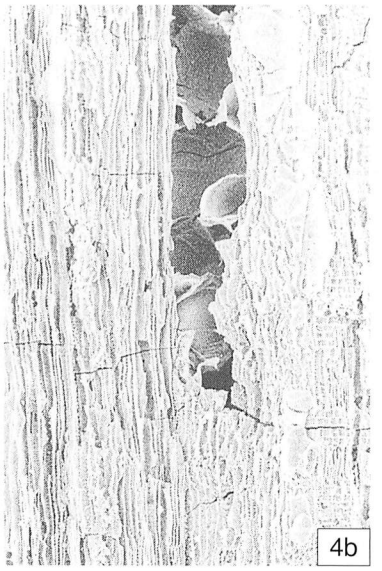
200 μm：a
200 μm：b、c

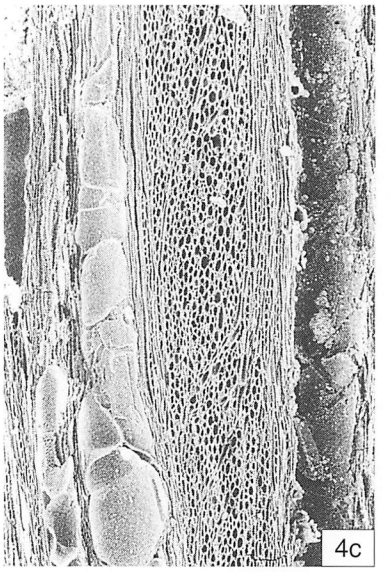


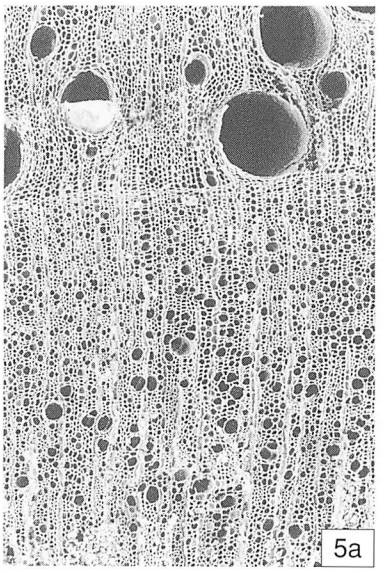
1. モミ属(1地点　1号住カマド上)
2. ヒノキ属(1地点　4号住第1グループ上)
3. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(1地点　3号住焼土No.1)
　a：木口、b：柾目、c：板目

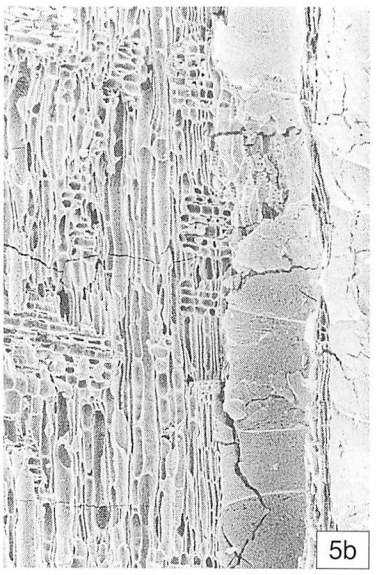
200 μm：a
200 μm：b、c

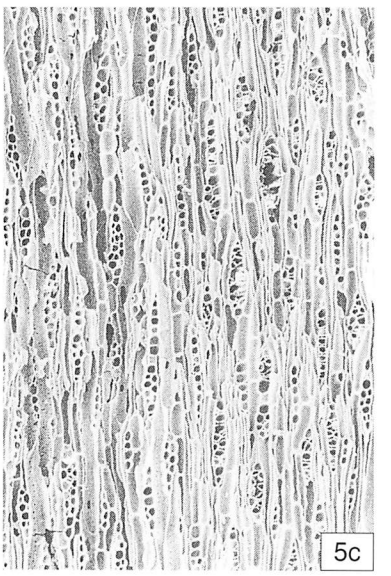




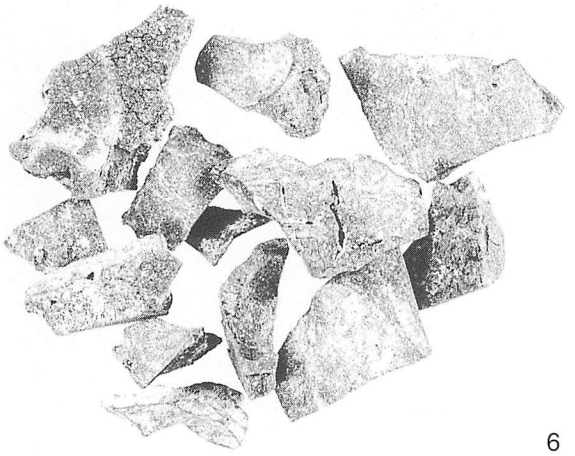






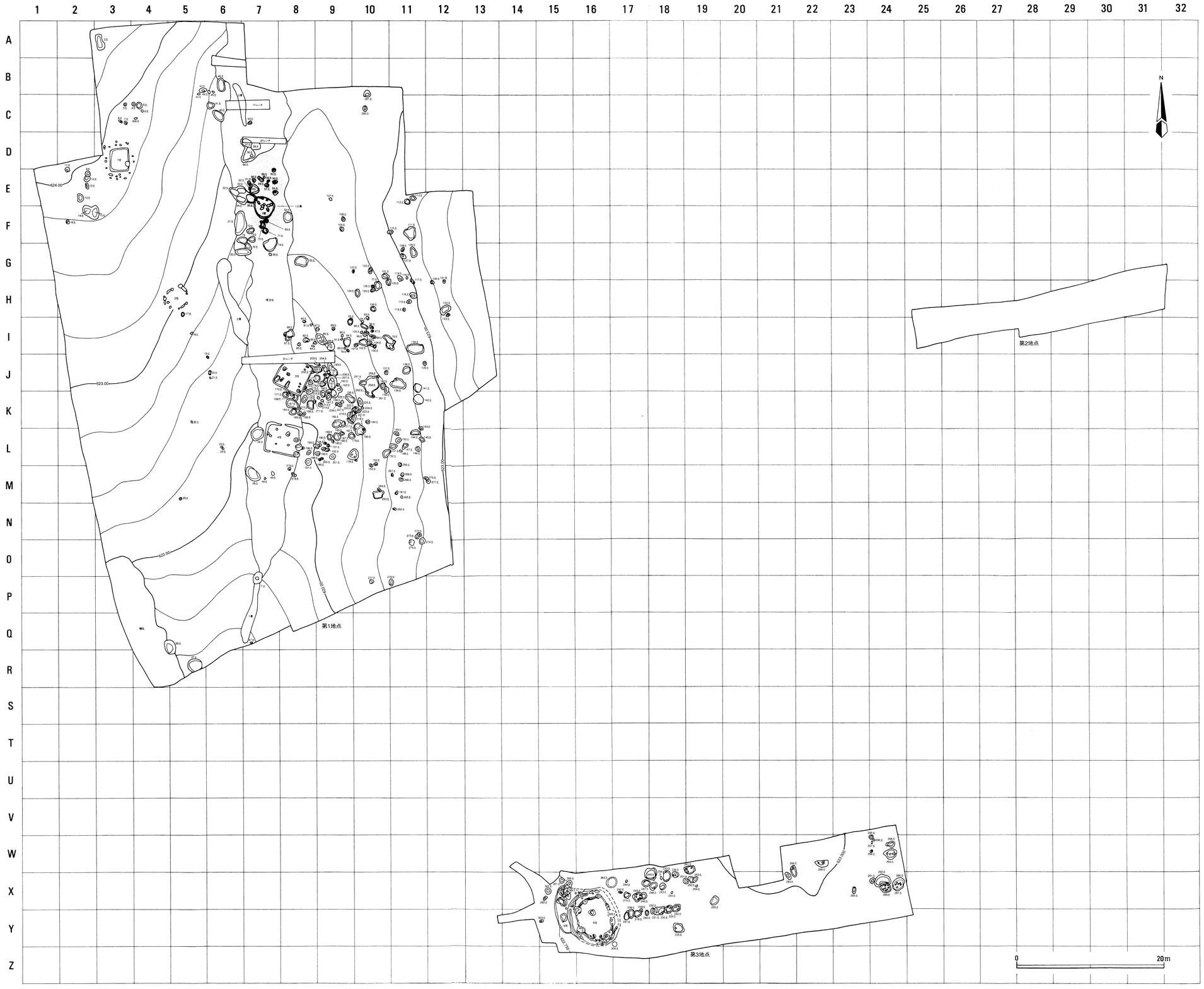


200 μm：4、5a
200 μm：4、5b、c
5mm　：6



6

4. コナラ属コナラ亜属コナラ節(1地点　4号住カマド)a: 木口、b: 柾目、c: 板目
5. クリ(1地点　5号住炉焼土)a: 木口、b: 柾目、c: 板目
6. オニグルミ(1地点　5号住炉焼土)



付図　原町農業高校前（下原）遺跡全体図（1／300）

原町農業高校前遺跡報告書抄録

ふりがな	はらまちのうぎょうこうこうまえ(しもっぱら)いせき
書名	原町農業高校前(下原)遺跡
副題	峡北地区総合学科高校整備（北杜高校校舎建設）に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第210集
編著者名	保坂和博
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地	〒400－1508　山梨県東八代郡中道町下曽根923　TEL 055－266－3016
発行者	山梨県教育委員会
発行年月日	2003年（平成15年）3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 (新)	東経 (新)	調査期間	調査面積 m²	調査原因
はらまちのうぎょうこうこうまえ(しもっぱら)いせき 原町農業高校前(下原)遺跡	やまなしけんきたこまぐんながさかちょうしぶさわ 山梨県北巨摩郡長坂町渋沢1007－19外	19405	147	35°47′59″	138°23′08″	2000年(平成12年)5月22日～12月8日	5,237m²	峡北地区総合学科高校整備（北杜高校校舎建設）に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
原町農業高校前(下原)遺跡	集落跡	縄文時代(早期～後期)	遺物集中区　竪穴住居跡　土坑	土器(深鉢形・浅鉢形・有孔鍔付土器(黒色・赤色塗彩)・ミニチュアなど)、石器(各種)、土偶、土製品(円盤・匙形土製品・耳飾など)・炭化材(クリ)・種実遺体(オニグルミ)など	住居跡覆土内より、藤内式期～井戸尻式期の多量の土器群と共に、打製石斧製作に関わる石器群が出土
		古墳時代(中期)	竪穴住居跡	土師器、須恵器、炭化材(クヌギ節・コナラ節・ヒノキ科・タケ亜科など)	焼失住居内より住居構築材(屋根や壁など)の一部と思われる炭化材が出土
		平安時代(前期)	竪穴住居跡　溝状遺構	土師器、須恵器、炭化材(クヌギ節・クリ・モミ属・ヒノキ属・タケ亜科など)	竪穴壁外柱穴列を持つ住居跡より、黒書土器「寺」、「良」が出土

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第210集

原町農業高校前(下原)遺跡(第1次調査)

— 峡北地区総合学科高校整備（北杜高校校舎建設）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

印刷日　2003年(平成15年)3月24日
発行日　2003年(平成15年)3月31日
編集　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曽根923
TEL 055(266)3016
発行　山梨県教育委員会
印刷　横河グラフィックアーツ(株)
TEL 055(243)0548